

静岡県 富士市

東平遺跡 第 41 地区

2018 年 3 月

富士市教育委員会

例 言

- 1 本書は、静岡県富士市伝法字東平 2391 番 1 ほかにおいて実施した東平遺跡（第 41 地区）の発掘調査にかかわる報告である。発掘調査はビジネスホテル建設に先立つ事前調査として、事業者からの委託により富士市教育委員会が実施した。
- 2 発掘調査は、平成 28 年(2016 年)5 月 9 日から 9 月 6 日にかけて実施した。実際の調査掘削面積は 857.415m²である。
- 3 整理作業は、平成 29 年（2017 年）5 月に開始し、本書の刊行をもって終了した。
- 4 本書の執筆は、第 1 章・第 4 章・第 5 章は佐藤祐樹（市民部文化振興課主査）、第 2 章・第 3 章の遺物部分は伊藤 愛（市民部文化振興課主事補）、第 3 章の遺構部分は若林美希（市民部文化振興課臨時職員）が担当した。編集は佐藤による。
- 5 本書に関わる写真撮影は佐藤による。
- 6 本書で報告した調査に関わる記録図面・出土遺物等の資料は、すべて富士市教育委員会で保管している。今後、富士山かぐや姫ミュージアム（富士市立博物館）に移管する予定でいる。
- 7 発掘調査及び本書の作成にあたり、次の方々にご協力とご指導を賜りました。厚く御礼申し上げます。
植松章八 志村 博 鈴木敏則 田尾誠敏 山本 崇

凡 例

- 1 座標は平面直角座標第Ⅷ系を用いた国土座標である世界測地系（平成 14 年 4 月施行）を使用している。報告書抄録の緯度・経度は調査区の中央部分を記している。
- 2 遺構の略記号は以下の通りである。
S B：竪穴建物跡 S K：土坑 P i t：小穴 S X：性格不明遺構
- 3 本書で用いる土器編年は、主として以下の文献を参考にした。
木ノ内義昭 2002 「須恵器流入以降～律令時代の土師器の様相」『東平遺跡』富士市教育委員会
佐藤祐樹 2014 「潤井川流域における須恵器流入以降の土器様相」『沢東 A 遺跡 第 1 次』富士市教育委員会
鈴木敏則 2005 「出土須恵器について」『東若林遺跡』財団法人 浜松市文化振興財団

目次

例言
凡例
目次

第1章 調査経緯と調査経過

第1節 発掘作業の経緯と経過	1
第2節 整理作業の経緯と経過	4
第3節 調査の方法と概要	5

第2章 立地と概要

第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	8

第3章 遺構と遺物

第1節 竪穴建物跡	13
第2節 土坑・ピット・性格不明遺構	45
第3節 遺構外出土遺物	57

第4章 まとめ

第1節 第41地区における遺構の時間的・空間的整理	59
第2節 東平遺跡第41地区出土土器の全容と特徴	60
第3節 東平遺跡における墨書土器の特徴	63
第4節 SB4001 出土の鑿の位置づけ	69
第5節 SB4005 出土の紡錘車の位置づけ	72

第5章 総括

付表 遺構概要一覧表
出土遺物観察表
出土土器分類表

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1章 調査経緯と調査経過

第1節 発掘作業の経緯と経過

第1図 静岡県富士市の位置	1
第2図 確認トレンチおよび本調査区配置図	2
第3図 本調査区全体図	3

第2章 立地と概要

第1節 地理的環境

第4図 駿河湾上空から富士市を望む	7
第5図 周辺地形図	7

第2節 歴史的環境

第6図 東平遺跡の位置	8
第7図 潤井川東岸遺跡分布図	9
第8図 東平遺跡 調査履歴図	10

第3章 遺構と遺物

第1節 竪穴建物跡

第9図 SB4001 平面図・断面図	13
第10図 SB4001 カマド周辺 遺物出土状況	14
第11図 SB4001 カマド 平面図・断面図	14
第12図 SB4001 出土遺物実測図 1	15
第13図 SB4001 鑿出土状況	16
第14図 SB4001 出土遺物実測図 2	16
第15図 SB4002 平面図・断面図	17
第16図 SB4002 カマド 平面図・断面図	18
第17図 SB4002 出土遺物実測図	18
第18図 SB4003 平面図・断面図	19
第19図 SB4003 カマド 粘土検出状況	20
第20図 SB4003 カマド 遺物出土状況	20
第21図 SB4003 カマド 平面図・断面図	20
第22図 SB4003 出土遺物実測図	20
第23図 SB4005 平面図・断面図	21
第24図 SB4005 遺物出土状況	22
第25図 SB4005 カマド 遺物出土状況	22
第26図 SB4005 カマド 遺物出土状況	22
第27図 SB4005 カマド 平面図・断面図	22
第28図 SB4005 出土遺物実測図	23
第29図 SB4006 カマド 平面図・断面図	24
第30図 SB4006 出土遺物実測図	24
第31図 SB4007・SB4008 平面図・断面図	25
第32図 SB4007 出土遺物実測図	26
第33図 SB4008 出土遺物実測図	26
第34図 SB4009 カマド 遺物出土状況	27
第35図 SB4009 平面図・断面図	27
第36図 SB4009 カマド 平面図・断面図	28
第37図 SB4009 出土遺物実測図	28
第38図 SB4010 出土遺物実測図	29
第39図 SB4010 平面図・断面図	29
第40図 SB4011 平面図・断面図	30
第41図 SB4011 カマド 平面図・断面図	30
第42図 SB4011 カマド周辺 遺物出土状況	31
第43図 SB4011 出土遺物実測図	31
第44図 SB4012 平面図・断面図	32
第45図 SB4012 カマド 平面図・断面図	32
第46図 SB4012 出土遺物実測図	32
第47図 SB4013・SB4015・SB4016 平面図・断面図	33
第48図 SB4015 カマド 平面図・断面図	34
第49図 SB4013 出土遺物実測図	34
第50図 SB4016 出土遺物実測図	34

第51図 SB4015 出土遺物実測図	34
第52図 SB4014 平面図・断面図	35
第53図 SB4014 カマド 平面図・断面図	36
第54図 SB4014 カマド	36
第55図 SB4014 出土遺物実測図	36
第56図 SB4017 土層断面	37
第57図 SB4017 平面図・断面図	37
第58図 SB4017 カマド 平面図・断面図	38
第59図 SB4017 出土遺物実測図	38
第60図 SB4018 平面図・断面図	39
第61図 SB4018 カマド 平面図・断面図	40
第62図 SB4018 出土遺物実測図 1	40
第63図 SB4018 出土遺物実測図 2	41
第64図 SB4019 平面図・断面図	42
第65図 SB4019 カマド 平面図・断面図	42
第66図 SB4019 出土遺物実測図	42
第67図 SB4020 平面図・断面図	43
第68図 SB4020 カマド 平面図・断面図	44
第69図 SB4020 出土遺物実測図	44

第2節 土坑・ピット・性格不明遺構

第70図 土坑・ピット・性格不明遺構 全体図(北部分)	45
第71図 土坑・ピット・性格不明遺構 全体図(南西部分)	46
第72図 土坑・ピット・性格不明遺構 全体図(南東部分)	47
第73図 SK・Pit (4001～4028) 平面図・断面図	48
第74図 SK・Pit (4029～4061) 平面図・断面図	49
第75図 SK・Pit (4062～4088) 平面図・断面図	50
第76図 SK・Pit (4089～4114・4118) 平面図・断面図	51
第77図 SK・Pit (4115～4131・4135～4139) 平面図・断面図	52
第78図 SK・Pit (4132～4134・4140～4162) 平面図・断面図	53
第79図 SK・Pit (4163～4181) 平面図・断面図	54
第80図 ピット 出土遺物実測図	55
第81図 SX4001・SX4002・SX4003 平面図・断面図	56
第82図 SX4004 平面図・断面図	56
第83図 SX4004	56

第3節 遺構外出土遺物

第84図 遺構外 出土遺物実測図	57
------------------	----

第4章 まとめ

第1節 第41地区における遺構の時間的・空間的整理

第85図 東平遺跡第41地区 時期ごとの建物配置図	59
---------------------------	----

第3節 東平遺跡における墨書土器の特徴

第86図 東平遺跡出土墨書土器実測図一覧 1	65
第87図 東平遺跡出土墨書土器実測図一覧 2	66
第88図 東平遺跡出土墨書土器実測図一覧 3	67
第89図 東平遺跡出土墨書土器実測図一覧 4	68

第4節 SB4001 出土の鑿の位置づけ

第90図 SB4001 出土 鑿	69
第91図 鉄斧・鉈 集成図	70
第92図 東平遺跡第3地区第125号住居址出土鉄製品実測図	71

第5節 SB4005 出土の紡錘車の位置づけ

第93図 石製紡錘車 集成 1	72
第94図 石製紡錘車 集成 2	73
第95図 鉄製紡錘車 集成	74

第5章 総括

第96図 駿河・伊豆における国府・郡衙遺跡	75
-----------------------	----

挿表目次

第2章 立地と概要	
第2節 歴史的環境	
第1表 東平遺跡 調査履歴一覧表	11
第4章 まとめ	
第1節 第41地区における遺構の時間的・空間的整理	
第2表 東平遺跡建物跡	60
第2節 東平遺跡第41地区出土土器の全容と特徴	
第3表 東平遺跡第41地区建物跡出土土器の分類一覧表	62
第3節 東平遺跡における墨書土器の特徴	
第4表 富士市内遺跡出土墨書土器 地区別一覧表	64
第4節 SB4001 出土の鑿の位置づけ	
第5表 駿河における刀子の分類	71

写真図版目次

PL.1	1. 本調査区全景（北東から） 2. 本調査区全景（南東から）
PL.2	1. 本調査区北部遺構検出状況（西から） 2. SB4001（南西から）
PL.3	1. SB4002（南東から） 2. SB4002 カマド遺物検出状況（南西から）
PL.4	1. SB4003（東から） 2. SB4003 カマドセクション（東から）
PL.5	1. SB4001・SB4002・SB4003・SB4005（東から）
PL.6	1. SB4005（東から） 2. SB4005 カマド遺物（7）検出状況（南から）
PL.7	1. SB4005SX01・SB4005SX02（北西から） 2. SB4006（南から）
PL.8	1. SB4007（南西から） 2. SB4009 カマド（南西から） 3. SB4009（南東から）
PL.9	1. SB4010（南から） 2. SB4011 セクション（南東から） 3. SB4011 カマド（南西から） 4. SB4011SX03（北東から） 5. SB4011（南東から）
PL.10	1. SB4012（南東から） 2. SB4014（東から） 3. SB4015（北から） 4. SB4017・SB4018 検出（南西から）
PL.11	1. SB4017（南西から） 2. SB4018（南西から）
PL.12	1. SB4017 カマド遺物検出状況（南東から） 2. SB4018 カマド遺物検出状況（南西から） 3. SB4018 カマド（南東から） 4. SB4019（南西から）
PL.13	1. SB4020（南西から） 2. SB4020 カマド遺物検出状況（南東から）
PL.14～22	出土遺物

第1章 調査経緯と調査経過

第1節 発掘作業の経緯と経過

調査に至る経緯

A B ホテル株式会社（以下、事業者）は富士市伝法2391番1ほか（3048.55㎡）において、ビジネスホテル建設を計画した。平成27年8月、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「東平遺跡」の範囲内に位置することから、富士市教育委員会（以下、市教育委員会）の補助執行機関である富士市市民部文化振興課と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。

当該地は東平遺跡第41地区として、平成18年に市教育委員会による確認調査が実施されていたものの調査面積が限られていたことから十分な調査が行なえていなかった（1次調査）。そのため、改めて市教育委員会による確認調査を実施することとなった。

平成27年9月2日、事業者から「発掘調査承諾書」「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」が富士市教育委員会教育長（以下、市教育長）宛に提出された。

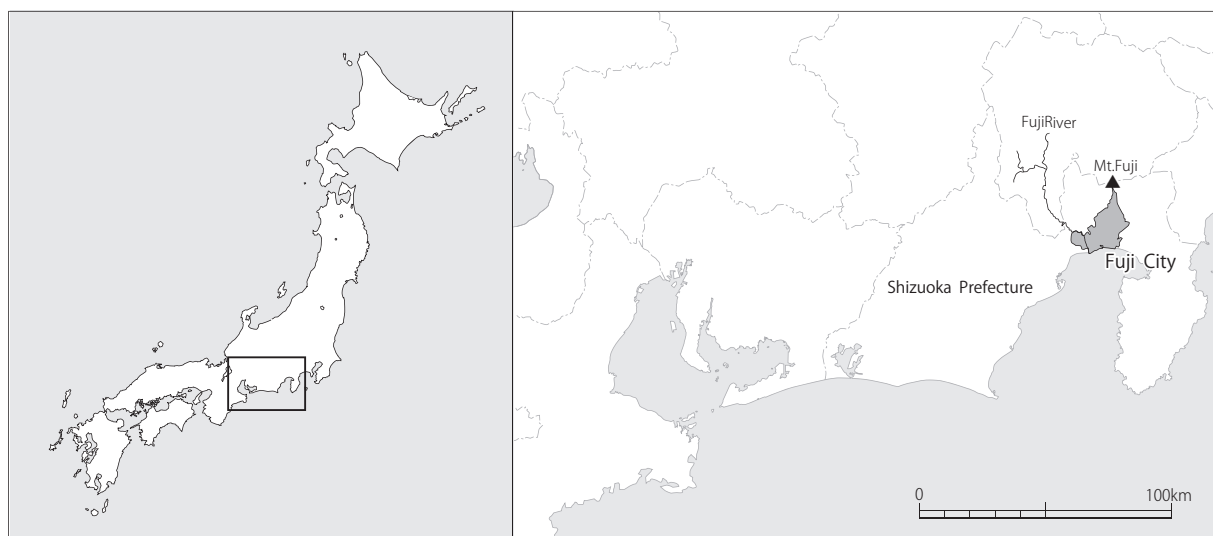
これを受けて文化振興課は、9月10日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を静岡県教育委員会教育長（以下、県教育長）宛に提出し（富市文発第814号）、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。

確認調査

【2次調査】確認調査は平成27年9月14日から15日にかけて行った。調査では、敷地中央と南側の2ヶ所（H28-1Tr、2Tr）にトレンチを設定し、重機によるアスファルト、表土除去の後、人力による遺構精査につとめた。その結果、敷地中央の1Trのアスファルト直下において、竪穴建物跡の可能性がある遺構プランや土師器の出土が認められた。また、敷地南側の2Tr周辺では土地が大規模に削平された結果、遺構は残存しないことが明らかとなった。

9月16日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第474号）を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富市文発第474-2号）を提出した。これは、10月7日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第1101号）。9月17日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第485号）を提出し、事業者と埋蔵文化財の保護に対する対応についての協議を開始した。

【3次調査】2次調査において敷地中央に遺構が残存することが明らかとなったものの、敷地北側については駐車場として利用されていたことから、遺構の残存状況



第1図 静岡県富士市の位置

を明らかとすることができなかった。また、敷地中央についても、本調査になった場合の調査費用の積算を必要からトレンチを追加して調査することとなった。第3次調査は平成27年12月14日から15日にかけて行った。敷地北側の3Trでは、深さ1.9mある盛り土の下からピットを検出した。また、敷地中央の4Trからは2次調査同様、竪穴建物跡の可能性のある遺構プランや土師器の出土が認められた。

12月18日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第854号）を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富市文発第854-2号）を提出した。これは、平成28年1月4日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第1532号）。また、12月21日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第862号）を提出した。



第2図 確認トレンチおよび本調査区配置図

本発掘調査

数度の事業計画変更により、その都度、文化財保護法第93条に基づく届出がなされ、最終的には平成28年4月25日、県教育長から、事業者に対し、遺跡の保護が図れない部分について本発掘調査を実施するよう指示が通知された（教文第193号）。これを受けて、事業者と文化振興課は協議を行い、事業者からの委託により市教育委員会が本発掘調査を実施することとなった。

平成28年3月14日、事業者と富士市長、市教育長の三者間で文化財調査に関する協定が締結され（事業計画変更により4月26日変更協定締結）、これに基づいて、事業者と富士市長の二者間で発掘作業に関わる業務委託契約が締結された。文化振興課は4月13日、文化財保護法第99条に基づく「発掘調査について」を県教育長に提出し（富市文発第66号）、文化振興課職員による記録保存のための本発掘調査を実施することとなった。

本発掘調査は平成28年5月9日から9月6日にかけて行った。

まず、調査範囲のアスファルトカット及び除去の後、バックホーによる表土除去を行なった。確認調査の結果でも明らかとなっているとおり、アスファルト直下には遺物包含層は残存せず、直ぐに大淵扇状地堆積物層の地山が検出され、その面を遺構確認面とした。調査区北側を中心に竪穴建物跡が切りあうように検出され、中央、南側では土坑、ピットも多数検出された。その中には方形のプランも数多く検出されたが、これは、近現代の貯蔵用穴と考えられ、攪乱として処理した。最終的には奈良時代から平安時代にかけての竪穴建物跡19軒と土坑15基、ピット163基を検出し、完掘した。

本発掘調査では、コンテナ15箱分の土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄器などが出土し、9月6日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第552号）を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富市文発第552-2号）を提出した。これは、9月14日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第1010号）。

平成28年9月7日、事業者に対し、発掘作業に関わる業務の完了報告を行い（富市文発第550号）、同日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第557号）を提出した。その後、業務委託金の変更契約、精算をもって、発掘作業に関わる業務委託契約が終了した。



第3図 本調査区全体図

以下、調査経過を日誌より抜粋する。

- 5月9日(月) 調査開始、器材搬入。
- 5月10日(火) 表土除去開始。敷地北側に建物跡を多数検出。
- 5月12日(木) 遺構検出作業開始。
- 5月16日(月) 遺構検出図TS計測、レベリング開始。
- 5月18日(水) 表土除去終了。
- 5月24日(火) 高所作業車を使用して遺構検出写真撮影。写真撮影後、敷地北側より遺構掘削開始(SB4001～SB4006)。適宜、TS計測を並行して行う。
- 6月1日(水) それまでSB4004としていたものを土坑状の掘り込みのためSX4001とする。
- 6月6日(月) 志村 博氏が来跡。
- 6月10日(金) 敷地北側の掘削終了。
- 6月14日(火) 作業員は舟久保遺跡の本調査に向かい、掘削一時中断。その間、カマド図面など作成。

- 6月22日(水) 調査区中央部分、遺構掘削再開。
- 7月1日(金) 敷地南西部分、遺構掘削開始。
- 7月13日(水) 敷地南東部分、遺構掘削開始。
- 7月25日(月) 作業員は宇東川遺跡の本調査に向かい、掘削一時中断。その間、カマド図面など作成。
- 8月1日(月) 作業員掘削再開。
- 8月11日(木) 16日までお盆休みのため現場休工とする。
- 8月17日(水) 全景完掘写真の撮影のため、清掃開始。
- 8月22日(月) 台風9号通過。現場水没。翌日より排水による復旧。
- 8月26日(金) 高所作業車による全景撮影。終了後、土層観察用ベルトなど除去。
- 9月2日(金) 器材撤収。
- 9月7日(水) 事業者現場を引き渡す。

第2節 整理作業の経緯と経過

発掘作業が終了した翌年度の平成29年5月1日、事業者と富士市長、市教育長の三者間で締結された文化財調査に関する協定に基づき、事業者と富士市長の二者間で整理作業に関わる業務委託契約が締結された。その後、調査記録および出土遺物の整理作業を開始した。

平成30年3月16日、東平遺跡第41地区4次調査の埋蔵文化財発掘調査に関わる一連の作業は、本書を刊行し、その後、業務委託金の変更契約、精算をもって、すべての業務委託契約が終了した。

発掘・整理作業の体制

東平遺跡第41地区4次調査に関する一連の調査は、以下の体制で実施した。

〔調査主体〕

富士市教育委員会 教育長 山田 幸男

〔調査担当〕

市民部 部長 加納 孝則(平成28年度)
高野 浩一(平成29年度)

文化振興課 課長 町田しげ美(平成28年度)
久保田伸彦(平成29年度)

文化財担当 統括主幹 久保田伸彦(平成28年度)
植松 良夫(平成29年度)

主幹 石川 武男

埋蔵文化財調査室 主査 佐藤 祐樹

主事補 伊藤 愛(平成29年度)

臨時職員 服部 孝信

小島 利史

若林 美希

第3節 調査の方法と概要

現地調査

表土掘削・遺構掘削 表土等の掘削は、重機（バックホウ）を用いて実施した。後世の土地改変の影響で遺物包含層は存在せず、遺構検出面まで重機による掘削を行った。遺構検出は土色や土質の違いなどを基準に人力で精査した。遺構掘削は、遺構検出で確認した遺構について、大型のものなど竪穴建物跡については十字に土層帯を残し、小型のものは一文字に土層帯を残し、遺物と土層に留意しながら掘削した。遺構番号は遺構種別を示す記号の後に、4次調査であることを示す4001からの番号を遺構種別ごとに付与した。ただし、SK（土坑）、Pit（小穴）については同一系列の番号とした。最終的に竪穴建物跡19軒、土坑15基、ピット163基を調査した。

基準点 調査の基準となる座標杭は「都市再生街区基本調査に関する成果」を用い、節点（3A142、3A143）よりトータルステーション（以下、TS）により調査区周囲に移動した。座標系は第Ⅷ系である。

実測など 遺構の平面実測は主にTSで行なった。カマドや遺物出土状況の詳細図は手実測で行なった。土層図も主に手実測によるが、ピットなどの断面実測（エレベーション図）はTSによる。また、出土遺物は極力、1点ごとにTSによる取り上げを行なったが、小破片は遺構ごと一括して取り上げた。

写真撮影 遺構の写真撮影は、主として中判カメラ（6×7白黒フィルム、リバーサルフィルム）で行い、あわせて一眼レフデジタルカメラ（35mmフルサイズ）でRAWデータを取得し、色調補正後TIFFデータに現像した。

台帳管理 掘削などの作業と並行して適宜、遺物台帳、SP台帳、図面台帳、写真台帳を作成し、それらを管理番号による関連付けを行い、調査所見とともに遺構台帳によって管理した。

資料整理・報告書刊行作業

基礎整理 出土した遺物の洗浄・注記、遺構台帳へのTS打ち出し図面の貼り付けなどを行なった。

資料整理 出土品の整理作業は、遺構ごとに管理し、出土した土器は、全破片に対して、器種分類、系統判別を行い、重量、最低個体数のカウントを行なった。詳細は第4章第2節及び付表に譲るが、土器7873点（土師器7087点、須恵器781点、灰釉陶器5点）、重量58544g、最低個体数643個体が確認された。その後、復元が必要なものは石膏による復元を行い、報告書に掲載する遺物については抽出番号を付与して、台帳を作成した。実測、トレース、版組作成の後、抽出番号から報告書掲載番号に変更管理し、実測図などにも記入した。

出土遺物の個別遺物の写真撮影は、一眼レフデジタルカメラ（35mmフルサイズ）でRAWデータを取得し、色調補正後TIFFデータに現像し、最終的にフォトショップ形式（psd）にて加工した。

記録類の整理作業は遺構台帳を元に、TS計測データと手実測図面をデジタルトレースしたものをパソコン上でレイアウトした。

報告書刊行 上記の作業と並行して報告書の原稿執筆を行い、原稿と挿図、図版（写真）が出来上がった段階で、報告書刊行のための割付作業（DTP）を行なった。印刷製本は委託作業として実施し、業者決定後校正を行い、報告書を刊行することとした。

資料の保管 出土した遺物は今後、富士山かぐや姫ミュージアム（富士市立博物館：富士市伝法66-2）に移管し、教育普及などのために活用される予定でいる。また、発掘作業から報告書刊行までに発生した各種のデータは、文化振興課（埋蔵文化財調査室：富士市伝法79-2）において保管している。



1. 人力掘削作業



2. 図化作業



3. 遺物接合作業



4. 出土遺物図化作業



5. 出土遺物デジタルトレース作業



6. 遺構図編集作業



7. 出土遺物写真撮影作業



8. 出土遺物収納作業

第2章 立地と概要

第1節 地理的環境

東平遺跡が所在する富士市は、静岡県東部に位置する。その地理的環境を概観すると、駿河湾を南に臨み、北には富士山がそびえ、山裾を南西に広げている。西には岩本山を有する星山丘陵と岩淵火山地が、東には既に火山としての活動を停止している愛鷹山が存在する。西方には北から流下する富士川と富士山西麓を源とする潤井川が駿河湾に注ぎ、東方には愛鷹山に源流をもつ須津川や赤淵川、浮島ヶ原低湿地を西流する沼川など、多数の河川が流れる。

こうした環境にある富士市域の地形は、富士山や愛鷹山の火山活動により形成された丘陵地、富士川や潤井川が運搬した土砂の堆積により形成された沖積平野、河川の放出砂礫が駿河湾の沿岸流や波浪によって運搬され形成された田子浦砂丘、砂丘の内側につくられた湖沼に沖積層が堆積して発達した浮島ヶ原低湿地など、変化に富んだ様相をみせている。

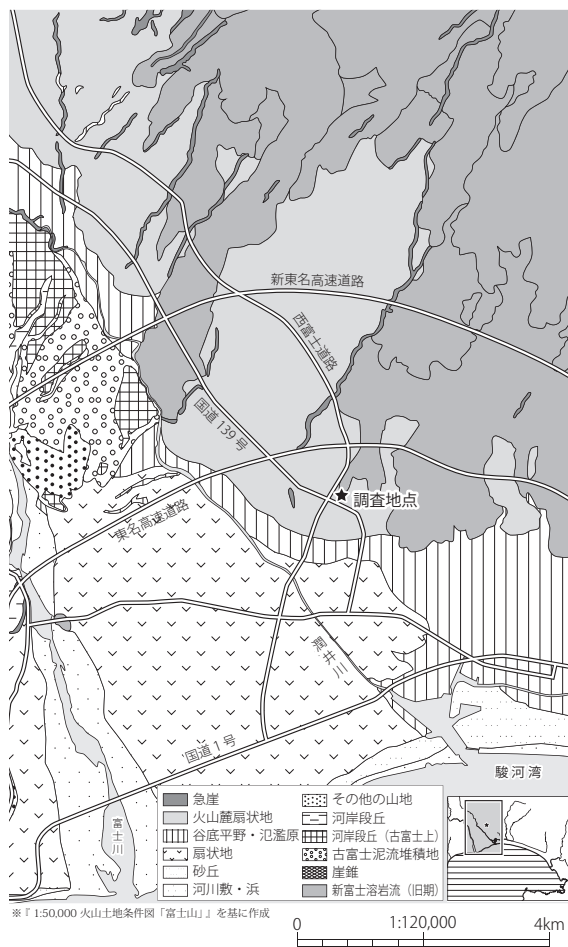
地形の基盤のひとつである富士山の噴火活動は、小御岳火山の噴火(数十万年前)に始まり、古富士火山(8万年～1万6千年前)、新富士火山(1万4千年前～現在)と大きく3期に分けられる。不透水性の古富士泥流の上に、透水性の新富士火山溶岩流が広がるため、新富士火山溶岩流の末端には数多くの湧水地が存在する。また、浮島ヶ原低湿地は、内湾交通に適した土地であった。

東平遺跡は新富士火山溶岩流の末端の標高20m付近に位置し、遺跡内に所在する富知六所浅間神社の境内からは現在も湧水が認められ、駿河湾へと注ぐ和田川の起点ともなっている。

また、遺跡の南西には潤井川が流れ、その河川沿いには古墳時代中期後半以降、集落の展開をみせる。また、遺跡西側の中桁・中ノ坪遺跡との間には伝法沢が存在し、遡ると6世紀後半の鉄器生産や馬匹生産などの産業全体に関わる技術者集団の統括者の被葬者が想定される中原第4号墳が立地する。



第4図 駿河湾上空から富士市を望む



第5図 周辺地形図

第2節 歴史的環境

東平遺跡は、富士山南麓の大淵扇状地上に位置し、潤井川東岸に東西南北約1.2kmにわたって展開する集落遺跡である。駿河国富士郡の郡家と想定され、これまでの調査で300軒以上の竪穴建物跡、70棟以上の掘立柱建物跡が確認されている。大淵扇状地における集落の萌芽は、古墳時代前期に遡る。潤井川流域では沢東A遺跡で僅かに遺構が確認されているほか、東平遺跡と中桁・中ノ坪遺跡でも小規模ながらも集落が形成される。しかし、これらは大きな発展を見せることはなく、本格的な集落の出現は、古墳時代中期後半まで待たなければならない。

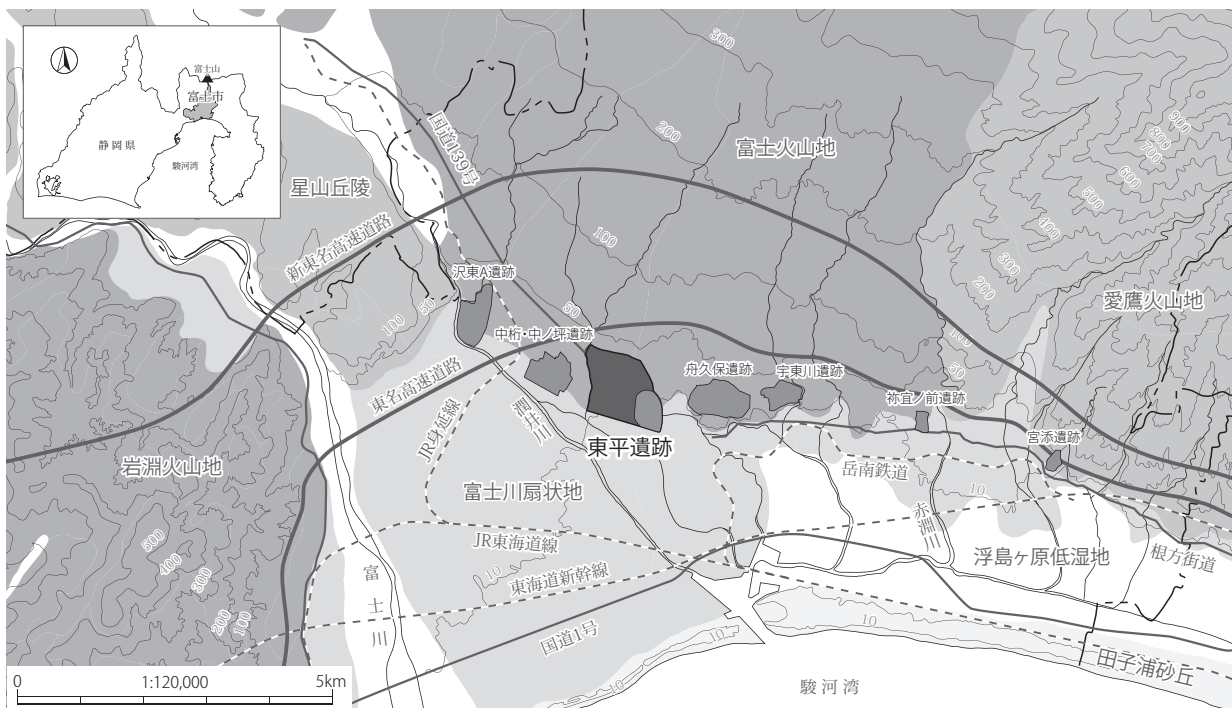
5世紀後半に入ると、沢東A遺跡で集落が形成される。潤井川が東に流れを変える川の屈曲点に位置する地点で、初期須恵器が出土している。また、子持ち勾玉や石製模造品などの祭祀に関わるとみられる遺物や遺構も発見されており、水辺の祭祀を行う河岸の集落の姿が想像できる。建物数が増え、他集落に先駆けて中心的集落となった沢東A遺跡は、その後8世紀後半に至るまで継続して営まれ続ける。

沢東A遺跡の集落形成と同じ頃、東平遺跡の西側に

伊勢塚古墳が築造される。全長は52mに及び、幅7～8mの周溝を有する。円墳とされているが、周溝の形状などから、帆立貝形前方後円墳の可能性も指摘されている(富士市教育委員会1988)。被葬者は、沢東A遺跡をはじめとする潤井川流域の本格的な開発を主導的に行った集団の首長であると考えられており(市教育委員会2016)、駿河湾から河川を遡って来た際に見えるその立地から、権威を誇示するモニュメントの役割も担っていたと考えられる。伊勢塚古墳の出現を契機とし、伝法古墳群では6世紀後半には中原第4号墳が造営される。さらに7世紀以降も横沢古墳など多くの古墳が造られ、それらのほとんどが伝法沢川以東に位置しているのである。こうした現象は、伊勢塚古墳造営以降、伝法沢川以東が墓域として認識されていたことを示している(佐藤2016)。

この頃、沢東A遺跡の南東に位置する中桁・中ノ坪遺跡でも、安定した集落が形成される。6世紀前半にひとつのピークを迎えているが、6世紀後半から7世紀後半までは、目立った展開はみられない。

7世紀前半、沢東A遺跡では爆発的に建物数が増加し、



第6図 東平遺跡の位置

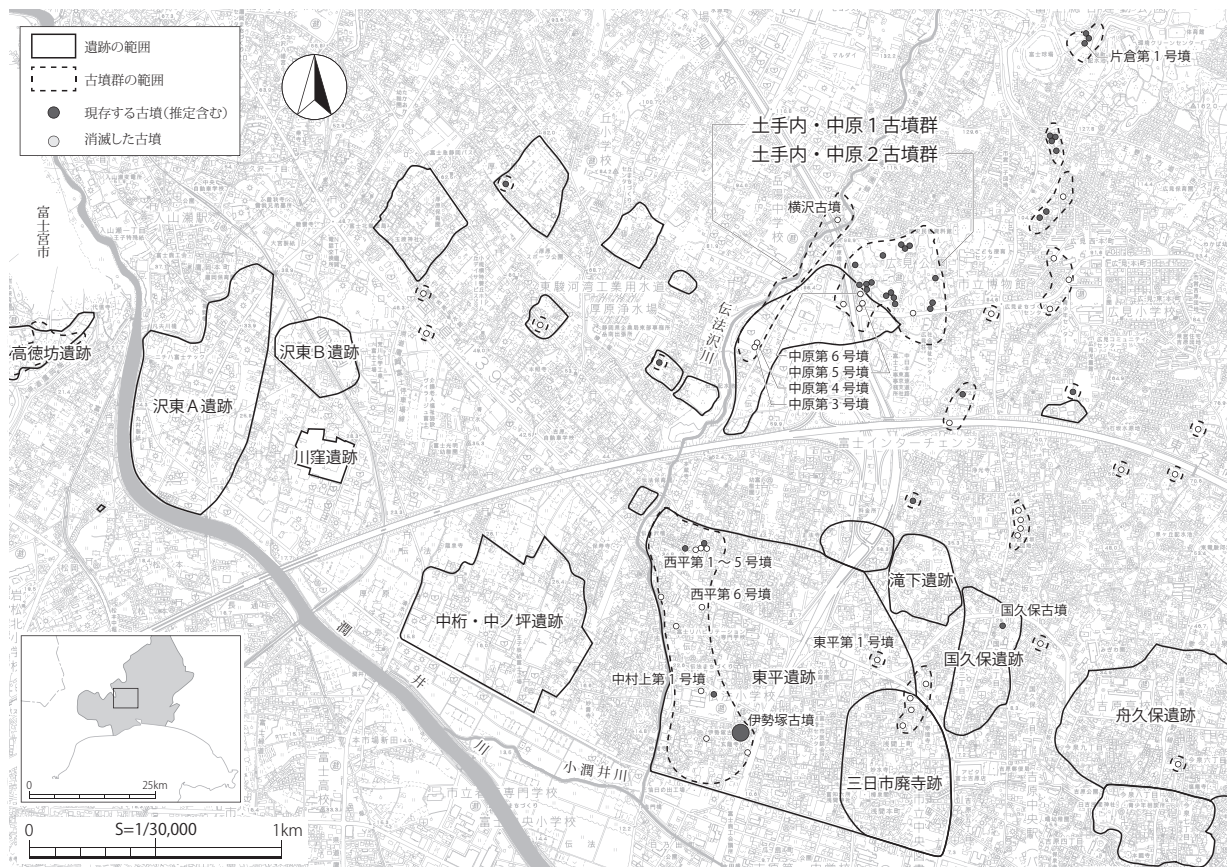
これがこの集落の最盛期となる。しかしこの隆盛は長くは続かず、後半期になると早くも縮小傾向をみせる。一方、5世紀の集落形成以来、細々と存続してきた東平遺跡は、この頃東へと集落規模を拡大している。第16・28地区にその痕跡がみられるが、そこは和田川の始点付近となっている。そのため、集落拡大の要因としては、川をくだって駿河湾に出ることができること、沼津市や三島市方面へ向かう路の出発点であることなど、流通や交通の要所であったことによるものとみている（市教育委員会 2013）。

同じ頃、伝法古墳群も広がりを見せ、東平集落の東では東平1号墳が築造される。この古墳からは丁字形利器、金銅製杓子形壺鏡、金銅製辻金具などの特殊な副葬品が出土しており、被葬者がいかに権威ある人物だったかを物語っている。古墳群は7世紀後半以降、終末期古墳が主体となり、その後8世紀にかけて展開していく。

8世紀に入ると東平遺跡は急速に発展し、周辺の遺跡を凌駕する大集落となる。それまで墓域とされていた集落縁辺部も居住域として活用され、規則的に整理した倉庫と思われる掘立柱建物群が建設される。第27地区で

は「布自」と書かれた墨書土器が出土している。富士郡家として成立した東平遺跡には、多くの人々が移住したとみられ、それを裏付けるように周辺集落では建物数が著しく減少する。かつて中心的集落として栄えた沢東A遺跡は、この時期急激に規模を縮小し、8世紀後半には消滅する。中桁・中ノ坪遺跡は継続するものの、前代に比べて遺構のあり方が不明瞭になる。これは居住域の移動によるものであり、東平遺跡の隆盛に連動しているとみられる（静岡県埋蔵文化財センター 2013）。このように、東平遺跡における富士郡家の誕生は、周辺の集落にひとつの画期をもたらしたのである。なお、その北東に位置する滝下遺跡は、東平集落の一部と考えられ、建物跡から銅製の鉋尾が出土している。

また、東平遺跡の東側（第16地区）では、8世紀前半の布目瓦が大量に出土している。この場所は現在、三日市廃寺跡となっており、『日本三代実録』貞観5年（863）6月2日条の「以駿河国富士郡法照寺預之定額」にみえる法照寺に比定される。同地区では三面庇の掘立柱建物が検出されており、寺院に関連する施設と考えられている。

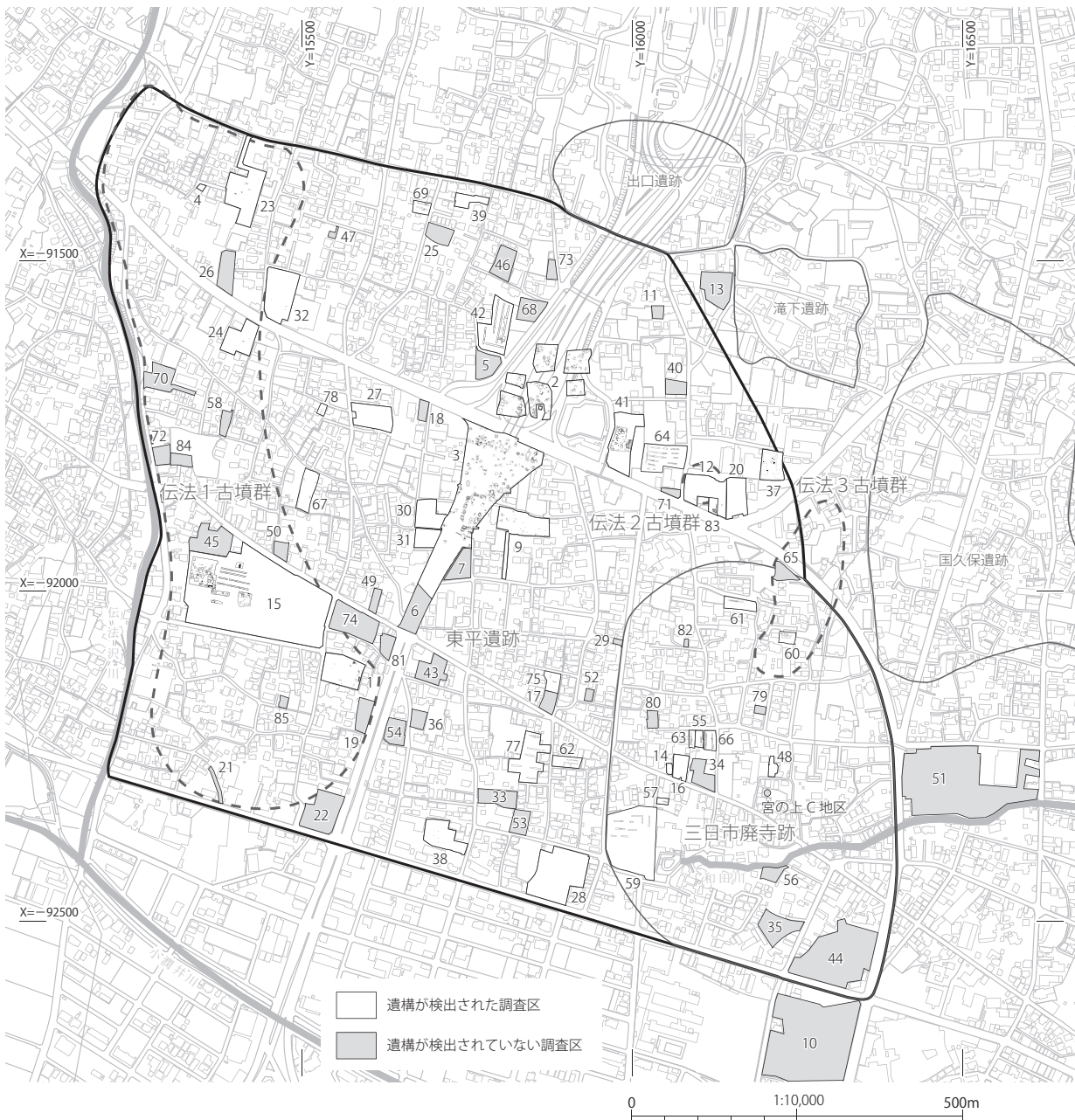


第7図 潤井川東岸遺跡分布図

造墓活動が継続する伝法古墳群にも、富士郡家成立の余波が現れる。この頃に造営される西平1号墳では、帯金具や蕨手刀が副葬されており、被葬者の特異性を窺わせるが、築造時期からみても、富士郡の官吏の墓であると推定されている（市教育委員会 2010）。しかし、こうした造墓活動は8世紀後半には終わりを告げる。

9世紀になって東平が衰退を始めると、中桁・中ノ坪遺跡など、かつて東平遺跡への集住によって縮小した集落が、再び活発化する。この時期になると、郡家と関わ

りを持ちながら存続してきた宮添遺跡、舟久保遺跡、宇東川遺跡、祢直ノ前遺跡などの根方街道沿いの集落でも、墨書土器や刻書土器が認められるようになる。10世紀の『扶桑略記』延喜2年（902）9月26日に記されるように、富士郡の官舎が焼失したのち、東平遺跡は終焉を迎える。そうした中で、東平遺跡と密接に関わりながら存続してきた中桁・中ノ坪遺跡は、東平遺跡の衰退後も、10世紀前半に至るまで継続して集落が営まれるのである。



第8図 東平遺跡 調査履歴図

第1表 東平遺跡 調査履歴一覧表

地区	次	調査年度	調査種類	所在地	調査の契機	調査期間	遺構	遺物	報告書
1地区	1次	S33	本調査	伝法 3103-1 外	墓地造成	1958****	葺石・石堤		
1地区	2次	S55	本調査	伝法 3103-1 外	墓地造成	19800721～19800820	葺石	埴輪片	C
1地区	3次	H12	試掘	伝法 3102-1 外	庫裡改築	20000906～20000908		土製品	
2地区		S40	本調査	伝法 2	東名富士 I・C建設	19650904～19651026	竪穴建物跡・掘立柱建物跡	土師器・須恵器・鉄器	A
3地区		S53	本調査		西富士道路建設	19781201～19800812	竪穴建物跡・掘立柱建物跡 土坑・溝状遺構	土師器・須恵器・鉄器	A・B
4地区		S54	本調査	伝法 2658	墓地造成	19790901～19790919	古墳(西平第1号墳)	直刀・蔵手刀・銅製腰帯具	C・D
5地区		S54	工事立会	伝法 2515-1	旅館建設	19800317	なし	なし	
6地区		S55	本調査		田子浦臨港線建設	19800401～19800531	なし	土師器	B
7地区		S55	本調査	伝法 2816	盛土	19800501～19800630	掘立柱建物跡・竪穴建物跡		
9地区		S63	本調査	伝法 2837 外	保育園建設	19880601～19880826	竪穴建物跡・掘立柱建物跡 土坑	土師器・須恵器・鉄器・刀子 勾玉・キセル・骨	H
10地区		S63	試掘	永田北町 130-1 外	店舗建設	19890301～19890308	なし	なし	E
11地区		H01	試掘	伝法 2425-5	住宅建設	19890818～19890824	土坑・ビット・溝状遺構	土師器・須恵器・陶磁器	F
12地区		H01	本調査	伝法 2369-1 外	貸事務所建設	19891115～19891229	古墳(東平第1号墳) 竪穴建物跡	直刀・鏝・丁字形利器	G
13地区		H02	試掘	伝法 2401-2	マンション敷地造成	19910318～19910319	なし	なし	
14地区		H01	学術調査	浅間上町 11-8	三日市廃寺跡範囲確認	19890414～19890502	竪穴建物跡・柱穴・土坑	土師器・須恵器・布目瓦	F
15地区	1次	H04	試掘	伝法 2743	小学校運動場整備	19920806～19920811	なし	円筒埴輪片	
15地区	2次	H18	試掘	伝法 2743	屋内運動場・給食棟建設	20060607～20060620			P
15地区	3次	H18	試掘	伝法 2743-2 外	小学校校舎改築	20060724～20060727	竪穴建物跡		P
15地区	4次	H18	本調査	伝法 2743-2 外	屋内運動場・給食棟建設	20060802～20061130	竪穴建物跡・掘立柱建物跡 古墳(中村上第1号墳)	土器片(土師器・須恵器) 金属製品(馬具・刀子等)・石器	P
15地区	5次	H20	試掘	伝法 2743-2 外	小学校校舎改築	20080826～20080827	なし	なし	P
15地区	6次	H20	本調査	伝法 2743-2 外	小学校校舎改築	20081219～20090220	竪穴建物跡・掘立柱建物跡 溝状遺構・性格不明遺構	土師器・須恵器	P
15地区	7次	H22	試掘	伝法 3116-1	小学校体育器具庫建設	20100722	なし	なし	R
16地区	1次	S55	試掘	浅間上町 2991-1 外	東平遺跡範囲確認	198008**	竪穴建物跡	土師器・灰釉陶器・瓦	J
16地区	2次	H04	試掘	浅間上町 2991-1 外	駐車場造成	19930311～19930329	竪穴建物跡・ビット	土師器・須恵器・瓦	J
16地区	3次	H05	学術調査	浅間上町 2991-1 外	三日市廃寺跡緊急調査	19940117～19940331	竪穴建物跡・土坑・ビット 瓦集中地点	土師器・須恵器 瓦・刀子・鉄釘	J
16地区	4次	H05	学術調査	浅間上町 2991-1 外	三日市廃寺跡緊急調査	19940411～19940622	竪穴建物跡・土坑・ビット		J
17地区		H06	試掘	伝法 2865-1 外	店舗建設	19930916			
18地区		H05	試掘	伝法 2529-2 外	住宅建設	19940203～19940208	溝状遺構	土師器・須恵器	
19地区		H06	試掘	伝法 3104-1 外	ガソリンスタンド建設	19941101～19941108		土師器片・須恵器片	
20地区	1次	H07	試掘	伝法 2327-1 外	宅地造成	19950907～19950914	竪穴建物跡・土坑	土師器・須恵器	V
20地区	2次	H08	本調査	伝法 2327-1 外	宅地造成	19960527～19961027	竪穴建物跡・掘立柱建物跡	土師器・須恵器	V
21地区		H07	工事立会	伝法 3180-8	河川改修	199510**	なし	なし	
22地区		H07	試掘	伝法 3201-1 外	給油所建設	19960301～19960309	なし	土師器・須恵器・陶器	
23地区	1次	H07	試掘	伝法 2610-1 外	共同住宅建設	19960311～19960319	古墳(西平第2号墳)	須恵器片	
23地区	2次	H08	測量調査	伝法 2610-1 外	共同住宅建設	19960415～19960510	古墳(西平第2～5号墳)		
23地区	3次	H08	本調査	伝法 2610-1 外	共同住宅建設	19960507～19960531	古墳(西平第2～5号墳)		D
24地区	1次	H08	試掘	伝法 2619-1 外	畜場建設	19961125～19961209	竪穴建物跡	土師器・須恵器	D
24地区	2次	H08	本調査	伝法 2619-1 外	畜場建設	19961216～19970116	古墳(西平第6号墳) 竪穴建物跡・掘立柱建物跡	土師器・須恵器	D
25地区		H09	試掘	伝法 2497-3	共同住宅建設	19970612～19970618	なし	なし	
26地区		H10	試掘	伝法 2619-95	店舗建設	19990118～19990121	なし	なし	
27地区	1次	H11	試掘	伝法 2527-1 外	本市場大潤線代替地造成	19990810～19990827	竪穴建物跡		J
27地区	2次	H11	本調査	伝法 2527-1 外	本市場大潤線代替地造成	20000111～20000125	竪穴建物跡	土師器・須恵器・菰編み用の石	J
27地区	3次	H15	試掘	伝法 2527-1 外	倉庫解体	20040203～20040204			M
28地区	1次	H11	試掘	伝法 3024-1 外	店舗建設	19991004～19991014	竪穴建物跡	土師器・須恵器	I
28地区	2次	H11	本調査	伝法 3024-1 外	店舗建設	20000203～20000517	竪穴建物跡・掘立柱建物跡	土師器・須恵器	I
29地区		H12	試掘	伝法 2879-3 地先	防火水槽築造	20010227	ビット(時期不明)		
30地区	1次	H12	試掘	伝法 2828-1 外	宅地造成	20010219～20010223	竪穴建物跡・掘立柱建物跡 土坑	土師器・須恵器	D
30地区	2次	H12	本調査	伝法 2828-1 外	宅地造成	20010307～20010319	竪穴建物跡・掘立柱建物跡 土坑	土師器・須恵器	D
31地区		H12	試掘	伝法 2829-1 外	宅地造成	20010307～20010313	住居跡	土師器・須恵器	D
32地区		H13	試掘	伝法 2559-2	店舗建設	20011203～20011210	竪穴建物跡・掘立柱建物跡		D
33地区		H16	試掘	伝法 3034-3 外	宅地造成	20041116～20041122	土坑	須恵器片・宋銭	K
34地区		H16	試掘	浅間上町 11-2	共同住宅建設	20041201～20041202		土師器片・須恵器片・布目瓦片	K
35地区		H16	試掘	浅間本町 3415-9 外	共同住宅建設	20041004～20041008			K 32地区と掲載。
36地区		H15	試掘	伝法 3054-1	共同住宅建設	20030609			M
37地区	1次	H17	試掘	伝法 2331-2	共同住宅建設	20050601～20050617	竪穴建物跡	土器片	L
37地区	2次	H17	本調査	伝法 2331-2	共同住宅建設	20050804～20050812	竪穴建物跡・掘立柱建物跡	土師器・須恵器	L
37地区	3次	H19	試掘	伝法 2323-1 外	葬祭場建設	20071107～20071109	竪穴建物跡・ビット	土師器・須恵器	N
37地区	4次	H19	本調査	伝法 2323-1 外	葬祭場建設	20080110～20080310	竪穴建物跡・ビット・土坑	土師器・須恵器	N
38地区		H17	試掘	伝法 3068-1 外	共同住宅建設	20050830～20050909	竪穴建物跡	土師器・須恵器	N
39地区		H17	試掘	伝法 2496-2	共同住宅建設	20050926～20050928	掘立柱建物跡		L
40地区		H18	試掘	伝法 2396-12 外	住宅建設	20060425			L
41地区	1次	H18	試掘	伝法 2442-1 外	店舗建設	20070206～20070213			L
41地区	2次	H27	確認	伝法 2391-1 外	ホテル建設	20150914～20150915	竪穴建物跡・土坑・ビット	土師器	本書
41地区	3次	H27	確認	伝法 2391-1 外	ホテル建設	20151214～20151215	竪穴建物跡・土坑・ビット	土師器・石製品	本書
41地区	4次	H28	本調査	伝法 2391-1 外	ホテル建設	20160509～20160906	竪穴建物跡・土坑・ビット 性格不明遺構	土師器・須恵器・灰釉陶器 鉄器・石製品	本書
42地区		H19	試掘	伝法 2474-1 外	マンション建設	20070927～20071009	掘立柱建物跡・ビット	土師器・須恵器	M
43地区		H20	試掘	伝法 2806-3 外	ホテル建設	20080415～20080416	溝	なし	O
44地区		H20	試掘	浅間本町 148-1 外	店舗建設	20090226～20090304	なし	なし	O
45地区		H21	試掘	伝法 2743-2	まちづくりセンター改築	20090806～20090817	なし	なし	Q
46地区		H21	試掘	伝法 2484-5	不動産売買	20100114～20100115	なし	なし	Q
47地区		H21	試掘	伝法 2588-1	個人住宅建設	20100305	なし	なし	R
48地区		H22	試掘	浅間上町 2697-2	個人住宅建設	20100422～20100428	竪穴建物跡	土師器・須恵器	Q
49地区		H22	試掘	伝法 2804-12	不動産売買	20100608	なし	なし	R
50地区		H22	試掘	伝法 2782-1 外	不動産売買	20100706～20100707	なし	なし	R

地区	次	調査年度	調査種類	所在地	調査の契機	調査期間	遺構	遺物	報告書
51地区		H22	試掘	国久保二丁目2161 外	店舗解体新築	20100826～20100827	なし	土師器・須恵器	R
52地区		H22	試掘	伝法2869-1	個人住宅建設	20101006～20101007	なし	なし	R
53地区	1次	H22	試掘	伝法3031-1	共同住宅建設	20101201	なし	なし	R
53地区	2次	H22	試掘	伝法3031-1	共同住宅建設	20101220	なし	なし	R
54地区		H22	試掘	伝法3106-1	動物病院建設	20101217	なし	なし	R
55地区		H22	試掘	浅間上町2978-6 外	個人住宅建設	20110127～20110128	竪穴建物跡	土師器・須恵器・瓦・灰釉陶器	R
56地区		H22	試掘	浅間本町3423-1	共同住宅建設	20110301	なし	土師器・石製品	R
57地区		H23	試掘	浅間本町2992-37 外	宅地販売	20110418	竪穴建物跡	土師器・須恵器・瓦	R
58地区		H23	試掘	伝法2708-1	個人住宅建設	20110614～20110615	なし	なし	R
59地区	1次	H24	試掘	浅間本町5-1	社殿改築	20120724～20120821	竪穴建物跡・ピット	須恵器・土師器・瓦	S
59地区	2次	H25	確認	浅間本町5-1	社殿改築	20131216	なし	なし	S
60地区	1次	H24	試掘	浅間上町2921-2 外	個人住宅建設	20130220	竪穴建物跡	土師器・須恵器	S
60地区	2次	H25	本調査	浅間上町2921-2 外	個人住宅建設	20130611～20130709	竪穴建物跡・ピット・土坑	土師器・須恵器・石器	S
61地区		H25	確認	浅間上町2902-23の一部	宅地造成分譲	20130405	竪穴建物跡・ピット	灰釉陶器・土師器	S
62地区	1次	H25	確認	伝法2988-1 外	宅地造成分譲	20130716～20130718	土坑・ピット	土師器・須恵器・瓦	S
62地区	2次	H25	確認	伝法2988-1 外	宅地造成分譲	20130828	なし	なし	S
63地区		H25	確認	浅間上町2978-4 外	個人住宅建設	20130805～20130807	竪穴建物跡・土坑・ピット 溝状遺構	土師器・須恵器・瓦	S
64地区		H25	確認	伝法2383-1 外	共同住宅建設	20131121～20131129	竪穴建物跡・ピット	土師器・須恵器・灰釉陶器	S
65地区		H25	確認	浅間上町2912-2 外	個人住宅新築	20131211	なし	土師器	S
66地区		H25	確認	浅間上町2978-3	宅地造成・分譲	20140212～20140214	竪穴建物跡・溝 土坑・ピット	土師器・須恵器・瓦	S
67地区		H25	確認	伝法2789-1 外	宅地造成	20131114	不明遺構	土師器	S
68地区		H26	確認	伝法2481-3 外	不動産売買	20140409～20140410	なし	なし	T
69地区		H26	確認	伝法2594 外	不動産売買	20140415～20140417	竪穴建物跡・土坑・ピット	土師器・須恵器	T
70地区		H24	試掘	伝法2700-11 外	宅地分譲	20130319	なし	なし	S
71地区		H26	確認	伝法2380-1 外	不動産売買	20140714～20140715	なし	土師器	T
72地区		H26	確認	伝法2731-3 外	宅地造成	20140903	なし	なし	T
73地区		H26	確認	伝法2483-2 外	不動産売買	20140929	なし	なし	T
74地区	1次	H26	確認	伝法2800-1	店舗建替	20141007～20141008	なし	なし	T
74地区	2次	H26	確認	伝法2800	店舗建替	20141119～20141120	なし	なし	T
75地区		H26	確認	伝法2866-1	宅地造成	20141016～20141017	土坑・ピット	土師器・須恵器・鉄器	T
76地区		H26	確認	伝法3066	個人住宅建設	20141027	なし	須恵器	T
78地区		H27	確認	伝法2548-2	個人住宅建設	20150423	ピット	なし	T
77地区		H27	確認	伝法3040-1 外	宅地造成	20150727～20150729	竪穴建物跡	土師器・須恵器	T
79地区		H28	確認	浅間上町18-5	個人住宅新築	20160421	なし	なし	U
80地区		H28	確認	浅間上町2983-2 外	個人住宅新築	20160422	なし	なし	U
81地区		H28	確認	伝法2804-3	駐車場整備	20160803	なし	なし	U
82地区		H28	確認	浅間上町2895-14	不動産売買	20160920～20160921	なし	なし	U
83地区	1次	H28	確認	伝法2370-1	敷地造成	20161003～20161004	竪穴建物跡・溝・ピット	土師器・須恵器	U
83地区	2次	H28	本調査	伝法2370-1	敷地造成	20161204～20161207	竪穴建物跡・溝・土坑 ピット・性格不明遺構	土師器・須恵器・灰釉陶器 石器・鉄製品	U
84地区		H28	確認	伝法2723-1の内 外	個人住宅新築	20161214	なし	なし	U
85地区		H28	確認	伝法3122-3	個人住宅新築	20161215	なし	なし	U

【報告書】

- A 『西富士道路（富士地区）・岳南広域都市計画道路田子浦臨港線埋蔵文化財発掘調査報告書』(1981)
- B 『西富士道路（富士地区）・岳南広域都市計画道路田子浦臨港線埋蔵文化財発掘調査報告書』(1981)
- C 『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書』(1983)
- D 『東平遺跡発掘調査報告書』(2003)
- E ファイル『昭和63年度発掘調査概報』(1988)
- F ファイル『平成元年度発掘調査概報』(1989)
- G 『東平第1号墳 発掘調査概報』(1990)
- H 『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書第3集 東平遺跡第3次調査』(1992)
- I 『東平遺跡 第28地区発掘調査報告書』(2001)
- J 『東平遺跡 第16地区（三日月庵寺跡）、第27地区発掘調査報告書』(2002)
- K 『平成16年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』(2006)
- L 『平成17・18年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』(2008)
- M 『平成15・19年度富士市内遺跡発掘調査報告書』(2009)
- N 『東平遺跡』(2009)
- O 『平成14・20年度富士市内遺跡発掘調査報告書』(2010)
- P 『東平遺跡第15地区』(2010)
- Q 『平成21年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』(2011)
- R 『富士市内遺跡発掘調査報告書 一平成22・23年度一』(2013)
- S 『富士市内遺跡発掘調査報告書 一平成24・25年度一』(2015)
- T 『富士市内遺跡発掘調査報告書 一平成26・27年度一』(2017)
- U 『富士市内遺跡発掘調査報告書 一平成28年度一』(2017)
- V 『東平遺跡 第20地区』(2017)

第3章 遺構と遺物

第1節 竪穴建物跡

SB4001

遺構 (第9・10・11・13図)

位置 調査区の北寄りに位置する。

重複関係 (古) SB4006 → SB4001

→ SK4001、SK4022 (新)

主軸方位 N - 84.7° - E

残存状況 カマドを含む東壁をSK4022に切られ、南西角をSK4001に切られているが、それ以外はおおむね良好に残存している。主軸(東西)幅3.96m、直交(南

北)幅3.51m、検出面からの深さ44cmを測り、平面形は方形を呈する。

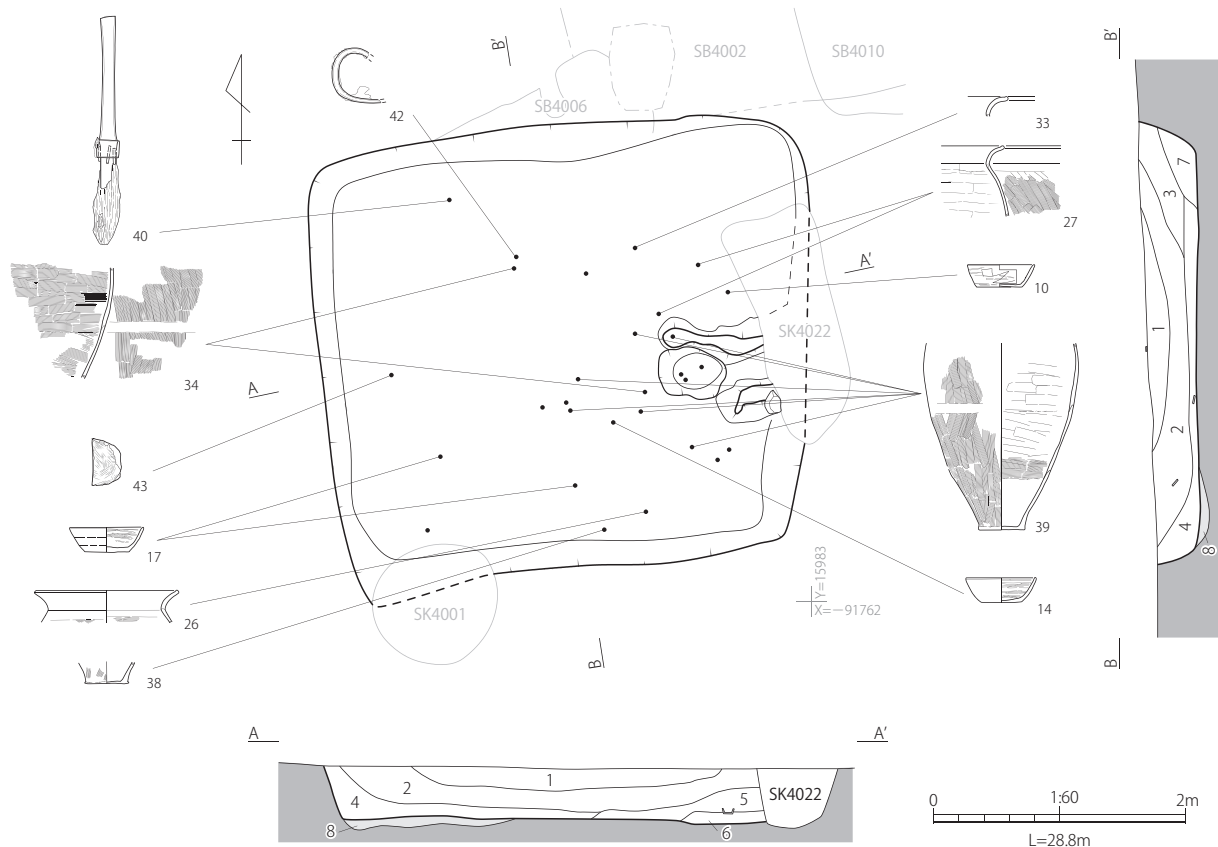
覆土 大淵スコリア・赤色粒子を含む黒褐色土。

壁溝 確認されない。

柱穴 確認されない。

床 大部分で掘り方を床面としているが、南西側の一部分に厚さ8cmほどの貼り床が施される。

カマド 東壁のやや南寄りに位置する。SK4022により、建物壁と接する部分が失われているが、両袖および煙道



- | | |
|---|-------|
| 1 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりややあり、粘性なし。大淵スコリア少量、赤色粒子中量含む。 | 覆土 |
| 2 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりややあり、粘性なし。大淵スコリア・赤色粒子少量含む。 | 覆土 |
| 3 黒褐色 (7.5YR2/2) しまりあり、粘性ややあり。大淵スコリア・赤色粒子・粘土粒子少量含む。 | 覆土 |
| 4 黒褐色 (7.5YR2/2) しまりややあり、粘性なし。大淵スコリア・赤色粒子・粘土粒子少量含む。 | 覆土 |
| 5 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。大淵スコリア少量含む。粘土をシミ状に含む。 | 覆土 |
| 6 褐色粘土 (7.5YR4/3) しまりややあり、粘性ややあり。大淵スコリア少量含む。 | 覆土 |
| 7 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりややあり、粘性なし。大淵スコリア中量含む。 | 覆土 |
| 8 極暗褐色 (7.5YR2/3) しまりややあり、粘性なし。大淵スコリア中量含む。 | 掘り方埋土 |

第9図 SB4001 平面図・断面図

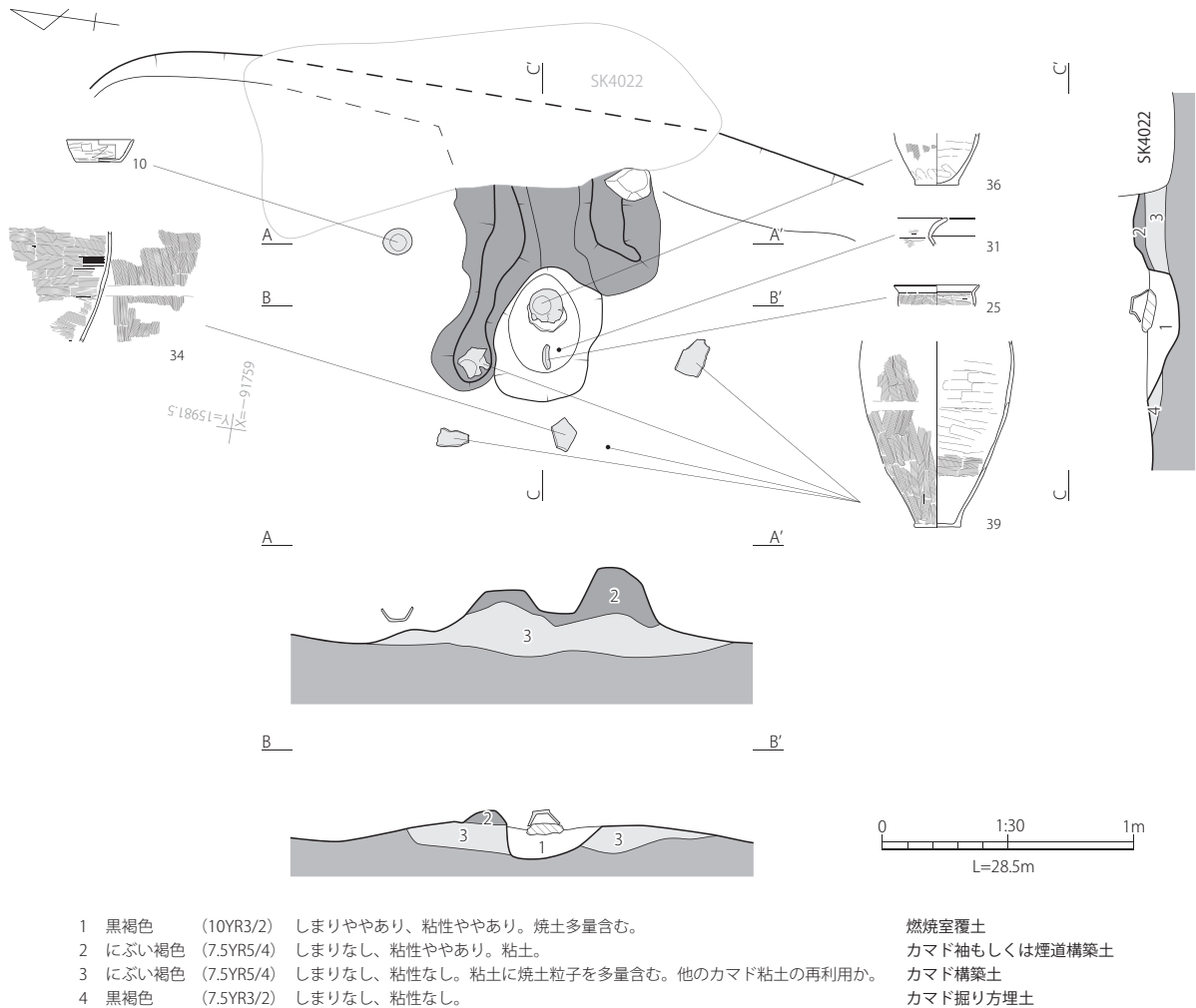
の一部と燃焼室は残存する。残存部分で全長 84cm、幅 81cm、燃焼室幅 43cm を測る。袖の芯材となる石などは検出されず、にぶい褐色粘土を用いて袖と煙道部を構築している。焼土を多量に含む粘土を掘り方埋土として使用しており、他のカマドに用いた粘土の再利用の可能性が考えられる。燃焼室中央には径 15cm、厚さ 4cm ほどの石が据えられており、その上に土師器甕の底部 (36) が逆位で出土した。

出土遺物 (第 12・14 図)

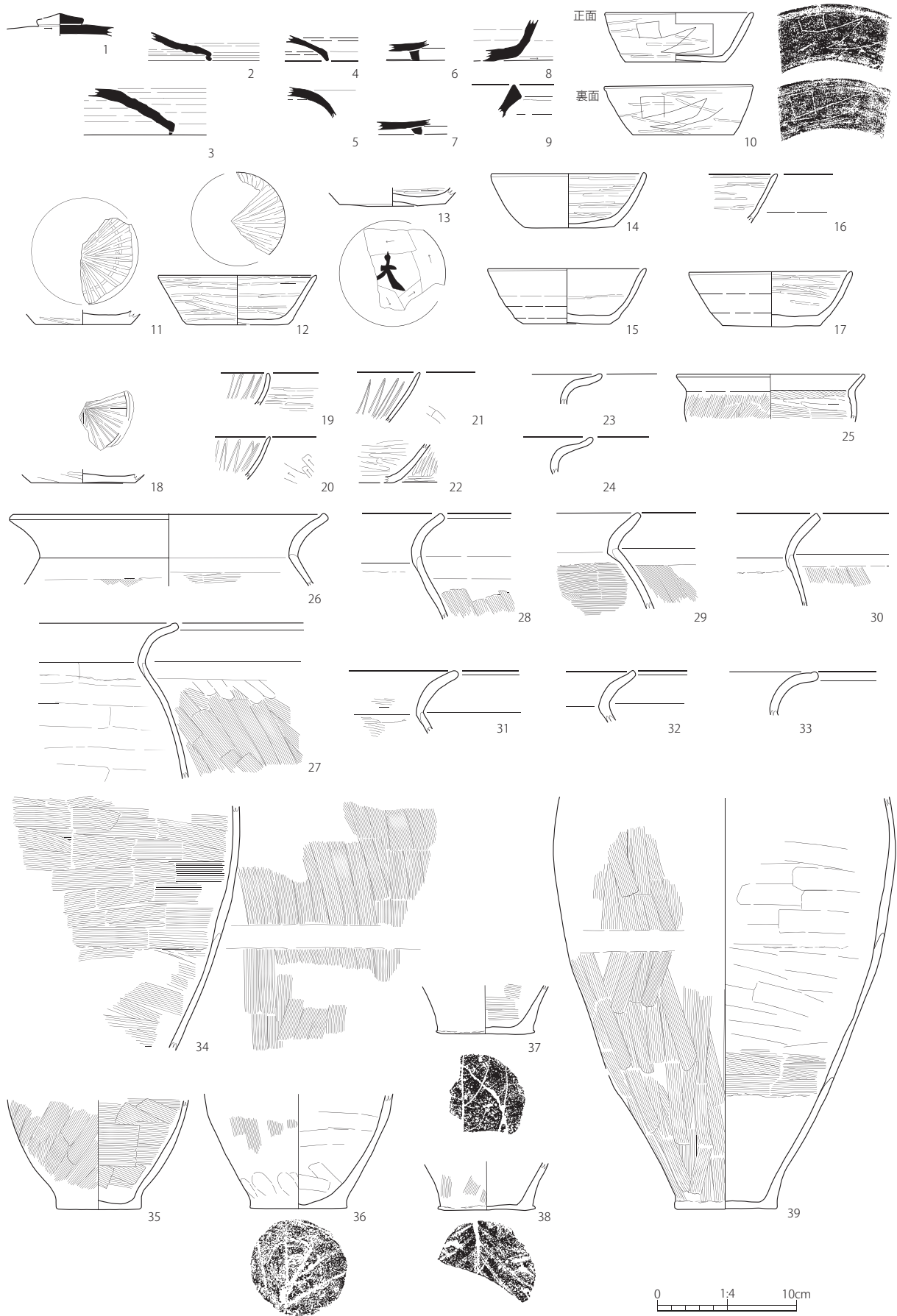
須恵器 9 点と土師器 30 点、金属製品 3 点、石製品 1 点を図示した。1～5 は須恵器の坏蓋で、1 には擬宝珠状の摘みが付されている。2～4 は返りを持たないタイプのもので、5 の蓋は器形がドーム状になっており、径も小さく、一般的な摘蓋とは様相が異なる。6 と 7 は有台坏で、底部が平底に近い形態を示している。8 は箱形坏で、底部がやや丸みを帯びた器形を呈する。9 は壺の口縁部である。



第 10 図 SB4001 カマド周辺 遺物出土状況



第 11 図 SB4001 カマド 平面図・断面図



第12図 SB4001 出土遺物実測図 1

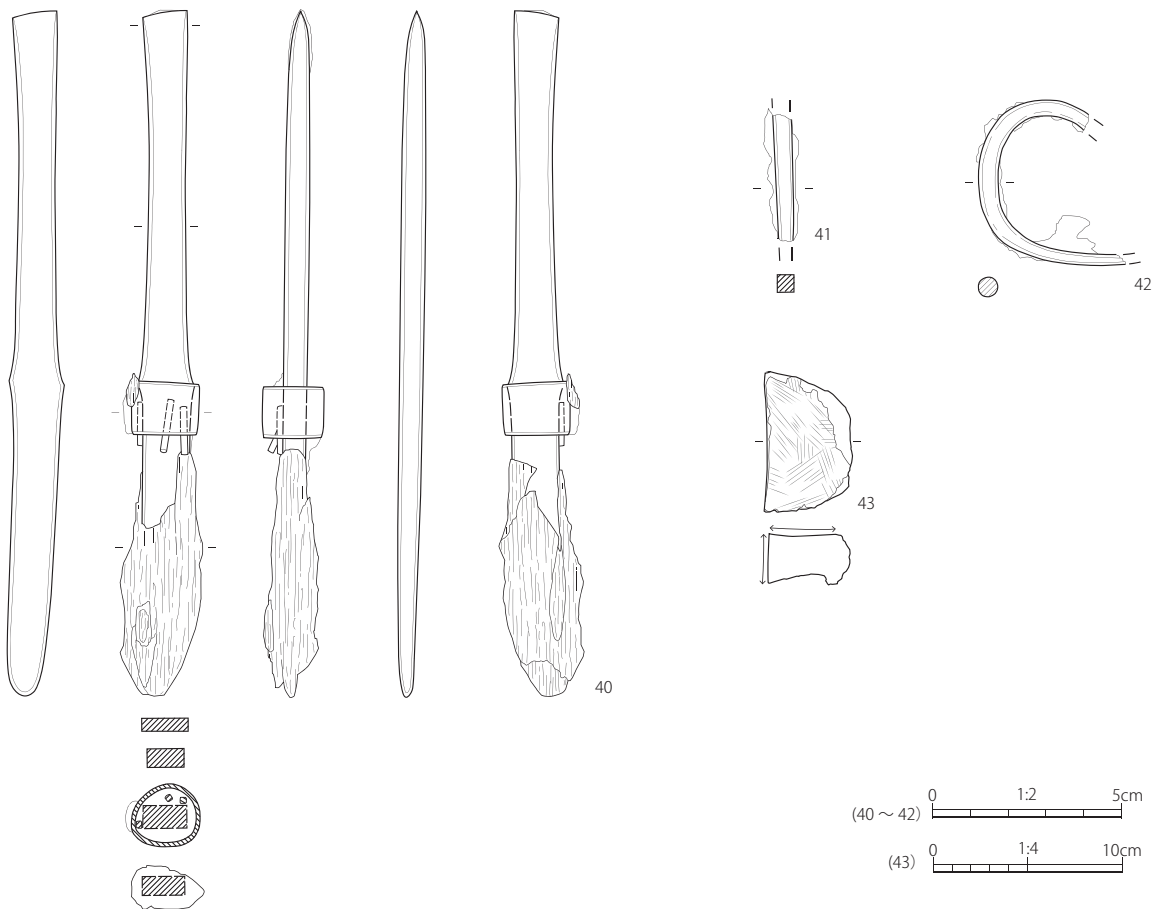
10～17は駿東型坏である。10は体部外面の正面と裏面に同じ線刻があり、「足」と判読できる。13は坏の底部で、中央部はやや上げ底である。へら削りを施した底部外面には、中央部分に「大」の墨書がみられる。18～21は甲斐型坏である。22は坏底部で、甲斐型坏の特徴である底部内面放射状暗文や体部外面下端のへら削りはみられないが、胎土から甲斐型坏と判断した。23～24は遠江系水平口縁長胴甕の口縁部で、端部はやや上向きに立ち上がっている。25は小型甕で、口縁が短く器厚は薄く、肩があまり張らないタイプである。26～39は、駿東型長胴甕である。このうち26～33は口縁部で、緩く外反する口縁を有し、肩があまり張らないものが多いが、29の口縁は明確な「く」の字を呈し、肩が大きく張り出す。33は遠江系の水平口縁長胴甕を模倣した駿東型であると考えられる。34は胴部であり、内面はヨコハケ、外面はタテハケで調整している。輪積み痕にあたる位置には、外面に帯状に横位へら削りを施す。35～39はいずれも底部外面に木葉痕がみられる。

40～43は金属製品である。40は鑿で、持ち手の部分には木質が残存する。刃部は一定の幅と厚みを持って伸び、先端で厚みを減じて鋭く突出し、端部となる。41は鉄鑿の茎部である。42は断面が円形を呈する鉄製品であるが、大きく湾曲し、その用途は不明である。43は砥石で、表面と左側面が砥面となる。

時期 須恵器は土師器と比較してやや古いものとみられるが、9世紀前半に帰属するものと考えられる。



第13図 SB4001 鑿出土状況



第14図 SB4001 出土遺物実測図 2

SB4002

遺構 (第15・16図)

位置 調査区の北寄りに位置する。

重複関係 (古) SB4003 → SB4002

→ SB4006、SB4010 (新)

主軸方位 N - 8.5° - W

残存状況 東半分の上面をSB4010に、南東角をSX4001・SX4003に、南西角をSB4006に切られているが、おおよその規模は推定できる。主軸(南北)幅3.30m、直交(東西)幅3.54m、検出面からの深さ38cmを測り、平面形は方形を呈すると推定される。

覆土 大淵スコリア・橙色粒を含む暗褐色土。

壁溝 幅20cm、深さ4cmで、西壁と東壁の一部に確認される。

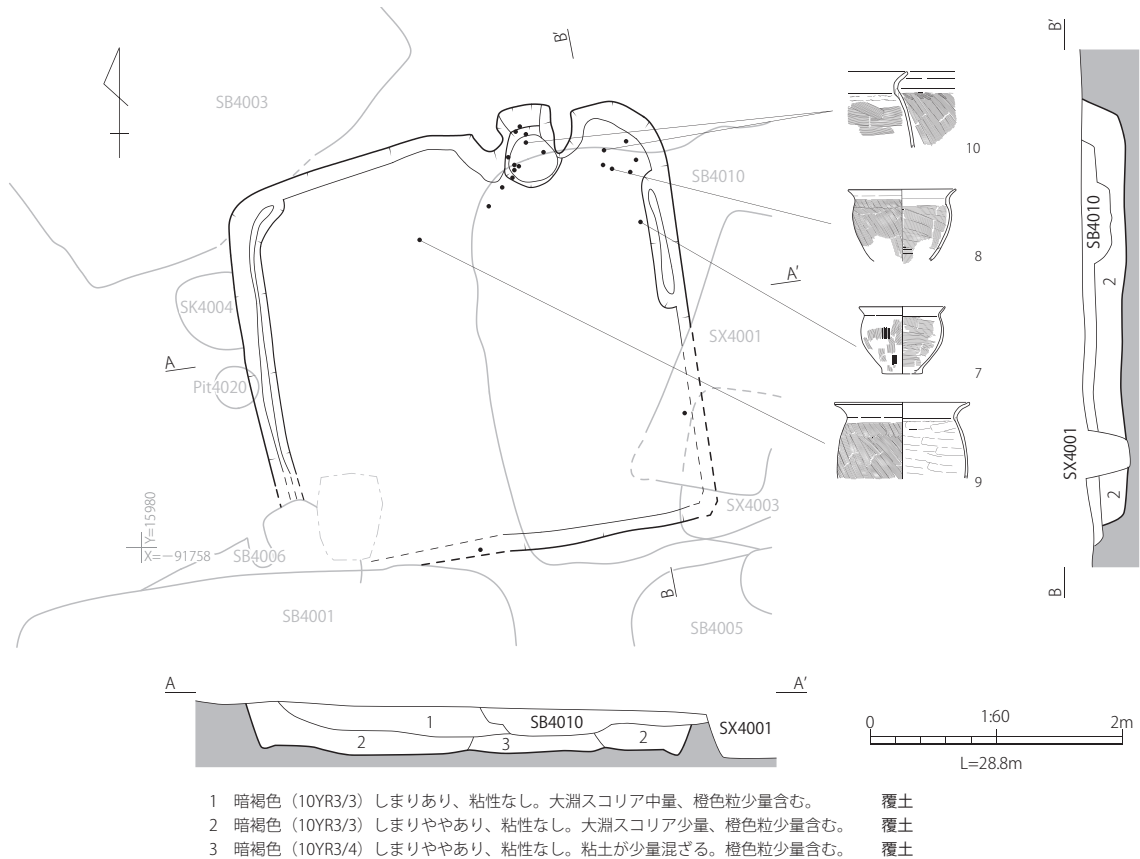
柱穴 確認されない。

床 掘り方を床面としている。

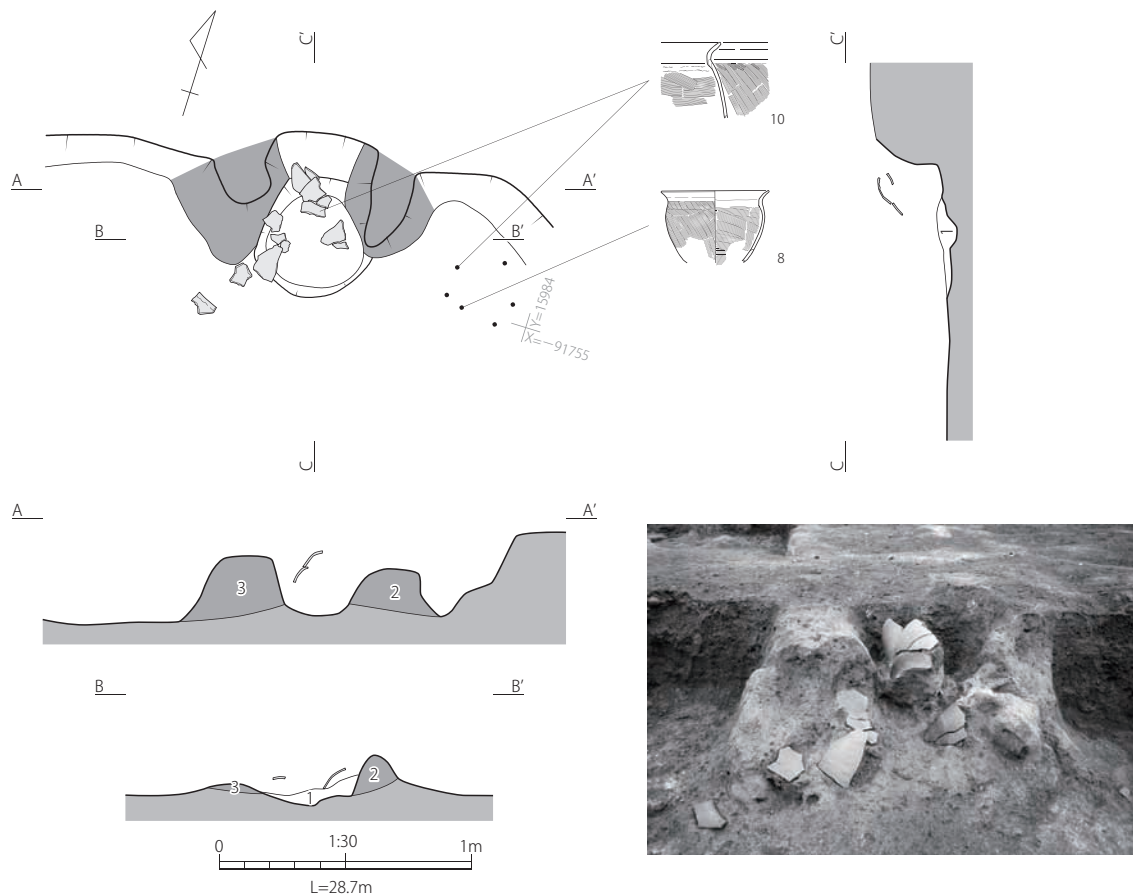
カマド 北壁のやや東寄りに位置する。燃烧室と両袖が残存している。地山を削り出して煙道と燃烧室をつくり、芯材を用いずに粘土で袖をつくっている。全長66cm、幅85cm、燃烧室幅40cmを測る。

出土遺物 (第17図)

須恵器3点、土師器7点、金属製品を1点図示した。1は返りを持たない坏蓋であるが、端部を内側に折るといった意識が窺える。2～3は有台坏の底部であり、2は平底に近いが、3は底面が高台と接地面を同じにする。4は甲斐型坏で、内面に放射状暗文が入る。5は駿東型坏であるが、放射状ヘラミガキが底部内面だけでなく体部内面にまで及んでいる。6～7は小型甕である。6は口縁があまり開かず、ほぼ垂直に立ち上がるのに対し、7は口縁部が屈曲して外反し、肩部とほぼ同じ径になる。8～10は駿東型長胴甕であるが、8は胴部が短く外面のハケメが頸部にまで達している。11は刀子である。時期 須恵器は8世紀前半の様相を示しているものがある一方、土師器は一部に9世紀代が含まれるものの、主体は8世紀後半である。そのため、8世紀後半に帰属すると考えられる。

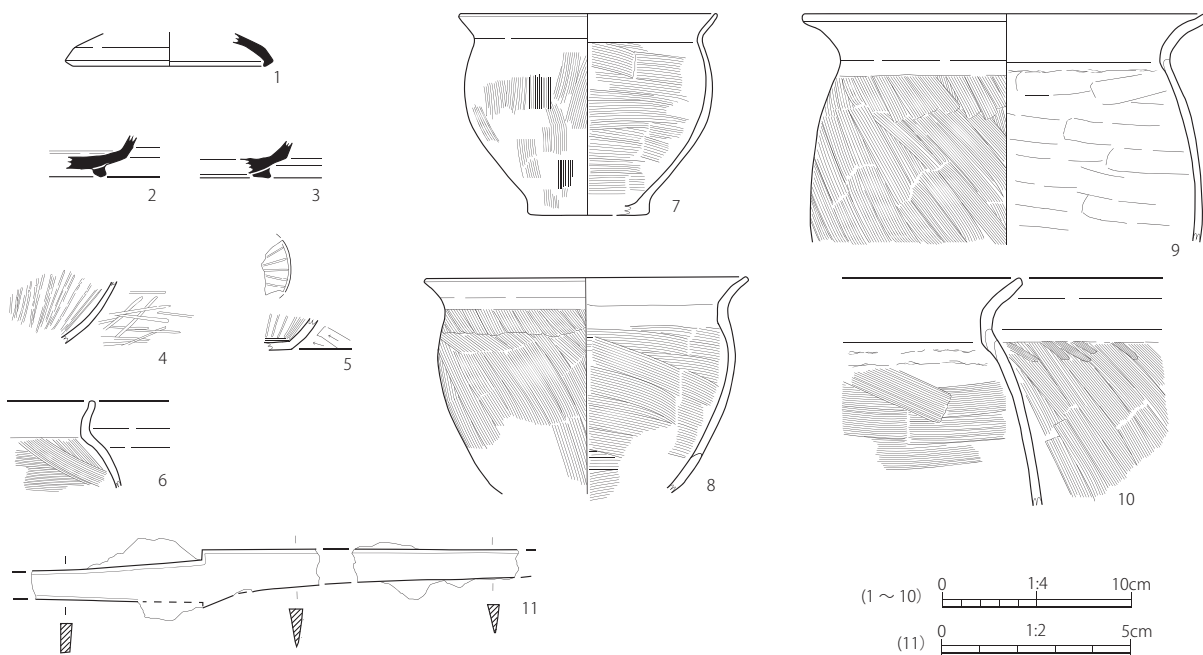


第15図 SB4002 平面図・断面図



- | | | | |
|---|--------------------|-------------------------|-------|
| 1 | にぶい褐色 (7.5YR5/4) | しまりなし、粘性ややあり。焼土粒子中量含む。 | 燃烧室覆土 |
| 2 | にぶい黄褐色粘土 (10YR6/4) | しまりなし、粘性ややあり。比較的混ざりなし。 | 右袖構築土 |
| 3 | 褐色粘土 (10YR4/4) | しまりなし、粘性なし。大淵スコリアを少量含む。 | 左袖構築土 |

第16図 SB4002 カマド 平面図・断面図



第17図 SB4002 出土遺物実測図

SB4003

遺構 (第 18～21 図)

位置 調査区の北寄りに位置する。

重複関係 (古) SB4003 → SB4002 (新)

主軸方位 N - 34.2° - W

残存状況 南壁の中央を SB4002 に切られるが、そのほかはおおむね良好に残存しており、規模等は確認できる。主軸 (南北) 幅 3.15m、直交 (東西) 幅 3.35m、検出面からの深さ 32cm を測り、平面形は方形を呈する。

覆土 大淵スコリアを含む黒色土。

壁溝 幅 24～45cm で、北壁の西半分と西壁、南西角、南東角で確認される。

柱穴 確認されない。

床 掘り方を床面としている。

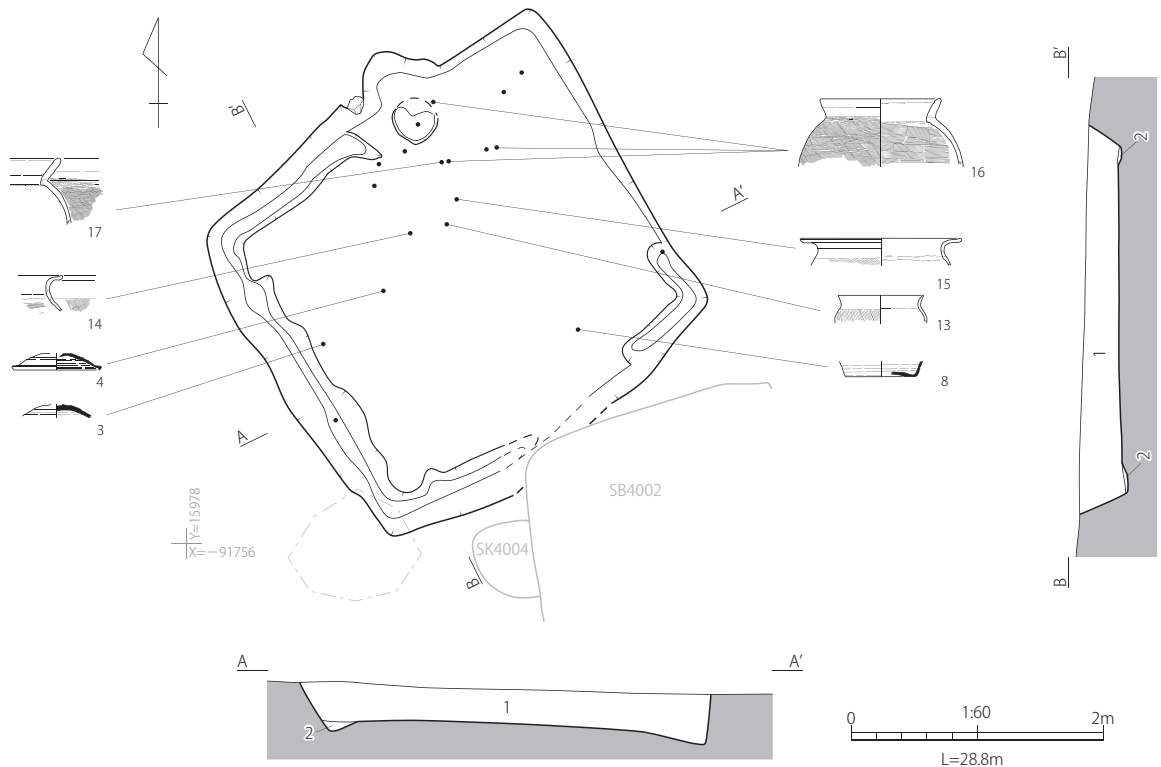
カマド 北壁のやや東寄りに位置するが、大部分が失われており、燃烧室と左袖掘り方埋土のみが残存する。

地山を掘り込み、粘土を用いて作られていたとみられる。検出部分で、全長 78.5cm、幅 81cm、燃烧室幅 33.7cm を測る。

出土遺物 (第 22 図)

須恵器 8 点と土師器 10 点を図示した。1～4 は須恵器の坏蓋である。2 は返りのない蓋で、器高が低く端部は折返して下垂する。5 は箱形坏身、6 は有台坏の底部で、平底を呈するとみられる。7 は碗形坏である。8 は箱形坏で、底部は上げ底になっている。9～11 は内湾坏である。立ち上がりの内湾は顕著ではなく、外面にヘラ削りを施している。12 は甲斐型坏の底部で、放射状の暗文がみえる。13 は小型甕であり、口縁があまり開かない。14～15 は遠江系水平口縁甕の口縁部であり、端部を上へに摘み上げる。16～17 は駿東型球胴甕である。いずれも器壁が厚く、「く」の字口縁を呈している。外面の調整は非常に丁寧で、ナナメハケの後に横位のミガキを加えている。18 は端部が欠損しているが、S 字甕の口縁部である。

時期 遺物の様相から、8 世紀後半と考えられる。

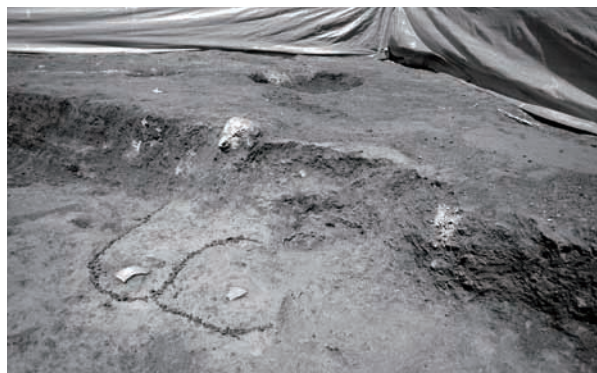


- 1 黒色 (7.5YR2/1) しまり弱、粘性弱。大淵スコリア中量含む。覆土
- 2 黒色 (7.5YR2/1) しまり中、粘性中。大淵スコリア含まず。壁溝覆土

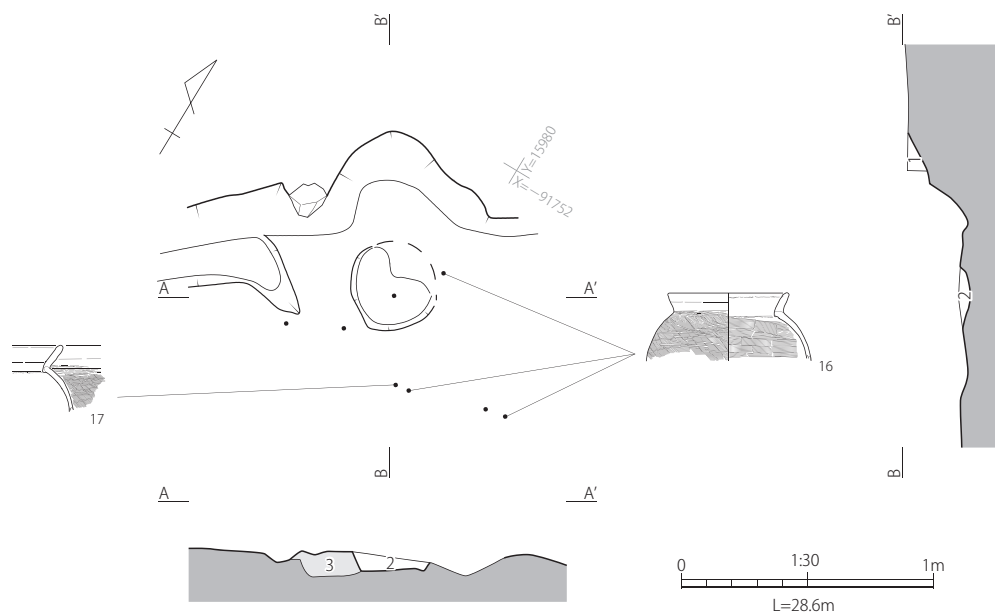
第 18 図 SB4003 平面図・断面図



第19図 SB4003 カマド 粘土検出状況

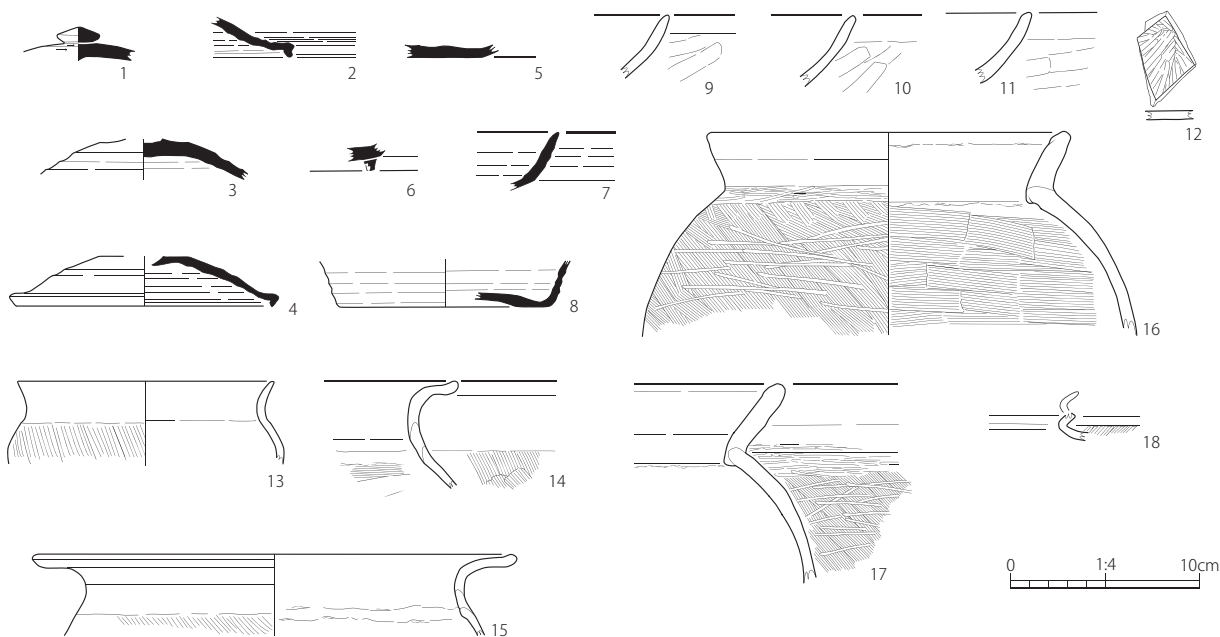


第20図 SB4003 カマド 遺物出土状況



- | | | |
|--------------------|--|---------|
| 1 暗褐色 (7.5YR3/4) | しまりなし、粘性なし。焼土粒子少量含む。 | 煙道覆土 |
| 2 褐色 (7.5YR4/4) | しまりなし、粘性なし。焼土・炭化材を多く含む。 | 燃烧室覆土 |
| 3 にぶい褐色 (7.5YR5/4) | しまり弱、粘性ややあり。粘土に黒色土が少量混ざる。下部は比較的混ざりのない粘土。 | 左袖振り方埋土 |

第21図 SB4003 カマド 平面図・断面図



第22図 SB4003 出土遺物実測図

SB4005

遺構 (第23～27図)

位置 調査区の北寄りに位置する。

重複関係 (古) SB4005 → SK4021、SX4002 (新)

主軸方位 N - 8° - W

残存状況 北壁の一部をSK4021に、北東部分の床面をSX4002に切られるが、そのほかはおおむね良好に残存しており、規模等は確認できる。主軸(南北)幅4.02m、直交(東西)幅4.29m、検出面からの深さ34cmを測り、平面形は方形を呈する。南壁際のやや西側に土師器駿東型球胴甕の破片がまとまって出土した(SB4005-SX01)。また、南壁際のやや東側には、菰編みに用いるおもりと

して使用された可能性のある石がまとまって出土した(SB4005-SX02)。

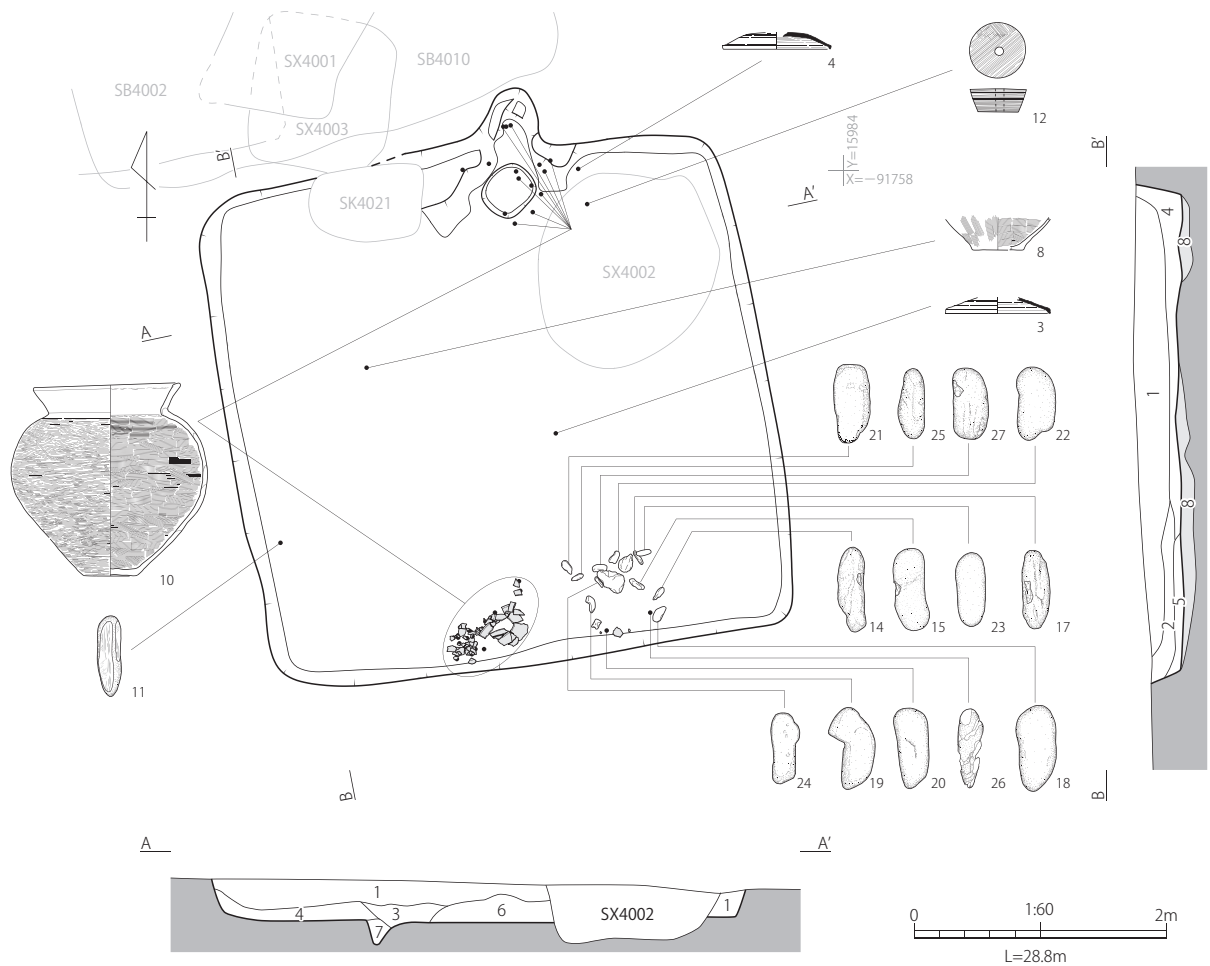
覆土 大淵スコリア・橙色粒を含む黒褐色土・暗褐色土。

壁溝 確認されない。

柱穴 確認されない。

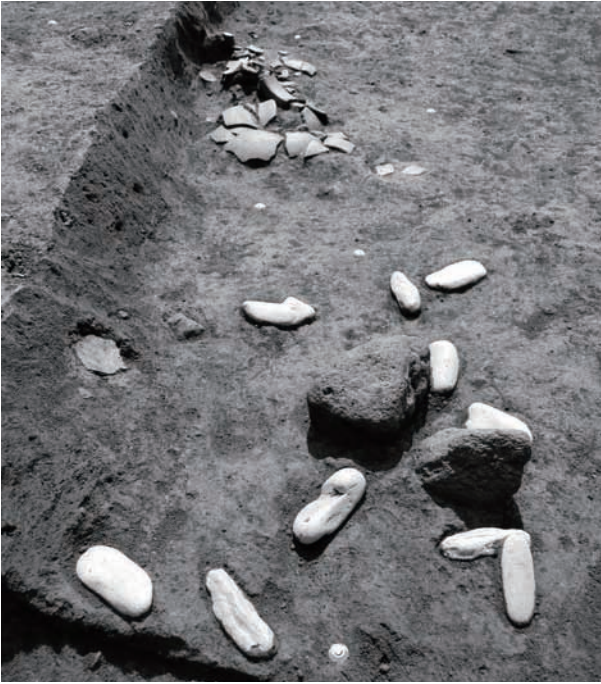
床 10cmほどの厚さの貼り床が、西側で部分的に確認される。

カマド 北壁中央に位置する。SK4021に左袖の一部を切られ、上半部も失われているが、燃烧室と袖の基部は残存している。地山掘り方に黒褐色土を入れ、にぶい黄褐色粘土で袖などをつくっている。検出された部分で、全長104cm、幅114cm、燃烧室幅43cmを測る。



- | | |
|---|-------|
| 1 黒褐色 (10YR2/3) しまりあり、粘性なし。大淵スコリア・橙色粒中量含む。 | 覆土 |
| 2 黒褐色 (10YR2/2) しまりあり、粘性なし。大淵スコリア少量含む。 | 覆土 |
| 3 黒褐色 (10YR2/2) しまりあり、粘性なし。大淵スコリア少量、橙色粒中量含む。 | 覆土 |
| 4 黒褐色 (10YR2/3) しまりあり、粘性なし。大淵スコリア・橙色粒少量含む。下部に焼土が混ざる。 | 覆土 |
| 5 黒褐色 (10YR2/3) しまりあり、粘性なし。大淵スコリア少量含む。 | 覆土 |
| 6 暗褐色 (10YR3/3) しまりあり、粘性なし。大淵スコリア・橙色粒少量含む。粘土がシミ状に混ざる。 | 覆土 |
| 7 黒褐色 (10YR2/3) しまりあり、粘性なし。大淵スコリア微量含む。 | 覆土 |
| 8 暗褐色 (10YR3/3) しまりあり、粘性なし。大淵スコリア少量含む。 | 掘り方埋土 |

第23図 SB4005 平面図・断面図



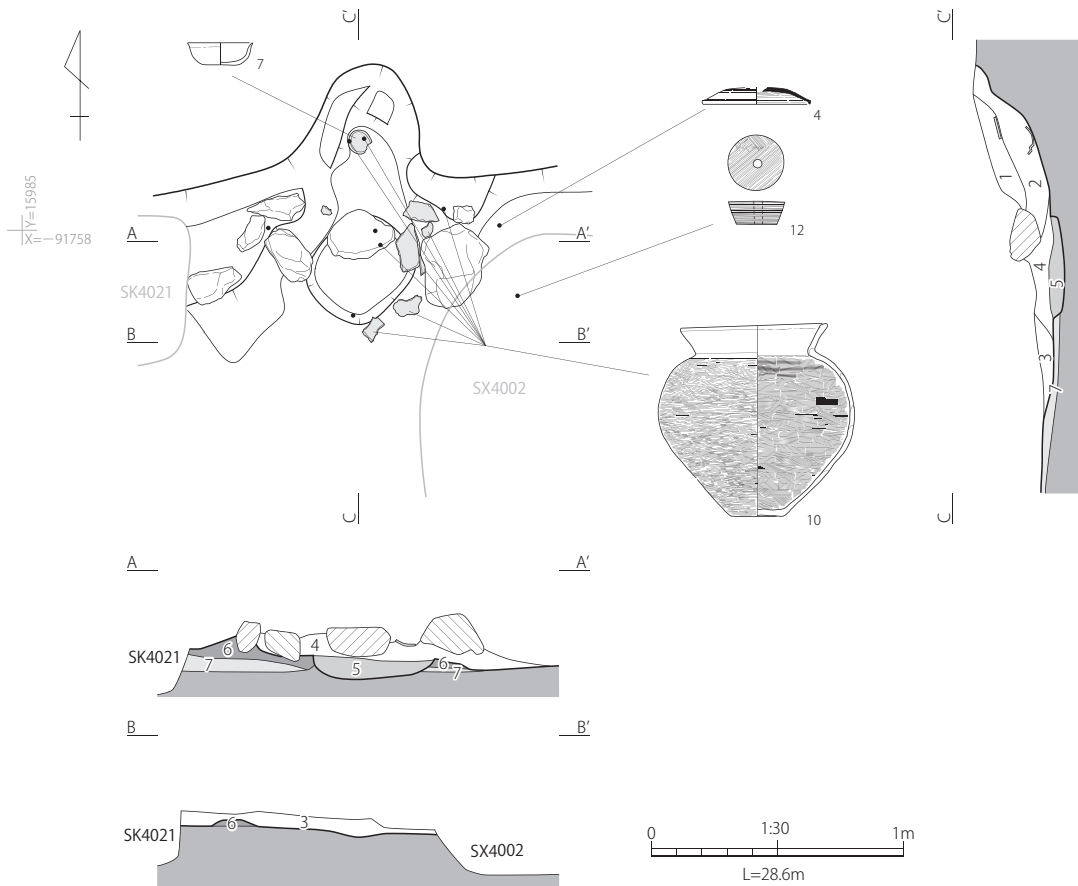
第24図 SB4005 遺物出土状況



第25図 SB4005 カマド 遺物出土状況

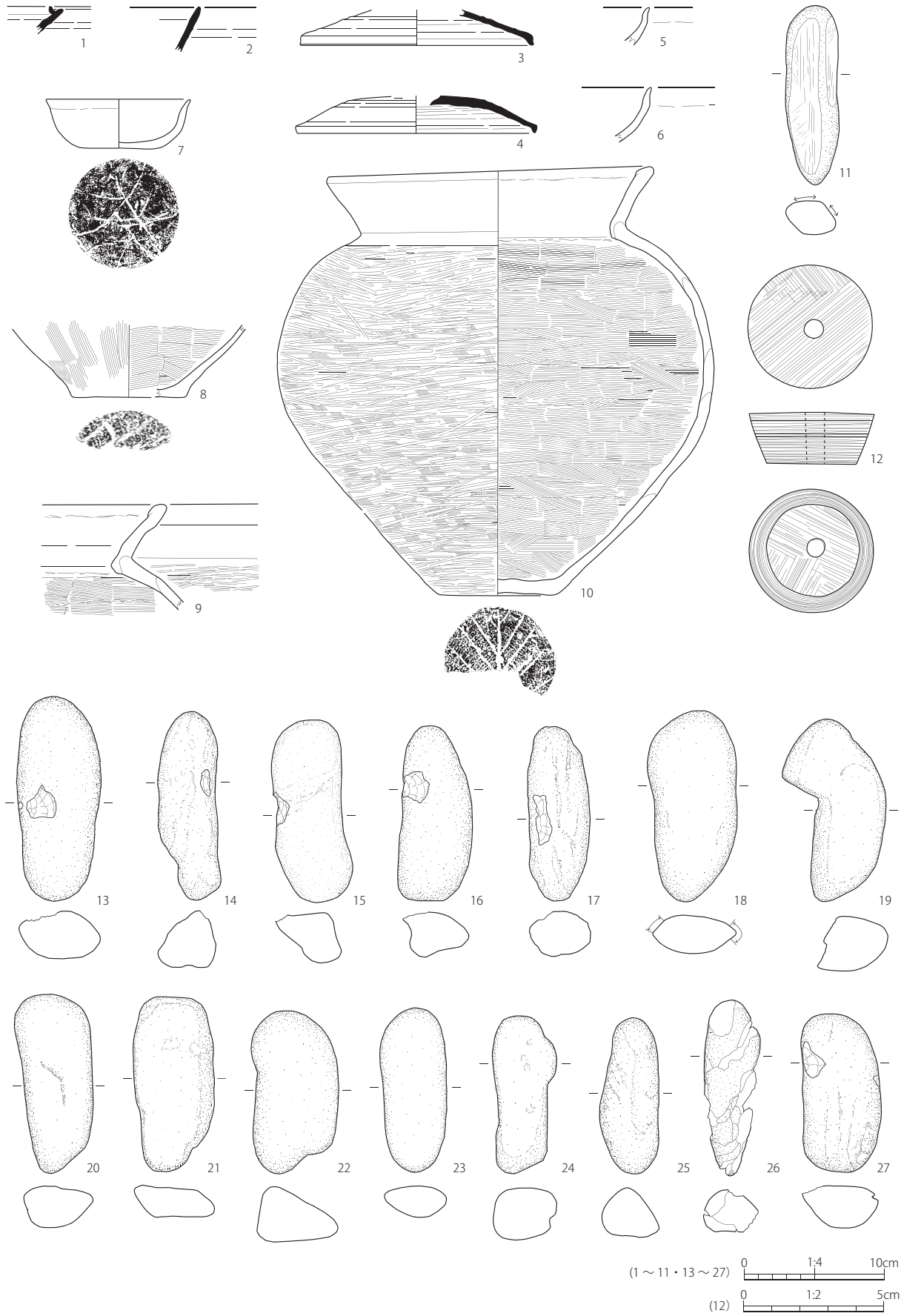


第26図 SB4005 カマド 遺物出土状況



- | | | |
|--------------------|---------------------------------------|-------|
| 1 黒褐色 (7.5YR3/2) | しまりややあり、粘性なし。炭化材少量含む。 | 煙道覆土 |
| 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) | しまりややあり、粘性ややあり。粘土が主体。焼土中量含む。 | 煙道覆土 |
| 3 黒褐色 (7.5YR3/2) | しまりややあり、粘性なし。粘土・焼土・炭化材が部分的にブロック状に混ざる。 | 覆土 |
| 4 にぶい黄褐色 (10YR4/3) | しまりややあり、粘性ややあり。焼土ブロック中量、炭化材少量含む。 | 覆土 |
| 5 にぶい赤褐色 (5YR4/3) | しまりなし、粘性なし。焼土多量、炭化材少量含む。 | 燃焼室覆土 |
| 6 にぶい黄褐色 (10YR6/4) | しまりややあり、粘性ややあり。やや砂質。 | 袖構築土 |
| 7 黒褐色 (7.5YR3/2) | しまりなし、粘性なし。径5～10mm小石含む。 | 掘り方埋土 |

第27図 SB4005 カマド 平面図・断面図

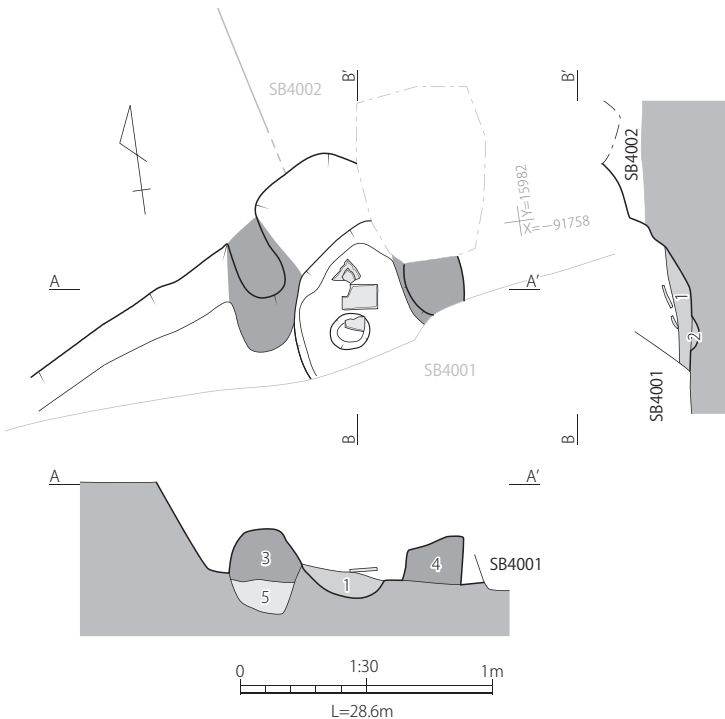


第28図 SB4005 出土遺物実測図

出土遺物（第28図）

須恵器4点、土師器6点、石製品17点を図示した。1は坯身の口縁端部で、返りの付いたやや古い形態のものである。2は有台坯身の口縁部である。3～4はいずれも返りのない摘蓋である。3は天井部がほぼ直線状に傾斜しているのに対し、4はドーム状を呈する。5～7は内湾坯で、口縁端部を細く直立に近い形で外反させている。体部外面下端にへう削りを施しており、7の底部外面には木葉痕が残る。8～10は球胴甕である。10は体部外面全体にまんべんなくミガキが入り、非常に丁寧なつくりである。最大径が胴上部に認められる。11は磨石である。表面には縦方向の摩滅がみられ、特に中央上部に顕著である。右側面にも僅かだがその痕跡を見ることができる。12は紡錘である。表裏面ともに斜めに挿り目が入り、側面もこまめに削って調整している。13～27はいわゆる編み物石で、筵などを編む際に錘として使用したものと考えられる。

時期 1はその形態から7世紀代に属するものであるが、それ以外の遺物はおおむね8世紀前半に位置づけられる。これを本址の帰属時期とする。



- | | | |
|----------|--------------------------------|---------|
| 1 にぶい赤褐色 | しまりなし、粘性ややあり。炭化材・焼土を中量含む。 | 燃焼室覆土 |
| 2 にぶい赤褐色 | しまりあり、粘性ややあり。炭化材・焼土を多量含む。土器含む。 | 燃焼室覆土 |
| 3 にぶい黄褐色 | しまりあり、粘性ややあり。粘土。内側が赤化。 | 左袖構築土 |
| 4 にぶい黄褐色 | しまりあり、粘性ややあり。内側に焼土多量。 | 右袖構築土 |
| 5 暗褐色 | しまりなし、粘性なし。 | 左袖掘り方埋土 |

第29図 SB4006 カマド 平面図・断面図

SB4006

遺構（第29図）

位置 調査区の北寄りに位置する。

重複関係 (古) SB4002 → SB4006 → SB4001 (新)

主軸方位 N - 32° - W

残存状況 SB4001 と攪乱により大部分が失われており、カマドの一部のみが残存している。

覆土 不明。 壁溝 不明。

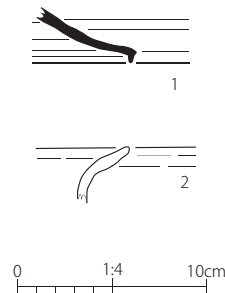
柱穴 不明。 床 不明。

カマド 北壁に位置するとみられる。南半分をSB4001に切られ、右袖の北半分を攪乱に切られており、燃焼室と両袖の一部が残存する。袖に芯材は確認されず、にぶい黄褐色粘土でつくられる。左袖には暗褐色土を入れた掘り方が認められる。残存部分で、全長83cm、幅90cm、燃焼室幅48cmを測る。

出土遺物（第30図）

須恵器1点、土師器1点を図示した。1の坯蓋は返りを持たず、天井部外面には一部自然釉がかかる。2は長胴甕の口縁部で、緩やかに外反して立ち上がる。胎土は良好である。

時期 遺物の特徴から、9世紀前半に位置づけられる。



第30図 SB4006 出土遺物実測図

SB4007

遺構 (第31図)

位置 調査区の北東に位置する。

重複関係 (古) SB4008 → SB4007 (新)

主軸方位 N - 1° - E

残存状況 東側の大半が調査区外にあり、検出されたのは西壁と北壁及び南壁のごく一部である。検出された部分で、南北幅4.75m、東西幅1.59m、検出面からの深さ38cmを測る。平面形はおおむね方形を呈するとみられるが、北壁がやや丸みをもっている。

覆土 大淵スコリアを含む黒色土・黒褐色土。

壁溝 幅33cm、深さ6cmで、南西の一部分に認められる。

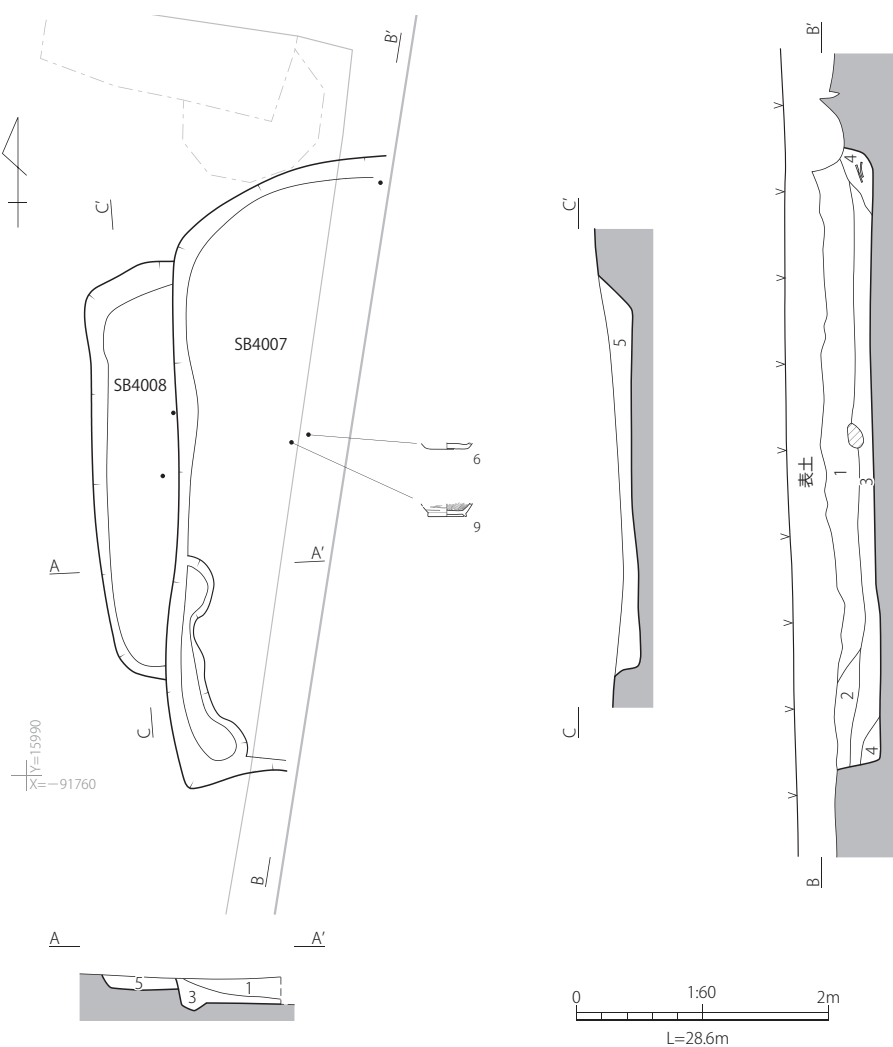
柱穴 確認されない。

床 掘り方を床面としている。

カマド 検出部分には確認されず、調査区外に位置するものとみられる。

出土遺物 (第32図)

須恵器4点、土師器11点、金属製品1点を図示した。1はドーム状を呈する坏蓋で、器高はやや高い。天井部外面に自然釉が付着する。2は坏身である。底部は残存していないが、有台坏であると考えられる。3は甕の口縁部である。4はハソウの注口部で、体部中央を突出させ、直径1cmの孔を穿孔している。5～8は駿東型坏である。5と6は底部で、ともに底部外面は糸切後にヘラ削りで調整されている。7・8は体部内面に横位ヘラ

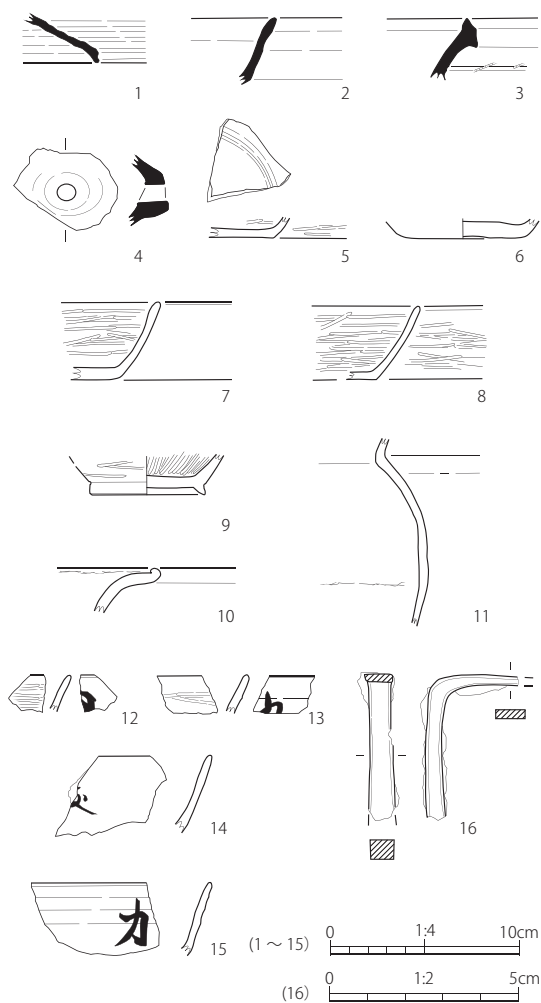


- | | | | | |
|---|-----|------------|--------------------------|-----------|
| 1 | 黒色 | (7.5YR2/1) | しまりなし、粘性なし。大淵スコリア少量含む。 | SB4007 覆土 |
| 2 | 黒褐色 | (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性なし。大淵スコリア少量含む。 | SB4007 覆土 |
| 3 | 黒褐色 | (10YR2/2) | しまりややあり、粘性なし。大淵スコリア微量含む。 | SB4007 覆土 |
| 4 | 黒褐色 | (10YR2/3) | しまりややあり、粘性なし。大淵スコリア微量含む。 | SB4007 覆土 |
| 5 | 黒色 | (7.5YR2/1) | しまりなし、粘性なし。地山ブロック少量含む。 | SB4008 覆土 |

第31図 SB4007・SB4008 平面図・断面図

ミガキが施されるが、底部内面の放射状ヘラミガキはみられない。7は体部外面のミガキも省略されている。いずれも器高が高く、底径が小さい。9は有台坏で体部の内面には縦位のヘラミガキ、外面には横位のヘラミガキが施されている。駿東型と甲斐型の両方の特徴を持っており、高台接地面は三角形で外に開く。10は駿東型長胴甕の口縁部であり、水平口縁甕の口縁端部を上に出させるという特徴を忠実に模倣している。11は小型甕の胴部である。12～15は墨書坏である。いずれも体部内面に横位ヘラミガキがみられる。墨書は明確に判読できるものは15の「力」だけであり、13も同様の文字を呈する可能性がある。16は金属製品であるが、両端が欠損しており、形状や用途は不明である。

時期 ハソウは7世紀前後に帰属するものであるが、土師坏は9世紀代の様相を示している。年代の幅が広いが、主体となる9世紀後半に帰属すると考えられる。



第32図 SB4007 出土遺物実測図

SB4008

遺構 (第31図)

位置 調査区の北東に位置する。

重複関係 (古) SB4008 → SB4007 (新)

主軸方位 N - 3° - W

残存状況 東側をSB4007に切られ、西側の一部分のみ残存する。検出された部分で、南北幅3.30m、東西幅0.66m、検出面からの深さ11cmを測り、平面形は方形を呈すると推定される。

覆土 黒色土。

壁溝 確認されない。

柱穴 確認されない。

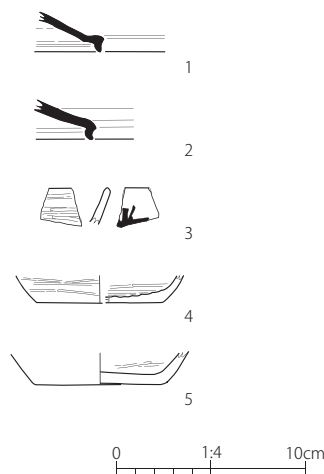
床 掘り方を床面としている。

カマド 検出部分では確認されず、SB4007により失われた部分に位置するとみられる。

出土遺物 (第33図)

須恵器2点と土師器3点を図示した。1と2は坏蓋である。返りはなく、端部を折り返している。2は焼成が不十分なようで、胎土が赤褐色の生焼けの状態である。3は駿東型坏の口縁部で、外面に墨書がみられる。文字の判読は困難である。4と5は駿東型坏の底部で、いずれも体部内面に横位ヘラミガキが施され、底部外面は糸切後ヘラ削りで調整されている。

時期 返りのない須恵器の坏蓋は、8世紀中葉のものと考えられる一方、土師器はいずれも9世紀代の特徴を有しているため、9世紀前半の遺構と考えられる。



第33図 SB4008 出土遺物実測図

SB4009

遺構 (第34～36図)

位置 調査区中央の西寄りに位置する。

重複関係 なし

主軸方位 N - 11.5° - W

残存状況 北壁・西壁・南壁を部分的に攪乱によって切られているが、全体の規模等は確認できる。主軸(南北)幅2.91m、直交(東西)幅3.18m、検出面からの深さ25cmを測り、平面形は方形を呈する。

覆土 黒褐色土。

壁溝 確認されない。

柱穴 確認されない。

床 掘り方を床面としている。

カマド 北壁の東寄りに位置する。左袖は失われているが、右袖と燃烧室が残存する。掘り方に黒褐色土を入れ、にぶい黄褐色粘土で袖をつくっている。芯材は確認されない。残存部分で、全長69cm、幅53cm、燃烧室幅32.5cmを測る。

出土遺物 (第37図)

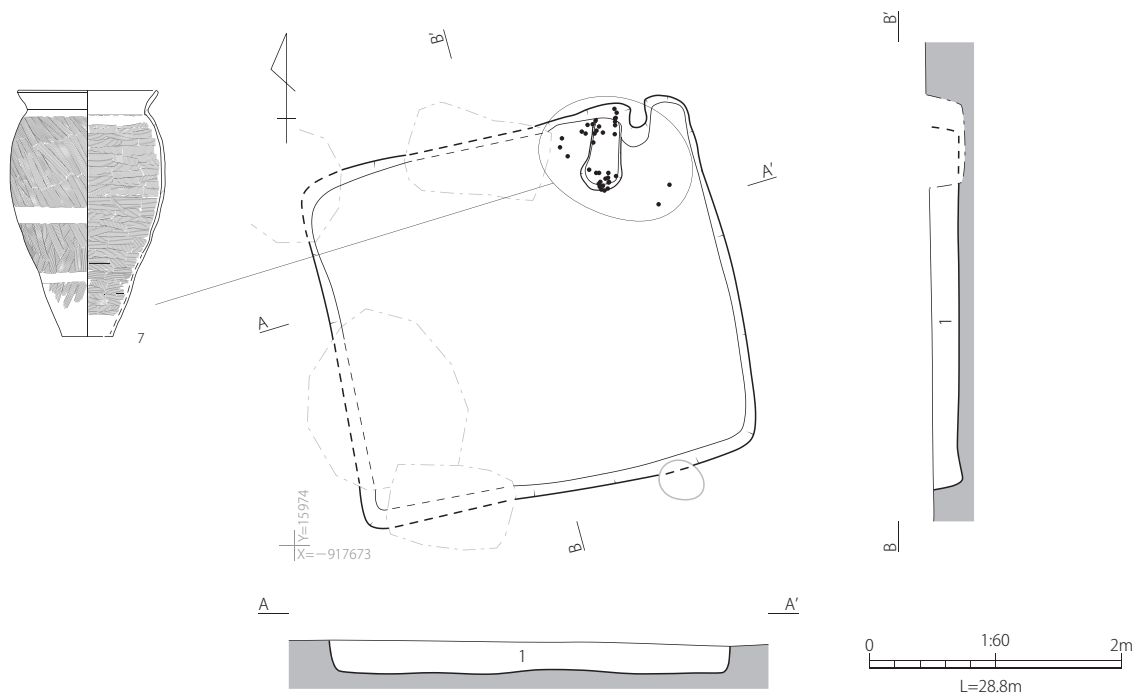
須恵器1点、土師器6点を図示した。1は箱形坏であり、形態からみて8世紀後半に属するものとする。2は駿東型の坏蓋で、須恵器の返りを持たない坏蓋を模倣したものである。3と4は駿東型の坏身で、体部内外面に横位のヘラミガキを施す。4は3に比べて器高は低い。5は坏の底部で、内面には放射状ヘラミガキがみられる。6は甲斐型坏で、内面は放射状の暗文に加え、底部内面の外周にヘラミガキが一条巡らされている。7は駿東型甕であり、内外面にハケメが緻密に施される。胴中央と胴下部には、帯状にヘラ削りがみられる。

に横位のヘラミガキを施す。4は3に比べて器高は低い。5は坏の底部で、内面には放射状ヘラミガキがみられる。底部外面は回転糸切の後、外周をヘラ削りで調整している。6は甲斐型坏で、内面は放射状の暗文に加え、底部内面の外周にヘラミガキが一条巡らされている。7は駿東型甕であり、内外面にハケメが緻密に施される。胴中央と胴下部には、帯状にヘラ削りがみられる。

時期 駿東型坏の内面に放射状のミガキが入るのは、8世紀後半から末頃の特徴である。須恵器の箱形坏も同時期の所産であり、本址の時期は8世紀後半と考えられる。

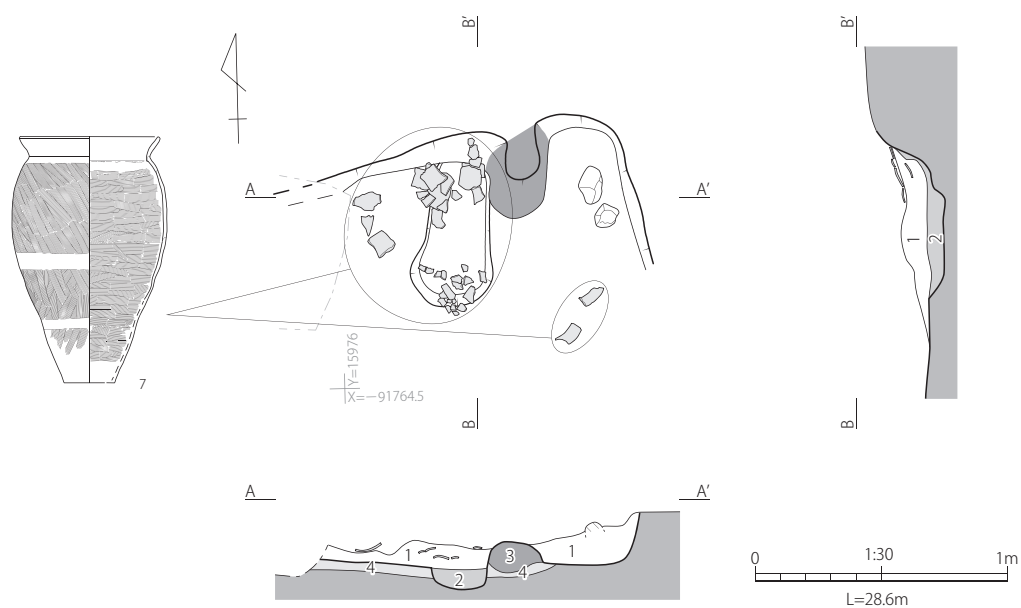


第34図 SB4009カマド 遺物出土状況



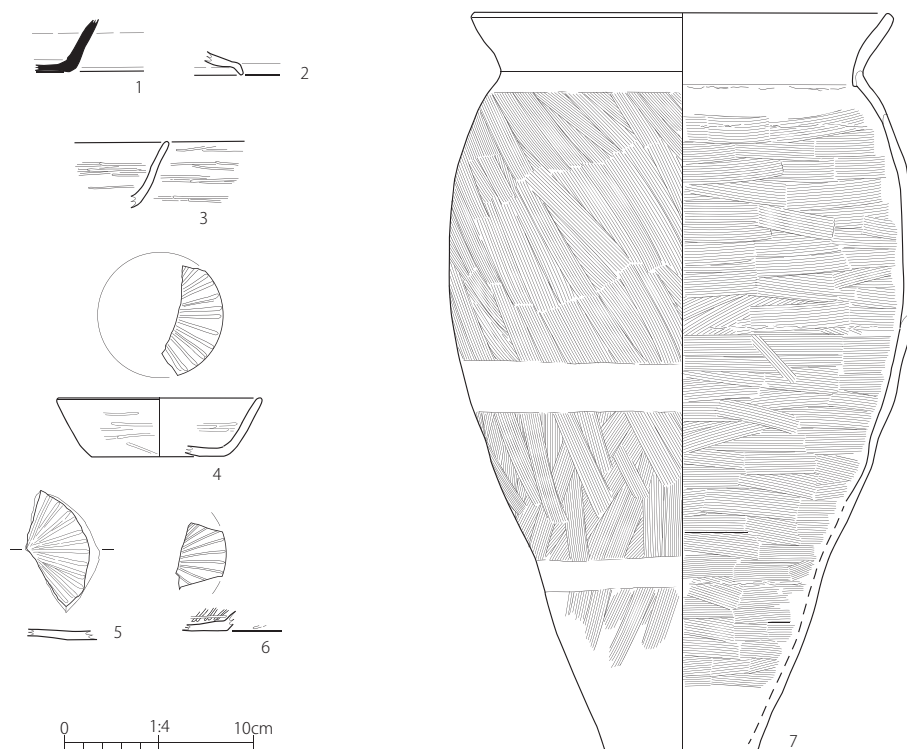
1 黒褐色(7.5YR3/1) しまりなし、粘性なし。径5～10mm小石を多く含む。覆土

第35図 SB4009 平面図・断面図



- | | | | | |
|---|--------|-----------|---------------------------------|----------|
| 1 | 暗褐色 | (10YR3/3) | しまりややあり、粘性ややあり。粘土ブロック・焼土粒子中量含む。 | カマド覆土 |
| 2 | 黒褐色 | (10YR3/1) | しまりなし、粘性なし。焼土多量含む。 | 燃烧室覆土 |
| 3 | にぶい黄褐色 | (10YR5/4) | しまりあり、粘性あり。粘土。内側が被熱。 | 右袖構築土 |
| 4 | 黒褐色 | (10YR2/2) | しまりなし、粘性なし。 | カマド掘り方埋土 |

第36図 SB4009 カマド 平面図・断面図



第37図 SB4009 出土遺物実測図

SB4010

遺構 (第39図)

位置 調査区の北寄りに位置する。

重複関係 (古) SB4002 → SB4010 (新)

主軸方位 N - 10° - W

残存状況 上面を削平されているが、平面的には良好に残存している。主軸 (南北) 幅 3.30m、直交 (東西) 幅 3.84m、検出面からの深さ 10cm を測り、平面形は方形を呈する。

覆土 大淵スコリア・橙色粒を含む黒褐色土。

壁溝 幅 18cm、深さ 5cm で、北壁の東半分から東壁に認められる。

柱穴 確認されない。

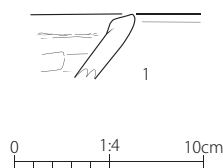
床 北西寄りの一部分に厚さ 9cm の掘り方埋土が認められる。

カマド 確認されない。

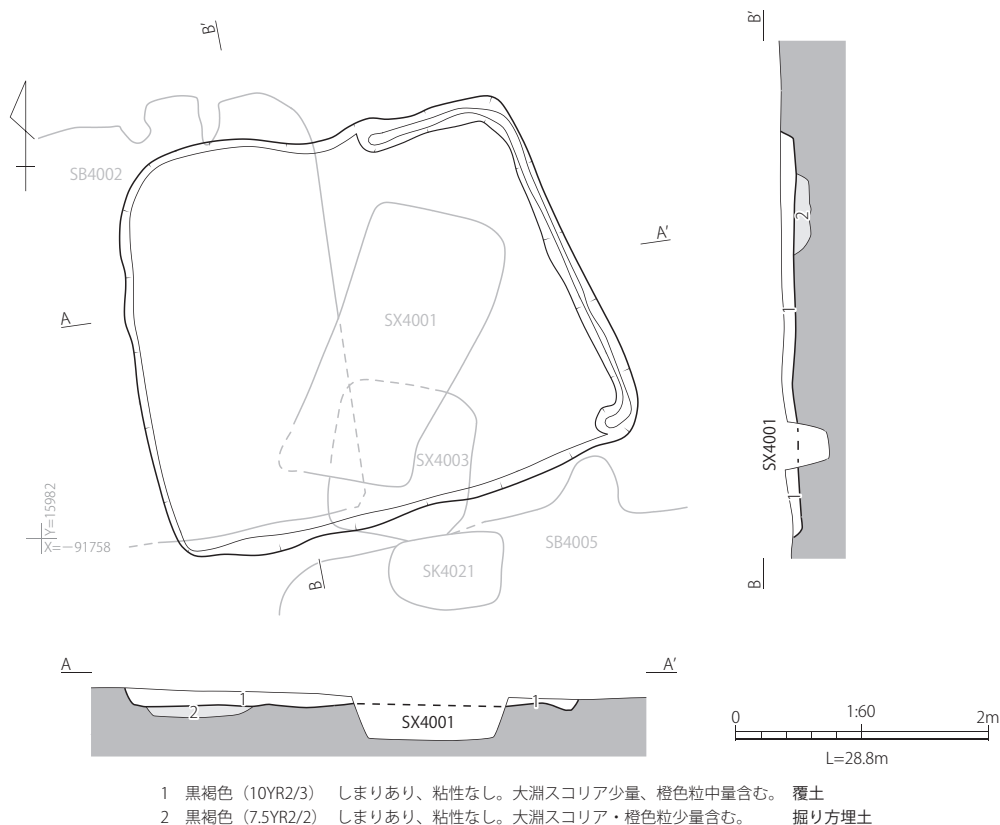
出土遺物 (第38図)

土師器を1点図示した。球胴甕の口縁部であり、器壁が肥厚している。

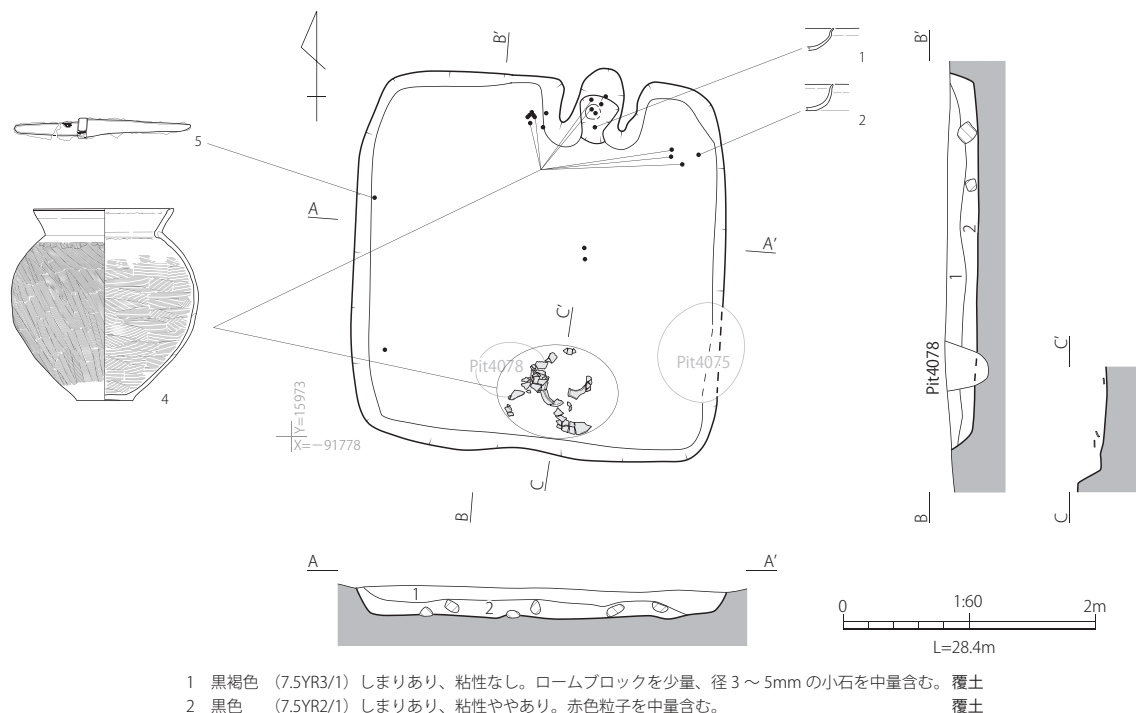
時期 遺物は8世紀中葉から後半の様相を呈している。遺構の切り合い等も鑑みると、時期は8世紀後半と考えられる。



第38図 SB4010 出土遺物実測図

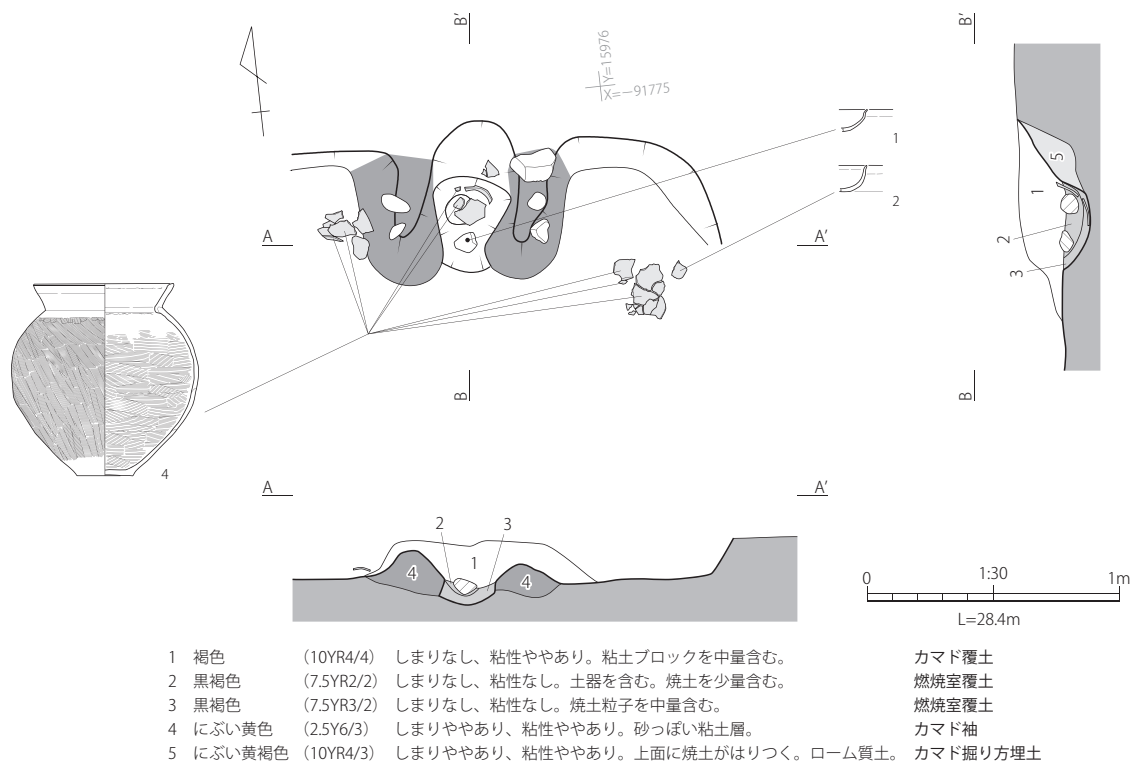


第39図 SB4010 平面図・断面図



- 1 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりあり、粘性なし。ロームブロックを少量、径3～5mmの小石を中量含む。覆土
- 2 黒色 (7.5YR2/1) しまりあり、粘性ややあり。赤色粒子を中量含む。覆土

第40図 SB4011 平面図・断面図



- 1 褐色 (10YR4/4) しまりなし、粘性ややあり。粘土ブロックを中量含む。カマド覆土
- 2 黒褐色 (7.5YR2/2) しまりなし、粘性なし。土器を含む。焼土を少量含む。燃焼室覆土
- 3 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりなし、粘性なし。焼土粒子を中量含む。燃焼室覆土
- 4 にぶい黄色 (2.5Y6/3) しまりややあり、粘性ややあり。砂っぽい粘土層。カマド袖
- 5 にぶい黄褐色 (10YR4/3) しまりややあり、粘性ややあり。上面に焼土がはりつく。ローム質土。カマド掘り方埋土

第41図 SB4011 カマド 平面図・断面図

SB4011

遺構 (第40～42図)

位置 調査区の南西寄りに位置する。

重複関係 (古) SB4011 → Pit4075、Pit4078 (新)

主軸方位 N - 3° - E

残存状況 東壁の一部を Pit4075 に、床面の一部を Pit4078 に切られるが、他は良好に残存している。主軸(南北)幅 3.00m、直交(東西)幅 2.94m、検出面からの深さ 24cm を測り、平面形は方形を呈する。

覆土 黒褐色土・黒色土。

壁溝 確認されない。

柱穴 確認されない。

床 掘り方を床面としている。

カマド 北壁のやや東寄りに位置する。燃烧室、両袖、煙道が良好に残存しており、地山を掘り込んでローム質土・粘土で構築している。全長 59cm、幅 81cm、燃烧室幅 30cm を測る。

出土遺物 (第43図)

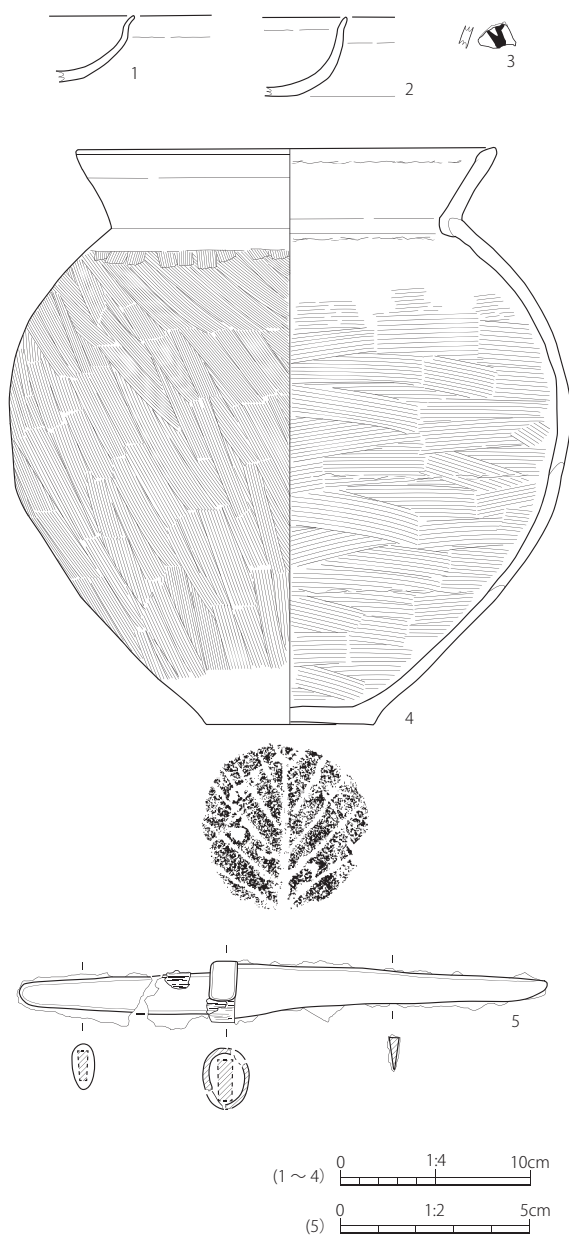
土師器 4点と金属製品 1点を図示した。1と2は内湾坏である。1は体部が角度を持って立ち上がり、明確な稜線を持って屈曲する。器壁が薄く、口縁端部が外反する。2は体部が丸みを帯び、口縁端部の屈曲が緩く、器壁がやや厚い。3は駿東型坏であるが、外面に墨書が書かれている。細片であるため、文字は判読不能である。



第42図 SB4011 カマド周辺 遺物出土状況

4は駿東型球胴甕で、最大径は胴部中央にとる。内外面はハケメ調整されているが、ミガキ痕はみられない。外面の胴下部にはススが帯状に付着している。底部外面には木葉痕が残る。5は刀子で、持ち手の先端に木質が残る。刃部は錆びで覆われているものの、片刃で鋭利に尖る様子が断面で確認できる。

時期 内湾坏は8世紀に属するものの、前代の様相も残しており、やや古い印象を受ける。球胴甕はミガキが入らないものの、8世紀前半の器形を呈するため、これを本址の時期とする。



第43図 SB4011 出土遺物実測図

SB4012

遺構 (第 44・45 図)

位置 調査区の南西寄りに位置する。

重複関係 なし

主軸方位 N - 6.5° - W

残存状況 北壁につくられたカマドの東半分を含む北東角、南西角、南壁の中央などを攪乱に切られているが、全体の規模等は確認できる。主軸 (南北) 幅 2.89m、直交 (東西) 幅 2.91m、検出面からの深さ 32cm を測り、平面形は方形を呈する。

覆土 黒褐色土。

壁溝 確認されない。

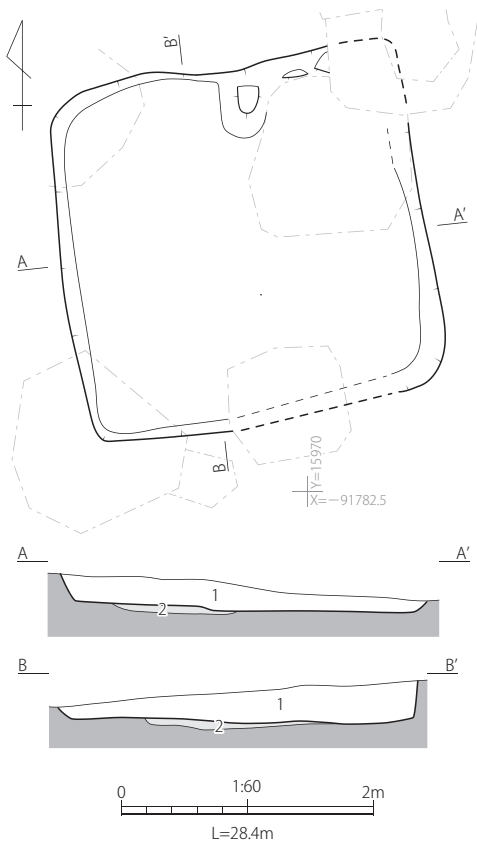
柱穴 確認されない。

床 中央付近に厚さ 7cm ほどの貼り床が確認される。

カマド 北壁のやや東寄りに位置する。燃焼室と右袖を攪乱によって失っており、左袖と煙道のみが残存する。地山を掘り込み、黒色土と粘土で袖を構築している。残存部で全長 60cm、幅 87cm、燃焼室幅 35cm を測る。

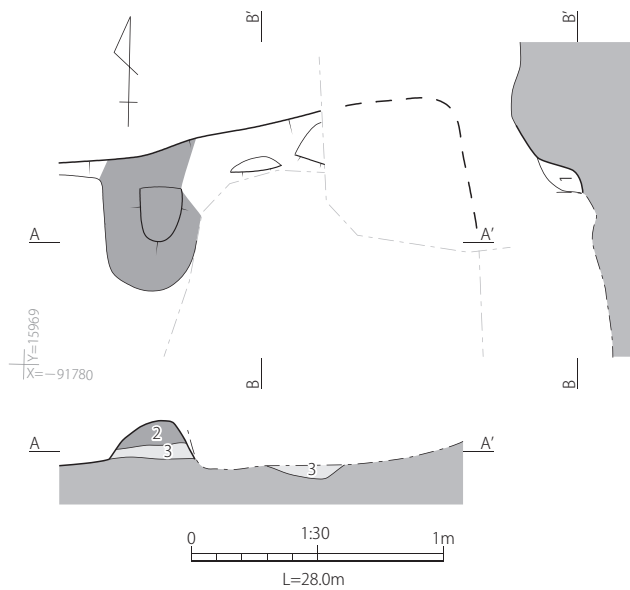
出土遺物 (第 46 図)

灰釉陶器、須恵器、土師器を各 1 点ずつ図示した。1 は灰釉陶器の壺の口縁部である。2 は須恵器の有台坏で、平底に近く、高台は断面四角形を呈する。3 は駿東型球胴甕で、内面はヨコハケ、外面はタテハケののち横位のミガキを入れている。底部の外面には木葉痕が残る。時期 灰釉陶器は混入と考えられ、他の遺物より 8 世紀前半と考えられる。



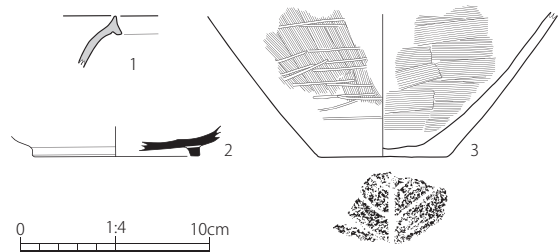
- 1 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりなし、粘性なし。
径 5mm の小石を多く含む。覆土
- 2 極暗褐色 (7.5YR2/3) しまりあり、粘性なし。
径 5mm の小石を多く含む。掘り方埋土

第 44 図 SB4012 平面図・断面図



- 1 暗褐色 (7.5YR3/4) しまりなし、粘性ややあり。
焼土粒子を中量含む。煙道覆土
- 2 黄褐色 (2.5Y5/4) しまりややあり、粘性ややあり。
粘土。黒色土が若干混ざる。左袖構築土
- 3 黒色 (7.5YR2/1) しまりなし、粘性なし。
径 3 ~ 5mm の小石を多く含む。掘り方埋土

第 45 図 SB4012 カマド 平面図・断面図



第 46 図 SB4012 出土遺物実測図

SB4013

遺構 (第 47 図)

位置 調査区の南西に位置する。

重複関係 (古) SB4013 → SB4014 (新)

主軸方位 不明。

残存状況 東側を SB4014 に切られ、西側と南側は調査区外にあるため、北壁の一部だけが確認される。検出された部分で、南北幅 2.85m、東西幅 1.14m、検出面からの深さ 54cm を測る。平面形は不明だが、確認される北壁は直線的である。

覆土 黒褐色土。

壁溝 確認されない。

柱穴 確認されない。

床 検出部分は掘り方を床面としている。

カマド 確認されない。

出土遺物 (第 49 図)

須恵器 2 点を図示した。いずれも有台坯の底部であり、高台と本体底面が同一接地面となる。底部外面は回転ヘラケズリである。

時期 遺物の特徴から、8 世紀前半と考えられる。

SB4015

遺構 (第 47・48 図)

位置 調査区の南西に位置する。

重複関係 (古) SB4015 → SB4014 (新)

主軸方位 N - 76.5° - E

残存状況 西側の大部分を SB4014 に切られており、カマドが位置する東壁のみ確認できる。検出部分で、主軸 (東西) 幅 0.60m、直交 (南北) 幅 2.55m、検出面からの深さ 30cm を測る。平面形は方形を呈すると推定できる。

覆土 赤色粒子を含む黒褐色土。

壁溝 確認されない。 柱穴 確認されない。

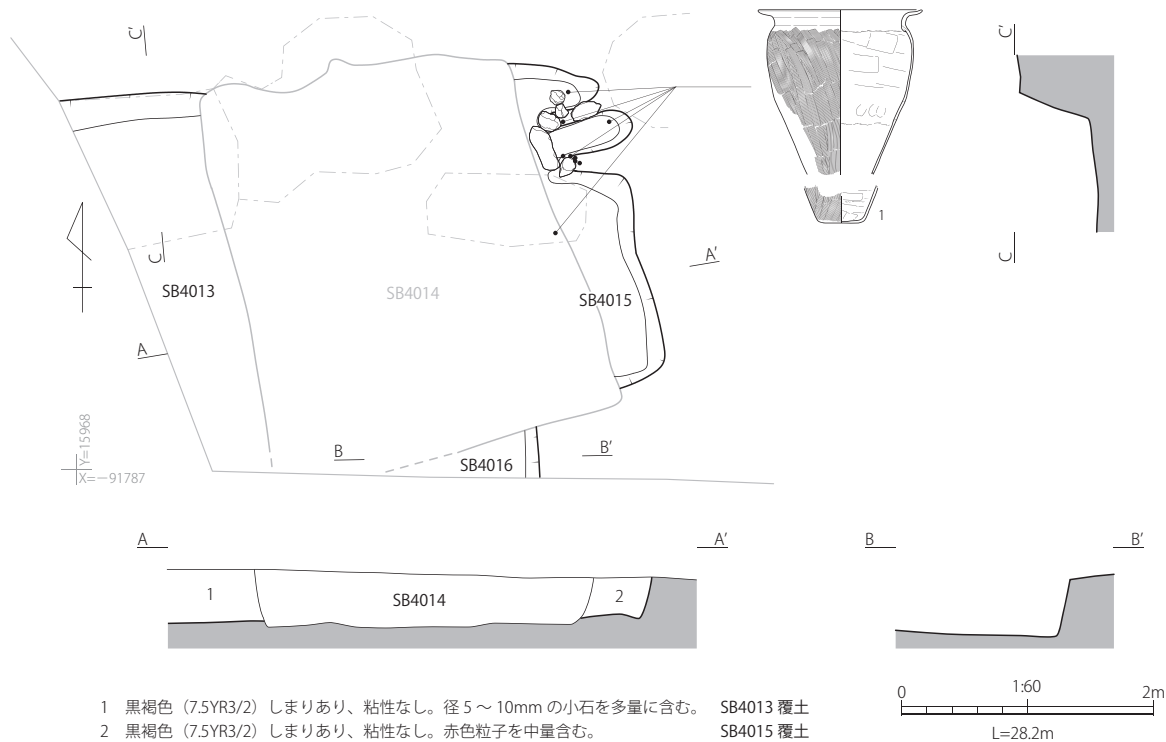
床 確認される部分は掘り方を床面としている。

カマド 東壁の北寄りに位置し、袖や燃烧室、焚き口の石など全体的に良好に残存している。暗褐色土で袖の土台や燃烧室、煙道をつくり、袖の芯や焚き口に石を据えて、にぶい黄褐色粘土で袖を構築している。全長 78cm、幅 67cm、燃烧室幅 20cm を測る。

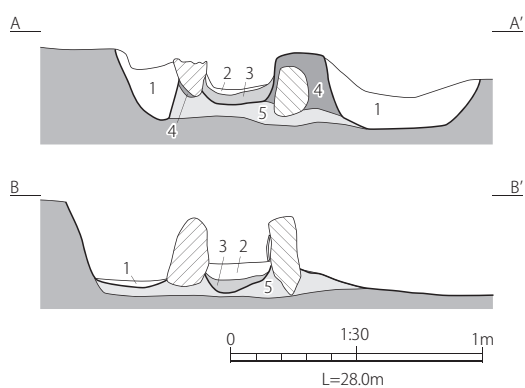
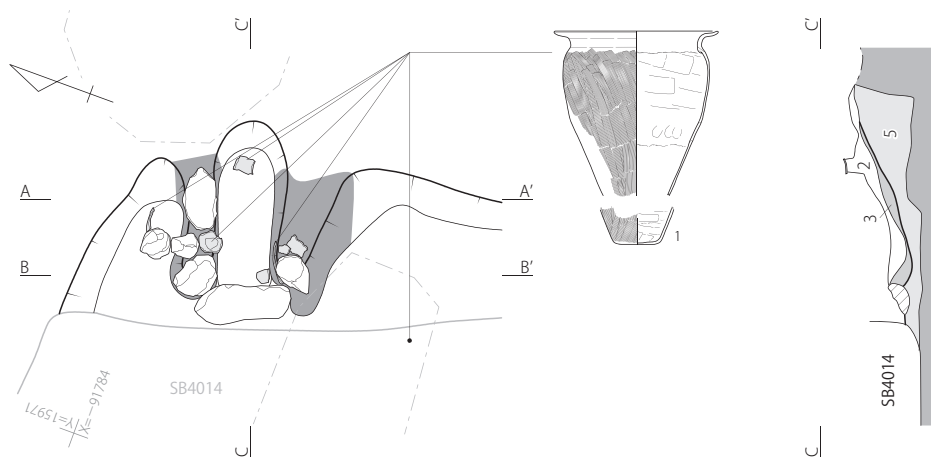
出土遺物 (第 51 図)

1 点の遠江系の水平口縁甕を図示した。口縁部はやや厚みがあり、コの字形を呈している。肩が僅かに張り、底部に向かって急激に径を減じていく。

時期 口縁部の形状からみて、8 世紀後半と考えられる。

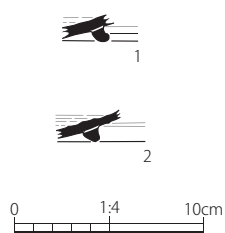


第 47 図 SB4013・SB4015・SB4016 平面図・断面図

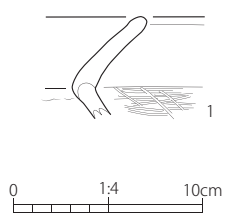


- | | | |
|--------------------|---------------------------------------|--------------------|
| 1 黒色 (7.5YR2/1) | しまりあり、粘性なし。径 0.5 ~ 3.0mm の赤色粒子を多量に含む。 | 建物覆土 |
| 2 黒褐色 (7.5YR3/1) | しまりなし、粘性なし。焼土を中量含む。 | カマド覆土 |
| 3 黒褐色 (7.5YR2/2) | しまりなし、粘性あり。焼土を極多量に含む。 | 燃焼室覆土 |
| 4 にぶい黄褐色 (10YR5/4) | しまりなし、粘性あり。粘土。 | カマド袖構築土 |
| 5 暗褐色 (10YR3/3) | しまりなし、粘性あり。径 1 ~ 3mm の小石を含む。 | カマド掘り方埋土兼カマドの土台構成土 |

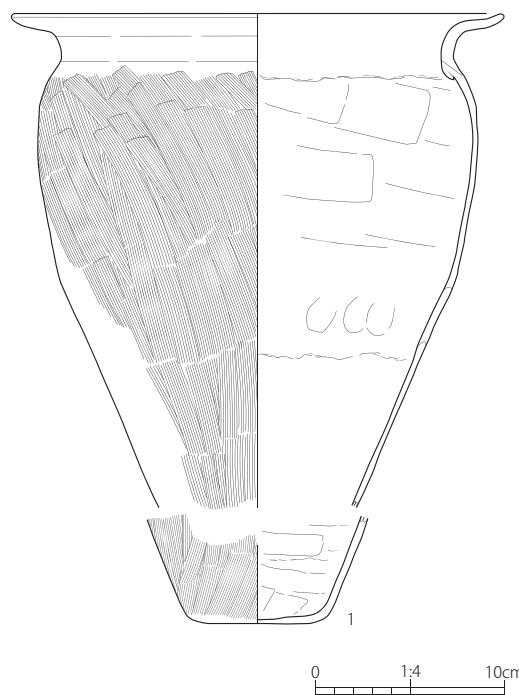
第 48 図 SB4015 カマド 平面図・断面図



第 49 図 SB4013 出土遺物実測図



第 50 図 SB4016 出土遺物実測図



第 51 図 SB4015 出土遺物実測図

SB4016

遺構 (第 47 図)

位置 調査区の南西に位置する。

重複関係 (古) SB4016 → SB4014 (新)

主軸方位 不明。

残存状況 北側を SB4014 に切られ、南側と西側は調査区外にあるため、東壁の一部だけが確認される。

覆土 不明。

壁溝 確認されない。

柱穴 確認されない。

床 検出部分は掘り方を床面としている。

カマド 検出部分では確認されない。

出土遺物 (第 50 図)

土師器 1 点を図示した。駿東型球胴甕の口縁部である。器壁はやや薄く、「く」の字を呈している。

時期 口縁部の器形や遺構の切り合いから 8 世紀前半に位置づけられる。

SB4014

遺構 (第 52・53・54 図)

位置 調査区の南西に位置する。

重複関係 (古) SB4013・SB4015 → SB4014 (新)

主軸方位 N - 13.5° - W

残存状況 南西角が調査区外に位置するが、全体の規模等は確認できる。主軸 (南北) 幅 3.03m、直交 (東西) 幅 2.76m、検出面からの深さ 36cm を測り、平面形は方形を呈する。

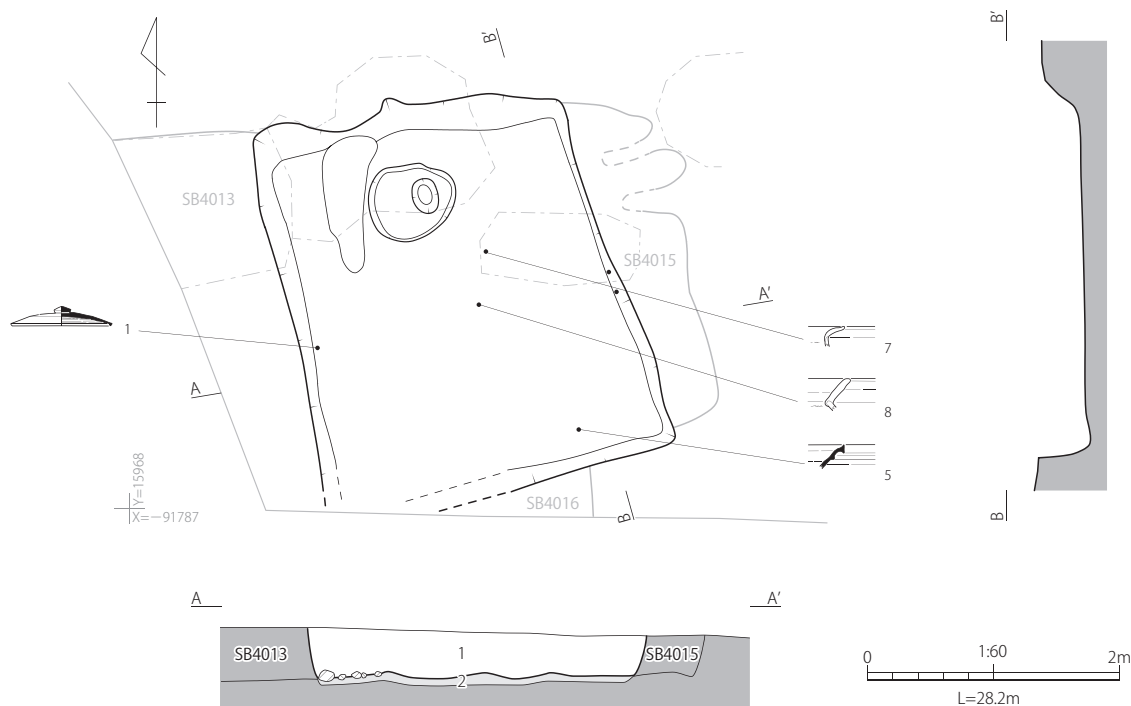
覆土 赤色粒子を含む黒褐色土。

壁溝 確認されない。

柱穴 確認されない。

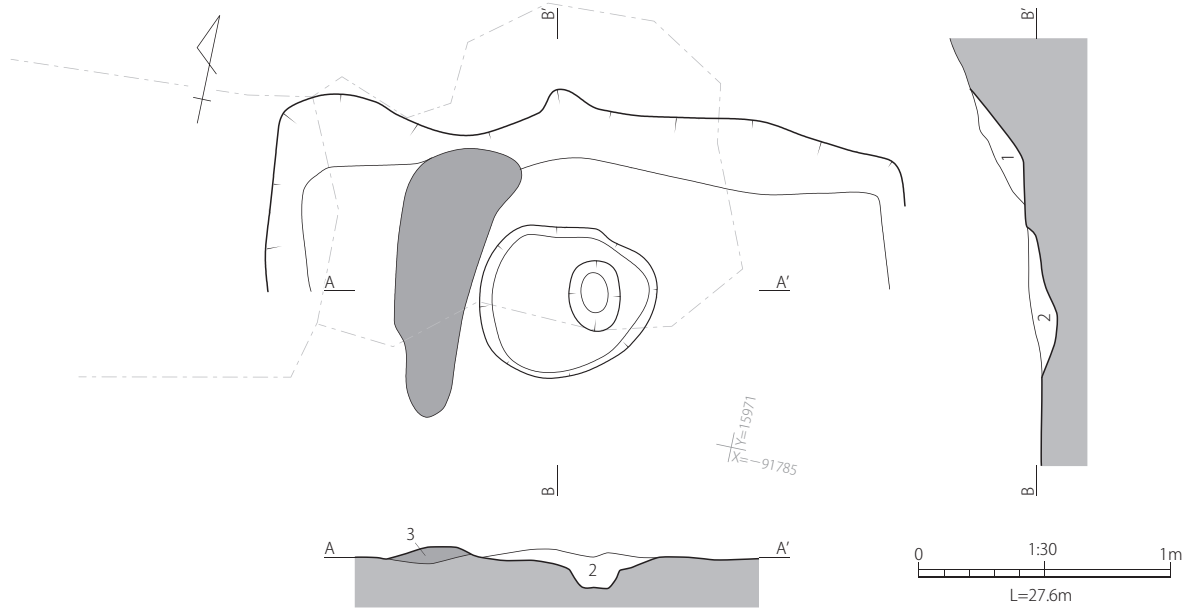
床 全面に厚さ 5cm ほどの貼り床が確認される。

カマド 北壁の中央に位置するが、全体的に壊されており、燃焼室と左袖の粘土がわずかに残る。検出された部分で、全長 114cm、幅 105cm、燃焼室幅 70cm を測る。



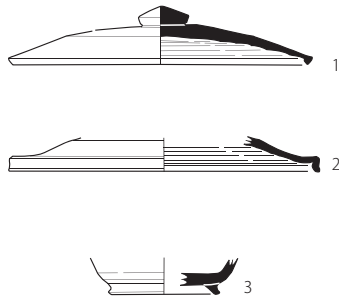
- 1 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりあり、粘性なし。赤色粒子を多量含む。西側では径 10～20cm の石を含む。覆土
- 2 黒褐色 (7.5YR2/2) しまりあり、粘性なし。赤色粒子を多量含む。掘り方埋土

第 52 図 SB4014 平面図・断面図

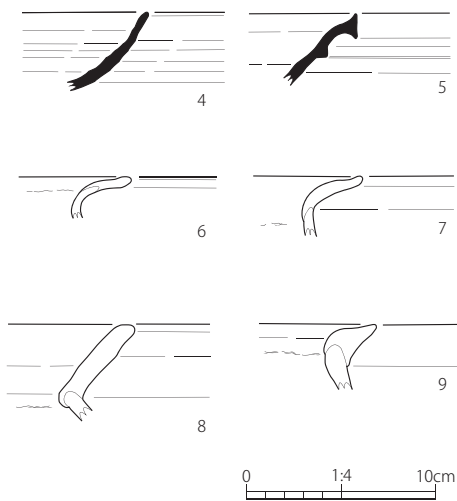


- 1 褐色 (7.5YR4/4) しまりなし、粘性なし。砂質。 煙道覆土
 2 暗褐色 (7.5YR3/3) しまりなし、粘性なし。焼土粒子を多量に含む。 燃烧室覆土
 3 にぶい黄褐色 (10YR5/4) しまりなし、粘性ややあり。粘土。焼土を多く含む。特に内側に多い。破壊により本来の形ではない。 袖の残存

第53図 SB4014 カマド 平面図・断面図



第54図 SB4014 カマド



第55図 SB4014 出土遺物実測図

出土遺物 (第55図)

須恵器5点、土師器4点を図示した。1は擬宝珠状の摘みを持つ坏蓋で、天井部外面には一部自然釉がみられる。2は器高が低く、口縁端部の折返しが多い。3は有台坏の底部で、平底を呈している。同時期の一般的な有台坏と比べて、小型である。4は碗形坏で、5は壺の口縁部である。口縁端部は急激に大きく外反し、口唇部は直立する。6と7は遠江系水平口縁甕の口縁部である。8は駿東型球胴甕の口縁部で、器壁が厚く、明確な「く」の字を呈する。9は駿東型の埴である。厚みを持って外反し、口縁部は急激に細く立ち上がる。

時期 須恵器はほとんどが8世紀代の特徴を持つもので、8世紀中葉から後期前半に出現する埴型土器も見られる。球胴甕の口縁部の形状を見ても同様の時期を求めることができるため、8世紀後半と考えられる。

SB4017

遺構 (第 56・57・58 図)

位置 調査区の南寄りに位置する。

重複関係 (古) SB4017 → SB4018 (新)

主軸方位 N - 5.5° - E

残存状況 南壁を SB4018 に切られている。残存する部分で主軸 (南北) 幅 3.15m、直交 (東西) 幅 3.09m、検出面からの深さ 22cm を測る。平面形は方形を呈すると推定できる。

覆土 赤色粒子を含む暗褐色土・黒褐色土。

壁溝 確認されない。

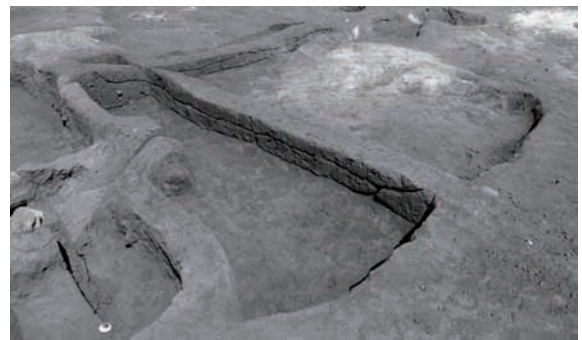
柱穴 確認されない。

床 掘り方を床面としている。

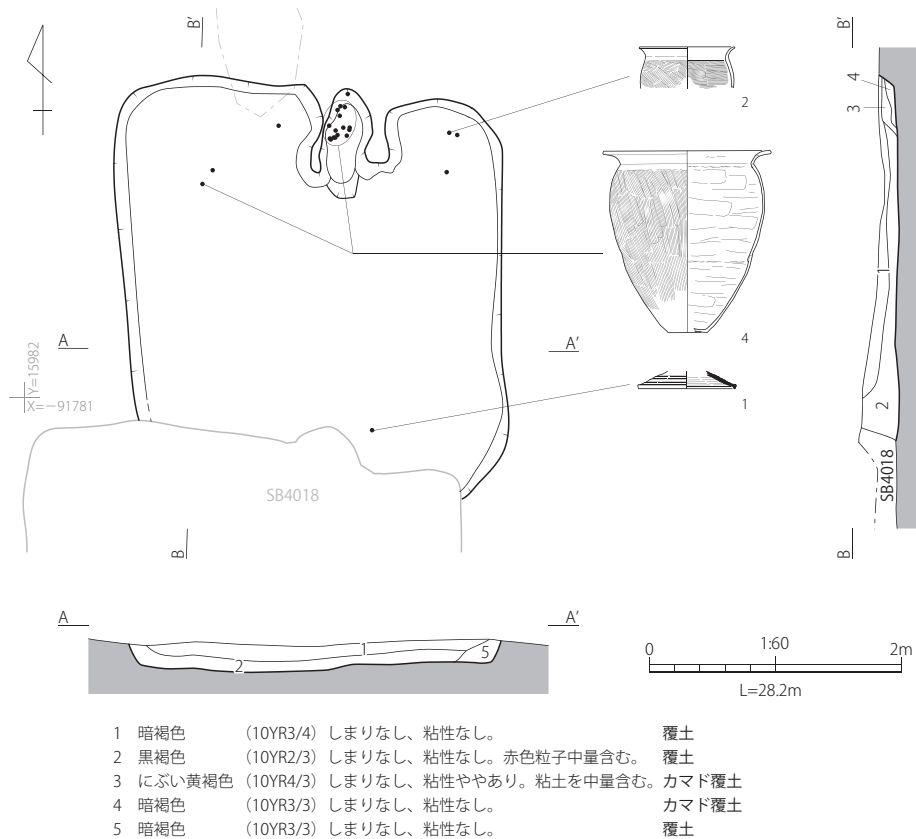
カマド 北壁のやや東寄りに位置する。上半部分は失われているが、両袖の下部と燃烧室が残存する。地山を掘り込んで黄褐色粘土で袖を構築している。全長 89cm、幅 80cm、燃烧室幅 26cm を測る。

出土遺物 (第 59 図)

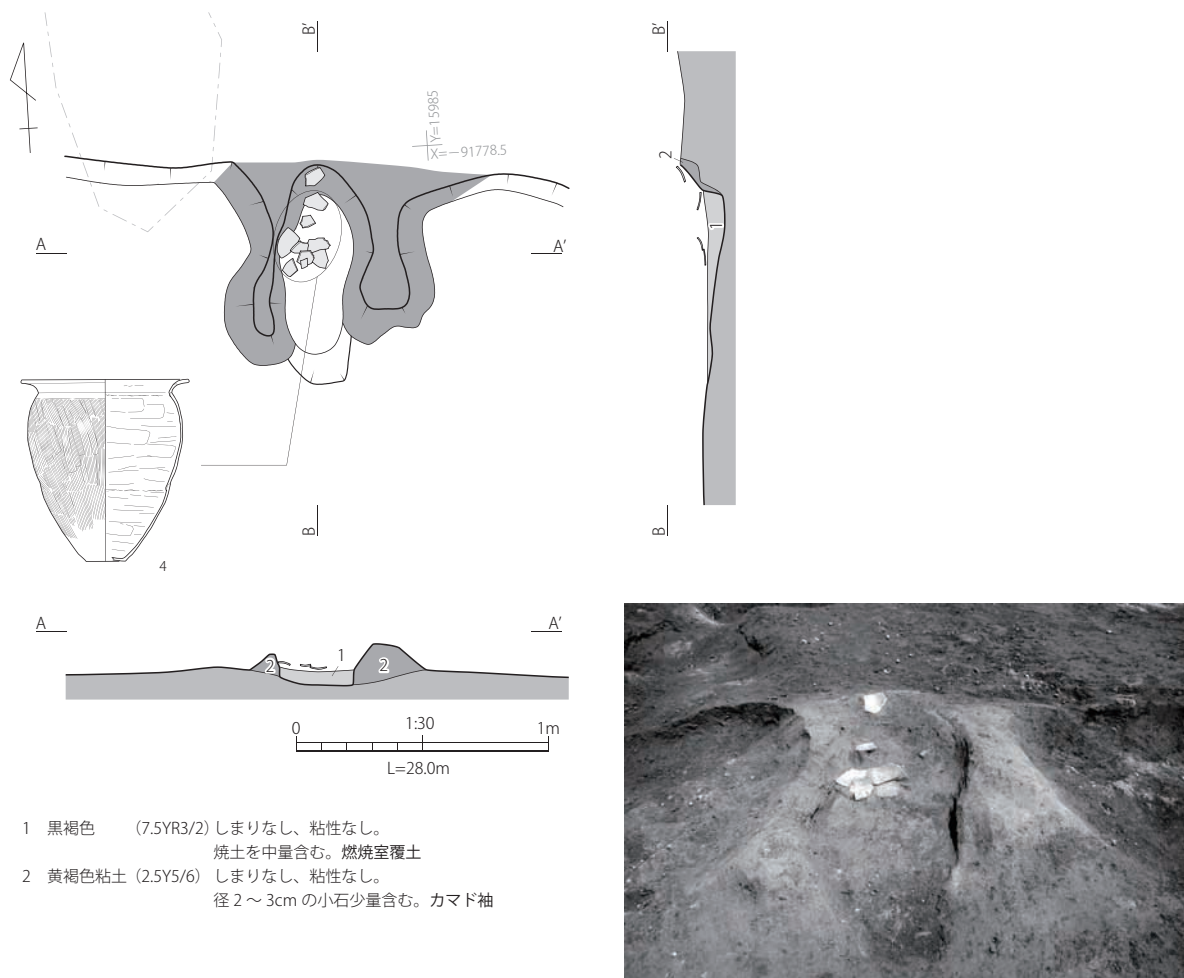
須恵器 1 点、土師器 3 点を図示した。1 は坏蓋である。天井部は口縁部に向かって直線的に下降し、笠状を呈する。2 と 3 は小型甕である。3 は頸部から口縁部に向かって大きく開き、頸部のくびれはほとんど無い。胴部内面は規則的にヨコハケが施されている。底部外面に木葉痕を残す。4 は遠江系水平口縁甕である。口縁部は大きく外反しており、器壁がかなり薄い。時期 須恵器の坏蓋の天井部が直線的に開くタイプは、8 世紀前半に多く見られ、水平口縁長胴甕の口縁部の形状からも 8 世紀前半と考えられる。



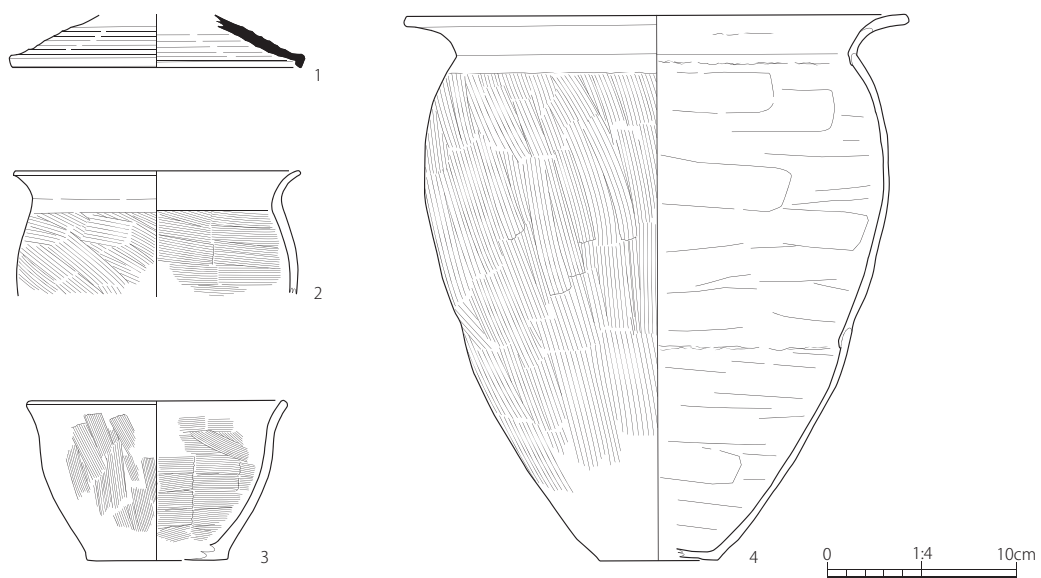
第 56 図 SB4017 土層断面



第 57 図 SB4017 平面図・断面図



第58図 SB4017 カマド 平面図・断面図



第59図 SB4017 出土遺物実測図

SB4018

遺構 (第 60・61 図)

位置 調査区の南寄りに位置する。

重複関係 (古) SB4017 → SB4018 (新)

主軸方位 N - 3.5° - E

残存状況 西壁と南壁を攪乱に切られるが、全体の規模等は確認できる。主軸 (南北) 幅 3.33m、直交 (東西) 幅 3.48m、検出面からの深さ 26cm を測り、平面形は方形を呈すると推定できる。

覆土 黒褐色土・黒色土・暗褐色土。

壁溝 確認されない。 柱穴 確認されない。

床 掘り方を床面としている。

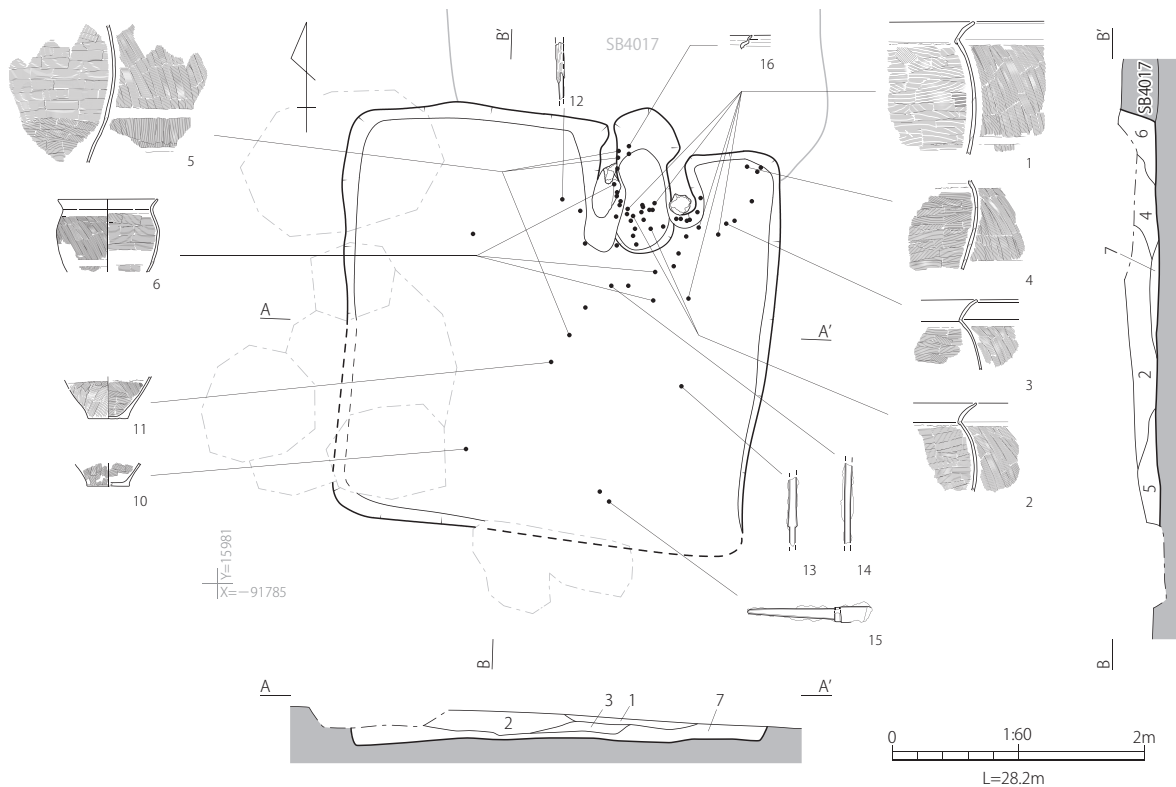
カマド 北壁の東寄りに位置する。両袖と燃焼室が良好に残存する。地山を掘り込み、石を芯として粘土で袖をつくり、掘り方に暗褐色土を入れて燃焼室と煙道を構築している。全長 116cm、幅 95cm、燃焼室幅 32cm を測る。

出土遺物 (第 62・63 図)

土師器 12 点と金属製品 4 点を図示した。1～5 は駿

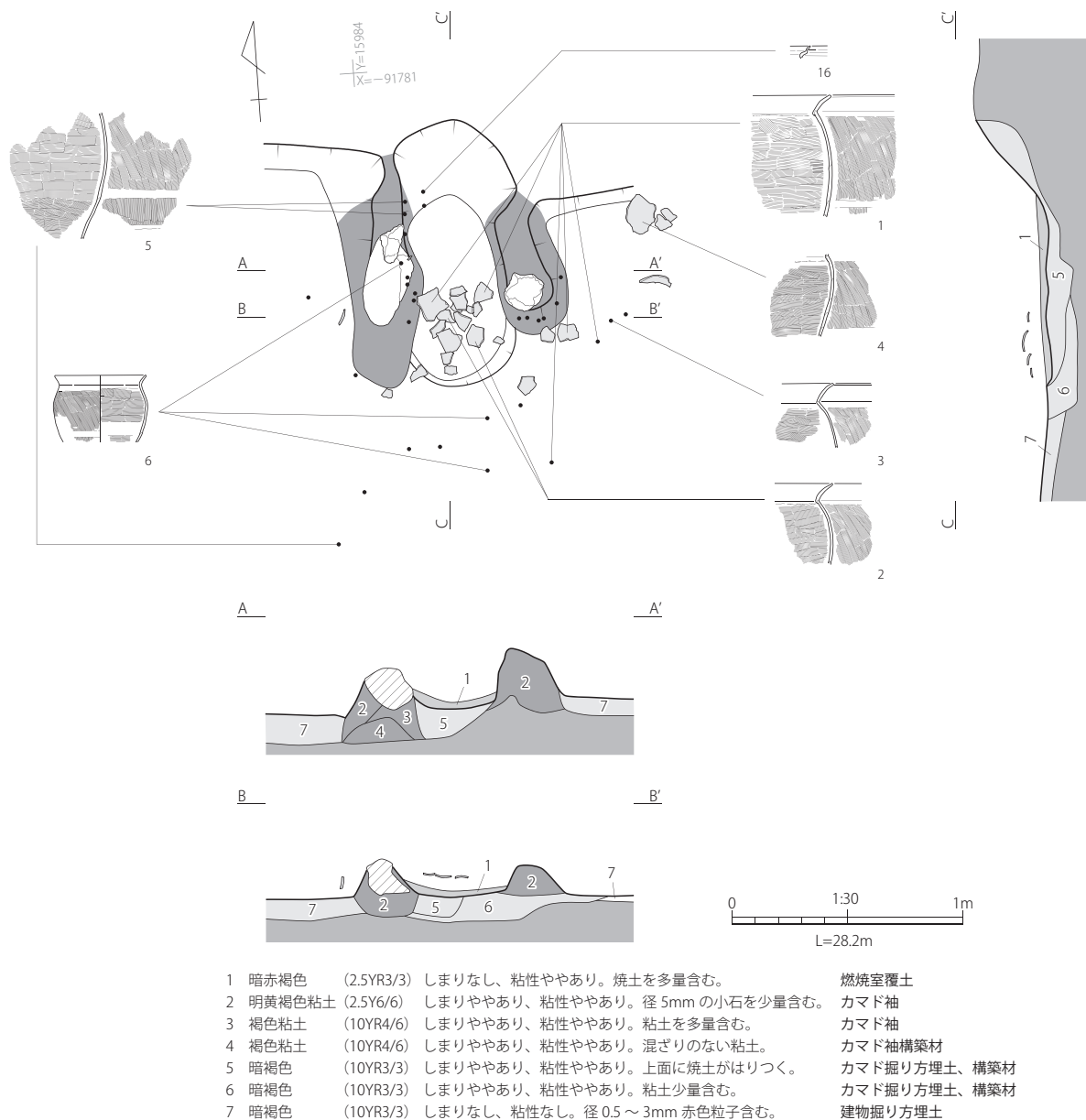
東型長胴甕である。1～3 は、口縁部が「く」の字に屈曲する。胴部内外面はハケメ調整で、帯状にヘラ削りが外周する。肩があまり張らず、胴部での最大径は中央部になる。これに対し 4 は、肩部に最大径をとる。5 は外周する横位ヘラ削りを境として、上下でハケの幅が異なっている。6 は小型甕で、外反した短く薄い口縁は、肩部とほぼ同じ径になる。7 は駿東型長胴甕の口縁部、8 は球胴甕の口縁部、9 は遠江系水平口縁甕の口縁部である。長胴甕の底部である 10 と 11 は、内外面にハケメを施し、底部外面には木葉痕が残る。12～14 は鉄鏝の茎部で、12 には木片が残存している。15 は刀子である。刃部は折れ曲がり、先端が欠損している。16 は S 字甕の口縁部である。

時期 長胴甕の外面にヘラ削りを施すのは、8 世紀中葉以降に見られる技法である。小型甕もこの時期のものと思われるが、球胴甕や水平口縁甕の口縁部の形状を見ると 8 世紀後半までに収まる。そのため、8 世紀後半に帰属すると考えられる。

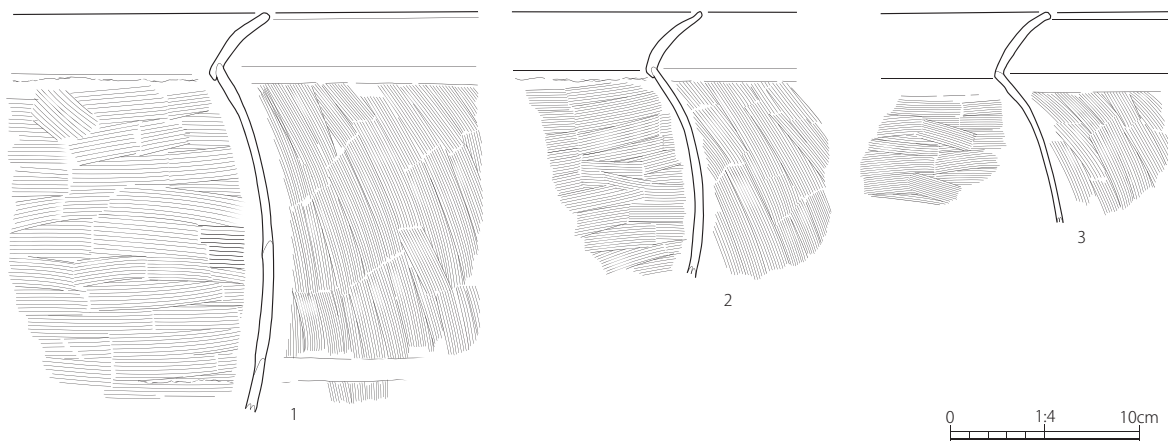


- | | |
|---|----|
| 1 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりなし、粘性なし。粘土をシミ状に含む。焼土粒子少量含む。 | 覆土 |
| 2 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりなし、粘性なし。赤色粒子中量含む。 | 覆土 |
| 3 黒色 (7.5YR2/1) しまりややあり、粘性ややあり。炭化材少量含む。 | 覆土 |
| 4 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりややあり、粘性ややあり。径 2～5mm の小石を少量、赤色粒子を少量含む。 | 覆土 |
| 5 黒褐色 (7.5YR2/1) しまりややあり、粘性ややあり。径 2～5mm の小石少量含む。 | 覆土 |
| 6 暗褐色 (10YR2/3) しまりあり、粘性あり。全体的にカマドの粘土が多く混ざる。 | 覆土 |
| 7 暗褐色 (7.5YR3/3) しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子少量含む。 | 覆土 |

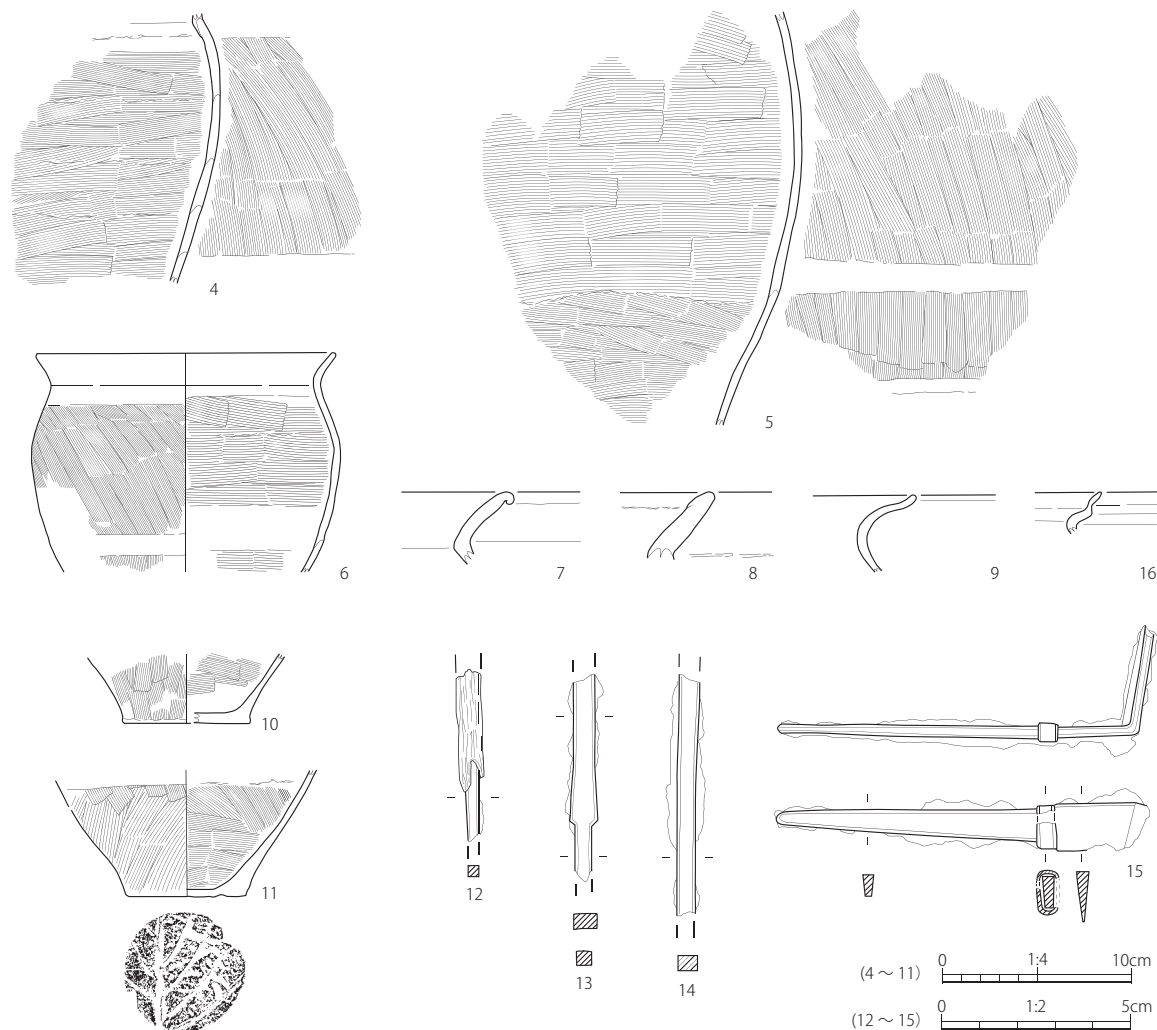
第 60 図 SB4018 平面図・断面図



第61図 SB4018カマド 平面図・断面図



第62図 SB4018 出土遺物実測図 1



第 63 図 SB4018 出土遺物実測図 2

SB4019

遺構 (第 64・65 図)

位置 調査区の南東寄りに位置する。

重複関係 (古) SB4019 → SB4020 (新)

主軸方位 N - 10° - W

残存状況 南西側を SB4020 に切られ、北壁・東壁・南壁の一部を攪乱に切られる。主軸 (南北) 幅 3.54m、直交 (東西) 幅 3.54m、検出面からの深さ 40cm を測る。

平面形は方形を呈すると推定できる。

覆土 黒褐色土・黒色土。

壁溝 確認されない。

柱穴 確認されない。

床 掘り方を床面とする。

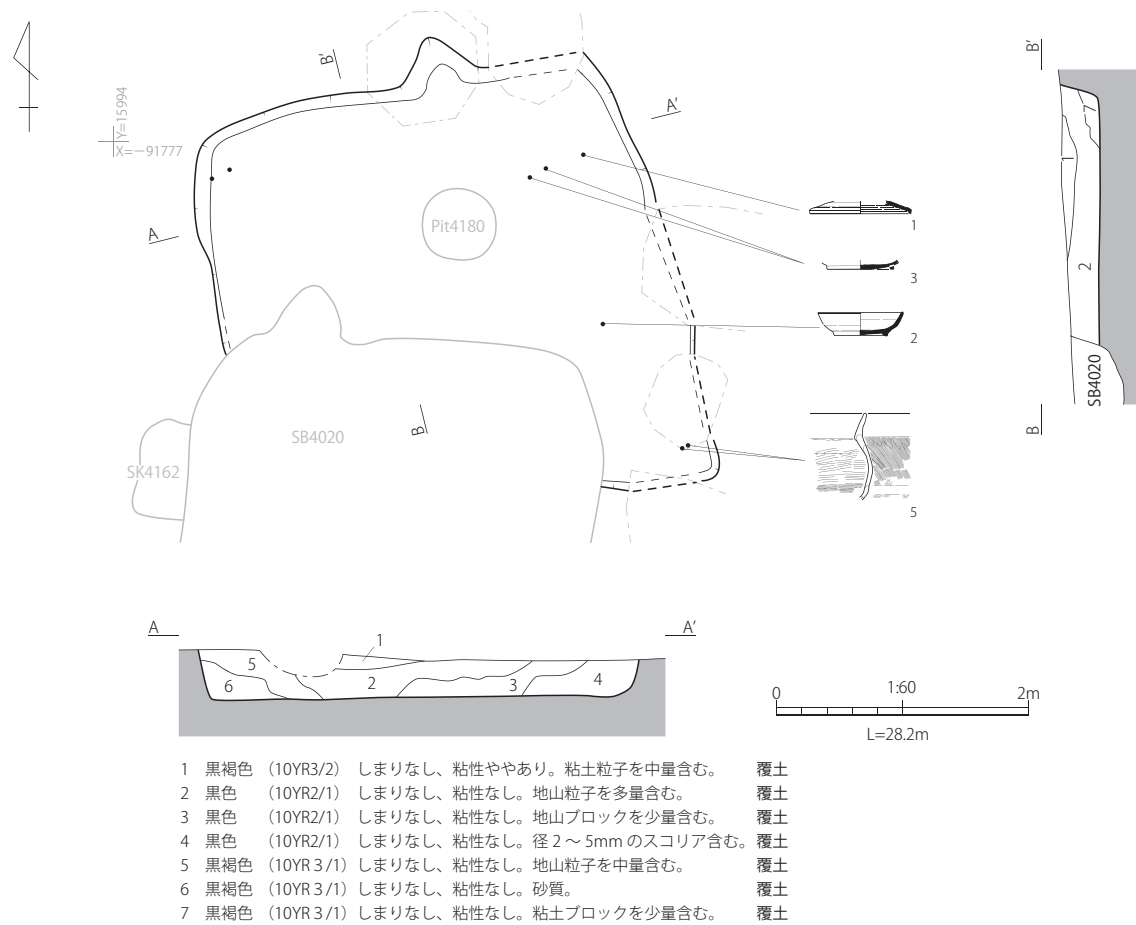
カマド 北壁のやや東寄りに位置する。全体的に大きく壊されており、煙道の掘り込みだけが検出された。燃焼

室や袖は確認されないため、構築方法や規模は不明である。

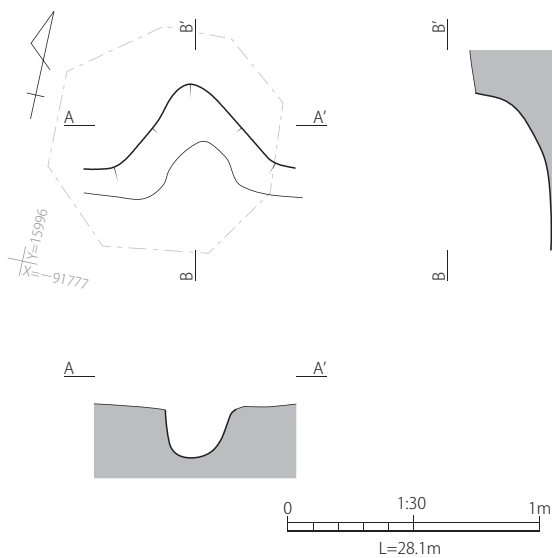
出土遺物 (第 66 図)

須恵器 4 点と土師器 1 点を図示した。1 は返りのない坏蓋で、器高が低い。天井部外面の一部に自然釉が付着する。2 は有台坏で平底を呈し、底部外面に回転ヘラ削りを施す。3 は貼付高台の有台坏で、高台と本体底面が同一接地面となっている。4 は高坏である。脚部外面にヘラ削り痕を明確に残し、内面は斜位のナデで調整されている。5 は駿東型球胴甕である。胴部外面にミガキはみられず、口縁部は直立に近い角度で立ち上がる。

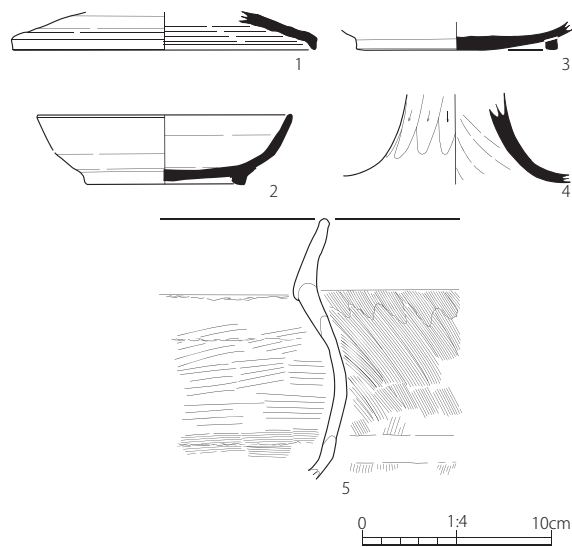
時期 須恵器は 8 世紀前葉から中葉のものである。球胴甕は 8 世紀前半であるため、本址はこの時期とする。



第 64 図 SB4019 平面図・断面図



第 65 図 SB4019 カマド 平面図・断面図



第 66 図 SB4019 出土遺物実測図

SB4020

遺構 (第 67・68 図)

位置 調査区の南東寄りに位置する。

重複関係 (古) SB4019 → SB4020 (新)

主軸方位 N - 4° - E

残存状況 南壁の一部を Pit145・Pit146・Pit147 に切られるが、全体的に良好に残存する。主軸(南北)幅 2.94m、直交(東西)幅 3.28m、検出面からの深さ 36cm を測り、平面形は方形を呈する。

覆土 赤色粒子を含む暗褐色土・黒褐色土。

壁溝 確認されない。

柱穴 確認されない。

床 厚さ 5cm ほどの貼り床が、北側の一部に確認される。

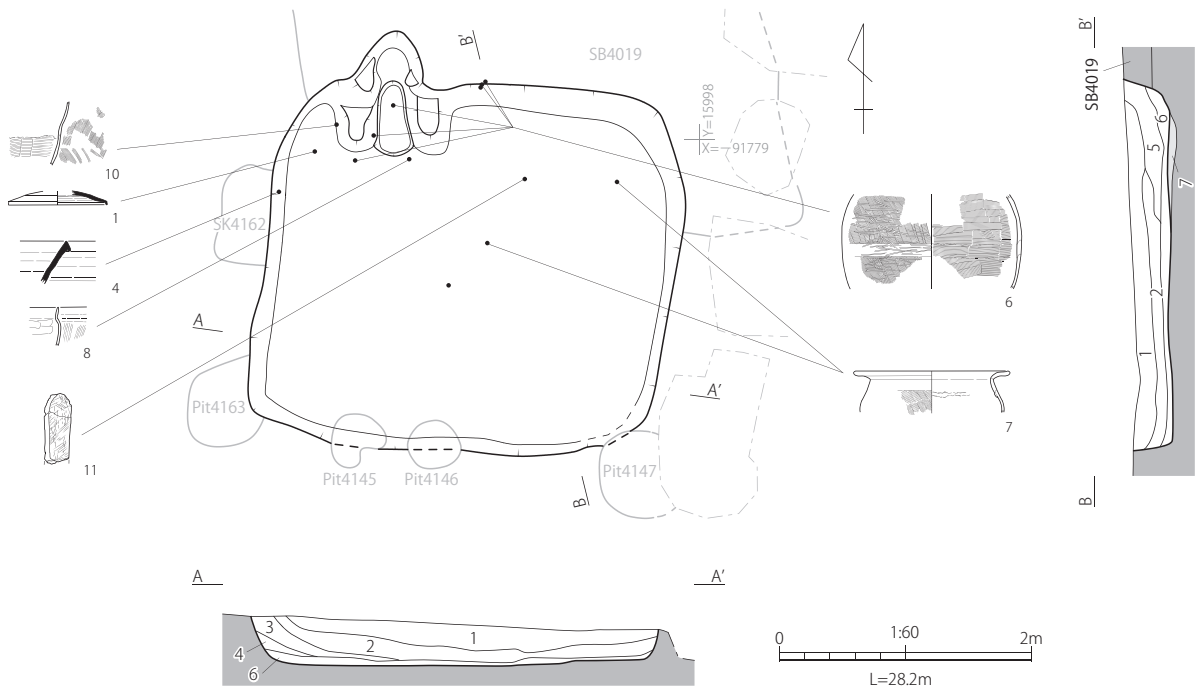
カマド 北壁の西寄りに位置する。袖の下部と燃烧室が残存する。掘り方に黒褐色土を入れた後、明黄褐色粘土を用いて袖を構築している。全長 98cm、幅 92cm、燃烧室幅 24cm を測る。

出土遺物 (第 69 図)

須恵器 4 点、土師器 6 点、石製品を 1 点図示した。I

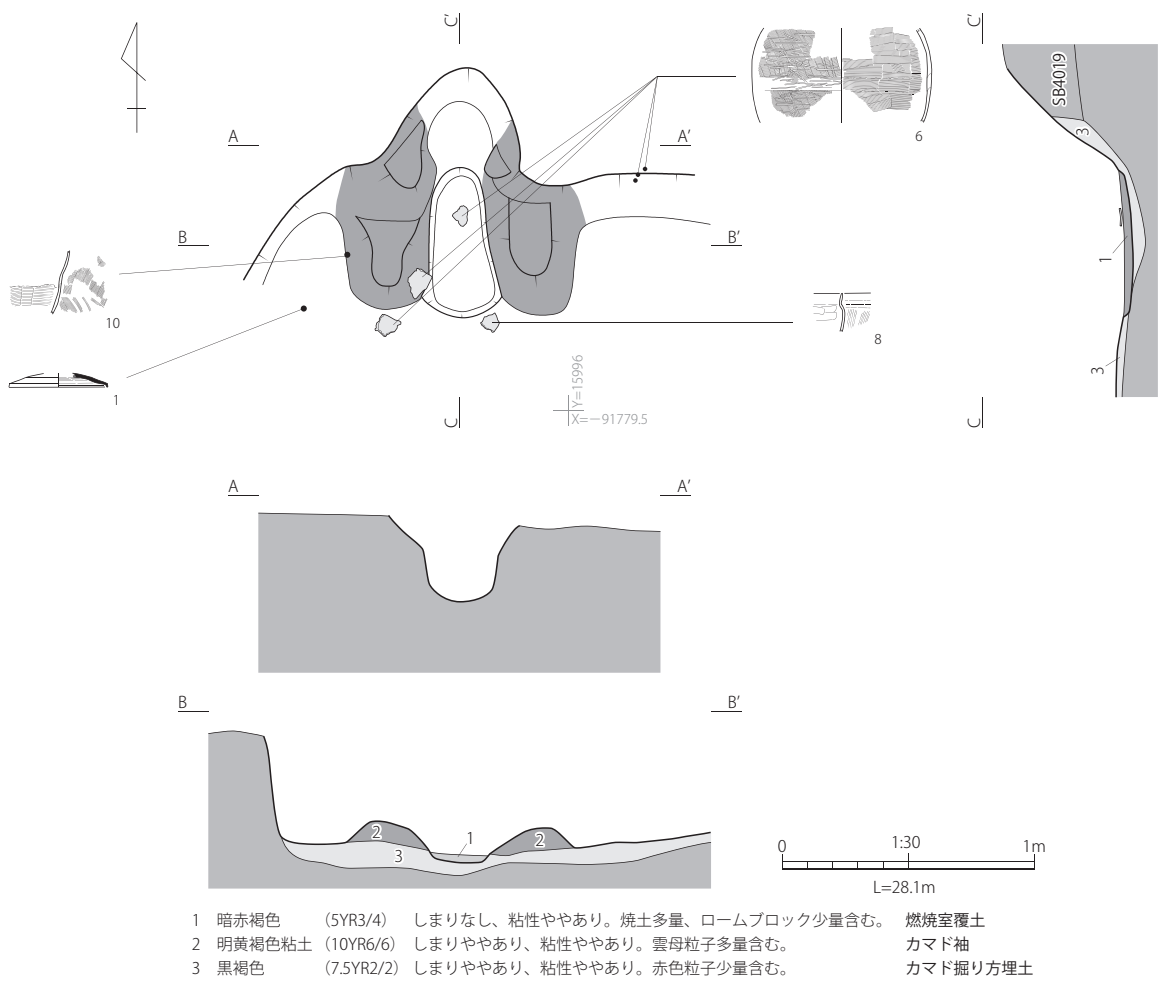
は返りがない坏蓋である。天井部外面上部は回転ヘラケズリ、下部はロクロナデが施される。2 は有台坏で、底部は平底に近いがやや丸みがある。3 は碗形坏身である。口縁部は大きく開きながら立ち上がっている。4 は甕の口縁部である。5 は土師器の坏、6 は駿東型球胴甕の胴部である。外面はタテハケに横位のヘラ削りを帯状に外周させたのち、全体的に横位のミガキを施している。7 は遠江系水平口縁甕である。胎土は精良で、金雲母を多量に含む。8 は小型甕で、短く薄い口縁が、ほぼ直線的に立ち上がる。外面はハケで調整し、非常に強いヨコナデを入れてくびれを作り出している。9 と 10 は遠江系の甕で、いずれも金雲母が胎土に入る。11 は砥石で、4 面すべてに砥面がみられる。特に表裏面は内湾しており、かなり多用されている。

時期 本址では遠江系の土師器の出土が目立った。球胴甕は最大径を胴中央部にとり、丁寧な調整を施していることから、8 世紀中葉から後半の所産と考えられる。須恵器もほぼ同様の時期を示しており、本址は 8 世紀後半と考えられる。

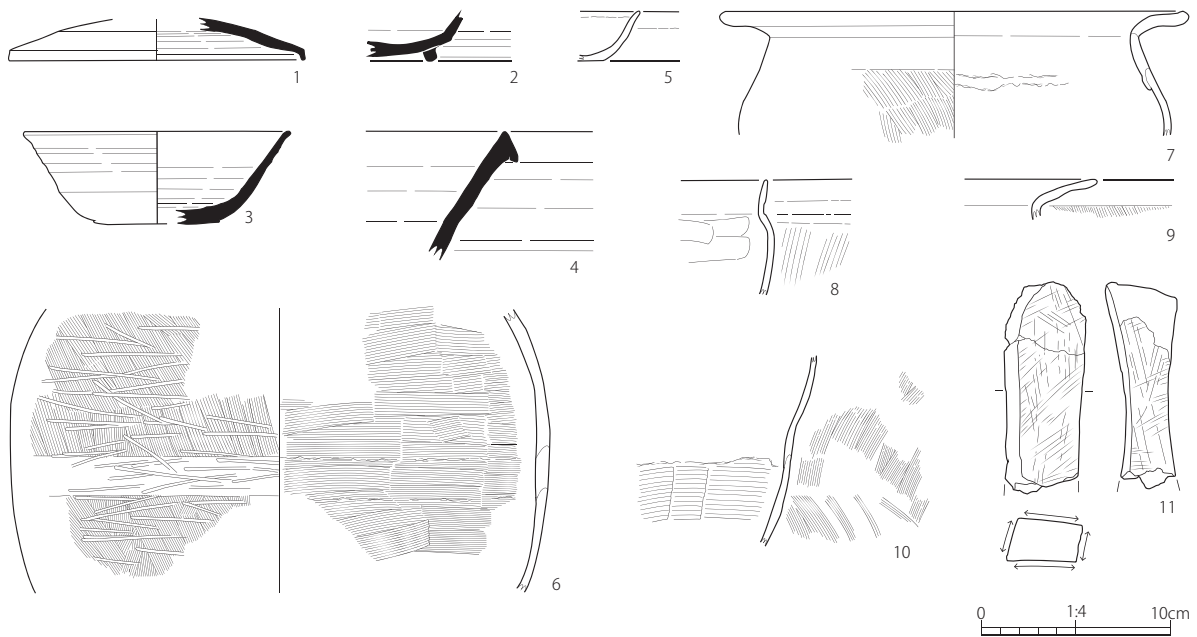


- | | |
|---|-------|
| 1 暗褐色 (10YR3/3) しまりなし、粘性なし。赤色粒子を中量含む。 | 覆土 |
| 2 黒褐色 (10YR2/3) しまりなし、粘性なし。赤色粒子を中量含む。 | 覆土 |
| 3 黒褐色 (10YR2/3) しまりややあり、粘性ややあり。 | 覆土 |
| 4 暗褐色 (10YR3/4) しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子を中量含む。 | 覆土 |
| 5 暗褐色 (10YR3/4) しまりややあり、粘性ややあり。炭化材・焼土を中量含む。 | 覆土 |
| 6 暗褐色 (10YR3/3) しまりややあり、粘性ややあり。焼土・粘土を少量含む。 | 覆土 |
| 7 暗褐色 (10YR3/4) しまりややあり、粘性ややあり。 | 掘り方埋土 |

第 67 図 SB4020 平面図・断面図



第 68 図 SB4020 カマド 平面図・断面図



第 69 図 SB4020 出土遺物実測図

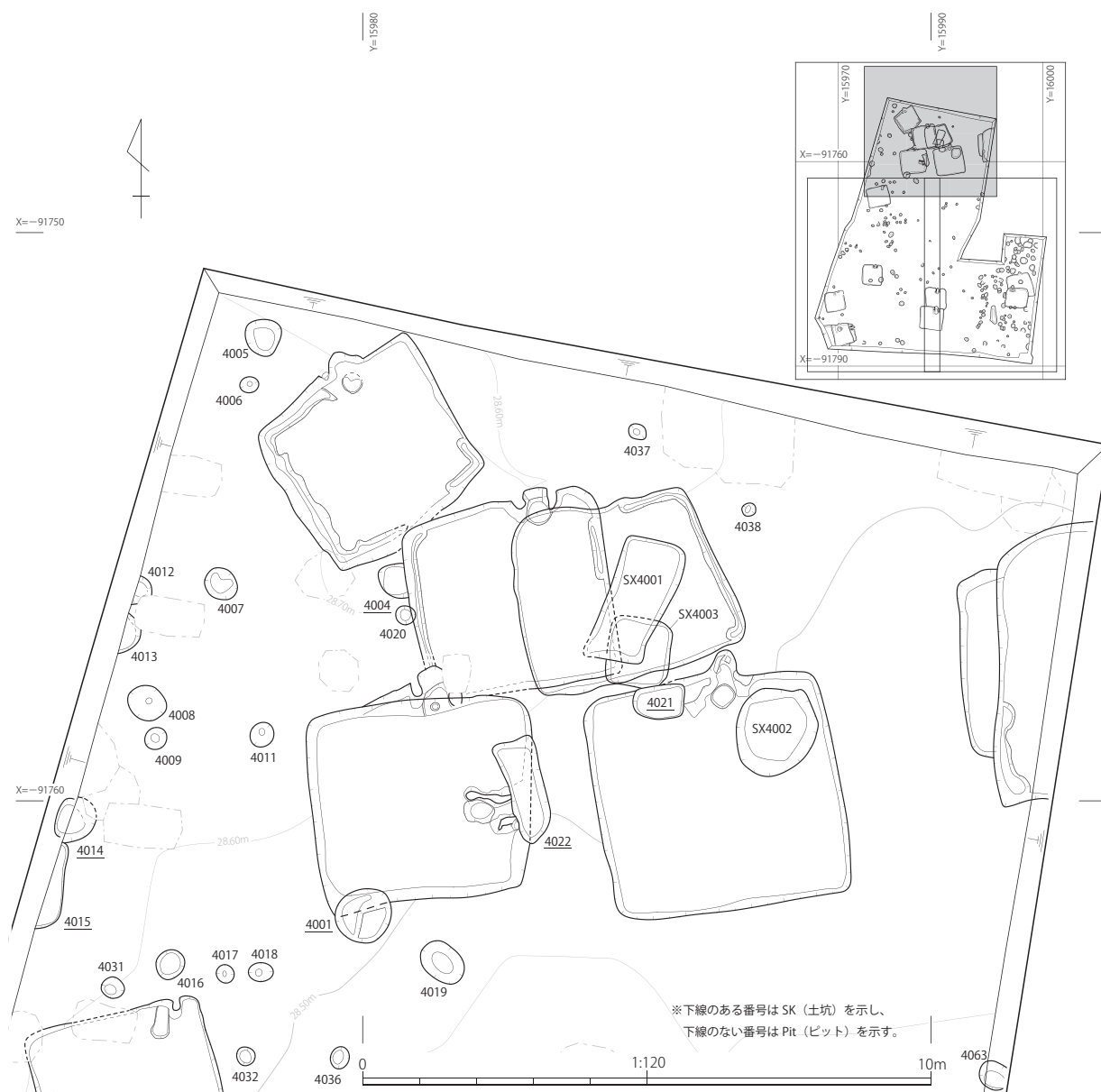
第2節 土坑・ピット・性格不明遺構

土坑・ピット

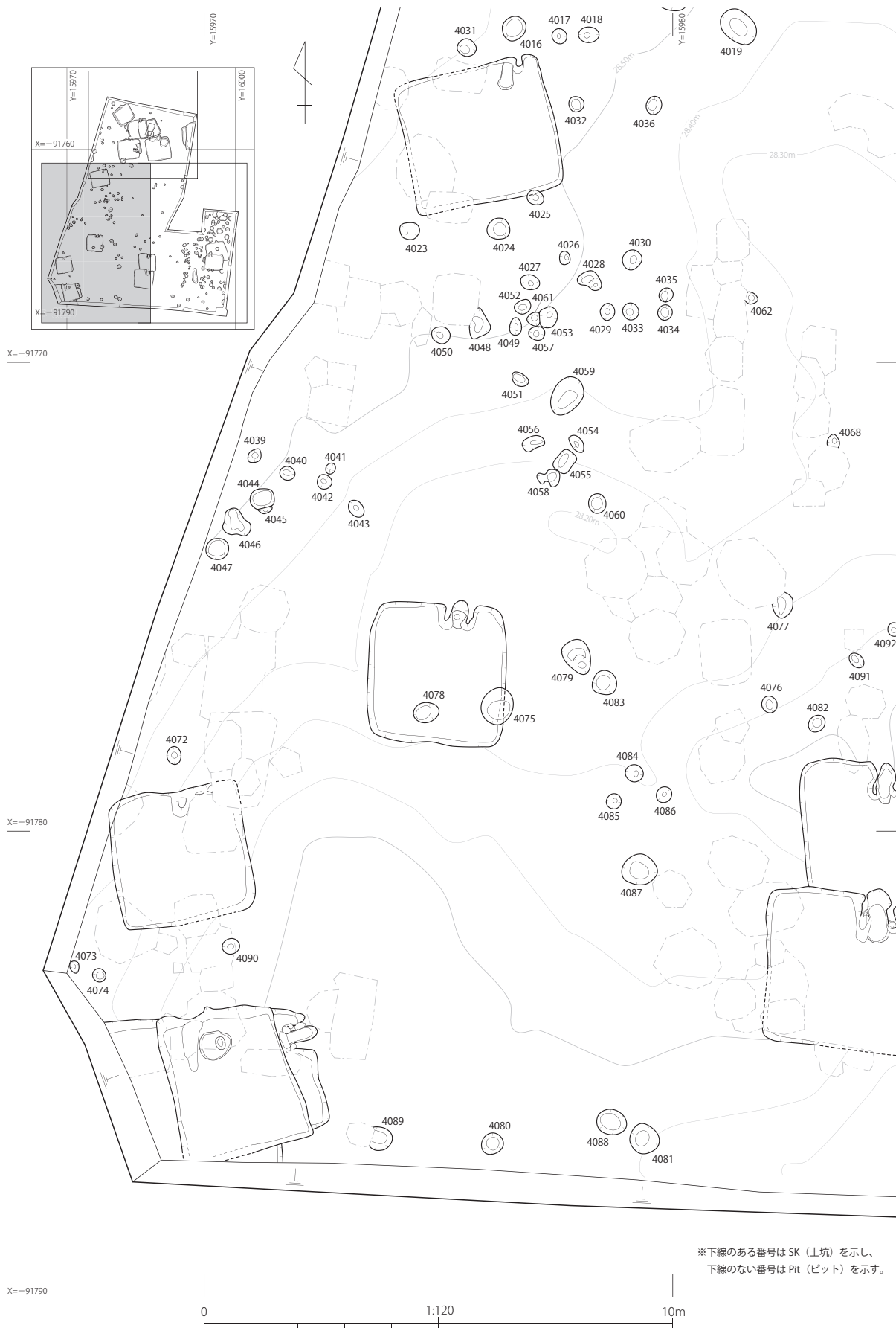
遺構 (第70～79図)

残存状況 本調査区域内で、土坑 15 基、ピット 163 基を検出した。遺構番号は通してSK4001～Pit4118を付与し、4002・4003・4010は欠番である。規模等の詳細は遺構概要一覧表に示す。

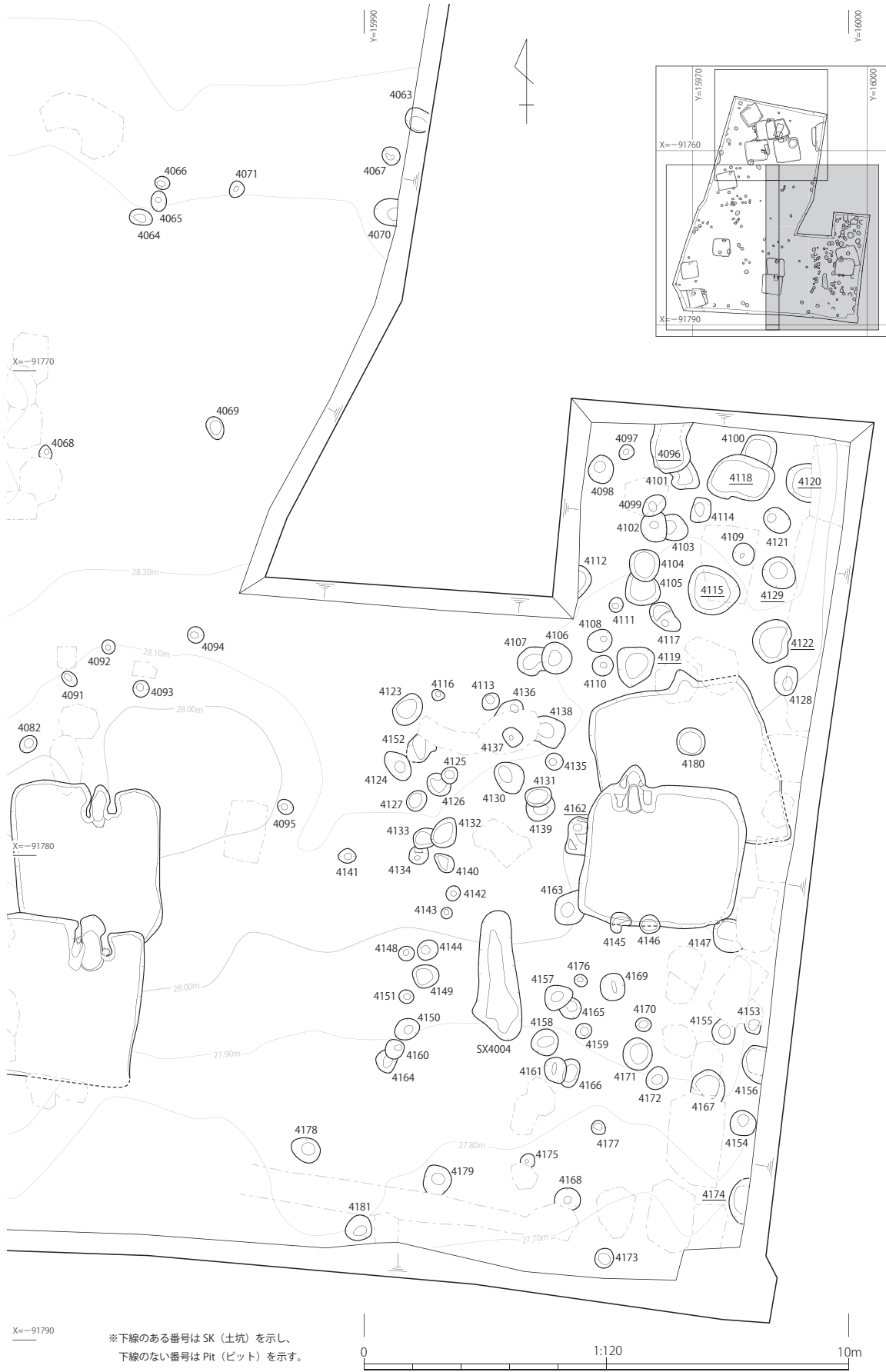
敷地南東付近を中心に土坑・ピットが多数検出されたため、掘立柱建物跡の検討を現地や整理作業段階でも行ったが、明確な掘立柱建物跡を推定することが出来なかった。



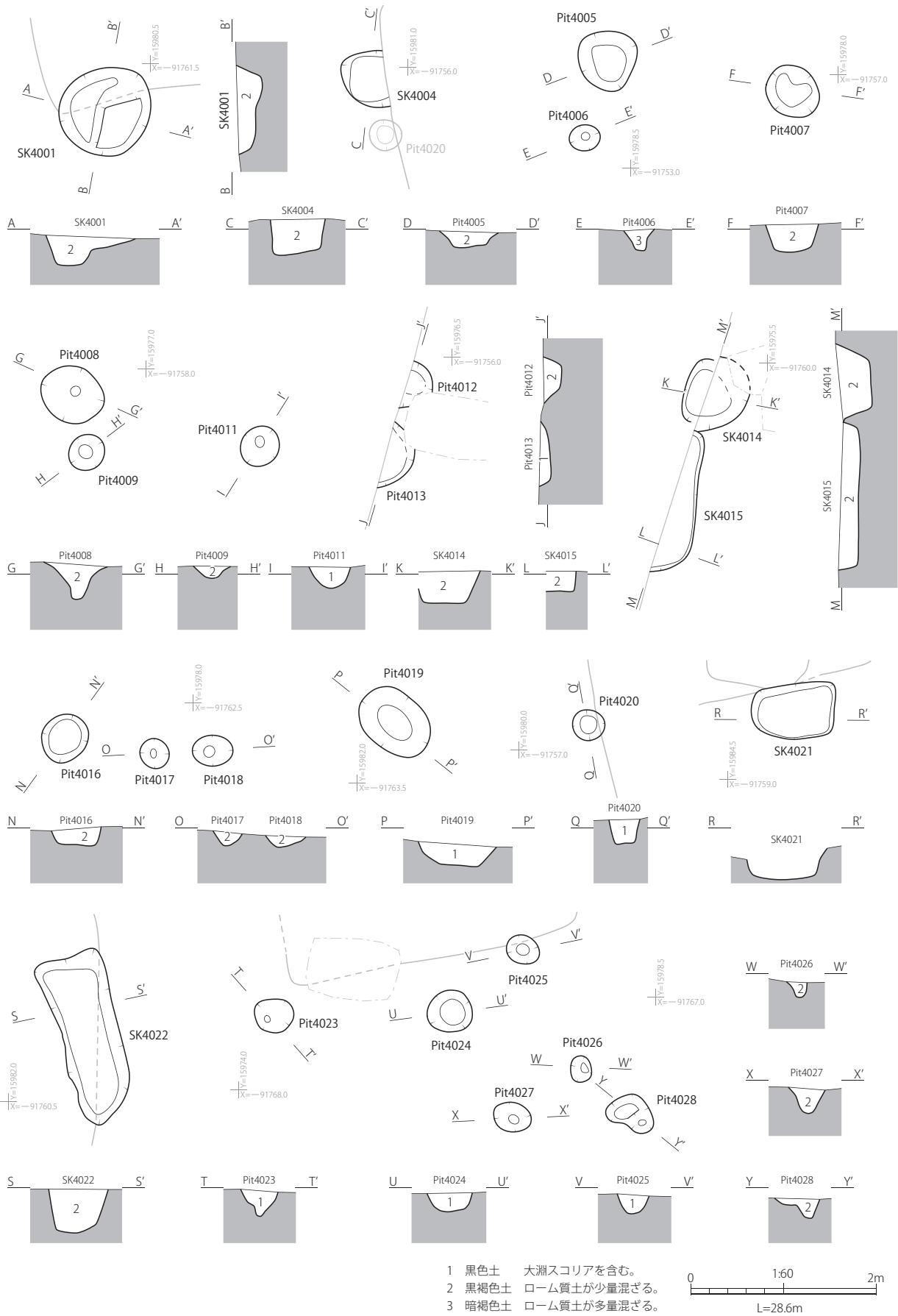
第70図 土坑・ピット・性格不明遺構 全体図(北部分)



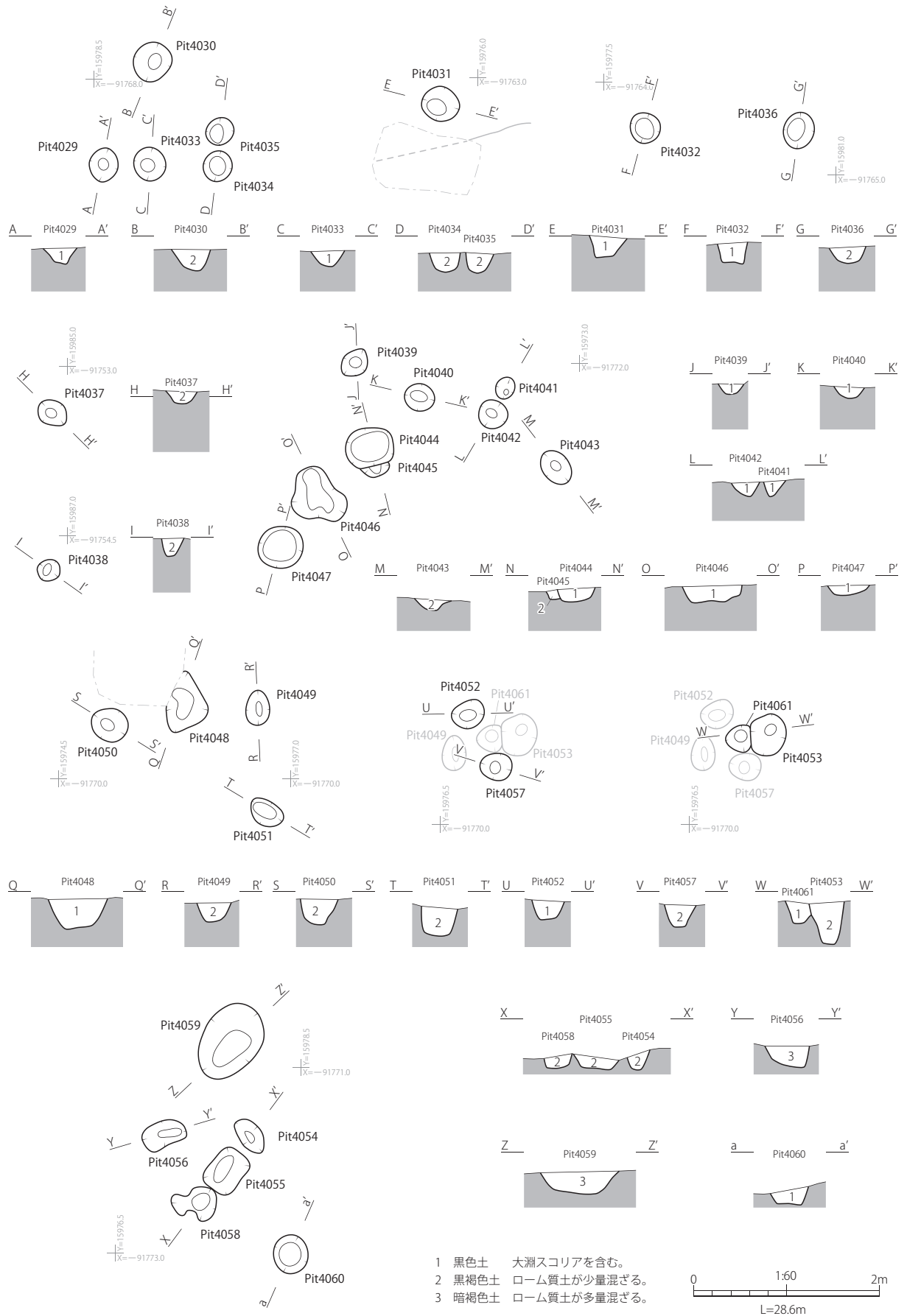
第71図 土坑・ピット・性格不明遺構 全体図（南西部分）



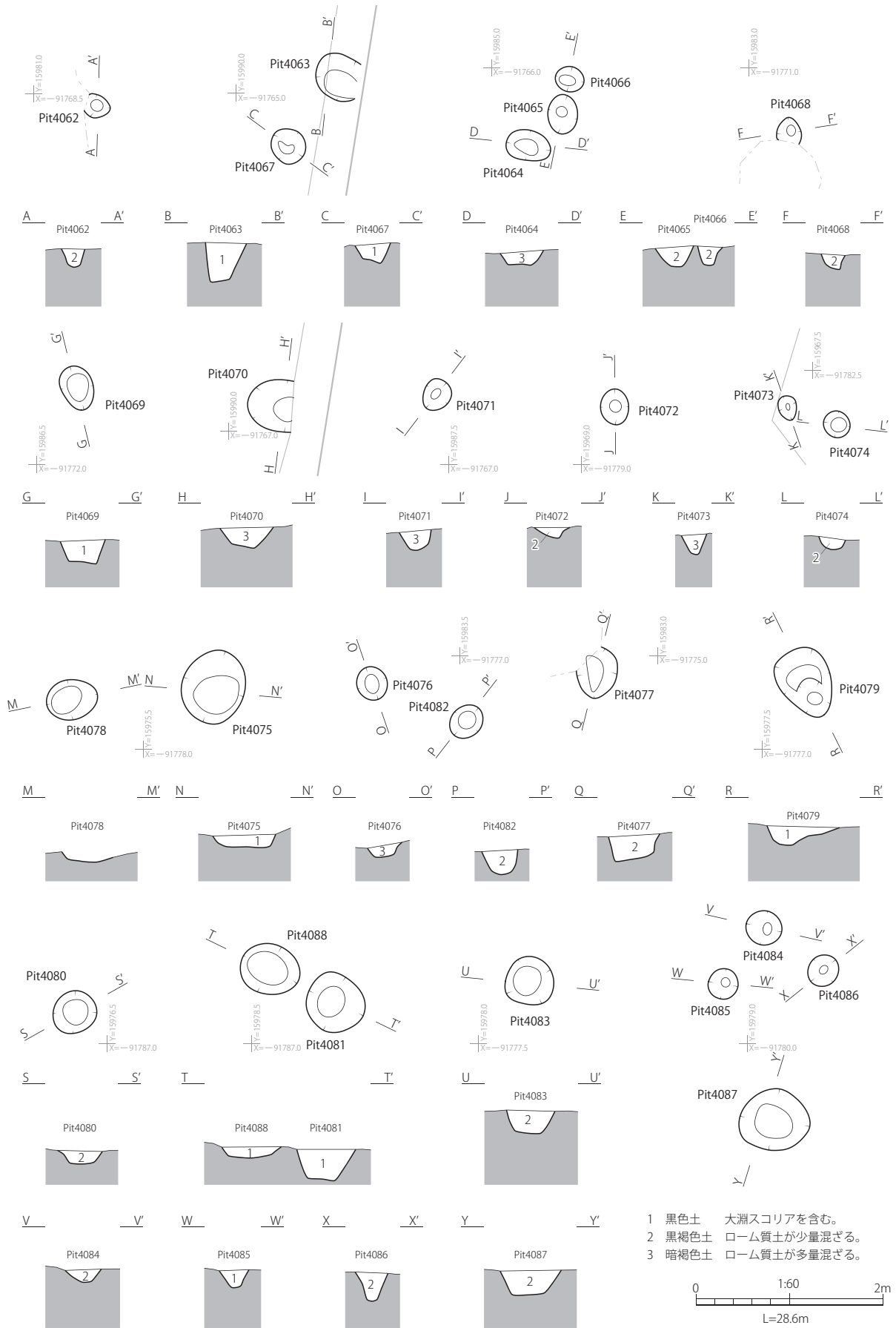
第72図 土坑・ピット・性格不明遺構 全体図(南東部分)



第73図 SK・Pit (4001～4028) 平面図・断面図

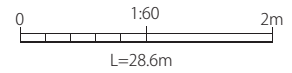


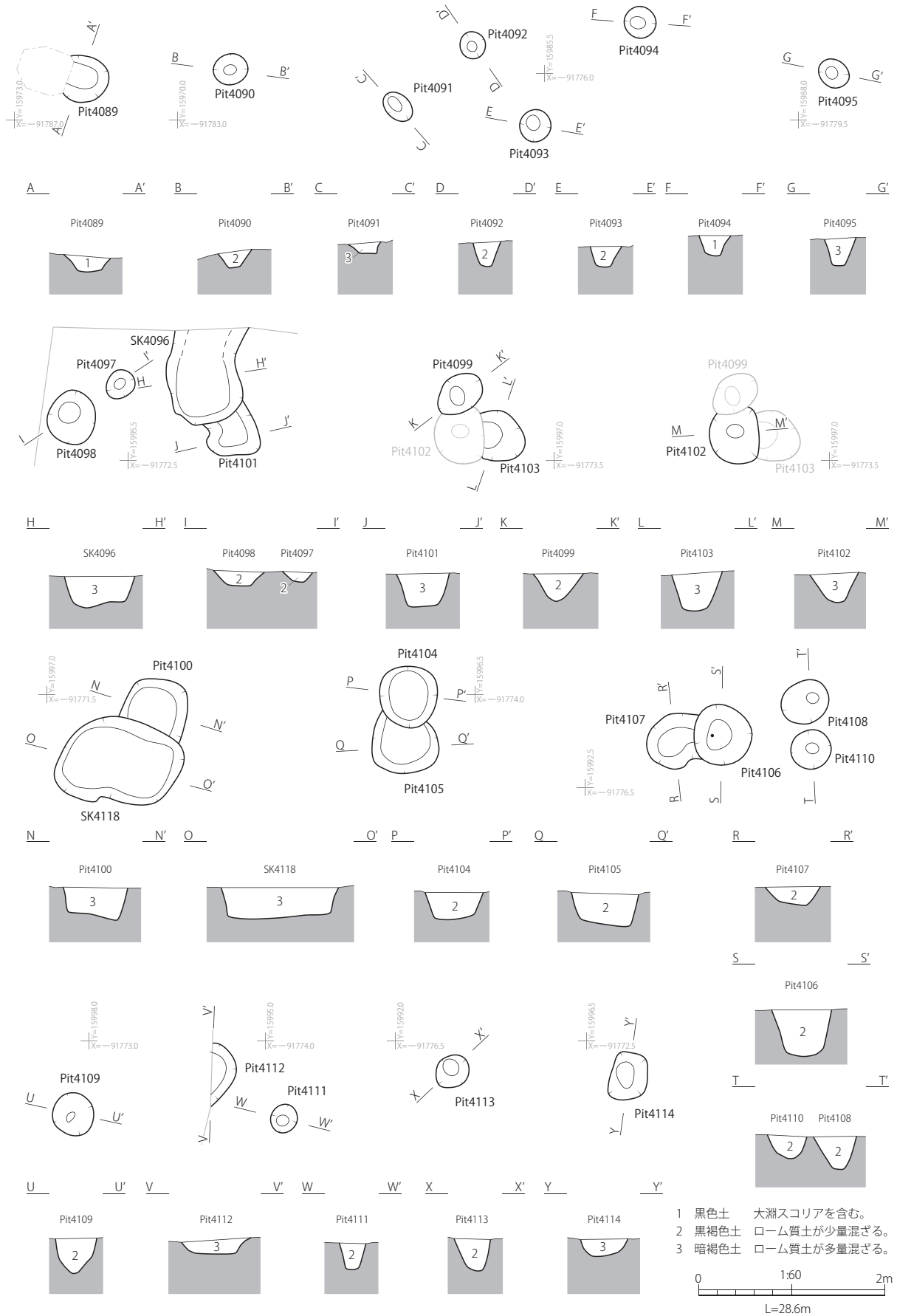
第74図 SK・Pit (4029～4061) 平面図・断面図



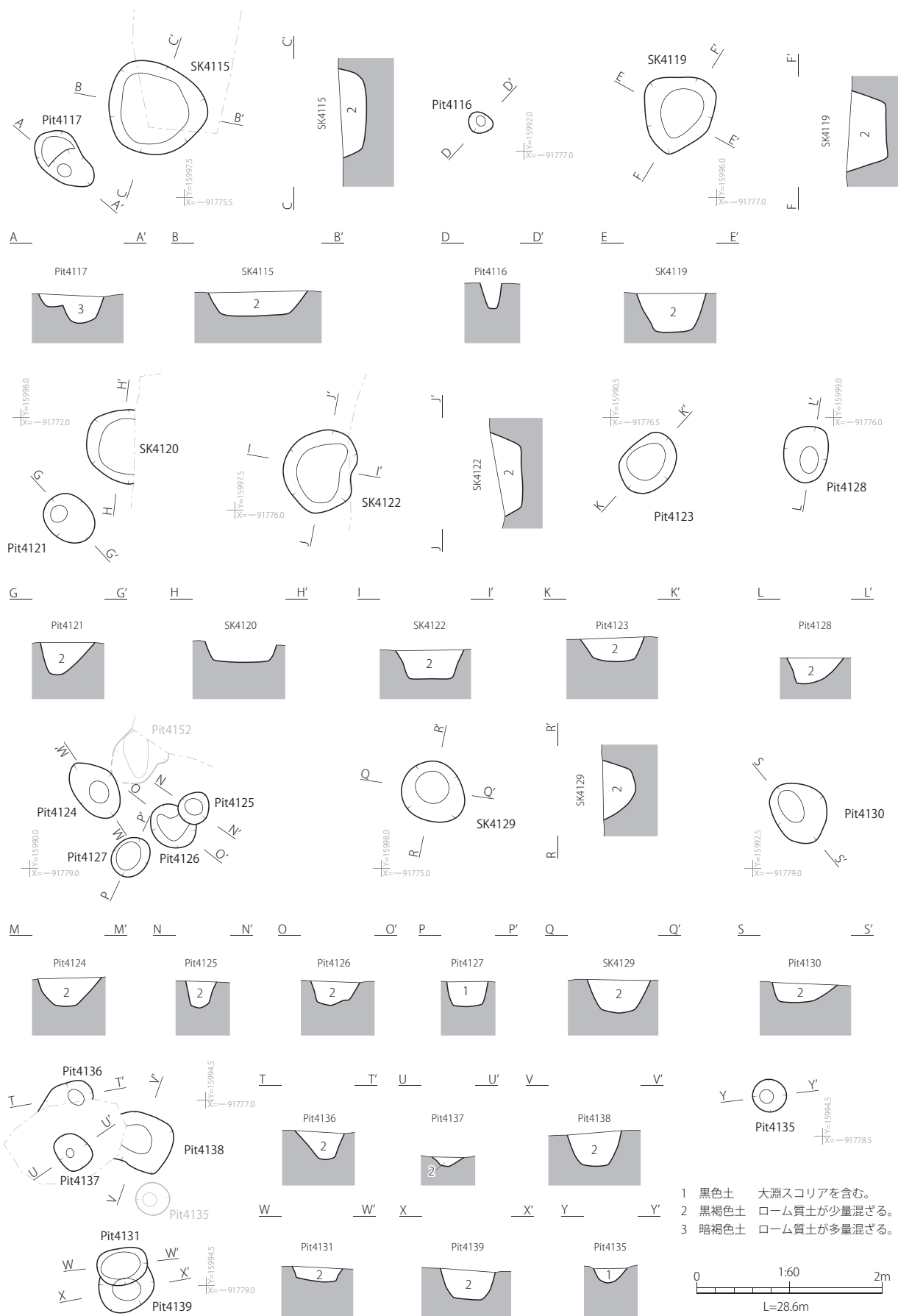
第75図 SK・Pit (4062 ~ 4088) 平面図・断面図

- 1 黒色土 大淵スコリアを含む。
- 2 黒褐色土 ローム質土が少量混ざる。
- 3 暗褐色土 ローム質土が多量混ざる。

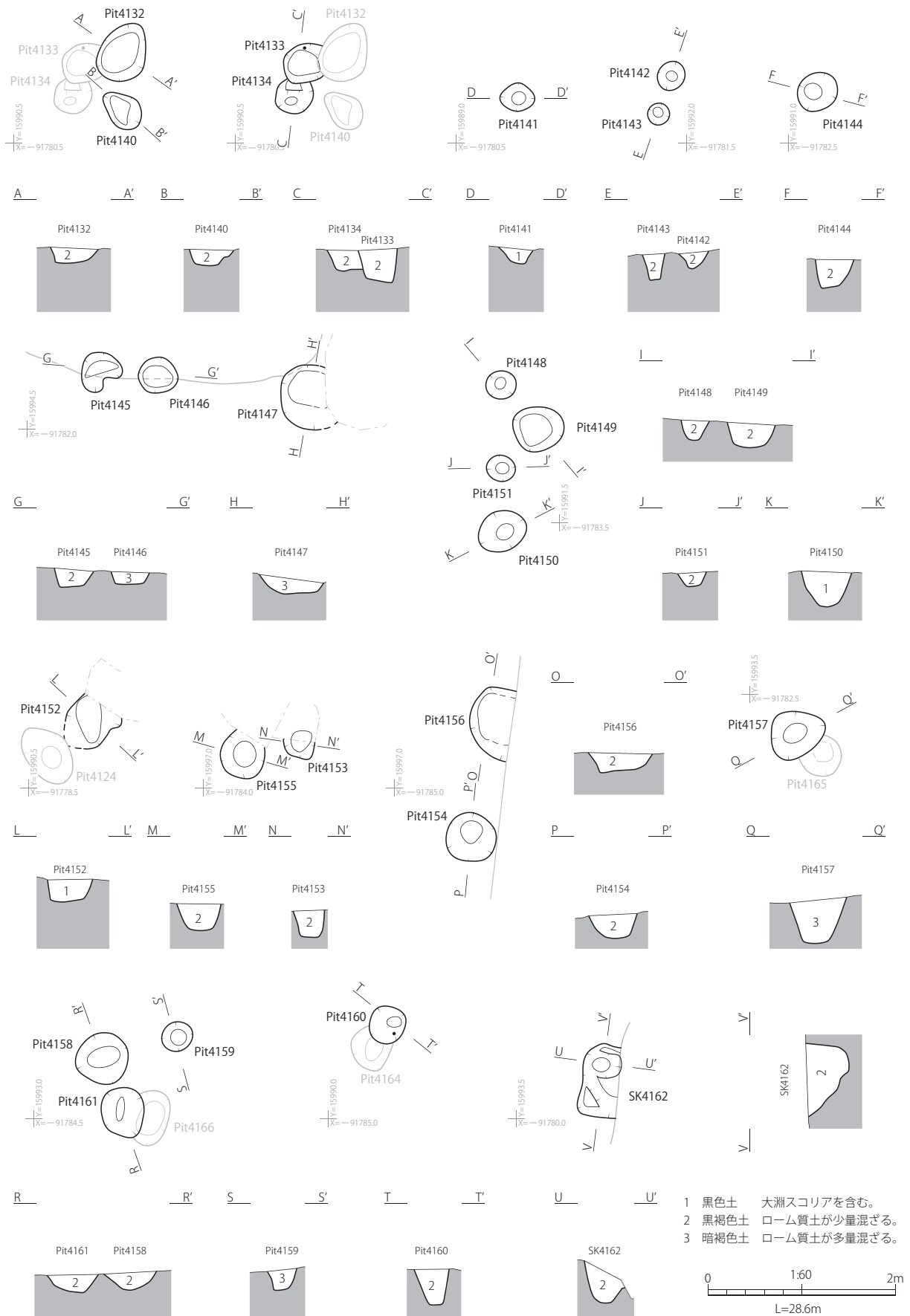




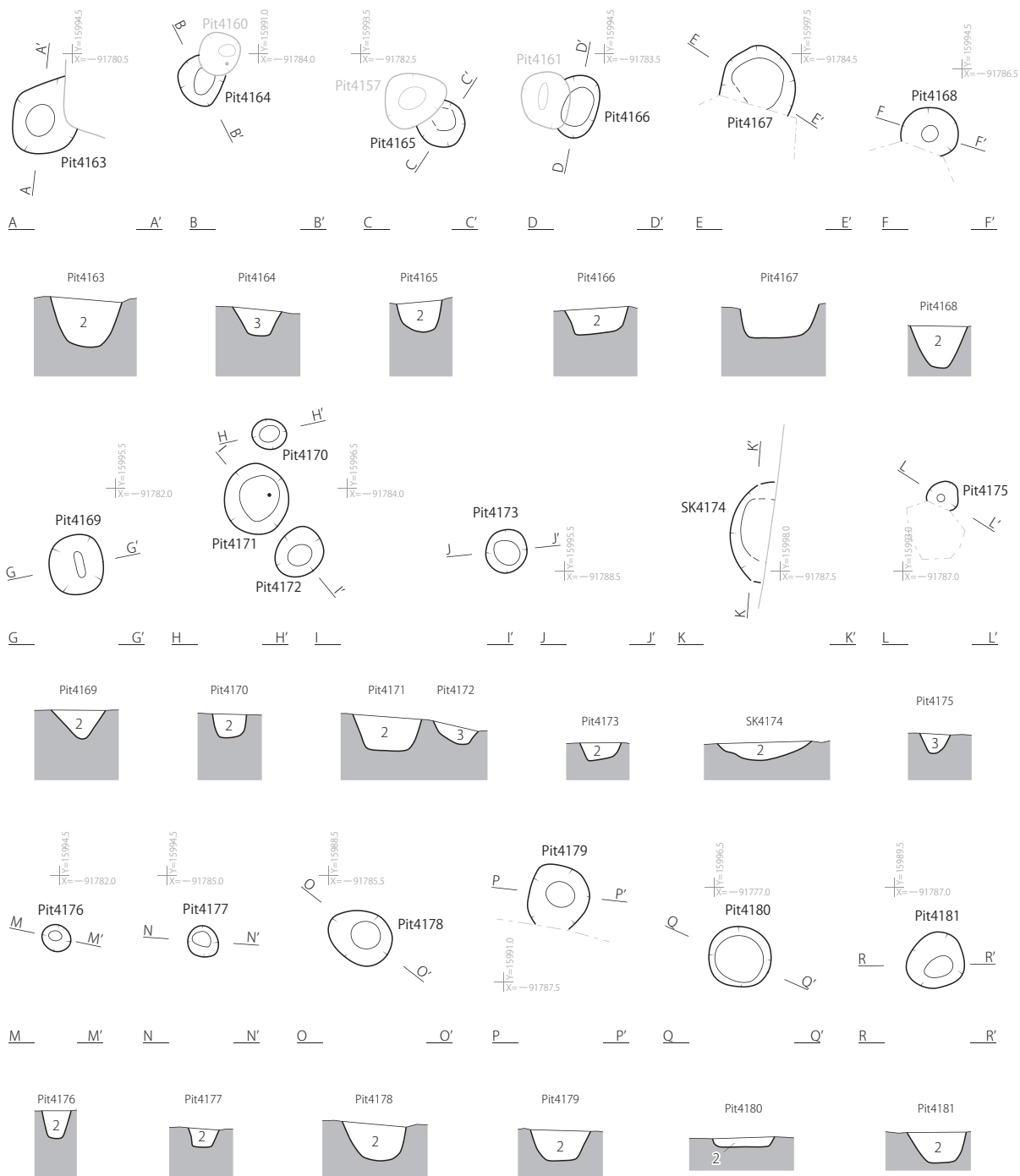
第76図 SK・Pit (4089～4114・4118) 平面図・断面図



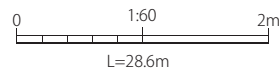
第 77 図 SK・Pit (4115 ~ 4131・4135 ~ 4139) 平面図・断面図



第78図 SK・Pit (4132 ~ 4134 · 4140 ~ 4162) 平面図・断面図



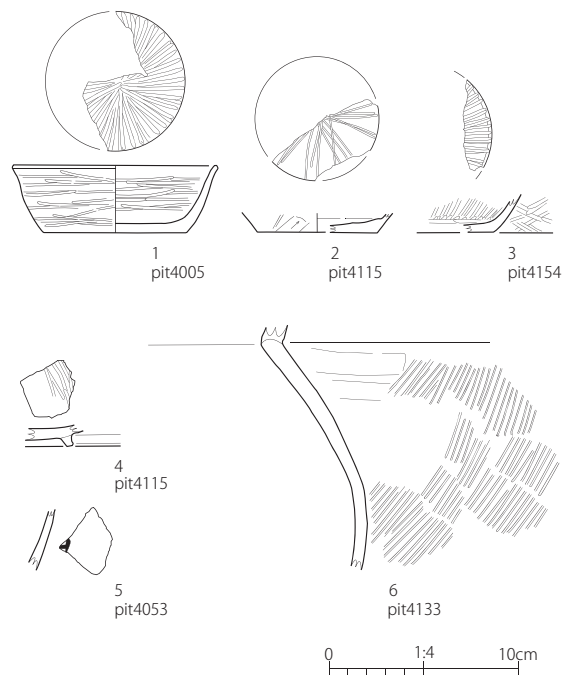
- 1 黒色土 大淵スコリアを含む。
- 2 黒褐色土 ローム質土が少量混ざる。
- 3 暗褐色土 ローム質土が多量混ざる。



第79図 SK・Pit (4163～4181) 平面図・断面図

ピット出土遺物 (第80図)

土師器5点と須恵器1点を図示した。1の駿東型杯は典型的なもので、体部内外面は横位ヘラミガキで調整する。底部内面には放射状ヘラミガキを施し、底部外面は回転糸切後、ヘラ削りを行っている。底径は大きく、器高は低い。2・3は甲斐型杯の底部である。胎土精良で底部内面には放射状暗文がみられる。3は体部外面下端にミガキが施されている。4は土師質の有台杯である。胎土をみると駿東型であるが、底部内面の外周にミガキが入るなど、駿東型杯にはみられないような特徴もみえる。5は駿東型杯の体部片で、外面に墨書がある。文字は判別不能である。6は須恵器の甕と考えられる。焼成が甘く、胎土が赤い。外面にタタキ目が施される。近世のものである可能性も捨てきれない。



第80図 ピット 出土遺物実測図

性格不明遺構

SX4001

遺構 (第70・81図)

位置 調査区北側に位置する。

重複関係 (古) SB4002 → SB4010 → SX4001 (新)

残存状況 南北2.23m、東西1.05mの長方形の遺構で、SB4010の覆土から床面まで掘り込まれる。検出面からの深さは36cmを測り、断面形は逆台形を呈する。

覆土 大淵スコリアを含む黒色土。

出土遺物 図示できる遺物はない。出土遺物には8～9世紀のものと、近世の陶磁器片とがみられる。

時期 出土遺物に近世のものが多いことから、近世の遺構の可能性もある。

SX4002

遺構 (第70・81図)

位置 調査区北側に位置する。

重複関係 (古) SB4005 → SX4002 (新)

残存状況 SB4005北東に検出された、長径1.65m、短径1.40m、深さ46cmを測る楕円形の遺構である。

出土遺物 図示できる遺物はない。一部9世紀のものが混ざるものの、多くが近世の遺物である。

時期 時期不明であるが、近世の遺構の可能性もある。

SX4003

遺構 (第70・81図)

位置 調査区北側に位置する。

重複関係 (古) SX4003 → SX4001・SK4021 (新)

残存状況 SX4001とSK4021に北と南を切られるが、SX4001の下にSX4003の下端がわずかに残っており、南北1.20m、東西1.11mを測る方形の遺構と確認された。検出面からの深さは42cmを測る。

出土遺物 図示できる遺物はないが、出土遺物には9世紀のものも含まれる。

時期 遺構の切り合い関係などから、近世の遺構の可能性が高い。

SX4004

遺構 (第72・82・83図)

位置 調査区南東に位置する。

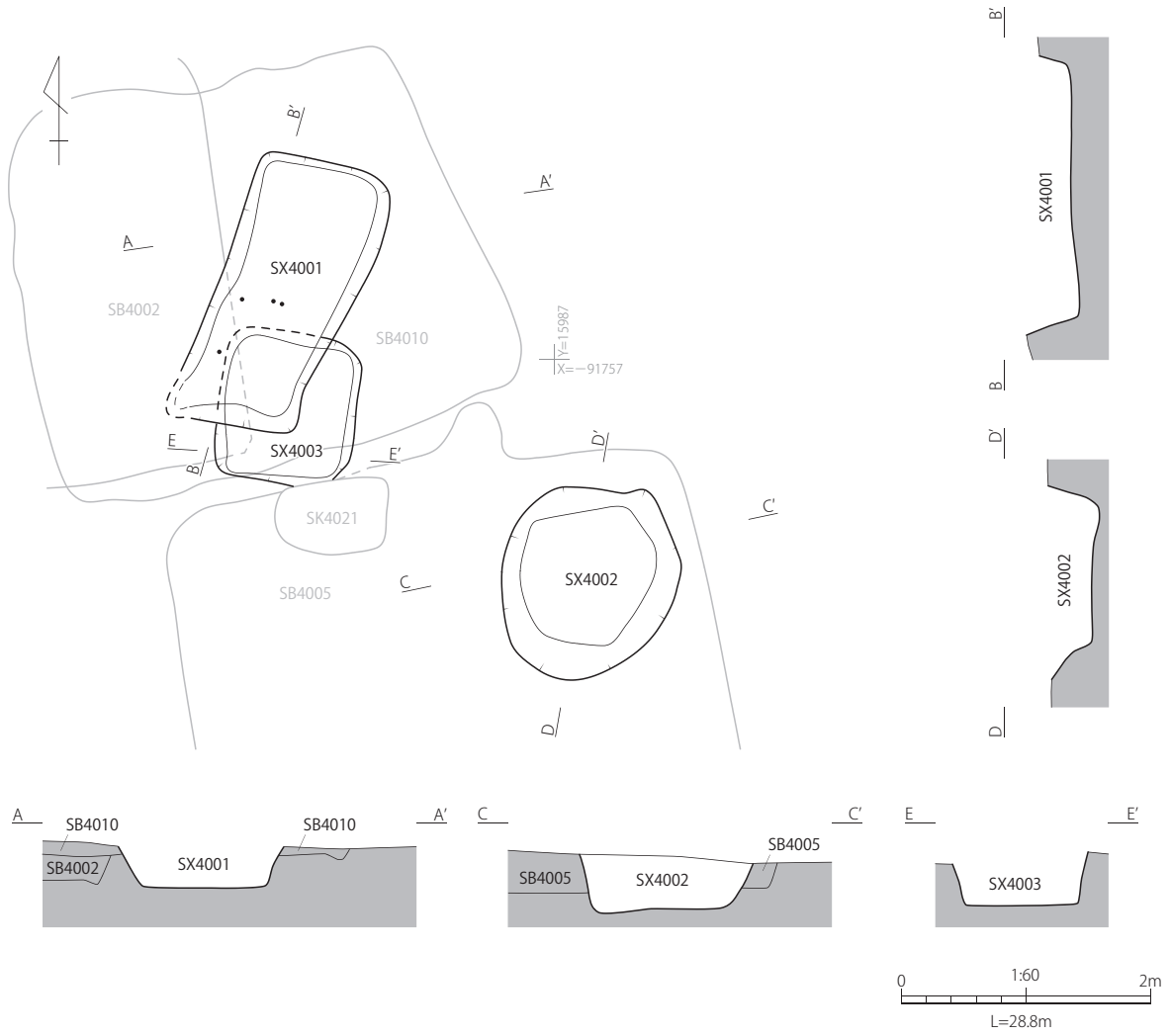
重複関係 なし

残存状況 南北長2.70m、東西幅1.02m、深さ64cmを測り、断面形はV字形の溝状遺構ともいえる。

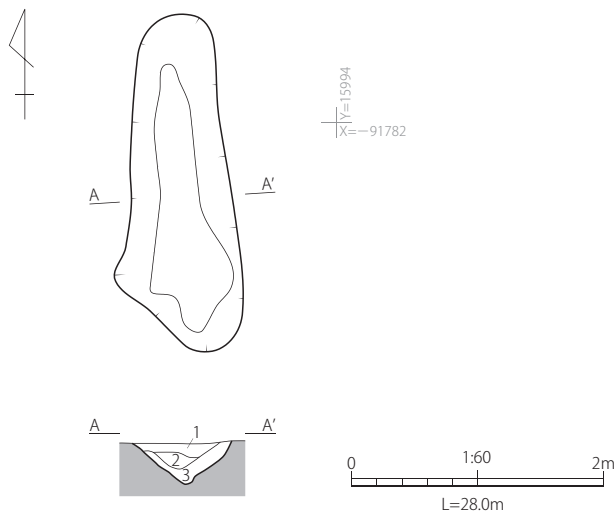
覆土 黒色土・黒褐色土。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

時期 不明である。

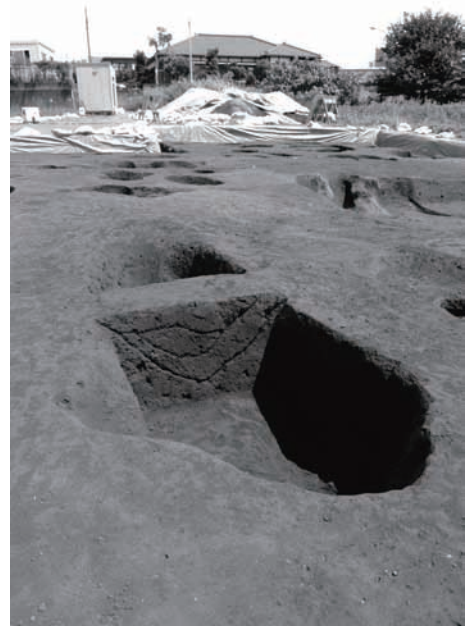


第 81 図 SX4001・SX4002・SX4003 平面図・断面図



- 1 黒褐色 (10YR3/2) しまりややあり、粘性なし。赤色粒子少量含む。 覆土
- 2 黒色 (10YR2/1) しまりややあり、粘性なし。地山粒子少量含む。 覆土
- 3 黒褐色 (10YR3/2) しまりややあり、粘性なし。地山ブロック少量含む。 覆土

第 82 図 SX4004 平面図・断面図

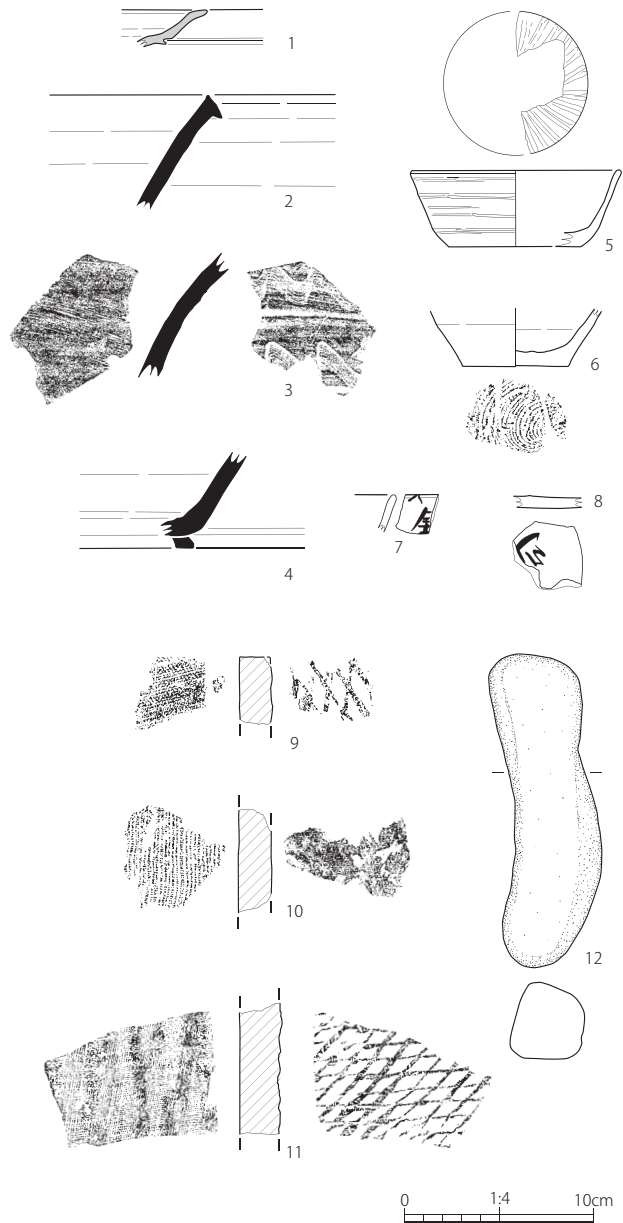


第 83 図 SX4004

第3節 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物（第84図）

灰釉陶器1点、須恵器3点、土師器5点、瓦3点、石製品を1点図示した。1の灰釉陶器は特徴的な高台を有しており、9世紀の所産である。2と3は須恵器の甕であり、3は波状櫛描文が2段施されている。4は器壁が厚く貼付高台を有している。瓶と考えられるが、中世に帰属する可能性がある。5は駿東型坏である。底部外面は、回転糸切痕が微かに残っている。器高が高く、9世紀前半に属するものであろうか。6は土師坏で、底部外面に回転糸切痕が残る。7・8は駿東型坏の破片であるが、いずれも外面に墨書がみられる。文字の判別はできない。9～11は平瓦で、桶巻作りである。いずれも凹面には布目が残り、9と11の凸面には格子目状叩きが施されている。12は編み物石と考えられ、中央のやや上寄りの位置にくびれが見られる。



0 1:4 10cm

第84図 遺構外 出土遺物実測図

第4章 まとめ

第1節 第41地区における遺構の時間的・空間的整理

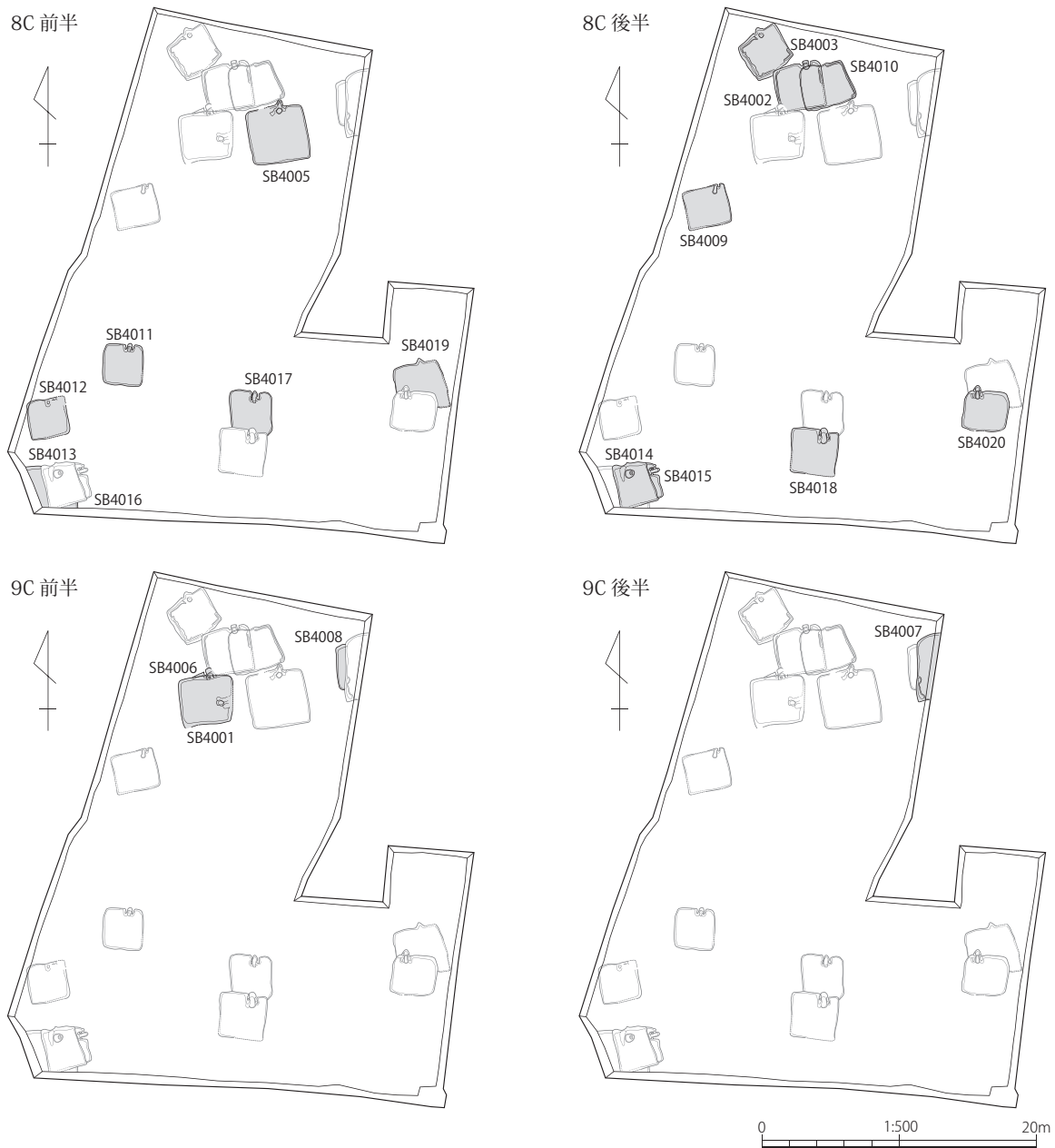
第41地区の調査において竪穴建物跡が19軒検出された。いずれも奈良・平安時代の建物跡であるが、これを時期ごとに見ると以下のように整理される。

8世紀前半 7軒 (SB4005・SB4011・SB4012・SB4013・SB4016・SB4017・SB4019)

8世紀後半 8軒 (SB4002・SB4003・SB4009・SB4010・SB4014・SB4015・SB4018・SB4020)

9世紀前半 3軒 (SB4001・SB4006・SB4008)

9世紀後半 1軒 (SB4007)



第85図 東平遺跡第41地区 時期ごとの建物配置図

第2表 東平遺跡建物跡

遺跡名	地区名	調査面積 (㎡)	建物 軒数	軒数/ 100㎡	5C 後半	6C 前半	6C 後半	7C 前半	7C 後半	8C 前半	8C 後半	9C 前半	9C 後半	10C 前半	10C 後半	11C 前半	時期 不明	未報告
東平遺跡	第3地区	13,570	129	0.95	0	0	0	0	0	35	74	20	0	0	0	0	0	0
	第9地区	2,955	11	0.37	0	0	0	0	0	1	6	1	0	0	0	0	3	0
	第15地区	2,356	23	0.98	0	0	0	0	0	10	2	5	0	4	0	0	2	0
	第16地区	670	19	2.84	0	0	0	3	7	0	2	1	2	0	0	0	4	0
	第20地区	1,559	54	3.46	0	0	0	0	0	18	9	10	9	6	0	0	2	0
	第24地区	545	1	0.18	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	第27地区	120	1	0.83	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	第28地区	1,008	16	1.59	1	0	0	4	2	3	1	0	0	0	0	0	5	0
	第30地区	275	2	0.73	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	第37地区-2次	246	1	0.41	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	第37地区-4次	766	14	1.83	0	0	0	0	0	3	5	0	2	1	0	0	3	0
	第41地区	857	19	2.22	0	0	0	0	0	7	8	3	1	0	0	0	0	0
	第60地区	99	5	5.05	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0
	第83地区	37	2	5.40	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	第2地区	6,435	107	1.66	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計		30,328	383	1.26	1	0	0	7	10	84	109	40	14	11	0	0	21	161
合計軒数に対する時期ごとの割合 (%)					0.34	0	0	2.36	3.37	28.28	36.70	13.47	4.71	3.70	0	0	7.07	

本来であれば、もう少し細かい時期決定からの集落変遷を整理することもできるが、多くの遺構を対象とした通時代的な分析のため、あえて大きな幅で捉えることにしている（佐藤 2016）。以上を元にこれまでに調査された東平遺跡の竪穴建物跡のうち、報告書が刊行されており時期の明らかな404軒を対象に時期ごとの変遷を確認する。7世紀前半・後半に10軒ずつ程度しか確認されていない一方で、8世紀前半に84軒、8世紀後半に109軒と急激に建物数が増加していることが明らかである。その一方で9世紀に入り、その数を急激に減らし9世紀後半では14軒にまで落ち込んでいる。

今回の第41地区の竪穴建物の時期ごとの変遷は上記の整理による東平遺跡の様相と一致しており、これまで理解されてきた集落動態と一致するといえる。

次に建物跡の大きさを整理すると、建物跡の大きさは3.0～3.2m前後が一般的ななかで、8世紀前半のSB4005が4.02×4.29mと比較的大きいことに注意が

必要である。第3地区の分析では長辺、短辺ともに4mを超える建物跡は全体の1割にも満たない程度である。覆土に焼土が多く焼失住居である可能性が指摘されるSB4005からは石製紡錘が出土しているものの、ほかに特殊なものは出土しておらず、規模がひとまわり大きい点から住居スペースとは別の機能を有していた可能性も指摘される。

カマドの位置は北カマドを基本として東カマドがSB4001とSB4015において認められるものの時期ごとの特徴としては捉えられない。

また、空間的には、今回の調査区において敷地中央では竪穴建物跡を含めてピットなどの遺構も確認することができなかった。土地の削平によるものでないとしたら、8世紀、9世紀を通じて、敷地中央付近が広場のような空白のスペースとして利用されていた可能性を指摘することができる。

第2節 東平遺跡第41地区出土土器の全容と特徴

目的

東平遺跡は奈良・平安時代を中心とした集落遺跡であり、出土遺物の多くは土器である。駿河（特に東駿河）における奈良・平安時代の土器研究については、植松章八（1977）以来、瀬川・平林（1983）、佐野（1992・1994）、山本（北川1988）、木ノ内（2002a）らの、厚い研究史がある。それによれば、土師器では、駿東型甕（球胴、長胴）、駿東型坏とされる東駿河に主に分布する土

器に加えて、「甲斐型土器」、「遠江系（水平口縁甕）」が搬入されることで土師器の土器様式を構成している。一方、須恵器では湖西窯を代表とし、助宗窯、花坂窯などの静岡県内の各窯からもたらされる製品に加え、佐野の言う信州系軟質須恵器などで構成される（佐野2010）。さらに灰釉陶器やまれに緑釉陶器などの施釉陶器を加え、土器様式を構成しているといえる。

さて、本節の目的は、今回の調査で出土した土器の

全容を提示することである。通常、発掘調査が行なわれ、整理作業が開始されると基礎整理作業である遺物の洗浄・注記・接合を行い、遺構ごとに出土した土器を並べ、そこから図化可能なもの、または特徴的なものなどを抽出・図化する。そして、事実記載において、「土師器何点、須恵器何点を図化した」と記載する。しかし、これは出土した遺物個々の特徴を示しているものの、総体の特徴を必ずしも示しているとはいえない。1984年にC.T. キーリが指摘した「土器についてはこまごまと記述することはあっても遺物の量については十分表現しない」(1984)とする指摘や、それに対して数量化の実践をした佐々木による指摘(佐々木2015・2017)は、古くて新しい指摘といえる。

そのような指摘に対し、松本(2013)は下総国府やその周辺遺跡において、土師器と須恵器の比率、土師器と須恵器の器種構成、須恵器の器種ごとに見られる産地構成の変遷などを数値化した。この研究は、「収蔵されたままでほとんど活用されることのなかった未実測の土器の小破片も生かしてデータを収集し、歴史復元のために精力的に古代土器の研究を進めてきた」と評されるように(高橋2015)、遺跡のもつ情報を出来るだけ吸い上げるといふ考古学の原点に立ち返った研究方法ともいえる。それにより、遺跡ごとの性格、流通など多様なアプローチに対し、しかも時期ごとに答えていける可能性を持っている。

本節では、このような視点に立ち、東平遺跡第41地区において出土した土器の全容をなるべく示すこととしたい。

分析の方法

分析方法はいたってシンプルである。接合が完了した遺物に対して、石膏などの復元作業を行なう前に以下の項目を一覧表にすることである。

まず、遺構ごとに土師器、須恵器、灰釉陶器に分け、器種分類をした後、さらにこれまでの研究で明らかとなっている型式ごとに細分する方法である。土師器の坏であれば「駿東型坏」、「甲斐型坏」、甕であれば、「駿東型球胴甕」、「駿東型長胴甕」から始まり、「甲斐型甕」、「遠江系甕」などである。これは小破片にいたるまで認識可能なものは分類し、さらに破片数、重量、口縁部や底部片から想定される最低個体数をカウントする。これにより、遺構ごとに出土した土器の総点数を把握するととも

に、抽出し、図化しただけでは示すことの出来ない特徴を示すことが出来る。胎土による須恵器の生産地推定は、不確実性を多く含んでしまうことから、今回は土師器の胎土分類を含めて行わなかった。

須恵器や灰釉陶器については窯生産であり、その分類については鈴木(2005)などを使用するが、土師器については分類する上での特徴を改めて以下に整理することとする。

土師器

駿東型坏 底部平底の箱形坏で、底部から口縁部にかけて直線的に広がる。内外面にヘラミガキを施すものが多いが、後半段階では省略するものも目立つ。

甲斐型坏 底部平底の箱形坏で、底部から口縁部にかけて直線的に広がる。器壁が薄く、体下半にヘラケズリを施す。胎土がきめ細かく特徴的で、白色からやや薄黄色を呈する。

丸底坏 今回の分析では、駿東型坏、甲斐型坏のような平底坏以外のものを一括した。破片のみではそれらを細分することが出来ないため、異なる系譜のものも存在する可能性を認識しつつ、一括した。

蓋 土師器の蓋は須恵器の摘み蓋を模倣したものや、環状紐のものが混在している可能性があるが、今回は一括した。

駿東型球胴甕 木葉痕を残した底部平底で、丸みをもった胴部とやや厚みをもった口縁部をもつ。口唇部内側をやや肥厚させる。外面はナナメ方向のハケ目調整の後、ヘラミガキが施されることが多い。胎土は粒子のやや粗い胎土を使う。

駿東型長胴甕 直径の小さな平底底部と細くややバランスを欠く胴部からなる。口縁部は外反するのが特徴。外面の胴下半に二段階程度の成形時の乾燥工程に伴うヨコナデが施される。胎土は駿東型球胴甕とことなりやや砂っぽい。

遠江系水平口縁甕 直径の小さなやや丸みをもつ底部で、長胴の細い胴部からなる。カマドに設置することを前提としたためか、バランスを欠き自立しないこともある。口縁部は水平方向に広がる。器壁が薄く、胎土には金雲母を多量に含む。

甲斐型甕 胎土に雲母や白色粒子を多量に含み、外面タテ方向、内面横方向のハケ目調整を施す長胴の甕。器壁が厚い。

鍋 口縁部径が非常に大きく、胴部が低い。口縁部形態や胴部調整技法の違いから駿東型球胴甕系のものと駿東型長胴甕系に分けられるが今回は数も限られることから一括した。

分類結果

出土土器の総体 東平遺跡第41地区の調査では7873点の土器が出土した。内訳は土師器7078点(90%)、須恵器781点(10%)、灰釉陶器5点(1%以下)である。検出された遺構が8世紀を中心として9世紀前半までが多く、灰釉陶器の出土数の少なさは、東駿河への灰釉陶器の流入する時期の問題といえる。破片数と重量から見た土師器と須恵器の出土比率はあまり変わらないが、最低個体数から捉えられる比率は2:1ほどの差しかない。これは、土師器の甕など煮沸具の破片数は多いものの個体数としてはさほど多くないことを示している。

器種構成 坏や蓋からなる供膳具と甕や壺などの煮沸・貯蔵具の出土傾向を比べると破片数の上では供膳

具1303点と煮沸・貯蔵具5895点と大きな差があるが、最低個体数はそれぞれ292点、286点とほぼ同数といえる。これまでの報告書でもこういった数が示されることはあったが、それが図化されたものの集計なのか、図化していないものも含めてなのか、また、破片数なのか、重量なのかについて明示されていないものもあり、それらと直接比較する事はできない。いずれにせよ、煮沸具・貯蔵具の個体数が比較的が多いことには注意が必要である。坏を大部分とする供膳具について注目すると土師器853点、須恵器447点が出土しており、個体数ではそれぞれ128点、161点と須恵器のほうが多いことから、供膳具に限定すれば須恵器は土師器を補完する以上の役割を果たしているといえる。

時期ごとのそれぞれの割合を一覧表として作成した。分析対象数があまり多くなく、現れた数字にどれほどの信用性があるか微妙だが、以下の点について指摘することが出来る。

第3表 東平遺跡第41地区建物跡出土土器の分類一覧表

時期	8c前半				8c後半				9c前半				9c後半				全体			
	SB4005	SB4011	SB4012	合計	SB4002	SB4003	SB4009	合計	SB4001	SB4006	SB4008	合計	SB4007	合計	SK・Pitなどを 器種不明を含む。	合計				
建物跡	SB4013	SB4016	SB4017	SB4019	SB4010	SB4014	SB4015	SB4018	SB4020											
種別	土師器	須恵器	灰釉陶器	合計	土師器	須恵器	灰釉陶器	合計	土師器	須恵器	灰釉陶器	合計	土師器	須恵器	灰釉陶器	合計	土師器	須恵器	灰釉陶器	合計
破片数(個)	933	76	1	1010	2608	204	0	2812	1625	105	0	1730	370	39	0	409	7087	781	5	7873
割合(%)	92	8	0		93	7	0		94	6	0		90	10	0		90	10	0	
重量(g)	11344	844	7	12195	19283	1696	0	20979	11231	1072	0	12303	1601	304	0	1905	50615	7345	584	58544
割合(%)	93	7	0		92	8	0		91	9	0		84	16	0		86	13	1	
個体数(個)	45	43	1	89	98	77	0	175	57	22		79	25	17	0	42	405	233	5	643
割合(%)	51	48	1		56	44	0		72	28	0		60	40	0		63	36	1	

時期	8c前半						8c後半						9c前半						9c後半						全体 (SK・Pitおよび器種不明含む。)					
	供膳具			煮沸・貯蔵具			供膳具			煮沸・貯蔵具			供膳具			煮沸・貯蔵具			供膳具			煮沸・貯蔵具			供膳具			煮沸・貯蔵具		
種別	土師器	須恵器	灰釉陶器	土師器	須恵器	灰釉陶器	土師器	須恵器	灰釉陶器	土師器	須恵器	灰釉陶器	土師器	須恵器	灰釉陶器	土師器	須恵器	灰釉陶器	土師器	須恵器	灰釉陶器	土師器	須恵器	灰釉陶器	土師器	須恵器	灰釉陶器	土師器	須恵器	灰釉陶器
破片数(個)	118	64	1	784	9	0	246	158	0	2216	25	0	137	71	0	1460	34	0	93	32	0	234	6	0	853	447	3	5698	196	1
割合(%)	12	7	0	80	1	0	9	6	0	84	1	0	8	4	0	86	2	0	25	9	0	64	2	0	12	6	0	79	3	0
割合(%)	19			81			15			85			12			88			34			66			18			82		
重量(g)	428	662	0	10892	113	0	548	1266	0	18425	378	0	1055	469	0	10134	603	0	556	189	0	989	90	0	3671	3562	24	45937	3022	6
割合(%)	4	5	0	90	1	0	3	6	0	89	2	0	9	4	0	83	5	0	30	10	0	54	5	0	7	6	0	82	5	0
割合(%)	9			91			9			91			12			88			41			59			13			87		
個体数(個)	19	35	0	25	6	0	30	62	0	57	10	0	16	17	0	40	5	0	16	12	0	8	4	0	128	161	3	236	50	0
割合(%)	22	41	0	29	7	0	19	39	0	36	6	0	21	22	0	51	6	0	40	30	0	20	10	0	22	28	1	41	9	0
割合(%)	64			36			58			42			42			58			70			30			51			49		

9世紀に入ると土器の中に占める土師器の個体数の割合が高くなるという傾向を指摘できる。破片数だけを比べると8世紀から9世紀にかけて、土師器9に対して須恵器1という割合に大きな変化はない。ただし、個体数の割合にすると8世紀には土師器と須恵器の個体数はほぼ同じであったにもかかわらず、9世紀に入り、土師器個体数7に対して、須恵器個体数3となる。

これは、9世紀に入り供膳具における土師器の個体数が増加したという後述の要因によるものと考えられる。それまで土師器供膳具1に対して須恵器供膳具2の割合であったものが、9世紀にはほぼ同じ割合で出土するようになる。その背景には8世紀後半頃からみられる駿東型環が9世紀に入り、急激に増加することに起因すると考えられる。

木ノ内(2002a)は8世紀後半に甲斐型環の供給から駿東型環の創出がなされ、これをもって、駿東地域が「律令的土器」生産体制に組み込まれ、律令的生活様式を享受するに至ったと考えた。9世紀に入って土師器における供膳具の増加は、この考えと矛盾するものではなく、増加する前段階の導入時期の様相として評価できる。

第3節 東平遺跡における墨書土器の特徴

今回の調査では墨書10点、刻書2点(1個体)が認められた。これまで木ノ内(2002b)により三日市廃寺跡を含む東平遺跡において123点の墨書土器が報告されている。当時、富士市内において165点の墨書土器が認められたことから、大部分が東平遺跡からの出土といえる。その後、宮添遺跡の調査成果の公表や(佐藤2012)、新たな発掘調査により、現在、富士市内において369点の墨書土器が認められる。東平遺跡第16地区における99点が最多数であることに変更はないが、宮添遺跡E地区において43点、中桁・中ノ坪遺跡において56点が出土していることが近年で新たに加わった成果といえる。その出土時期は、9世紀から10世紀を中心として、8世紀まで遡る例が若干存在する。

本調査区における墨書は吉祥句である「大」や「力」が認められるのみで、種類や数量などは決して豊富とはいえない状況にあるが、ここでは東平遺跡における墨書土器を整理してみることにする。

東平遺跡の墨書土器において人名と推測されるものは

次に環について見ると、8世紀後半の主体は丸底環で、駿東型環や甲斐型環は各遺構1個体から2個体程度しか出土しない。それが9世紀に入り甲斐型環の数はあまり変わらないものの駿東型環を5～10個体を有するようになる。8世紀後半として集計しているSB4009は駿東型環6個体が認められるが、8世紀末の遺構と考えられ、その様相は9世紀の様相に近いものと評価できる。

甕は8世紀後半に入り駿東型長胴甕が増加しており、この傾向は9世紀を通じて見られる。同じように遠江系水平口縁甕も増加していることや形態の特徴からも、遠江系の影響で駿東型長胴甕が成立、増加したと推察される。

須恵器の坏身、坏蓋は遺構ごとの出土数に影響なくほぼ同じ割合で認められる。これは当然、坏身と坏蓋がセットで受容されていることを示している。

以上、東平遺跡第41地区出土土器の全容と数量表示の目的を果たしてきた。

このような分析は、遺構・遺物の遺存状況に大きく左右される可能性が高いが、一遺跡だけを行なっても有効ではなく、今後、通時代的、広範囲においておこなっていかなければならない。

「若當」(第2地区、第20地区)、「口麻呂」(第16地区)のみで地名を表すものに「布自」(第27地区)がある。また、施設名を示すものに「厨」「舎カ」「寺」「倉カ」などがあるが、官司・官職名などを示すものは現在までに確認されていない。もっとも多く出土しているのは方角・数字などを示すものか吉祥句と呼ばれるものであり、いずれも「一文字墨書」と呼ばれるものである。東平遺跡において最も建物跡が見つまっている第3地区や、本調査区がある遺跡北側では墨書土器は建物軒数の割には少ない傾向にあり、一方で三日市廃寺跡(東平遺跡第16地区)に近い範囲においては比較的、墨書土器がまとまる傾向にある。今回の調査区でも建物跡19軒に対して10点の墨書土器というのは、郡衙としては少ない傾向といえよう。一方で、後述するように、鑿や鉄製品などの手工業生産に係る遺物が遺跡北側で多く見つまっているというのは対照的であり、郡衙内における地点ごとの役割の差を示している可能性が高い。

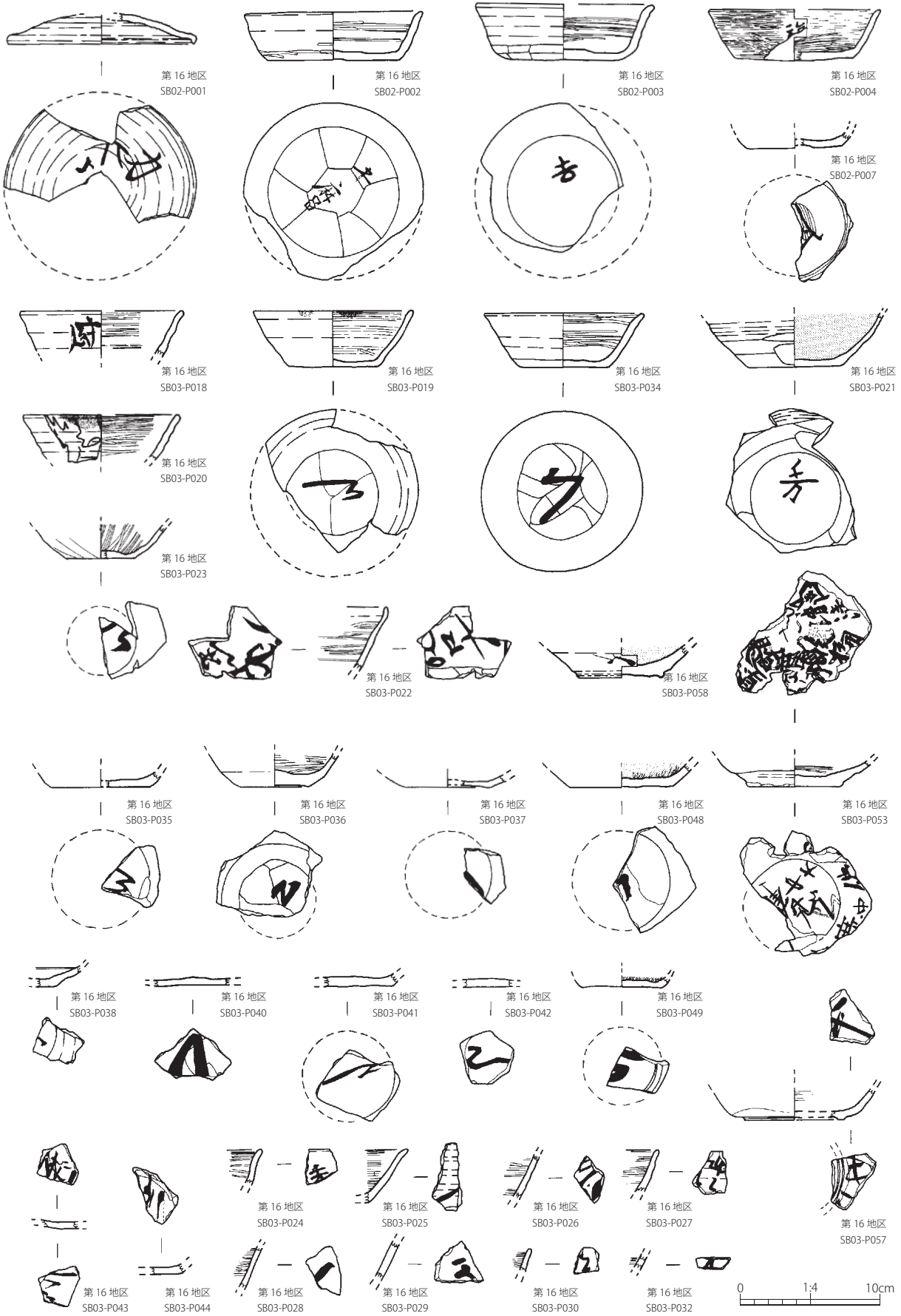
第4表 富士市内遺跡出土墨書土器 地区別一覧表

遺跡名	数量	釈文等	文献
東平遺跡第2地区	6	若當、年、道カ (刻書3点:大、道カ)	G
東平遺跡第3地区	6	万、冬カ、文カ (刻書1点:万)	G
東平遺跡第14地区	4	てカ、乙カ	H
東平遺跡第15地区	4	油、秋、麻カ	U
東平遺跡第16地区	99	力□□、□麻呂、□□大、少□、厨、舎カ、倉カ、寺、寺カ、て、り、ク、乙カ、清・大・中・九・佛、吉、福カ、 十万、千万、中カ、可カ、	L
東平遺跡第20地区	26	若當、申太、主人カ、主、木、持カ、中、田、好	f
東平遺跡第27地区	1	布自	L
東平遺跡第37地区	3	中	N・R
東平遺跡第41地区	10	大、力、力カ (刻書2点:足)	h
東平遺跡第55地区	5	身、身カ、てカ	c
東平遺跡第64地区	3	具	d
コーカン畑遺跡第1地区	2	革カ	S
宇東川遺跡A地区	14	宮カ、寺、布、一生、鳥カ、五十、乙カ、可 (刻書2点:鳥カ)	H・Y
宇東川遺跡L地区	4	毛	K
宇東川遺跡P地区	1	川	P
横沢古墳	1	継	H
沖田遺跡第87・92次調査地点	1	判読不能	Z
沖田遺跡第88次調査地点	2	富	I
沖田遺跡第121次調査地点	7	呆	X
岩倉B遺跡第1地区	5	澤カ	Z
宮添遺跡A地区	1	判読不能	a
宮添遺跡B地区	3	秋	a
宮添遺跡D地区	3	吉	T
宮添遺跡E地区	43	弓カ、中、吉カ、(刻書5点:中)	W
宮添遺跡G地区	1	判読不能	Q
宮添遺跡H地区	10	弓カ	V
三新田遺跡A地区	13	廣足、三枝□□、三、天?、己?、土?、去?、(刻書2点:長、休)	L
三新田遺跡D地区	1	十	J
三日月庵寺跡(宮の上C地区)	4	厨、て、万 (刻書1点:万カ)	H・L
舟久保遺跡第1地区	1~	倉	H
舟久保遺跡第58地区	2	中	g
浅間林遺跡第4次	3	矢	C
浅間林遺跡	3	占、内カ (刻書2点:内、吉カ)	B
中桁・中ノ坪遺跡第1地区	56	主、貞、寺カ、仁、方、去、七中、四万、二万、十、真カ、中、田 (刻書2点:判読不能)	M
中桁・中ノ坪遺跡第4地区	7	吉、尺	D
中桁・中ノ坪遺跡第6地区	1	富	d
中桁・中ノ坪遺跡第7地区	5	家、里	e
中桁・中ノ坪遺跡第11地区	1	田カ	e
中野遺跡第2・3次調査	1	判読不能	A
中野石切場遺跡	2	大万、成	E
天間代山遺跡	1	力	F
柏原遺跡第3地区	1	判読不能	b
杯宜ノ前遺跡第1地区	3	大吉、安、仵	O

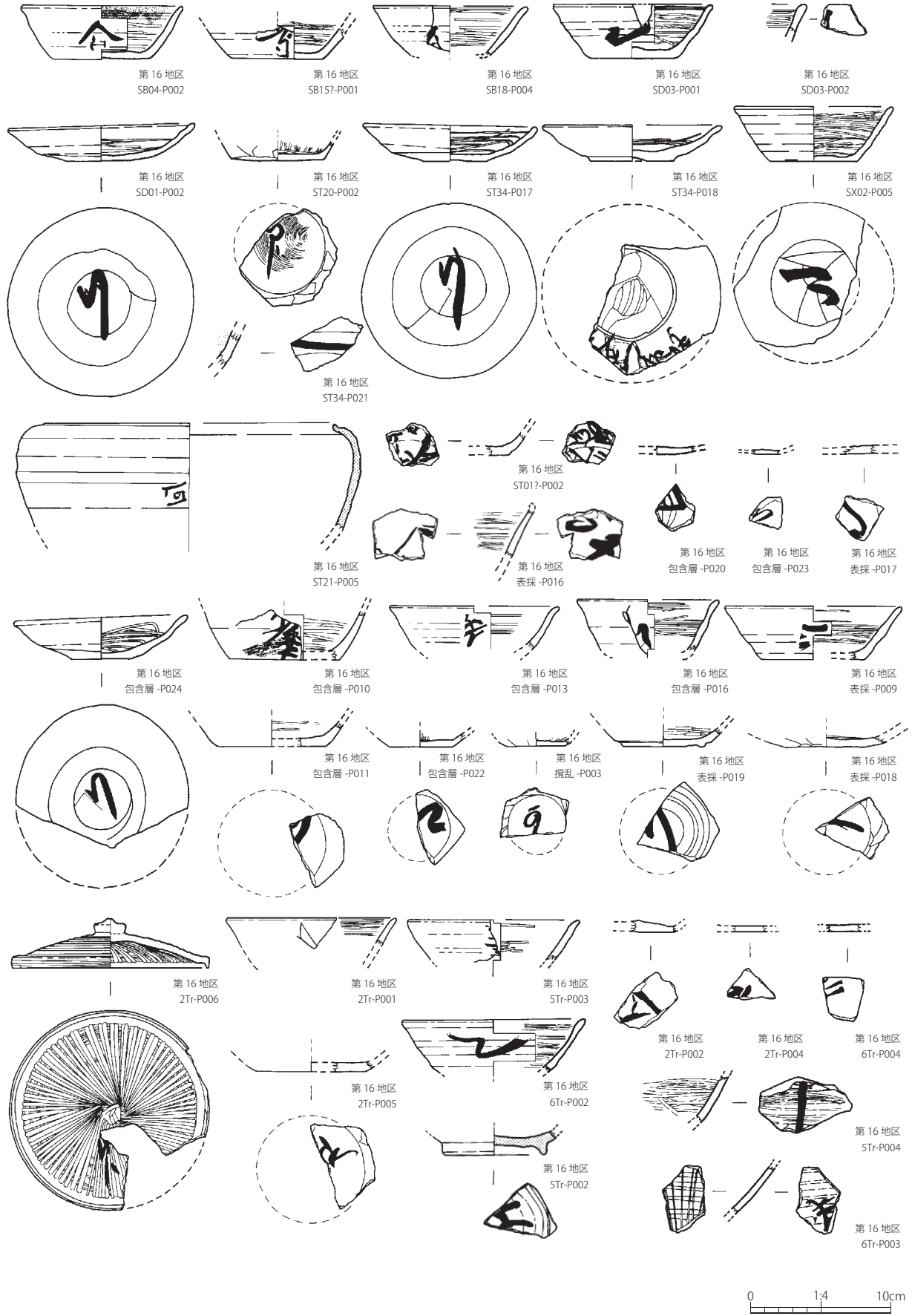
- 【文献】 A 静岡県企業局・富士川町教育委員会1984『中野遺跡』
 B 静岡県静岡土木事務所・富士川町教育委員会1981『浅間林遺跡発掘調査概報 昭和55年度』
 C 静岡県静岡土木事務所・富士川町教育委員会1991『浅間林』富士川町文化財調査報告書 第15集
 D 静岡県埋蔵文化財センター2013『中桁・中ノ坪遺跡』静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第24集
 E 富士川町教育委員会・株式会社ホテイフーズコーポレーション1997『中野石切場遺跡』富士川町文化財報告書 第19号
 F 富士市教育委員会1977『天間代山遺跡』
 G 富士市教育委員会1981『西富士道路(富士地区) 岳南広域都市計画道路田子浦臨港線埋蔵文化財発掘調査報告書 東平』
 H 富士市教育委員会1992『東平遺跡第3次調査』富士市埋蔵文化財発掘調査報告書 第3集
 I 富士市教育委員会2000『沖田遺跡』
 J 富士市教育委員会2000『三新田遺跡(D地区) 発掘調査報告書』
 K 富士市教育委員会2001『宇東川遺跡L地区』富士市埋蔵文化財発掘調査報告書 第6集
 L 富士市教育委員会2002『東平遺跡 第16地区(三日月庵寺跡)、第27地区発掘調査報告書』
 M 富士市教育委員会2004『中桁遺跡』
 N 富士市教育委員会2008『平成17・18年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』
 O 富士市教育委員会2008『杯宜ノ前遺跡』
 P 富士市教育委員会2009『宇東川遺跡』
 Q 富士市教育委員会2009『宮添遺跡Ⅱ』
 R 富士市教育委員会2009『東平遺跡』
 S 富士市教育委員会2010『コーカン畑遺跡』
 T 富士市教育委員会2010『宮添遺跡Ⅲ』
 U 富士市教育委員会2010『東平遺跡 第15地区』
 V 富士市教育委員会2010『平成14・20年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』
 W 富士市教育委員会2011『宮添遺跡Ⅳ』
 X 富士市教育委員会2011『富士市内遺跡・伝法 国久保古墳 埋蔵文化財発掘調査報告書』
 Y 富士市教育委員会2012『宇東川遺跡A地区』富士市埋蔵文化財調査報告 第50集
 Z 富士市教育委員会2012『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書』富士市埋蔵文化財調査報告 第51集
 a 富士市教育委員会2012『宮添遺跡V』富士市埋蔵文化財発掘調査報告書 第52集
 b 富士市教育委員会2012『富士市内遺跡発掘調査報告書 -平成11・12年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第53集
 c 富士市教育委員会2013『富士市内遺跡発掘調査報告書 -平成22・23年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第54集
 d 富士市教育委員会2015『富士市内遺跡発掘調査報告書 -平成24・25年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第57集
 e 富士市教育委員会2017『富士市内遺跡発掘調査報告書 -平成26・27年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第60集
 f 富士市教育委員会2017『東平遺跡 第20地区』富士市埋蔵文化財調査報告 第61集
 g 富士市教育委員会2017『富士市内遺跡発掘調査報告書 -平成28年度-』富士市埋蔵文化財調査報告 第62集
 h 富士市教育委員会2018『東平遺跡 第41地区』



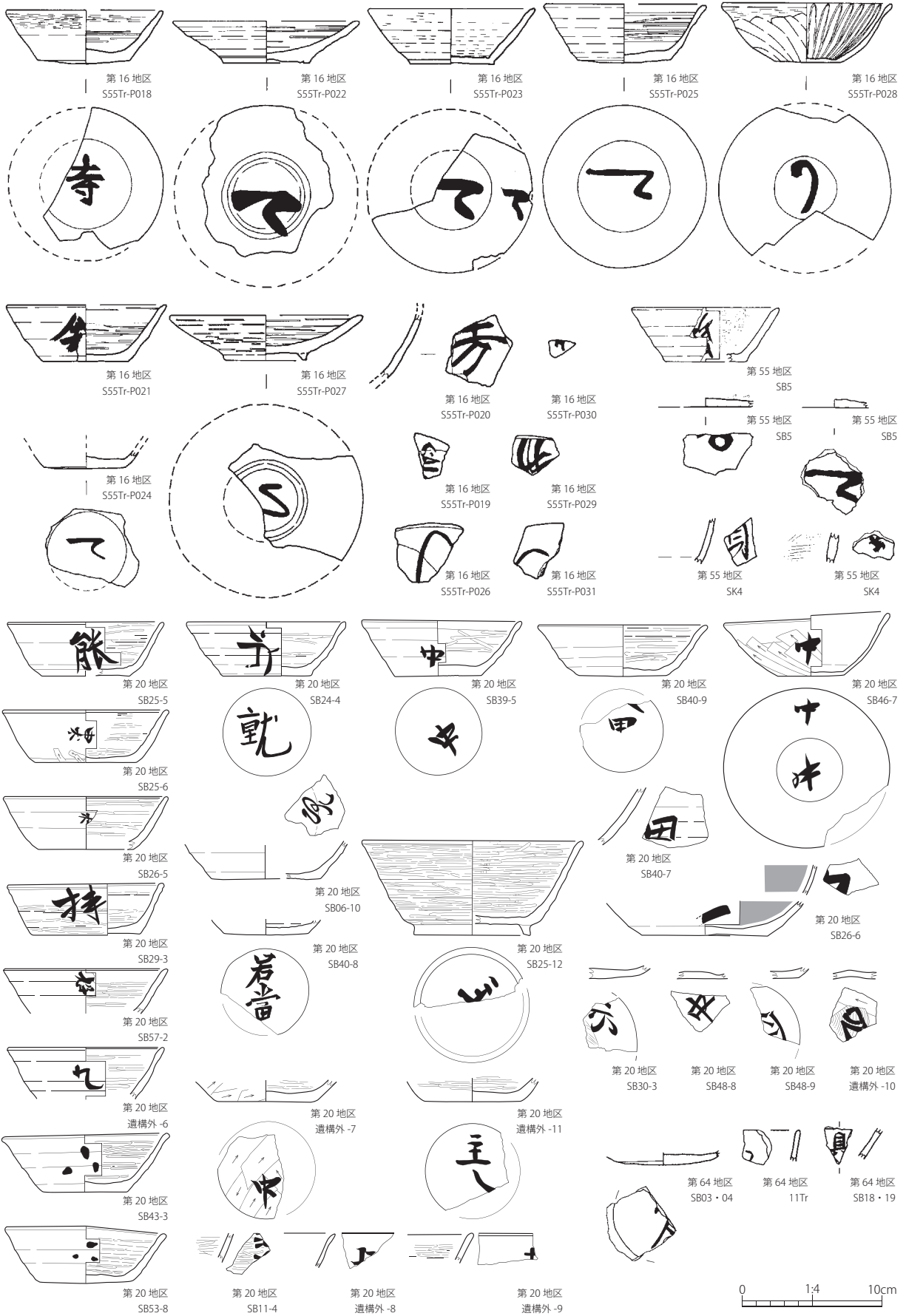
第86図 東平遺跡出土墨書土器実測図一覧 1



第87図 東平遺跡出土墨書土器実測図一覽 2



第88図 東平遺跡出土墨書土器実測図一覧 3



第89図 東平遺跡出土墨書土器実測図一覽 4

第4節 SB4001 出土の鑿の位置づけ

はじめに

9世紀前半に位置づけられるSB4001から鑿が出土した。東側にカマドを有する建物の北西隅付近において、刃先をやや上方にむけた状態で床面から13cm程度浮いた状態で出土した。北側のSB4006を切っているものの床面の深さなどから、他からの混入は想定されないことから9世紀後半に廃棄されたものとして評価できる。

古墳時代における鑿についてはこれまでに多くの研究がなされているものの(古瀬1991)、それは古墳の副葬品としての研究である。鉄製工具が使用可能な状態で古墳以外の遺構から出土することはあまりなく、奈良時代以降、鑿に限らず工具全般に対する考古学的分析はさほど多くない。特に平安時代以降、研究資料として絵画などの文献資料が加わることも考古学的研究の低調さに影響を与えている。

「大工道具」に対して、建築学的視点と出土品などからの考古学的視点との複眼的アプローチをした渡辺晶の研究(2004)によると、奈良時代には斧・鋸・鑿・鉋(ヤリガンナ)という基本編成が確立していたと考えられている。以下、本資料の位置づけを出発点として富士郡家としての東平遺跡の特質を整理していくこととする。

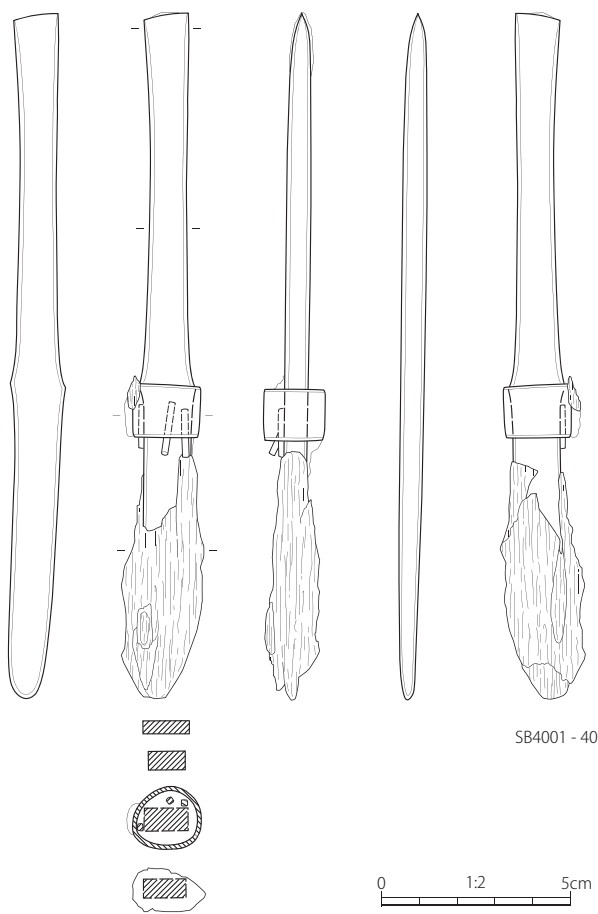
資料の基礎データ

鑿の分類を行う場合、1.基本構造(着柄方法)、2.平面形、3.側面形、4.刃部形態(縦断面、横断面)などの属性がある(渡辺2004)。本資料は1.茎式、2.無肩、3.無段、4.両刃・長方形形状と整理される。法量は、穂長9.8cm、柄長8.3cmを測る。やや三角形に突出した関から刃先にむかって一度、細くなりながら、刃先付近で若干広がる。刃幅は1.2cm、刃元厚0.5cmを測る。関部には幅1.4cm、断面直径1.6~1.8cmの鉤(口金)が残存する。鉤の安定を目的としてか、茎尻側から幅1.5mm程度の木製のクサビが3本打ち込まれている。柄部分には木質が残存するが、クサビは木質の上面に観察されることから、茎に木製の柄を装着した後に柄と鉤の間に打ち込まれたものと考えられる。これが、製作時からの造作なのか、使用中のメンテナンスによるものなのかは明らかではないが後者の可能性が高い。柄を構成する木質は茎尻まで残存し、使用時の柄の長さは明らか

ではない。関付近の木質の残存状況が悪く、茎尻部分が良好に残存しているのは、本来の形状を少なからず反映している可能性が高い。

使用方法

古代の建築用主要道具として確立している斧・鋸・鑿・鉋はその目的に合わせて多くの種類で構成されていたと考えられる。渡辺によれば(2004)、伐採には斧(鉄斧)、製材用に鑿、部材表面荒切削用に斧(横斧)、仕上げ切削用に鉋(ヤリガンナ)が使用され、加えて絵画資料ではあまり描かれていないものの刀子が細部加工の仕上げとして使用されていたと考えられている。鑿は打割製材用と部材接合加工用としての使用が考えられる。現在、鑿といえば部材加工用のイメージがあるが、14世紀の大型縦挽鋸の出現とその後の定着までは打割製材用としての機能が絵画でも多く認められる(渡辺2004)。



第90図 SB4001 出土 鑿

SB4001 から出土した資料は茎式で刃先厚 0.5cm を測ることから、荒加工用の鑿と位置づけられ、打割製材の際に使用されたものと考えられ、中世の番匠のような技術者集団が存在していたことを想定させる。加えてそれらの道具を作る鍛冶集団も存在した可能性が高い。

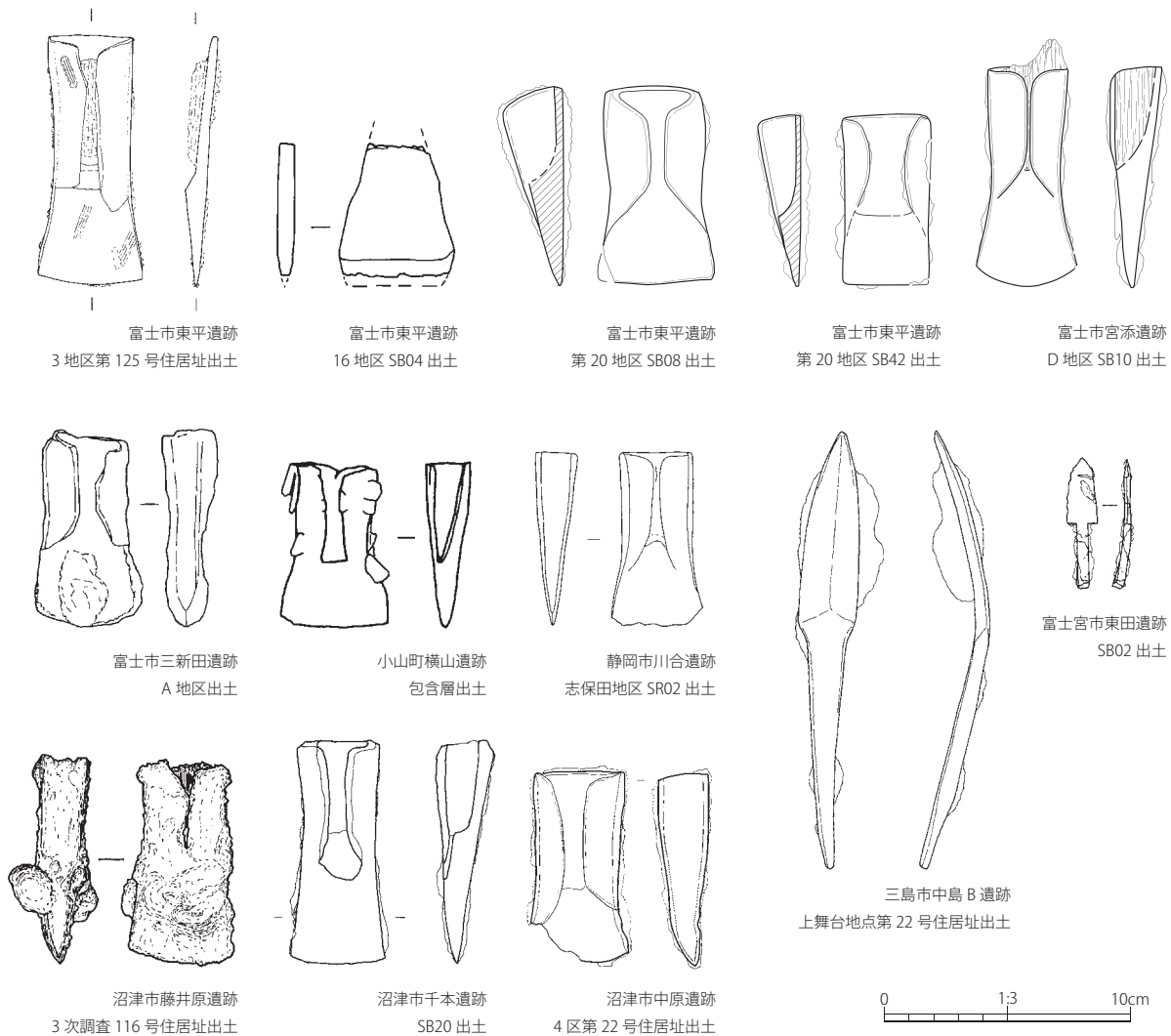
東平遺跡における建築用工具

東平遺跡では、今回出土した鑿以外にも建築用工具として斧が4点出土している。第16地区SB04からは9世紀前半のものが、第20地区では8世紀末から9世紀前半にかけてのSB08・SB42から1点ずつ出土している。第3地区第125号住居址のものは出土土器から9世紀前半頃と捉えられる。その中で特に注目されるのが、第3地区第125号住居址の資料である。

第125号住居址は一辺5m前後とこの時期では比較的広い規模を有し、調査所見から焼失建物と捉えられ

る。そこから豊富な鉄製品が出土しており、斧もその一部なのである。もっとも多く出土したのは鉄鑿で30点、その他、刀子3点、鉄製紡錘車1点、鎌1点、不明鉄製品1点が出土している。報告書では30点という鉄鑿の出土に注目し、西平1号墳から出土した蕨手刀や腰帯具を結びつけ、東国経営のための武装集団の統括者の姿をそこに想定している。その可能性については完全に否定できないものの、別に述べるように鉄製紡錘や全長23.8cmを測る建築用工具と考えられる刀子や斧などへの再評価をしなければならない。

駿河において7世紀以降の刀子は142点が認められる。その中から、刃部長について調べてみると、8cm以下の小型品、10～12cm程度の中型品、12cm以上の大型品に区別される。その中で東平遺跡第3地区第125号住居址の刀子は駿河において最長の資料であるこ



第91図 鉄斧・鉋 集成図

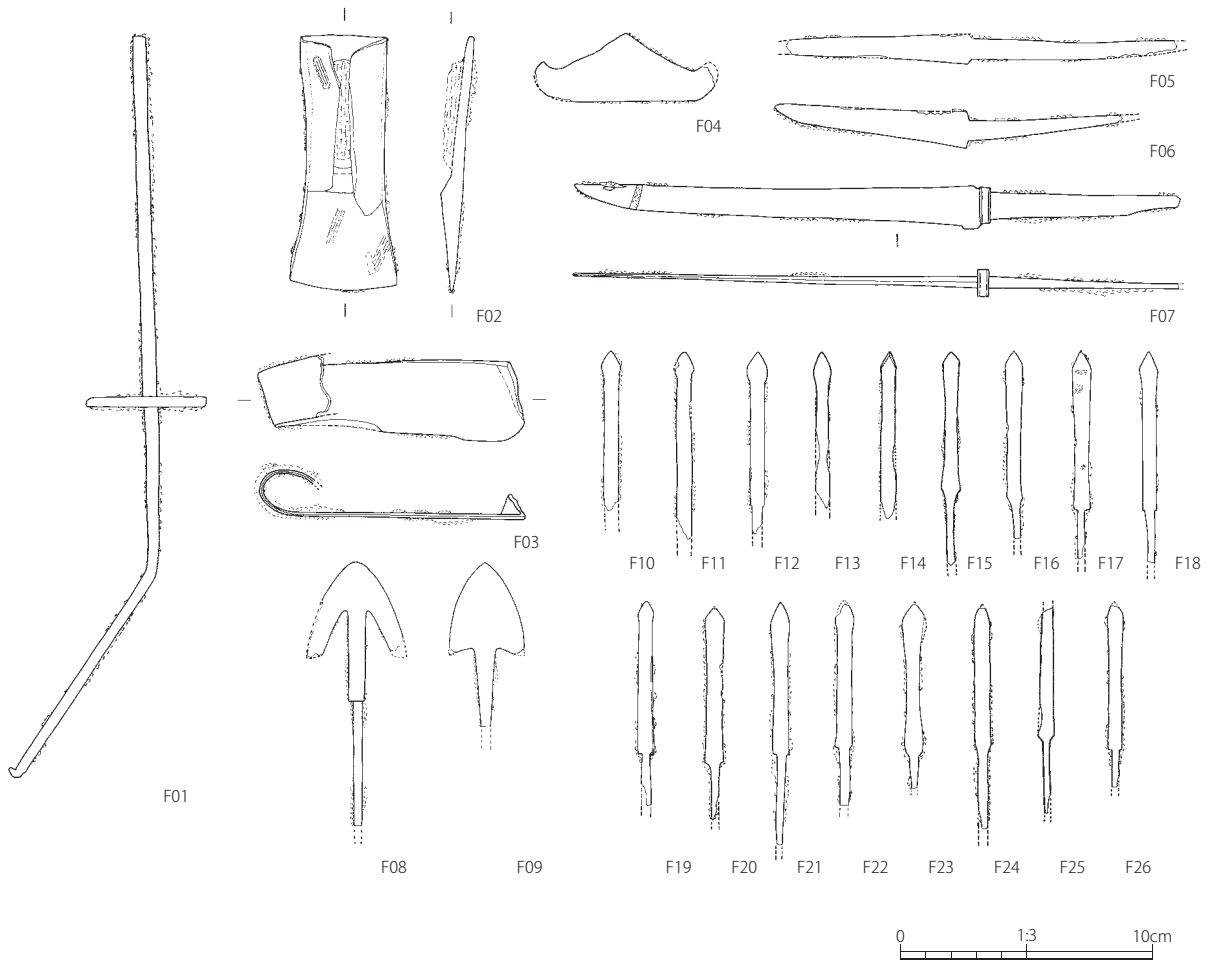
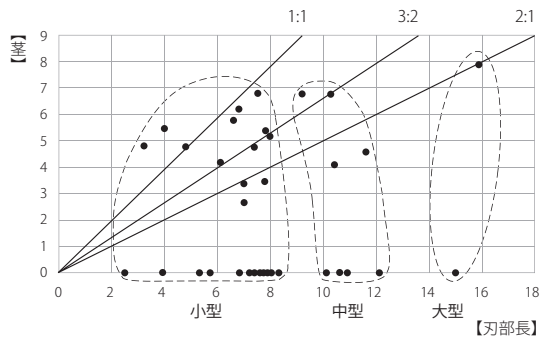
とが分かる。また、駿河では、刃部長、茎長は 2:1、3:2、1:1 に区別される可能性が高く、東平遺跡の資料は 2:1 となる。

また、7世紀以降の鉄斧は駿河において11点が知られるが、そのうち4点が東平遺跡から出土しており、一つの遺跡から複数出土する唯一の遺跡であることも東平遺跡の特殊性を物語っている。

第125号住居址は鎌や紡錘車などを持つことから、建築に携わる者としてのみ評価できないことから、鍛冶工人の工房もしくは保管建物としての姿をこの建物に想定できる。豊富な鉄鑿は武器としての評価よりも新たに鉄生産をするための再利用鉄素材として保管されていたものとも考えることもできる。第125号住居址の北東隣の第89号住居址からは鉄鑿1点とともに鞆の羽口が出土していることも前述の考えと矛盾しない。加えて、第125号住居址の大きさが4.99×5.3mと東平遺跡においてこれまでに調査された中で最大の大きさであることもこの建物の特殊性を示しているといえる。

以上のように、9世紀前半頃の東平遺跡には、SB4001から出土した鑿などの建築工具を使いこなす集団とそれを支える鍛冶集団が集落内に存在し、郡家としての生産活動を支えていた可能性が高い。

第5表 駿河における刀子の分類

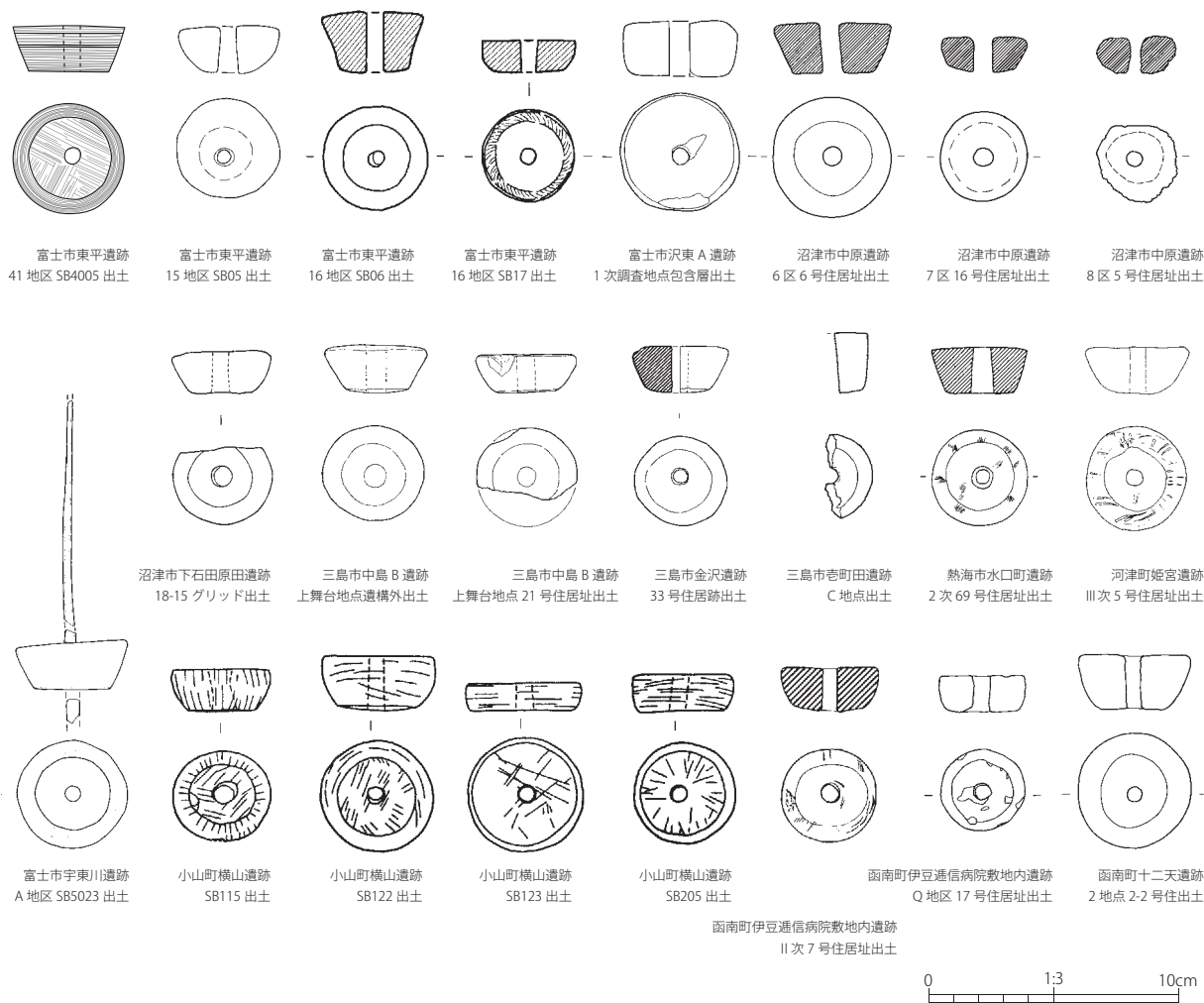


第92図 東平遺跡第3地区第125号住居址出土鉄製品実測図

第5節 SB4005 出土の紡錘車の位置づけ

SB4005 からは8世紀前半に位置づけられる石製の紡錘が出土した。石製紡錘については、駿河において53点が知られる。佐原（1979）は、紡錘の重量が撚りの強弱に関係することを示唆した。駿河における石製紡錘の重量はばらつきが多いものの重量は30～50gの資料が多く、平均40gとなる。東村（2011）は民俗例を含めて検討し、織糸用の紡錘は30～50g前後の重さの範囲に存在すると想定しており、それよりも重い紡錘については網糸製作に用いられた可能性を考えている。SB4005 出土資料は56.86gと平均よりは若干重い資料といえるが、遺跡の立地から網糸製作と考えるよりも織糸用の紡錘と考えられる。

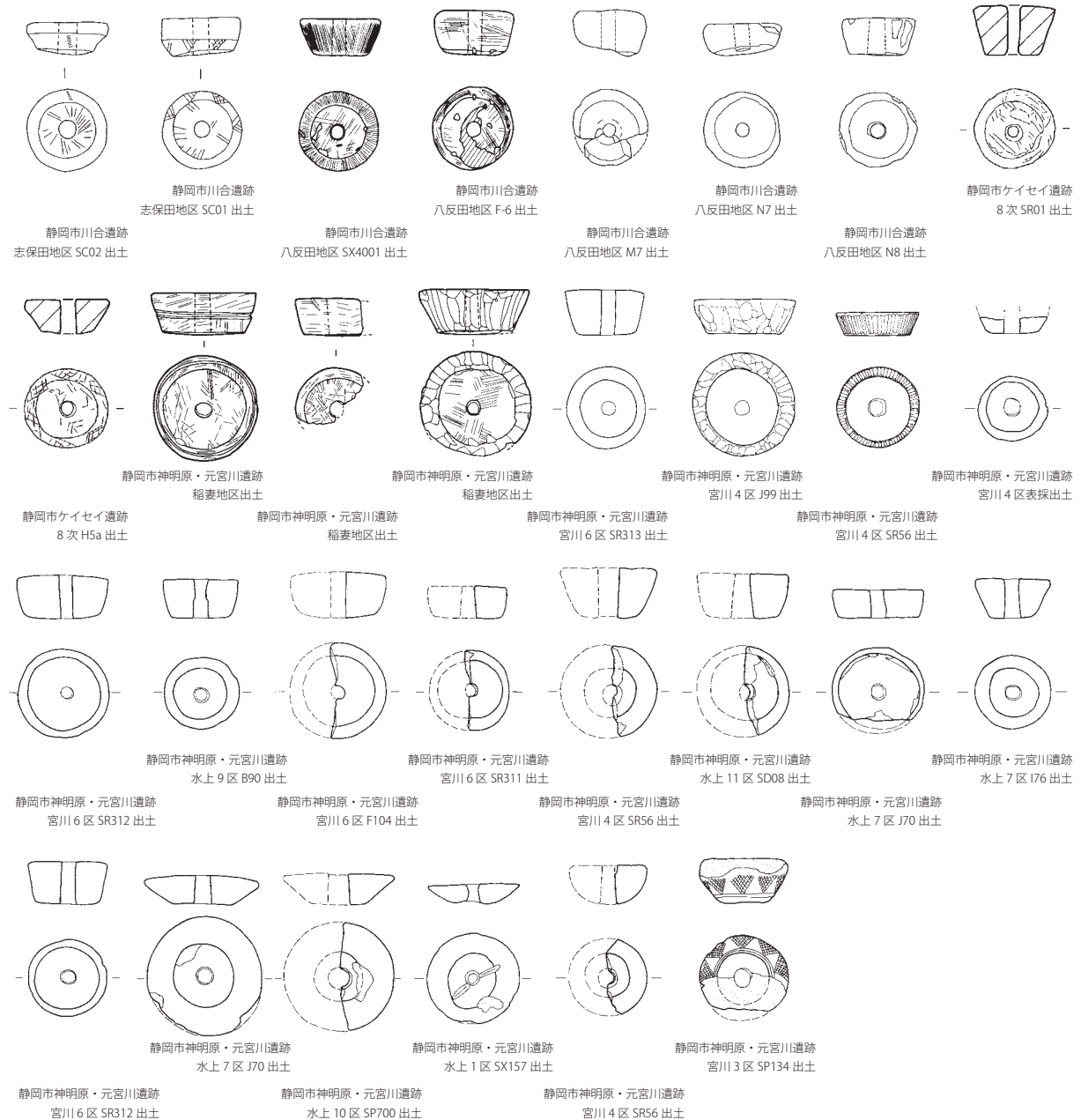
また、東村（2011）によれば、鉄製紡錘の広がりから、7世紀後半から8世紀に集落における製糸と郡衙における製織の分業体制の整備が進みつつあり、分業の徹底していた「伊場型」と不徹底な「屋代型」に類型化されるという。駿河の鉄製紡錘については、東村が指摘するように7世紀後半から8世紀代の資料として天間代山遺跡で1点、小山町横山遺跡において2点が認められる。東平遺跡第3地区第125号住居址例は8世紀後半とされているが9世紀前半と考えている。それらを含めて7世紀以降、駿河において16点の鉄製紡錘が認められるが、所属時期の明らかでないものも多い。



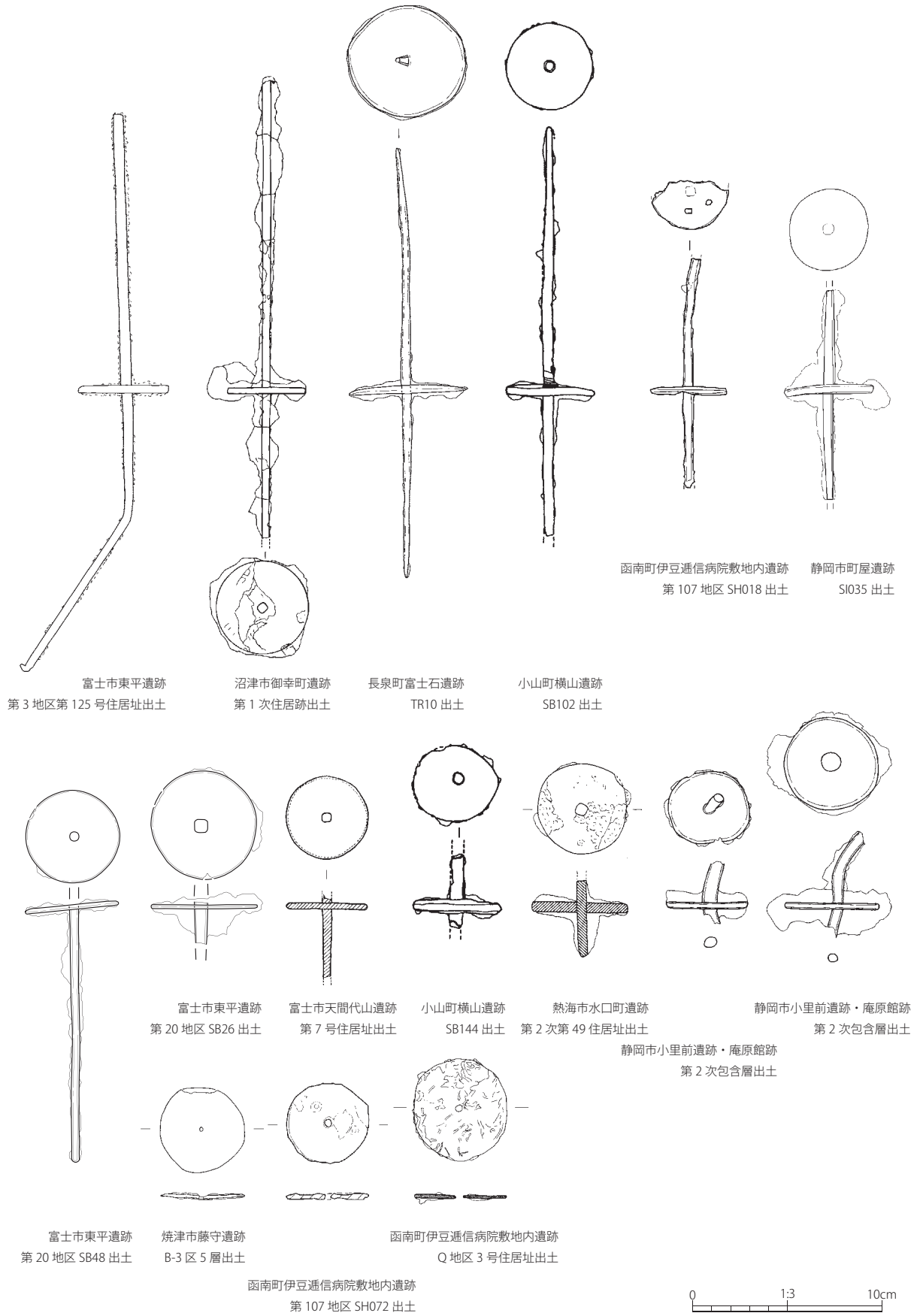
第93図 石製紡錘車 集成 1

富士郡衙である東平遺跡では6世紀末から7世紀前半の石製紡錘が2点認められ、東村が想定する評・郡以前のミヤケを拠点とした紡織体制の端緒の可能性が指摘できる。また、富士市宇東川遺跡A地区SB5023からは8世紀前半の石製紡輪に鉄製紡茎が組み合わさる資料が認められる。以上のような、製糸生産の一方で、正倉院宝物の白布袍に「駿河國富士郡久貳郷戸主□□調布壹端」とあるのが注目される（静岡県1989）。

久貳郷とは東平遺跡のある伝法一帯を指すことから東平遺跡において調として製織生産が行なわれていたことを示している。これは、製糸と製織が完全には分業されておらず、周辺集落から製糸を納品させつつ、東平遺跡でも製糸・製織生産の両方を行なっていた可能性を指摘することができる。



第94図 石製紡錘車 集成 2



第95図 鉄製紡錘車 集成

第5章 総括

遺跡の年代について 東平遺跡は、古代における駿河国富士郡衛（郡家）であり、7世紀から10世紀の間に営まれた遺跡である。これまでに400軒以上の竪穴建物跡が調査されてきた。

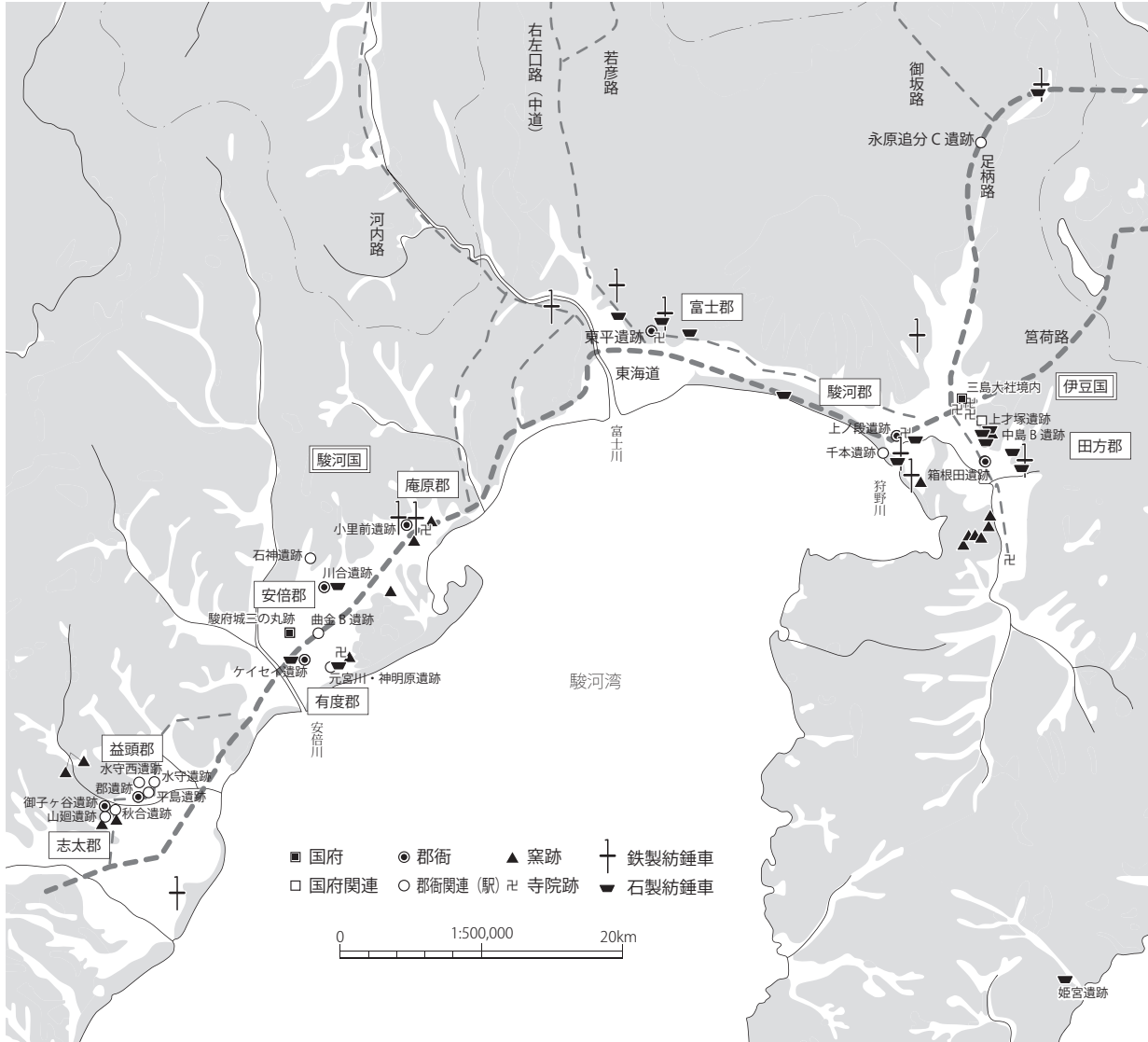
今回報告する第41地区は、平成18年に一度、確認調査が実施されていたが、十分な調査面積ではないなどの理由から、今回のホテル建設に伴い改めて確認調査を実施した。

調査の結果、8世紀から9世紀にかけての竪穴建物跡19軒、土坑15基、ピット163基が検出された。土坑、ピットについては所属時期は明らかでないものが多いが、竪穴建物跡についてみていくと、8世紀前半7軒、8世紀

後半8軒、9世紀前半3軒、9世紀後半1軒と区別される。これまでに東平遺跡で調査された竪穴建物跡の数的推移を整理すると、8世紀前半に28%、8世紀後半37%、9世紀前半13%、9世紀後半5%とされ、今回、調査した第41地区の建物数とほぼ一致した傾向といえる。

出土遺物の特徴 東平遺跡第41地区の調査では7873点の土器が出土した。内訳は土師器7078点（90%）、須恵器781点（10%）、灰釉陶器5点（1%以下）である。検出された遺構が8世紀を中心として9世紀前半までが多く、灰釉陶器の出土数の少なさは、東駿河への灰釉陶器の流入する時期の問題といえる。

今回の整理作業では、出土した土器片すべてにおいて、



第96図 駿河・伊豆における国府、郡衛遺跡

種別（土師器・須恵器・灰釉陶器）、器種（甕・壺・坏など）、重量、遺構ごとの個体数の分類を行った。これは、報告(図化)されない小破片についても歴史叙述の材料とするための試みである。

その結果、8世紀後半の主体は丸底坏で、駿東型坏や甲斐型坏は各遺構1から2個体程度しか出土しないのが、9世紀に入り甲斐型坏の数はあまり変わらず駿東型坏を5から10個体を有するようになることが指摘される。その結果、9世紀に入ると土器の中に占める土師器の個体数の割合が高くなるということを指摘した。

また、甕は8世紀後半に入り駿東型長胴甕が増加しており、この傾向は9世紀を通じて見られる。同じように遠江系水平口縁甕も増加していることや形態の特徴からも、遠江系の影響で駿東型長胴甕が成立、増加したと推察した。手工業生産について8世紀前半のSB4005から石製紡錘が1点出土した。駿河における石製紡錘の重量はばらつきが多いものの重量は30～50gの資料が多く、平均40gとなる。SB4005出土資料は56.86gと平均よりは若干重い資料といえるが、遺跡の立地から網糸製作と考えるよりも織糸用の紡錘と考えられる。

正倉院宝物の白布袍に「駿河國富士郡久貳郷戸主□□□□調布壹端」とあることから、久貳郷とされる東平遺跡の1帯において調として製織生産が行なわれていたことが明らかである。また、同じく正倉院南倉には、天平勝寶七歳（755）の「伊豆國田方郡依馬郷委文連大川調緋狹絶壹匹」と墨書のある^{糸織}も収蔵されている。

東平遺跡ではこれまでに石製紡錘が4点、鉄製紡錘2点が出土していることから製糸と製織が完全には分業されておらず、同じく鉄製紡錘の出土している天間代山遺跡や宇東川遺跡などの周辺集落から製糸を納品させつつ、東平遺跡でも製糸・製織生産の両方を行っていた可能性が考えられる。

また、9世紀前半のSB4001からは鉄鑿が出土した。出土した資料は茎式で刃先厚0.5cmを測ることから、荒加工用の鑿と位置づけられ、打割製材の際に使用されたものと考えられる。

今回の調査地点の西側に隣接する東平遺跡第3地区の第125号住居址は、豊富な鉄製製品を持つことや北東隣の第89号住居址からは鞆の羽口が出土していることから鍛冶工人の工房もしくは保管建物としての姿を想定した。そこから、9世紀前半頃の東平遺跡には、

SB4001から出土した鑿などの建築工具を使いこなす集団とそれを支える鍛冶集団が集落内に存在し、郡衙としての生産活動を支えていた可能性が高い。加えて、律令の租税である租・庸・調の一端を構成する製織生産なども担い、駿河国富士郡の郡衙としての役割を果たしていたと考えることができよう。

参考文献

- 植松 章八 1977『天間代山遺跡』
- 木ノ内 義昭 2002a「須恵器流入以降～律令時代の土師器の様相」『東平遺跡—第16地区（三日市廃寺跡）、第27地区—』富士市教育委員会
- 木ノ内 義昭 2002b「岳南地域出土墨書土器集成」『東平遺跡—第16地区（三日市廃寺跡）、第27地区—』富士市教育委員会
- 佐々木 憲一 編 2015『信濃大室積石塚古墳群の研究IV』明治大学考古学研究室
- 佐々木 憲一 2017「日本考古学の方法論」『考古学ジャーナル』700号
- 佐藤 祐樹 2012「宮添遺跡の墨書土器」『宮添遺跡V』富士市教育委員会
- 佐藤 祐樹 2016「伝法古墳群の展開と地域社会の成立」『伝法 中原古墳群』富士市教育委員会
- 佐原 真 1979「手から道具へ・石から鉄へ」『図説日本文化の歴史—先史・原始』
- 佐野 五十三 1992「駿河国における甲斐型坏・駿東型坏の成立」『山梨県考古学協会誌』第5号
- 佐野 五十三 1994「遠江・駿河・伊豆の古代集落の土器—土師器を主として—」『静岡県史研究』第10号
- 佐野 五十三 2010「富士川下流域から出土する古代土器系譜について」『静岡県考古学研究』No.41・42
- 静岡県 1989『静岡県史 資料編4 古代』
- 鈴木 敏則 2005「出土須恵器について」『東若林遺跡』
- 瀬川 裕市郎・平林 将信 1983「東駿河」『奈良・平安時代土器の諸問題』神奈川考古14号
- 高橋 照彦 2015「書評 松本太郎著『東国の土器と官衙遺跡』」『日本考古学』第39号
- 東村 純子 2011『考古学からみた古代日本の紡織』
- 古瀬 清秀 1991「農具」『古墳時代の研究8』雄山閣
- 松本 太郎 2013『東国の土器と官衙遺跡』六一書房
- 渡辺 晶 2004『日本建築技術史の研究』中央公論美術出版
- C.T. キーリ 1984「考古学と数量化」『考古学ジャーナル』230号

付 表

遺構概要一覧表
出土遺物観察表
出土土器分類表

※ 遺構・遺物ともに、法量の（ ）は残存値、〔 〕は推定値である。
※ 残存率は図示中での残存率を示した。

・遺構概要一覧表

竪穴建物跡

遺構番号	掲載頁	図版	遺構の時期	南北幅 (m)	東西幅 (m)	平面形	主軸方位	カマド位置	切り合い関係 (古→新)
SB4001	13頁	PL.2・5	9C前半	3.51	3.96	方形	N-84.7°-E	東壁	SB4006 → SB4001 → SK4001、SK4022
SB4002	17頁	PL.3・5	8C後半	3.30	3.54	方形	N-8.5°-W	北壁	SB4003 → SB4002 → SB4006、SB4010
SB4003	19頁	PL.4・5	8C後半	3.15	3.35	方形	N-34.2°-W	北壁	SB4003 → SB4002
SB4005	21頁	PL.5・6	8C前半	4.02	4.29	方形	N-8°-W	北壁	SB4005 → SK4021、SX4002
SB4006	24頁	PL.7	9C前半	-	-	-	N-32°-W	北壁	SB4002 → SB4006 → SB4001
SB4007	25頁	PL.8	9C後半	4.75	(1.59)	方形?	N-1°-E	-	SB4008 → SB4007
SB4008	25頁	-	9C前半	3.30	(0.66)	(方形)	N-3°-W	-	SB4008 → SB4007
SB4009	27頁	PL.8	8C後半	2.91	3.18	方形	N-11.5°-W	北壁	
SB4010	29頁	PL.9	8C後半	3.30	3.84	方形	N-10°-W	-	SB4002 → SB4010
SB4011	30頁	PL.9	8C前半	3.00	2.94	方形	N-3°-E	北壁	SB4011 → Pit4075、Pit4078
SB4012	32頁	PL.10	8C前半	2.89	2.91	方形	N-6.5°-W	北壁	
SB4013	33頁	-	8C前半	(2.85)	(1.14)	-	-	-	SB4013 → SB4014
SB4014	35頁	PL.10	8C後半	3.03	2.76	方形	N-13.5°-W	北壁	SB4013、SB4015、SB4016 → SB4014
SB4015	33頁	PL.10	8C後半	2.55	(0.60)	(方形)	N-76.5°-E	東壁	SB4015 → SB4014
SB4016	33頁	-	8C前半	-	-	-	-	-	SB4016 → SB4014
SB4017	37頁	PL.10・11・12	8C前半	(3.15)	3.09	方形	N-5.5°-E	北壁	SB4017 → SB4018
SB4018	39頁	PL.10・11・12	8C後半	3.33	3.48	方形	N-3.5°-E	北壁	SB4017 → SB4018
SB4019	42頁	PL.12	8C前半	3.54	3.54	方形	N-10°-W	北壁	SB4019 → SB4020
SB4020	43頁	PL.13	8C後半	2.94	3.28	方形	N-4°-E	北壁	SB4019 → SB4020

性格不明遺構

遺構番号	掲載頁	図版	遺構の時期	南北幅 (m)	東西幅 (m)	平面形	切り合い関係 (古→新)
SX4001	56頁	-	近世?	2.23	1.05	長方形	SB4002 → SB4010 → SX4001
SX4002	56頁	-	時期不明	1.65	1.40	楕円形	SB4005 → SX4002
SX4003	56頁	-	近世?	1.20	1.11	方形	SX4003 → SX4001、SK4021
SX4004	56頁	-	時期不明	2.70	1.02	楕円形	

土坑・ピット

種別	番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	断面形	出土遺物 (挿図番号)	土層	遺構の時期	切り合い (古→新)
SK	4001	97	90	32	逆台形	R0055	B	8C	SB4001 → SK4001
SK	4004	60	(47)	37	逆台形	R0119、0324	B	8C後半	SK4004 → SB4002
Pit	4005	65	58	21	逆台形	R0056 (第80図1)	B	9C前半~中頃	
Pit	4006	31	27	23	U字形	-	C		
Pit	4007	54	53	29	U字形	-	B		
Pit	4008	65	55	39	U字形	R0059	B	8C後半	
Pit	4009	38	35	13	U字形	R0060	B	不明	
Pit	4011	42	40	24	U字形	-	A		
Pit	4012	50	(27)	21	(U字形)	-	B		
Pit	4013	70	(29)	12	(逆台形)	-	A		
SK	4014	81	(70)	38	逆台形	R0076	B	8C前半	
SK	4015	(158)	(32)	23	箱形	R0057	B	(8C)	
Pit	4016	50	46	19	逆台形	-	B		
Pit	4017	29	29	15	U字形	-	B		
Pit	4018	41	32	14	U字形	-	B		
Pit	4019	82	60	25	逆台形	R0105	A	8C後半~	
Pit	4020	32	30	27	逆台形	-	A		
SK	4021	90	60	34	逆台形	-	-		
SK	4022	186	62	47	逆台形	R0187、0188	A	8C	
Pit	4023	40	36	28	U字形	-	A		
Pit	4024	46	42	23	U字形	-	A		
Pit	4025	35	30	20.5	U字形	-	A		
Pit	4026	25	20	18	U字形	-	B		
Pit	4027	39	32	28	U字形	-	B		
Pit	4028	50	33	22	U字形	-	B		
Pit	4029	35	30	17	U字形	-	A		
Pit	4030	40	40	23	U字形	-	B		
Pit	4031	40	36	24	逆台形	-	A		
Pit	4032	34	31	23	逆台形	-	A		
Pit	4033	38	33	18	U字形	-	A		
Pit	4034	32	28	21	U字形	-	B		
Pit	4035	29	26	21	U字形	-	B		
Pit	4036	34	30	18	U字形	-	B		
Pit	4037	32	27	14	逆台形	R0228	B	9C	
Pit	4038	23	22	19.5	U字形	-	B		
Pit	4039	27	26	13	U字形	-	A		

種別	番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	断面形	出土遺物 (挿図番号)	土層	遺構の時期	切り合い (古→新)
Pit	4040	32	26	12	U字形	-	A		
Pit	4041	22	18	16	U字形	-	A		
Pit	4042	29	28	16	U字形	R0358	A	8～9C	
Pit	4043	38	29	12	逆台形	-	B		
Pit	4044	46	38	17	U字形	-	A		Pit4045 → Pit4044
Pit	4045	38	(18)	10	U字形	-	B		Pit4045 → Pit4044
Pit	4046	62	42	16	逆台形	-	B		
Pit	4047	50	43	11	U字形	R0366	B	不明	
Pit	4048	60	42	34	逆台形	R0359	A	8～9C	
Pit	4049	34	26	20	U字形	-	B		
Pit	4050	40	30	27	U字形	-	B		
Pit	4051	36	26	33	U字形	R0367	B	8～9C	
Pit	4052	34	30	24	U字形	-	A		
Pit	4053	38	38	46	V字形	R0368 (第80図5)	B	9C	Pit4061 → Pit4053
Pit	4054	35	20	20	U字形	R0360	B	9C	
Pit	4055	50	37	20	逆台形	R0361	B	9C中頃	
Pit	4056	46	22	24	逆台形	R0369	C	9C	
Pit	4057	31	28	24	U字形	-	B		
Pit	4058	30	28	15	逆台形	-	B		
Pit	4059	82	59	25	逆台形	-	C		
Pit	4060	39	36	21	逆台形	-	A		
Pit	4061	26	(24)	26	U字形	-	A		Pit4061 → Pit4053
Pit	4062	(28)	23	20	逆台形	R0374	B	不明	
Pit	4063	(48)	44	41	逆台形	R0375	A	8C～9C前半	
Pit	4064	45	30	15	逆台形	R0376	C	不明	
Pit	4065	39	30	22	U字形	-	B		
Pit	4066	30	25	20	U字形	-	B		
Pit	4067	36	35	20	逆台形	-	A		
Pit	4068	(29)	23	19	逆台形	-	B		
Pit	4069	46	34	24	逆台形	R0377、0378	A	8C～9C前半	
Pit	4070	55	(44)	22	逆台形	-	C		
Pit	4071	33	27	21	U字形	R0379	C	9C	
Pit	4072	34	32	12	逆台形	-	B		
Pit	4073	24	18	21	U字形	-	C		
Pit	4074	30	26	13	逆台形	-	B		
Pit	4075	74	67	15	逆台形	R0392	A	不明	
Pit	4076	35	31	13	逆台形	R0469	C	不明	
Pit	4077	52	42	28	逆台形	-	B		
Pit	4078	56	42	10	逆台形	-	-		
Pit	4079	75	56	22	U字形	R0480	A	不明	
Pit	4080	47	41	16	逆台形	R0483	B	不明	
Pit	4081	60	57	34	逆台形	-	A		
Pit	4082	36	33	27	逆台形	-	B		
Pit	4083	52	49	26	U字形	R0484	B	9C中頃	
Pit	4084	37	34	16	逆台形	-	B		
Pit	4085	30	27	19	U字形	R0485	A	不明	
Pit	4086	32	28	30	U字形	-	B		
Pit	4087	72	62	27	U字形	R0498	B	8～9C	
Pit	4088	63	46	14	逆台形	-	A		
Pit	4089	45	(41)	19	逆台形	-	A		
Pit	4090	33	31	18	U字形	-	B		
Pit	4091	34	22	13	U字形	-	C		
Pit	4092	28	23	27	U字形	-	B		
Pit	4093	33	31	23	逆台形	-	B		
Pit	4094	34	31	21	逆台形	-	A		
Pit	4095	34	29	28	逆台形	-	C		
SK	4096	(102)	70	38	逆台形	R0536	C	9C中頃	
Pit	4097	30	30	11	逆台形	-	B		
Pit	4098	53	52	18	逆台形	-	B		
Pit	4099	50	35	29	逆台形	R0537	B	8C	
Pit	4100	65	(53)	30	逆台形	R0573	C	9C前半	
Pit	4101	57	(50)	35	逆台形	R0538	C	不明	Pit4101 → SK4096
Pit	4102	(55)	53	32	逆台形	R0539	C	9C	Pit4103 → Pit4102 → Pit4099
Pit	4103	(60)	50	41	逆台形	R0574	C	9C	
Pit	4104	65	58	31	逆台形	R0540	B	8～9C	
Pit	4105	72	(58)	34	逆台形	R0575	B	8～9C	
Pit	4106	64	60	56	逆台形	R0534、0541	B	8C	
Pit	4107	(57)	57	18	逆台形	R0598	B	8～9C	
Pit	4108	51	45	36	U字形	-	B		
Pit	4109	44	44	39	U字形	R0589、0747	B	9C	
Pit	4110	42	42	26	逆台形	-	B		
Pit	4111	30	27	29	逆台形	-	B		
Pit	4112	67	(24)	16	逆台形	R0590	C	9C	

種別	番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	断面形	出土遺物 (挿図番号)	土層	遺構の時期	切り合い (古→新)
Pit	4113	35	31	36	U字形	R0599	B	不明	
Pit	4114	49	45	21	U字形	-	C		
SK	4115	107	95	29	逆台形	R0591 (第80図2・4)	B	9C?	
Pit	4116	24	24	28	U字形	R0600	-	8～9C	
Pit	4117	72	44	31	逆台形	R0601	C	9C	
SK	4118	124	88	34	逆台形	R0576	C	8C後半	
SK	4119	86	70	41	逆台形	R0634	B	8C後半～9C	
SK	4120	75	(50)	21	逆台形	R0592	-	8C後半～9C	
Pit	4121	56	47	37	逆台形	R0635	B	不明	
SK	4122	88	70	31	逆台形	R0593	B	9C中葉	
Pit	4123	68	54	26	逆台形	R0636	B	8～9C	
Pit	4124	67	44	30	逆台形	R0666	B	不明	
Pit	4125	35	31	28	逆台形	-	B		
Pit	4126	48	(42)	26	逆台形	R0667	B	9C	
Pit	4127	42	37	27	逆台形	R0637	A	9C	
Pit	4128	62	48	28	逆台形	R0594	B	9C	
SK	4129	67	63	34	U字形	R0595	B	不明	
Pit	4130	67	55	21	逆台形	R0638	B	8～9C	
Pit	4131	52	37	15	逆台形	R0639	B	不明	
Pit	4132	63	49	18	逆台形	R0640	B	不明	
Pit	4133	(40)	39	39	逆台形	R0582、0668 (第80図6)	B	9C?	
Pit	4134	40	(33)	29	逆台形	-	B		
Pit	4135	34	32	18	逆台形	-	A		
Pit	4136	58	(23)	32	逆台形	-	B		
Pit	4137	38	34	13	逆台形	-	B		
Pit	4138	(58)	60	37	逆台形	R0669	B	9C後半	
Pit	4139	58	(45)	33	逆台形	R0670	B	9C後半	
Pit	4140	45	32	17	逆台形	R0642	B	9C	
Pit	4141	32	30	17	逆台形	-	A		
Pit	4142	27	27	17	逆台形	-	B		
Pit	4143	22	22	25	逆台形	-	B		
Pit	4144	43	39	30	逆台形	R0643	B	9C後半	
Pit	4145	43	43	21	逆台形	-	B		
Pit	4146	42	34	14	逆台形	R0614	C	9C	
Pit	4147	65	(37)	15	逆台形	R0719	C	不明	
Pit	4148	30	28	21	逆台形	-	B		
Pit	4149	51	48	25	逆台形	R0657	B	不明	
Pit	4150	53	42	37	逆台形	R0658	A	8～9C	
Pit	4151	30	25	15	逆台形	-	B		
Pit	4152	(45)	48	24	逆台形	R0679	A	8C後半	
Pit	4153	30	(18)	29	逆台形	-	B		
Pit	4154	49	49	26	逆台形	R0708 (第80図3)	B	9C	
Pit	4155	(42)	43	30	逆台形	-	B		
Pit	4156	70	(48)	20	逆台形	R0671	B	不明	
Pit	4157	59	51	47	逆台形	R0680	C	8C後半～9C	
Pit	4158	56	53	19	逆台形	R0681	B	不明	
Pit	4159	32	29	24	逆台形	-	C		
Pit	4160	39	34	39	逆台形	R0674、0682	B	9C	
Pit	4161	53	42	20	逆台形	-	B		
SK	4162	72	(40)	44	逆台形	R0720	B	9C中葉～	
Pit	4163	62	55	46	逆台形	R0721	B	9C	
Pit	4164	(40)	37	24	逆台形	R0709	C	9C	
Pit	4165	42	(32)	30	逆台形	-	B		
Pit	4166	57	(35)	22	逆台形	-	B		
Pit	4167	73	(52)	31	逆台形	R0733	-	9C	
Pit	4168	55	50	39	U字形	-	B		
Pit	4169	55	52	26	逆台形	-	B		
Pit	4170	32	28	21	逆台形	-	B		
Pit	4171	65	57	33	逆台形	R0727、0734	B	不明	
Pit	4172	46	43	19	逆台形	R0735	C	不明	
Pit	4173	40	38	14	逆台形	-	B		
SK	4174	88	(23)	19	逆台形	-	B		
Pit	4175	28	(23)	18	U字形	-	C		
Pit	4176	25	24	27	逆台形	-	B		
Pit	4177	28	28	19	逆台形	-	B		
Pit	4178	57	48	35	逆台形	-	B		
Pit	4179	(58)	55	30	逆台形	-	B		
Pit	4180	57	51	11	逆台形	-	B		
Pit	4181	53	53	29	逆台形	R0737	B	不明	

・出土遺物観察表

土器・土製品

報告番号	挿図	図版	R 番号	種別 分類	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	摘み径 (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
SB4001-01	第 12 図	-	R0090	須恵器 ツマミ蓋			(1.6)	(1.6)	良好	50%	2.5Y6/2 (灰黄) 2.5Y7/2 (灰黄)	
SB4001-02	第 12 図	-	R0025	須恵器 ツマミ蓋			(2.0)		良好	-	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/1 (黄灰)	
SB4001-03	第 12 図	-	R0143	須恵器 ツマミ蓋			(2.9)		軟質	-	2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/2 (灰黄)	
SB4001-04	第 12 図	-	R0149	須恵器 蓋			(1.8)		良好	-	10YR6/2 (灰黄褐) 2.5Y7/2 (灰黄)	
SB4001-05	第 12 図	-	R0143	須恵器 蓋			(2.2)		良好	-	2.5Y5/1 (黄灰) N5/ (灰)	
SB4001-06	第 12 図	-	R0113	須恵器 有台坏身			(1.4)		良好	-	2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	
SB4001-07	第 12 図	-	R0090	須恵器 有台坏身			(1.0)		良好	-	7.5YR5/1 (褐灰) 2.5Y5/1 (黄灰)	
SB4001-08	第 12 図	-	R0113	須恵器 箱坏			(2.9)		良好	-	2.5Y7/2 (灰黄) 2.5Y7/2 (灰黄)	
SB4001-09	第 12 図	-	R0113	須恵器 壺			(2.3)		良好	-	5Y7/1 (灰白) 5Y6/1 (灰)	
SB4001-10	第 12 図	PL.14	R0194	土師器 駿東型坏	10.6	7.2	3.6		良好	100%	5YR6/6 (橙) 2.5YR6/8 (橙)	線刻
SB4001-11	第 12 図	-	R0008	土師器 駿東型坏			(6.7)	(0.9)	良好	40%	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4001-12	第 12 図	PL.14	R0088	土師器 駿東型坏	[11.3]	[7.3]	3.5		良好	20%	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4001-13	第 12 図	PL.14	R0143	土師器 駿東型坏			(1.4)		良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	墨書
SB4001-14	第 12 図	PL.14	R0008 R0082	土師器 駿東型坏	[11.9]	[6.4]	3.9		良好	60%	2.5YR5/6 (明赤褐) 5YR5/6 (明赤褐)	
SB4001-15	第 12 図	PL.14	R0090 R0125	土師器 駿東型坏		[6.2]	3.9		良好	25%	2.5YR6/6 (橙) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4001-16	第 12 図	-	R0125 R0027	土師器 駿東型坏			(3.5)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4001-17	第 12 図	PL.14	R0115 R0091 R0132 R0084	土師器 駿東型坏	11.7	7.1	3.9		良好	60%	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4001-18	第 12 図	-	R0157	土師器 甲斐型坏		[7.4]	(0.7)		良好	20%	2.5YR6/8 (橙) 2.5YR6/8 (橙)	
SB4001-19	第 12 図	-	R0032	土師器 甲斐型坏?			(2.2)		良好	-	10YR7/4 (にぶい黄橙) 7.5YR6/6 (橙)	
SB4001-20	第 12 図	-	R0088	土師器 甲斐型坏			(3.1)		良好	-	2.5YR6/6 (橙) 2.5YR6/6 (橙)	
SB4001-21	第 12 図	-	R0088	土師器 甲斐型坏			(3.6)		良好	-	5YR6/4 (にぶい橙) 5YR6/4 (にぶい橙)	
SB4001-22	第 12 図	-	R0113	土師器 甲斐型坏			(2.7)		良好	-	2.5YR6/6 (橙) 2.5YR6/6 (橙)	
SB4001-23	第 12 図	-	R0143	土師器 遠江水平口縁甗			(2.0)		良好	-	7.5YR6/4 (にぶい橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	
SB4001-24	第 12 図	-	R0113	土師器 遠江水平口縁甗			(2.6)		良好	-	7.5YR7/4 (にぶい橙) 7.5YR7/4 (にぶい橙)	
SB4001-25	第 12 図	PL.14	R0302	土師器 小型甗	[13.2]		(3.2)		良好	25%	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	
SB4001-26	第 12 図	PL.14	R0081 R0092?	土師器 駿東長胴甗	[22.2]		(5.2)		良好	20%	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4001-27	第 12 図	PL.14	R0032 R0090 R0101 R0135	土師器 駿東長胴甗			(11.2)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 7.5YR4/1 (褐灰)	
SB4001-28	第 12 図	PL.15	R0025 R0032 R0143	土師器 駿東長胴甗			(7.5)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4001-29	第 12 図	-	R0092 R0143 R0149	土師器 駿東長胴甗			(6.9)		良好	-	7.5YR5/4 (にぶい褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	
SB4001-30	第 12 図	-	R0092 R0114	土師器 駿東長胴甗			(6.6)		良好	-	5YR5/6 (明赤褐) 5YR5/6 (明赤褐)	
SB4001-31	第 12 図	-	R0100	土師器 駿東長胴甗			(4.5)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4001-32	第 12 図	-	R0092	土師器 駿東長胴甗			(3.6)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4001-33	第 12 図	-	R0104 R0112	土師器 駿東長胴甗			(3.1)		良好	-	5YR4/6 (赤褐) 5YR4/6 (赤褐)	
SB4001-34	第 12 図	-	R0112 R0114 R0140 R0303	土師器 駿東長胴甗			(17.5)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4001-35	第 12 図	PL.15	R0102 R0126	土師器 駿東長胴甗		[6.1]	(7.9)		良好	-	5YR5/6 (明赤褐) 7.5YR4/3 (褐)	
SB4001-36	第 12 図	PL.15	R0192 R0197	土師器 駿東長胴甗		[6.9]	(8.1)		良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	

報告番号	挿図	図版	R 番号	種別 分類	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	摘み径 (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
SB4001-37	第 12 図	-	R0143 R0018 R0088	土師器 駿東長胴甕		[7.1]	(3.4)		良好	-	10YR5/3 (にぶい黄褐) 10YR3/2 (黒褐)	
SB4001-38	第 12 図	-	R0137	土師器 駿東長胴甕		[7.1]	(3.3)		良好	50%	7.5YR5/4 (にぶい褐) 7.5YR5/4 (にぶい褐)	
SB4001-39	第 12 図	PL.15	R0008 R0032 R0104 RR0112 R0134 R0138 R0139 R0143 R0192 R0195 R0196 R0198 R0304 R0355 R0749	土師器 駿東長胴甕			7.3 (29.5)		良好	45%	5YR4/4 (にぶい赤褐) 5YR3/1 (黒褐)	
SB4002-01	第 17 図	-	R0120 R0181	須恵器 蓋	[10.1]		(1.2)		良好	25%	N4/ (灰) N4/ (灰)	
SB4002-02	第 17 図	-	R0158	須恵器 有台坏身			(2.0)		良好	-	2.5Y6/2 (灰黄) 2.5Y6/1 (黄灰)	
SB4002-03	第 17 図	-	R0158	須恵器 有台坏身			(1.9)		良好	-	2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	
SB4002-04	第 17 図	-	R0107	土師器 甲斐型坏			(3.3)		良好	-	10YR7/4 (にぶい黄橙) 10YR8/6 (黄橙)	
SB4002-05	第 17 図	-	R0199 カマド	土師器 駿東型坏			(1.6)		良好	-	2.5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	
SB4002-06	第 17 図	-	R0159	土師器 駿東小型甕			(4.7)		良好	-	7.5YR6/4 (にぶい橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	
SB4002-07	第 17 図	PL.16	R0021 R0071 R0085 R0183	土師器 駿東長胴小型甕	[13.4]	(6.4)	10.6		良好	20%	10YR5/3 (にぶい黄褐) 10YR5/3 (にぶい黄褐)	
SB4002-08	第 17 図	PL.16	R0073 R0085 R0159 R0183 R0199 R0751	土師器 駿東長胴甕	[16.9]		(11.4)		良好	-	5YR5/6 (明赤褐) 5YR5/6 (明赤褐)	
SB4002-09	第 17 図	PL.16	R0106 R0150 R0199	土師器 駿東長胴甕	[21.3]		(12.2)		良好	25%	2.5YR4/4 (にぶい赤褐) 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	
SB4002-10	第 17 図	PL.16	R0078 R0208	土師器 駿東長胴甕			(12.0)		良好	-	7.5YR6/4 (にぶい橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	
SB4003-01	第 22 図	-	R0065	須恵器 ツマミ蓋			(1.7)	2.2	良好	70%	2.5Y7/2 (灰黄) 2.5Y7/1 (灰白)	
SB4003-02	第 22 図	-	R0062 R0064	須恵器 ツマミ蓋			(2.1)		良好	-	5Y6/1 (灰) 2.5Y7/2 (灰黄)	
SB4003-03	第 22 図	PL.17	R0034	須恵器 ツマミ蓋			(2.0)		良好	-	2.5Y7/1 (灰白) 5Y6/2 (灰オリーブ)	
SB4003-04	第 22 図	PL.17	R0045	須恵器 ツマミ蓋	[13.6]		(2.6)		良好	45%	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/1 (黄灰)	
SB4003-05	第 22 図	-	R0065	須恵器 坏身			(0.6)		軟質	-	2.5Y8/1 (灰白) 2.5Y8/2 (灰白)	
SB4003-06	第 22 図	-	R0038	須恵器 有台坏身			(1.4)		良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐) 2.5Y5/1 (黄灰)	
SB4003-07	第 22 図	-	R0108	須恵器 坏身 (有台?)			(3.1)		軟質	-	2.5Y8/2 (灰白) 2.5Y8/2 (灰白)	
SB4003-08	第 22 図	PL.17	R0030	須恵器 箱型坏		[11.1]	(2.5)		良好	20%	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y5/1 (黄灰)	
SB4003-09	第 22 図	-	R0065	土師器 内湾坏			(2.3)		良好	-	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	
SB4003-10	第 22 図	-	R0038	土師器 内湾坏			(3.8)		良好	-	5YR6/6 (橙) 7.5YR5/3 (にぶい褐)	
SB4003-11	第 22 図	-	R0038	土師器 内湾坏			(3.7)		良好	-	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	
SB4003-12	第 22 図	-	R0041	土師器 甲斐型坏			(0.45)		良好	-	2.5YR6/6 (橙) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4003-13	第 22 図	-	R0047	土師器 遠江小型甕	[13.4]		(4.4)		良好	20%	10YR6/3 (にぶい黄橙) 7.5YR7/4 (にぶい橙)	
SB4003-14	第 22 図	-	R0046	土師器 遠江水平口縁甕			(5.6)		良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	
SB4003-15	第 22 図	PL.17	R0033	土師器 遠江水平口縁甕	[25.6]		(4.3)		良好	20%	10YR8/3 (浅黄橙) 10YR6/2 (灰黄褐)	
SB4003-16	第 22 図	PL.17	R0031 R0041 R0050 R0052 R0061	土師器 駿東球胴甕	[18.6]		(10.7)		良好	20%	5YR4/3 (にぶい赤褐) 5YR4/3 (にぶい赤褐)	
SB4003-17	第 22 図	PL.17	R0065 R0075	土師器 駿東球胴甕			(10.5)		良好	-	2.5YR4/4 (にぶい赤褐) 2.5YR4/6 (赤褐)	
SB4003-18	第 22 図	-	R0041	土師器 S 字甕			(1.5)		良好	-	10YR5/2 (灰黄褐) 10YR5/2 (灰黄褐)	
SB4005-01	第 28 図	-	R0144	須恵器 坏身			(1.9)		良好	-	2.5Y5/1 (黄灰) 2.5Y5/1 (黄灰)	
SB4005-02	第 28 図	-	R0152	須恵器 坏身			(3.1)		良好	-	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/1 (黄灰)	
SB4005-03	第 28 図	PL.17	R0121 R0144	須恵器 ツマミ蓋	[16.5]		(2.45)		良好	20%	5Y5/1 (灰) 5Y6/1 (灰)	
SB4005-04	第 28 図	PL.17	R0152 R0212	須恵器 ツマミ蓋	[16.8]		(2.7)		軟質	20%	10YR8/2 (灰白) 2.5Y6/2 (灰黄)	
SB4005-05	第 28 図	-	R0152	土師器 内湾坏			(2.6)		良好	-	5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	

報告番号	挿図	図版	R 番号	種別 分類	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	筒み径 (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
SB4005-06	第 28 図	-	R0127	土師器 内湾环			(3.9)		良好	-	10YR3/1 (黒褐) 10YR3/2 (黒褐)	
SB4005-07	第 28 図	PL.17	R0238	土師器 内湾环	10.3	5.5	3.5		良好	85%	5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	
SB4005-08	第 28 図	PL.17	R0136 R0160	土師器 駿東球胴甕		[8.0]	(5.1)		良好	20%	5YR5/4 (にぶい赤褐) 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	
SB4005-09	第 28 図	PL.17	R0043	土師器 駿東球胴甕			(7.5)		良好	-	2.5YR4/3 (にぶい赤褐) 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	
SB4005-10	第 28 図	PL.17	R0152 R0184 R0206 R0215 R0216 R0217 R0218 R0221 R0225 R0226 R0229 R0242 R0243 R0244 R0245 R0246 R0248 R0249 R0250 R0251 R0253 R0254 R0255 R0256 R0257 R0258 R0259 R0260 R0262 R0263 R0264 R0265 R0267 R0268 R0269 R0270 R0271 R0272 R0274 R0275 R0276 R0277 R0278 R0279 R0280 R0282 R0283 R0284 R0285 R0286 R0287 R0288 R0289 R0290 R0291 R0292 R0293 R0294 R0296 R0298 R0301 R0757	土師器 駿東球胴甕	[22.8]	[8.2]	30.3		良好	-	2.5YR4/4 (にぶい赤褐) 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	
SB4006-01	第 30 図	-	R0308	須恵器 ツマミ蓋			(2.9)		良好	-	N6/ (灰) N6/ (灰)	
SB4006-02	第 30 図	-	R0308	土師器 駿東長胴甕			(2.4)		良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	
SB4007-01	第 32 図	-	R0109 R0128	須恵器 ツマミ蓋			(2.6)		良好	-	2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y6/2 (灰黄)	
SB4007-02	第 32 図	-	R0128	須恵器 坏身			(3.5)		良好	-	2.5Y6/1 (黄灰) 5Y6/1 (灰)	
SB4007-03	第 32 図	-	R0009	須恵器 甕			(3.2)		良好	-	2.5Y4/1 (黄灰) N4/ (灰)	
SB4007-04	第 32 図	PL.18	R0009	須恵器 ハソウ			(4.1)		良好	-	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y7/1 (灰白)	
SB4007-05	第 32 図	-	R0009	土師器 駿東型坏			(1.05)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4007-06	第 32 図	-	R0141	土師器 駿東型坏		6.8	(1.0)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR6/6 (橙)	
SB4007-07	第 32 図	-	R0128	土師器 駿東型坏			(4.1)		良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR5/3 (にぶい赤褐)	
SB4007-08	第 32 図	-	R0154	土師器 駿東型坏			(3.9)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4007-09	第 32 図	PL.18	R0142	土師器 有台坏身		5.9	(2.1)		良好	70%	5YR5/4 (にぶい赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4007-10	第 32 図	-	R0009	土師器 駿東長胴甕			(2.4)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 5YR6/4 (にぶい橙)	
SB4007-11	第 32 図	-	R0109 R0154	土師器 小型甕			(9.9)		良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR4/1 (褐灰)	
SB4007-12	第 32 図	PL.18	R0009	土師器 駿東型坏			(2.9)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	墨書
SB4007-13	第 32 図	PL.18	R0109	土師器 駿東型坏			(2.0)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	墨書
SB4007-14	第 32 図	PL.18	R0128	土師器 駿東型坏			(4.0)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/4 (にぶい赤褐)	墨書
SB4007-15	第 32 図	PL.18	R0019	土師器 駿東型坏			(3.8)		良好	-	2.5YR5/4 (にぶい赤褐) 2.5YR5/4 (にぶい赤褐)	墨書
SB4008-01	第 33 図	-	R0161	須恵器 ツマミ蓋			(2.0)		良好	-	2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	
SB4008-02	第 33 図	-	R0009	須恵器 ツマミ蓋			(2.0)		良好	-	2.5Y6/2 (灰黄) 2.5Y6/1 (黄灰)	
SB4008-03	第 33 図	PL.18	R0161	土師器 駿東型坏			(2.0)		良好	-	5YR5/6 (明赤褐) 5YR5/6 (明赤褐)	墨書
SB4008-04	第 33 図	-	R0161	土師器 駿東型坏		[6.6]	(1.5)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4008-05	第 33 図	-	R0161	土師器 駿東型坏		[6.8]	(1.7)		良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	
SB4009-01	第 37 図	-	R0300	須恵器 箱型坏			(2.7)		良好	-	5Y6/1 (灰) 5Y5/1 (灰)	

報告番号	挿図	図版	R 番号	種別 分類	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	摘み径 (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
SB4009-02	第 37 図	-	R0237	土師器 蓋			(1.2)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4009-03	第 37 図	-	R0237	土師器 駿東型坏			(3.5)		良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR4/4 (にぶい赤褐)	
SB4009-04	第 37 図	-	R0307	土師器 駿東型坏	[10.6]	[7.1]	3.1		良好	20%	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	
SB4009-05	第 37 図	-	R0307	土師器 駿東型坏			(0.45)		良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	
SB4009-06	第 37 図	-	R0300	土師器 甲斐型坏			(1.0)		良好	-	2.5YR6/6 (橙) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4009-07	第 37 図	PL.18	R0005 R0231 R0236 R0307 R0313 R0314 R0315 R0319 R0320 R0321 R0322 R0325 R0327 R0328 R0330 R0331 R0333 R0334 R0335 R0336 R0337 R0338 R0339 R0340 R0341 R0342 R0345 R0346 R0347 R0348 R0349 R0350 R0351 R0352 R0353 R0356 R0382 R0420 R0557 R0754	土師器 駿東長胴甕	[21.9]	[8.1]	39.0		良好	40%	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR4/4 (にぶい赤褐)	
SB4010-01	第 38 図	-	R0111	土師器 駿東球胴甕			(3.4)		良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	
SB4011-01	第 43 図	-	R0482	土師器 内湾坏			(3.1)		良好	-	7.5YR8/6 (浅黄橙) 10YR8/4 (浅黄橙)	
SB4011-02	第 43 図	-	R0420	土師器 内湾坏			(4.1)		良好	-	7.5YR6/4 (にぶい橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	
SB4011-03	第 43 図	PL.18	R0003	土師器 駿東型坏			(1.1)		良好	-	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	墨書
SB4011-04	第 43 図	PL.18	R0002 R0003 R0398 R0399 R0412 R0415 R0418 R0419 R0424 R0425 R0426 R0427 R0428 R0430 R0436 R0437 R0438 R0439 R0440 R0441 R0444 R0446 R0447 R0449 R0450 R0456 R0466 R0467 R0755	土師器 駿東球胴甕	22.0	8.8	30.5		良好	85%	2.5YR3/3 (暗赤褐) 2.5YR3/3 (暗赤褐)	
SB4012-01	第 46 図	-	R0458	灰釉陶器 壺			(2.7)		良好	-	5Y5/2 (灰オリーブ) 5Y8/2 (灰白)	
SB4012-02	第 46 図	-	R0458	須恵器 有台坏身		[8.7]	(1.6)		良好	25%	2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	
SB4012-03	第 46 図	-	R0400 R0454 R0458	土師器 駿東球胴甕		[7.0]	(7.5)		良好	20%	10YR3/1 (黒褐) 5YR4/3 (にぶい赤褐)	
SB4013-01	第 49 図	-	R0401	須恵器 有台坏身			(1.4)		良好	-	2.5Y7/2 (灰黄) 2.5Y7/2 (灰黄)	
SB4013-02	第 49 図	-	R0401	須恵器 有台坏身			(1.6)		良好	-	2.5Y7/2 (灰黄) 2.5Y7/2 (灰黄)	
SB4014-01	第 55 図	PL.19	R0457 R0462	須恵器 ツマミ蓋	[15.6]		3.1	2.6	良好	40%	10YR7/1 (灰白) 2.5Y6/2 (灰黄)	
SB4014-02	第 55 図	-	R0481 R0759	須恵器 ツマミ蓋	[16.3]		(1.8)		良好	20%	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y7/1 (灰白)	
SB4014-03	第 55 図	-	R0481	須恵器 有台坏身		[5.6]	(1.9)		良好	25%	2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	
SB4014-04	第 55 図	-	R0461	須恵器 碗型坏身			(4.1)		良好	-	2.5Y7/2 (灰黄) 2.5Y7/2 (灰黄)	
SB4014-05	第 55 図	PL.19	R0451	須恵器 壺			(3.8)		良好	-	2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	
SB4014-06	第 55 図	-	R0457	土師器 遠江水平口縁甕			(2.2)		良好	-	7.5YR6/4 (にぶい橙) 5YR6/6 (橙)	
SB4014-07	第 55 図	-	R0464	土師器 遠江水平口縁甕			(3.1)		良好	-	7.5YR7/3 (にぶい橙) 7.5YR7/3 (にぶい橙)	
SB4014-08	第 55 図	-	R0463	土師器 駿東球胴甕			(5.1)		良好	-	2.5YR4/8 (赤褐) 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	
SB4014-09	第 55 図	-	R0459	土師器 駿東型塼			(3.5)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4015-01	第 51 図	PL.19	R0517 R0452 R0481 R0520 R0521 R0516	土師器 遠江水平口縁甕	[25.7]	[7.0]	(31.8)		良好	20%	10YR6/3 (にぶい黄橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	
SB4016-01	第 50 図	-	R0759	土師器 駿東球胴甕			(5.3)		良好	-	5YR4/2 (灰褐) 5YR4/2 (灰褐)	
SB4017-01	第 59 図	-	R0651	須恵器 ツマミ蓋	[15.2]		(2.8)		良好	20%	5Y6/2 (灰オリーブ) 5Y6/1 (灰)	

報告番号	挿図	図版	R 番号	種別 分類	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	摘み径 (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
SB4017-02	第 59 図	PL.19	R0646	土師器 駿東小型甕	[15.0]		(6.6)		良好	20%	5YR5/6 (明赤褐) 7.5YR4/2 (灰褐)	
SB4017-03	第 59 図	PL.19	R0615 R0641	土師器 駿東小型甕	[13.1]	[7.4]	(8.4)		良好	20%	7.5YR5/3 (にぶい褐) 7.5YR5/3 (にぶい褐)	
SB4017-04	第 59 図	PL.19	R0007 R0615 R0630 R0631 R0634 R0641 R0650 R0677 R0686 R0687 R0688 R0689 R0690 R0692 R0693 R0694 R0695 R0696 R0697 R0700 R0701 R0760 R0761	土師器 遠江水平口縁甕	[26.5]	[6.2]	28.7		良好	65%	10YR7/4 (にぶい黄橙) 10YR6/4 (にぶい黄橙)	
SB4018-01	第 62 図	PL.20	R0007 R0514 R0526 R0549 R0564 R0559 R0544	土師器 駿東長胴甕			(21.0)		良好	-	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	
SB4018-02	第 62 図	PL.20	R0544 R0553 R0558 R0591	土師器 駿東長胴甕			(14.0)		良好	-	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	
SB4018-03	第 62 図	PL.20	R0531 R0587 R0616 R0761	土師器 駿東長胴甕			(11.1)		良好	-	5YR5/6 (明赤褐) 5YR6/8 (橙)	
SB4018-04	第 63 図	-	R0007 R0545	土師器 駿東長胴甕			(14.1)		良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR4/2 (灰褐)	
SB4018-05	第 63 図	-	R0527 R0578 R0585 R0586 R0606	土師器 駿東長胴甕			(22.0)		良好	-	7.5YR6/6 (橙) 7.5YR6/6 (橙)	
SB4018-06	第 63 図	PL.20	R0503 R0516 R0524 R0530 R0543 R0544 R0570	土師器 駿東小型甕 (長胴)	[15.7]		(11.5)		良好	-	5YR5/6 (明赤褐) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	
SB4018-07	第 63 図	-	R0508	土師器 駿東長胴甕			(3.8)		良好	-	5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4018-08	第 63 図	-	R0523	土師器 駿東球胴甕			(3.5)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
SB4018-09	第 63 図	-	R0508	土師器 遠江水平口縁甕			(4.0)		良好	-	7.5YR6/4 (にぶい橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	
SB4018-10	第 63 図	-	R0529	土師器 駿東長胴甕		[5.7]	(3.6)		良好	-	5YR6/6 (橙) 7.5YR5/4 (にぶい褐)	
SB4018-11	第 63 図	PL.20	R0502 R0505 R0508	土師器 駿東長胴甕		6.4	(6.6)		良好	75%	5YR6/8 (橙) 5YR6/6 (橙)	
SB4018-16	第 63 図	-	R0578	土師器 S 字甕			(2.2)		良好	-	7.5YR6/6 (橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	
SB4019-01	第 66 図	PL.21	R0714	須恵器 ツマミ蓋	[15.9]		(2.0)		良好	30%	2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/2 (灰黄)	
SB4019-02	第 66 図	PL.21	R0613	須恵器 有台坏身	[13.3]	[8.3]	3.6		良好	40%	2.5Y7/2 (灰黄) 2.5Y7/2 (灰黄)	
SB4019-03	第 66 図	PL.21	R0713 R0716	須恵器 有台坏身		[10.6]	(1.5)		良好	40%	2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	
SB4019-04	第 66 図	PL.21	R0617	須恵器 高坏			(4.7)		良好	40%	2.5Y5/1 (黄灰) N5/ (灰)	
SB4019-05	第 66 図	PL.21	R0655 R0745	土師器 駿東球胴甕			(13.7)		良好	-	2.5YR4/3 (にぶい赤褐) 2.5YR4/3 (にぶい赤褐)	
SB4020-01	第 69 図	-	R0608	須恵器 ツマミ蓋	[15.6]		(2.2)		良好	20%	2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	
SB4020-02	第 69 図	-	R0618	須恵器 有台坏身			(2.3)		良好	-	2.5Y7/1 (灰白) N5/ (灰)	
SB4020-03	第 69 図	PL.21	R0618 R0660	須恵器 腕型坏身	[13.9]	[6.7]	4.8		軟質	30%	2.5Y4/1 (黄灰) 2.5Y4/1 (黄灰)	
SB4020-04	第 69 図	PL.21	R0609	須恵器 甕			(6.7)		良好	-	7.5Y4/1 (灰) N3/ (暗灰)	
SB4020-05	第 69 図	PL.21	R0618 R0660	土師器 小型坏			(2.6)		良好	-	10YR8/2 (灰白) 10YR8/2 (灰白)	
SB4020-06	第 69 図	-	R0662 R0663 R0672 R0705 R0706 R0707	土師器 駿東球胴甕			(15.0)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR4/6 (赤褐)	
SB4020-07	第 69 図	PL.21	R0612 R0618 R0656	土師器 遠江水平口縁甕	[24.7]		(6.5)		良好	35%	7.5YR6/4 (にぶい橙) 5YR6/4 (にぶい橙)	
SB4020-08	第 69 図	PL.21	R0704	土師器 小型甕 (遠江)			(6.0)		良好	-	10YR3/1 (黒褐) 10YR5/2 (灰黄褐)	
SB4020-09	第 69 図	-	R0618	土師器 遠江水平口縁甕			(2.1)		良好	-	7.5YR6/4 (にぶい橙) 7.5YR6/3 (にぶい褐)	
SB4020-10	第 69 図	-	R0607 R0672 R0763	土師器 遠江水平口縁甕?			(10.1)		良好	-	2.5YR6/6 (橙) 2.5YR6/6 (橙)	
pit-01	第 80 図	PL.22	R0056	土師器 駿東型坏	[10.7]	[7.5]	3.5		良好	45%	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
pit-02	第 80 図	PL.22	R0591	土師器 甲斐型坏		[6.4]	(1.0)		良好	35%	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	
pit-03	第 80 図	-	R0708	土師器 甲斐型坏			(2.0)		良好	-	7.5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	
pit-04	第 80 図	-	R0591	土師器 有台坏身			(1.1)		良好	-	2.5YR6/8 (橙) 5YR6/6 (橙)	

報告番号	挿図	図版	R 番号	種別 分類	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	摘み径 (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
pit-05	第 80 図	-	R0368	土師器 駿東型坏			(3.2)		良好	-	2.5YR4/4 (にぶい赤褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	墨書
pit-06	第 80 図	PL.22	R0582 R0720	須恵器 甕 (近世?)			(12.9)		良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐) 2.5Y6/3 (にぶい黄)	
表採 -01	第 84 図	-	R0007	灰釉陶器 碗			(2.0)		良好	-	2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	
表採 -02	第 84 図	-	R0736	須恵器 甕			(6.1)		良好	-	5Y4/1 (灰) 5Y3/1 (オリーブ黒)	
表採 -03	第 84 図	PL.22	R0475	須恵器 甕			(6.4)		良好	-	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y7/2 (灰黄)	
表採 -04	第 84 図	PL.22	R0381	須恵器 瓶 (中世?)			(5.0)		良好	-	2.5Y5/1 (黄灰) 5YR5/1 (褐灰)	
表採 -05	第 84 図	PL.22	R0006	土師器 駿東型坏	[11.0]	[6.8]	4.0		良好	-	2.5YR6/6 (橙) 2.5YR6/6 (橙)	
表採 -06	第 84 図	PL.22	R0371	土師器 坏 (回転糸切り)		[5.6]	(3.0)		良好	-	10YR6/2 (灰黄褐) 10YR6/3 (にぶい黄褐)	
表採 -07	第 84 図	PL.22	R0005	土師器 駿東型坏			(2.0)		良好	-	5YR5/6 (明赤褐) 5YR5/3 (にぶい赤褐)	墨書
表採 -08	第 84 図	PL.22	R0017	土師器 駿東型坏			(0.65)		良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	墨書
表採 -09	第 84 図	PL.22	R0391	瓦			(3.6)		良好	-	7.5YR6/4 (にぶい橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	
表採 -10	第 84 図	PL.22	R0597	瓦			(5.4)		良好	-	10YR7/4 (にぶい黄褐) 10YR7/4 (にぶい黄褐)	
表採 -11	第 84 図	PL.22	R0018	瓦			(7.0)		良好	-	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/2 (灰黄)	

鉄製品

報告番号	挿図	図版	R 番号	分類	全長 (cm)	その他法量 (cm)					重量 (g)	
SB4001-40	第 14 図	PL.14	R0083	ノミ	18.1	穂長 9.8	柄長 8.3	刃幅 1.2	刃元厚 0.5			75.49
SB4001-41	第 14 図	PL.14	R89	鉄鏃 (茎部)	(3.3)	頸部幅 0.45	頸部厚 0.45					4.49
SB4001-42	第 14 図	PL.14	R130	不明	(9.4)							7.59
SB4002-11	第 17 図	PL.16	R186	刀子	(12.0)	刃部長 (7.6)	茎部長 (4.4)					17.11
SB4007-16	第 32 図	PL.18	R110	不明	(6.0)							6.57
SB4011-05	第 43 図	PL.19	R410	刀子	(14.1)	刃部長 (8.2)	茎部長 (5.9)					17.25
SB4018-12	第 63 図	PL.20	R509	鉄鏃 (茎部)	(4.5)	茎部幅 0.3	茎部厚 0.3					2.45
SB4018-13	第 63 図	PL.20	R511	鉄鏃 (茎部)	(5.4)	頸部長 (4.0)	頸部幅 0.6	頸部厚 0.4	茎部長 (1.4)	茎部幅 0.4	茎部厚 0.4	6.93
SB4018-14	第 63 図	PL.20	R504	鉄鏃 (茎部)	(6.3)							8.71
SB4018-15	第 63 図	PL.20	R510	刀子	(12.3)	刃部長 (4.9)	茎部長 (7.4)					14.64

石製品

報告番号	挿図	図版	R 番号	分類	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	上径 (cm)	下径 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)
SB4001-43	第 14 図	PL.14	R0028	砥石	(7.4)	(4.4)	(2.6)				125.9
SB4005-11	第 28 図	-	R239	磨石	12.8	3.6	2.4				197.2
SB4005-12	第 28 図	PL.18	R124	紡錘			2.3	4.4	3.2	0.6 ~ 0.65	56.9
SB4005-13	第 28 図	-	R0127	菰編石	15.0	5.0	3.3				410.0
SB4005-14	第 28 図	-	R166	菰編石	13.5	4.1	4.0				328.0
SB4005-15	第 28 図	-	R175	菰編石	13.0	5.1	3.5				425.6
SB4005-16	第 28 図	-	R144	菰編石	12.4	5.1	3.1				367.5
SB4005-17	第 28 図	-	R168	菰編石	12.4	4.2	3.2				276.0
SB4005-18	第 28 図	-	R165	菰編石	13.7	6.2	2.7				384.2
SB4005-19	第 28 図	-	R173	菰編石	12.9	7.0	3.9				429.9
SB4005-20	第 28 図	-	R299	菰編石	12.8	5.3	3.0				300.1
SB4005-21	第 28 図	-	R171	菰編石	12.4	5.7	2.1				274.1
SB4005-22	第 28 図	-	R169	菰編石	12.2	5.7	3.9				428.2
SB4005-23	第 28 図	-	R167	菰編石	11.7	5.6	2.3				195.1
SB4005-24	第 28 図	-	R174	菰編石	11.2	4.4	3.6				290.0
SB4005-25	第 28 図	-	R172	菰編石	11.1	4.1	3.3				234.3
SB4005-26	第 28 図	-	R305	菰編石	12.4	3.8	3.0				203.1
SB4005-27	第 28 図	-	R170	菰編石	11.1	5.4	3.0				327.7
SB4020-11	第 69 図	PL.21	R611	砥石	(10.7)	3.4	2.3				199.7
表採 -12	第 84 図	-	R0007		16.5	4.5	4.0				553.8

・出土土器分類表

遺構名		土師器																	
		坏						蓋	甕							鍋	その他	不明	
		駿東坏	甲斐型	丸底坏ほか	不明		駿東球胴		駿東長胴	遠江甕	甲斐型	清郷型	小型	不明					
SB4001	破片数 (片)	99	18	1	0	118	0	197	943	106	0	0	13	6	1265	0	0	26	1409
	重量 (g)	834	80	5	0	919	0	1088	7025	424	0	0	138	32	8707	0	0	33	9659
	最低個体数	7	2	1	0	10	0	5	12	4	0	0	3	1	25	0	0	1	36
SB4002	破片数 (片)	8	1	4	1	14	0	85	337	50	0	0	23	7	502	0	0	59	575
	重量 (g)	25	8	6	4	43	0	453	3014	176	0	0	183	30	3856	0	0	75	3974
	最低個体数	1	1	2	1	5	0	1	3	1	0	0	2	1	8	0	0	1	14
SB4003	破片数 (片)	1	2	105	0	108	0	268	1	89	0	0	0	0	358	0	0	3	469
	重量 (g)	3	9	123	0	135	0	1644	2	466	0	0	0	0	2112	0	0	15	2262
	最低個体数	1	1	3	0	5	0	5	1	1	0	0	0	0	7	0	0	1	13
SB4005	破片数 (片)	6	0	29	0	35	0	338	9	4	0	0	0	0	351	0	0	18	404
	重量 (g)	23	0	206	0	229	0	5217	38	5	0	0	0	0	5260	0	0	17	5506
	最低個体数	1	0	4	0	5	0	4	1	1	0	0	0	0	6	0	0	1	12
SB4006	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	13	47	86	0	0	1	0	147	0	0	2	149
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	92	474	574	0	0	37	0	1177	0	0	9	1186
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	2	6	0	0	1	0	10	0	0	0	10
SB4007	破片数 (片)	81	3	9	0	93	0	60	131	35	0	0	8	0	234	0	0	43	370
	重量 (g)	455	8	93	0	556	0	360	336	221	0	0	72	0	989	0	0	56	1601
	最低個体数	10	3	3	0	16	0	3	3	1	0	0	1	0	8	0	0	1	25
SB4008	破片数 (片)	17	0	2	0	19	0	9	34	4	0	0	1	0	48	0	0	0	67
	重量 (g)	127	0	9	0	136	0	79	144	16	0	0	11	0	250	0	0	0	386
	最低個体数	4	0	2	0	6	0	1	2	1	0	0	1	0	5	0	0	0	11
SB4009	破片数 (片)	19	1	4	0	24	1	72	149	3	0	0	0	0	224	0	0	57	306
	重量 (g)	102	8	39	0	149	7	504	1332	5	0	0	0	0	1841	0	0	155	2152
	最低個体数	6	1	3	0	10	1	2	2	1	0	0	0	0	5	0	0	1	17
SB4010	破片数 (片)	4	2	0	0	6	0	12	12	3	0	0	0	2	29	0	0	5	40
	重量 (g)	12	8	0	0	20	0	66	36	3	0	0	0	15	120	0	0	4	144
	最低個体数	1	2	0	0	3	0	2	1	1	0	0	0	1	5	0	0	1	9
SB4011	破片数 (片)	1	0	15	0	16	0	122	0	1	0	0	0	0	123	0	0	13	152
	重量 (g)	1	0	82	0	83	0	2935	0	3	0	0	0	0	2938	0	0	7	3028
	最低個体数	1	0	4	0	5	0	2	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	8
SB4012	破片数 (片)	0	0	10	0	10	0	40	0	13	0	0	0	0	53	0	0	0	63
	重量 (g)	0	0	23	0	23	0	410	0	57	0	0	0	0	467	0	0	0	490
	最低個体数	0	0	2	0	2	0	2	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	5
SB4013	破片数 (片)	0	0	15	0	15	0	38	0	10	0	0	0	0	48	0	0	0	63
	重量 (g)	0	0	29	0	29	0	325	0	53	0	0	0	0	378	0	0	0	407
	最低個体数	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	3
SB4014	破片数 (片)	0	0	34	0	34	0	212	0	70	0	0	0	0	282	0	0	0	316
	重量 (g)	0	0	67	0	67	0	1627	0	563	0	0	0	0	2190	0	0	0	2257
	最低個体数	0	0	1	0	1	0	6	0	3	0	0	0	0	9	0	0	0	10
SB4015	破片数 (片)	0	0	11	0	11	0	27	0	16	0	0	0	0	43	1	0	0	55
	重量 (g)	0	0	14	0	14	0	323	0	429	0	0	0	0	752	33	0	0	799
	最低個体数	0	0	1	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	3	1	0	0	5
SB4016	破片数 (片)	0	0	7	0	7	0	18	0	0	0	0	0	0	18	0	0	0	25
	重量 (g)	0	0	11	0	11	0	185	0	0	0	0	0	0	185	0	0	0	196
	最低個体数	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
SB4017	破片数 (片)	0	0	21	0	21	0	33	3	87	0	0	11	0	134	0	0	0	155
	重量 (g)	0	0	19	0	19	0	191	48	712	0	0	136	0	1087	0	0	0	1106
	最低個体数	0	0	3	0	3	0	1	1	2	0	0	2	0	6	0	0	0	9
SB4018	破片数 (片)	0	0	4	0	4	0	49	420	71	0	0	28	0	568	0	0	22	594
	重量 (g)	0	0	5	0	5	0	331	4170	353	0	0	243	0	5097	0	0	61	5163
	最低個体数	0	0	2	0	2	0	2	7	2	0	0	3	0	14	0	0	7	23
SB4019	破片数 (片)	1	0	14	0	14	0	47	3	6	0	0	1	0	57	0	0	0	71
	重量 (g)	8	0	34	0	34	0	513	17	42	0	0	5	0	577	0	0	0	611
	最低個体数	1	0	2	0	2	0	1	1	1	0	0	1	0	4	0	0	0	6
SB4020	破片数 (片)	1	1	44	0	44	0	91	0	118	0	0	0	0	209	0	0	0	253
	重量 (g)	10	2	108	0	108	0	1391	0	1033	0	0	0	0	2424	0	0	0	2532
	最低個体数	1	1	2	0	2	0	2	0	3	0	0	0	0	5	0	0	0	7
SX4001	破片数 (片)	0	0	16	0	16	0	42	22	10	0	0	0	0	74	0	0	72	162
	重量 (g)	0	0	20	0	20	0	260	151	27	0	0	0	0	438	0	0	114	572
	最低個体数	0	0	1	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	3	0	0	1	5
SX4002	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	7	0	0	8	15
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
SX4003	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK4001	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3	0	0	2	5
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	7	4	0	0	0	0	0	11	0	0	6	17
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	1	3

須恵器															灰釉陶器							
蓋			坏身																			
摘み蓋	返り蓋	不明	坏日	有台坏身	箱坏	有台箱坏	碗形坏身	不明		皿	壺	甗	その他	不明	碗	皿	壺	甗	その他	不明		
37	0	1	38	0	4	1	0	0	21	26	0	3	26	0	0	93	0	0	0	0	0	0
233	0	27	260	0	35	17	0	0	104	156	0	19	287	0	0	722	0	0	0	0	0	0
4	0	1	5	0	4	1	0	0	1	6	0	1	2	0	0	14	0	0	0	0	0	0
18	0	0	18	0	2	0	0	0	11	13	0	2	8	0	2	43	0	0	0	0	0	0
108	0	0	108	0	22	0	0	0	36	58	0	15	136	0	3	320	0	0	0	0	0	0
4	0	0	4	0	2	0	0	0	1	3	0	1	1	0	1	10	0	0	0	0	0	0
28	0	0	28	0	4	2	0	0	8	14	0	3	1	0	10	56	0	0	0	0	0	0
238	0	0	238	0	29	53	0	0	33	115	0	24	15	0	14	406	0	0	0	0	0	0
7	0	0	7	0	2	2	0	0	6	10	0	2	1	0	1	21	0	0	0	0	0	0
13	0	0	13	2	0	0	0	0	15	17	0	2	1	0	2	35	0	0	0	0	0	0
147	0	0	147	6	0	0	0	0	64	70	0	10	21	0	15	263	0	0	0	0	0	0
5	0	0	5	2	0	0	0	0	5	7	0	1	1	0	1	15	0	0	0	0	0	0
2	0	0	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
25	0	0	25	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	0
2	0	0	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
21	0	0	21	2	0	0	0	0	9	11	0	4	2	1	0	39	0	0	0	0	0	0
147	0	0	147	7	0	0	0	0	35	42	0	35	55	25	0	304	0	0	0	0	0	0
6	0	0	6	1	0	0	0	0	5	6	0	2	2	1	0	17	0	0	0	0	0	0
3	0	0	3	0	1	0	0	0	0	1	0	0	5	0	0	9	0	0	0	0	0	0
20	0	0	20	0	6	0	0	0	0	6	0	0	297	0	0	323	0	0	0	0	0	0
2	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	5	0	0	0	0	0	0
7	0	0	7	0	0	1	0	0	8	9	0	1	1	0	0	18	0	0	0	0	0	0
69	0	0	69	0	0	14	0	0	23	37	0	12	15	0	0	133	0	0	0	0	0	0
4	0	0	4	0	0	1	0	0	3	4	0	1	1	0	0	10	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	5	0	1	1	0	0	1	3	0	0	0	0	0	8	1	0	0	0	0	1
21	0	0	21	0	26	10	0	0	4	40	0	0	0	0	0	61	7	0	0	0	0	7
1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	3	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	2	0	0	0	4	6	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	35	0	0	0	29	64	0	0	0	0	0	64	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	5	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0
9	0	0	9	0	1	0	0	1	11	13	0	1	1	0	0	24	0	0	0	0	0	0
166	0	0	166	0	10	0	0	23	35	68	0	27	3	0	0	264	0	0	0	0	0	0
5	0	0	5	0	1	0	0	1	2	4	0	1	1	0	0	11	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
5	0	0	5	0	2	0	0	0	1	3	0	3	1	0	0	12	0	0	0	0	0	0
61	0	0	61	0	9	0	0	0	2	11	0	16	12	0	0	100	0	0	0	0	0	0
4	0	0	4	0	1	0	0	0	1	2	0	1	1	0	0	8	0	0	0	0	0	0
7	0	0	7	0	0	3	0	0	2	5	0	0	0	0	5	17	0	0	0	0	0	0
59	0	0	59	0	12	0	0	4	16	16	0	0	0	0	22	97	0	0	0	0	0	0
5	0	0	5	0	0	2	0	0	2	4	0	0	0	0	2	11	0	0	0	0	0	0
4	0	0	4	0	3	0	0	0	3	6	0	1	1	1	0	13	0	0	0	0	0	0
68	0	0	68	0	169	0	0	0	6	175	0	20	34	54	0	351	0	0	0	0	0	0
3	0	0	3	0	3	0	0	0	1	4	0	1	1	1	0	10	0	0	0	0	0	0
11	0	0	11	0	9	1	0	9	4	23	0	0	7	4	0	45	0	0	0	0	0	0
128	0	0	128	0	84	7	0	85	21	197	0	0	131	13	0	469	0	0	0	0	0	0
5	0	0	5	0	3	1	0	1	1	6	0	0	1	1	0	13	0	0	0	0	0	0
4	0	0	4	0	1	0	0	0	1	2	0	2	0	0	7	15	0	0	0	0	0	0
20	0	0	20	0	8	0	0	0	3	11	0	13	0	0	28	72	0	0	0	0	0	0
1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	2	0	1	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	5	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	3	10	0	0	0	0	0	0
25	0	0	25	0	11	0	0	0	0	11	0	14	0	0	19	69	0	0	0	0	0	0
1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0

遺構名	土師器																		
	坏					蓋	甕								鍋	その他	不明		
	駿東坏	甲斐型	丸底坏ほか	不明			駿東球胴	駿東長胴	遠江甕	甲斐型	清郷型	小型	不明						
SK4004	破片数(片)	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	3
	重量(g)	0	0	0	0	0	0	4	0	3	0	0	0	0	7	0	0	3	10
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	3
SK4014	破片数(片)	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3
	重量(g)	0	0	7	0	7	0	3	4	0	0	0	0	0	7	0	0	0	14
	最低個体数	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3
SK4015	破片数(片)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
	重量(g)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	16
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
SK4022	破片数(片)	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	6	0	0	0	6
	重量(g)	0	0	0	0	0	0	66	16	0	0	0	0	0	82	0	0	0	82
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
SK4096	破片数(片)	1	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	3	0	0	1	5
	重量(g)	7	0	0	0	7	0	6	2	0	0	0	0	0	8	0	0	1	16
	最低個体数	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	1	4
SK4118	破片数(片)	0	0	0	0	0	0	14	0	5	0	0	0	0	19	0	0	17	36
	重量(g)	0	0	0	0	0	0	124	0	18	0	0	0	0	142	0	0	15	157
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	3
SK4119	破片数(片)	0	0	0	0	0	1	1	4	0	0	0	0	0	5	0	0	0	6
	重量(g)	0	0	0	0	0	6	12	12	0	0	0	0	0	24	0	0	0	30
	最低個体数	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3
SK4120	破片数(片)	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3	0	0	1	4
	重量(g)	0	0	0	0	0	0	10	0	1	0	0	0	0	11	0	0	1	12
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	3
SK4122	破片数(片)	0	0	2	2	4	0	3	1	2	0	0	0	0	6	0	0	1	11
	重量(g)	0	0	16	6	22	0	12	17	4	0	0	0	0	33	0	0	5	60
	最低個体数	0	0	1	1	2	0	1	1	1	0	0	0	0	3	0	0	1	6
SK4129	破片数(片)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量(g)	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
SK4162	破片数(片)	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	5	0	0	0	5
	重量(g)	0	0	0	0	0	0	6	17	0	0	0	0	0	23	0	0	0	23
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
Pit4005	破片数(片)	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	7
	重量(g)	62	0	0	0	62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	81
	最低個体数	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
Pit4008	破片数(片)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量(g)	0	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	18	0	0	0	18
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4009	破片数(片)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	重量(g)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
Pit4019	破片数(片)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量(g)	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	7
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4037	破片数(片)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量(g)	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	0	0	0	5
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4042	破片数(片)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量(g)	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	6
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4047	破片数(片)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	重量(g)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
Pit4048	破片数(片)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
	重量(g)	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	6	0	0	1	7
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
Pit4051	破片数(片)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量(g)	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	7
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4053	破片数(片)	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	重量(g)	16	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	16
	最低個体数	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Pit4054	破片数(片)	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	重量(g)	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	最低個体数	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Pit4055	破片数(片)	1	0	0	0	1	0	0	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	5
	重量(g)	2	0	0	0	2	0	0	36	0	0	0	0	0	36	0	0	0	38
	最低個体数	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2

遺構名	土師器																		
	坏					蓋	甕							鍋	その他	不明			
	駿東坏	甲斐型	丸底坏ほか	不明			駿東球胴	駿東長胴	遠江甕	甲斐型	清郷型	小型	不明						
Pit4056	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4062	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Pit4063	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	19
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4064	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4069	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	9	3	0	0	0	0	0	12	0	0	0	12
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
Pit4071	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	6
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4075	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Pit4076	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
Pit4079	破片数 (片)	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3
	重量 (g)	0	0	0	1	1	0	12	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	13
	最低個体数	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
Pit4080	破片数 (片)	0	0	3	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
	重量 (g)	0	0	8	0	8	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	9
	最低個体数	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
Pit4083	破片数 (片)	0	0	0	18	18	0	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	21
	重量 (g)	0	0	0	37	37	0	0	0	45	0	0	0	0	45	0	0	0	82
	最低個体数	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
Pit4085	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4087	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	9	4	0	0	0	0	0	13	0	0	0	13
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
Pit4099	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4100	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0	0	0	6	0	0	0	11
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	24	5	2	0	0	0	0	31	0	0	11	42
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3	0	0	1	4
Pit4101	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Pit4102	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	5
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4103	破片数 (片)	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	重量 (g)	6	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	最低個体数	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Pit4104	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	14
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4105	破片数 (片)	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	7
	重量 (g)	0	3	0	0	3	0	6	0	0	0	0	0	0	6	0	0	9	18
	最低個体数	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
Pit4106	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	8
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	8	0	0	6	14
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
Pit4107	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	12
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4109	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3	0	0	0	3
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	7	9	0	0	0	0	16	0	0	0	16
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	2

遺構名	土師器																		
		坏				蓋	甕								鍋	その他	不明		
		駿東坏	甲斐型	丸底坏ほか	不明		駿東球胴	駿東長胴	遠江甕	甲斐型	清郷型	小型	不明						
Pit4115	破片数 (片)	2	1	1	0	4	0	8	7	5	0	0	0	0	20	0	0	0	24
	重量 (g)	16	16	9	0	41	0	54	15	11	0	0	0	0	80	0	0	0	121
	最低個体数	1	1	1	0	3	0	1	1	1	0	0	0	0	3	0	0	0	6
Pit4116	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	8
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4117	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	7	0	0	0	7
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4121	破片数 (片)	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3
	重量 (g)	0	0	3	0	3	0	2	4	0	0	0	0	0	6	0	0	0	9
	最低個体数	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3
Pit4123	破片数 (片)	0	0	7	0	7	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	9
	重量 (g)	0	0	8	0	8	0	0	23	0	0	0	0	0	23	0	0	0	31
	最低個体数	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
Pit4124	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Pit4126	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4127	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	8	0	0	0	8
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4128	破片数 (片)	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	重量 (g)	10	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
	最低個体数	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Pit4130	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	11
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4131	破片数 (片)	0	0	1	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	4
	重量 (g)	0	0	2	0	2	0	7	0	2	0	0	0	0	9	0	0	0	11
	最低個体数	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	3
Pit4132	破片数 (片)	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	重量 (g)	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	最低個体数	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Pit4133	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	15	0	0	0	15
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4138	破片数 (片)	1	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	1	4	0	0	0	5
	重量 (g)	1	0	0	0	1	0	27	13	0	0	0	0	6	46	0	0	0	47
	最低個体数	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	3	0	0	0	4
Pit4139	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	4	7	0	0	0	0	1	12	0	0	1	13
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	17	21	0	0	0	0	1	39	0	0	1	40
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	3	0	0	1	4
Pit4140	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	0	0	0	5
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4144	破片数 (片)	1	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
	重量 (g)	3	1	0	0	4	0	0	6	0	0	0	0	0	6	0	0	0	10
	最低個体数	1	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
Pit4146	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0	6	0	0	0	6
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	2
Pit4147	破片数 (片)	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	3	0	0	0	4
	重量 (g)	0	0	3	0	3	0	0	0	4	0	0	0	6	10	0	0	0	13
	最低個体数	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0	0	3
Pit4149	破片数 (片)	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	3
	重量 (g)	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	9	9	0	0	0	11
	最低個体数	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
Pit4150	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	11
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Pit4152	破片数 (片)	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	重量 (g)	0	0	3	0	3	0	12	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	15
	最低個体数	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
Pit4154	破片数 (片)	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	重量 (g)	0	13	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
	最低個体数	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

遺構名	土師器																	
	坏							蓋	甕							鍋	その他	不明
	駿東坏	甲斐型	丸底坏ほか	不明					駿東球胴	駿東長胴	遠江甕	甲斐型	清郷型	小型	不明			
Pit4156	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
Pit4157	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	2
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	9	1	0	0	0	0	0	10	0	0	3
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	1
Pit4158	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Pit4160	破片数 (片)	1	0	0	0	1	0	2	4	2	0	0	0	0	8	0	0	2
	重量 (g)	14	0	0	0	14	0	5	50	3	0	0	0	0	58	0	0	1
	最低個体数	1	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	3	0	0	1
Pit4163	破片数 (片)	0	1	0	0	1	0	4	10	0	0	0	0	0	14	0	0	3
	重量 (g)	0	7	0	0	7	0	12	20	0	0	0	0	0	32	0	0	2
	最低個体数	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	1
Pit4164	破片数 (片)	1	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	重量 (g)	2	0	0	0	2	0	0	53	0	0	0	0	0	53	0	0	0
	最低個体数	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
Pit4167	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Pit4171	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3	0	0	0
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	6	0	0	0
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0
Pit4172	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4	0	0	2
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
Pit4181	破片数 (片)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
	重量 (g)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	5
	最低個体数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1
攪乱	破片数 (片)	19	2	73	0	94	0	187	131	53	0	0	0	0	371	0	0	57
	重量 (g)	130	7	169	0	306	0	1066	415	130	0	0	0	0	1611	0	0	136
	最低個体数	1	1	1	0	3	0	1	1	1	0	0	0	0	3	0	0	1
調査区	破片数 (片)	1	1	13	0	15	0	2	14	0	0	0	0	0	16	0	0	0
	重量 (g)	10	3	61	0	74	0	65	71	0	0	0	0	0	136	0	0	0
	最低個体数	1	1	1	0	3	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0
表土	破片数 (片)	34	1	29	2	66	1	171	118	57	0	0	0	0	346	0	0	91
	重量 (g)	183	3	96	32	314	53	1249	606	314	0	0	0	0	2169	0	0	188
	最低個体数	1	1	1	1	4	1	1	1	1	0	0	0	0	3	0	0	1
合計	破片数 (片)	309	37	480	24	850	3	2224	2447	920	0	0	86	20	5697	1	0	536
	重量 (g)	2066	176	1283	80	3605	66	20991	18273	5716	0	0	825	99	45904	33	0	1007
	最低個体数	49	19	52	5	125	3	92	73	49	0	0	14	7	235	1	0	41

須恵器																灰釉陶器					
蓋			坏身																		
摘み蓋	返り蓋	不明	坏H	有台 坏身	箱坏	有台 箱坏	碗形 坏身	不明	皿	壺	甗	その他	不明	碗	皿	壺	甗	その他	不明		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	
1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	14	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3	0	4	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	30	0	35	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	4	0	0	0	4	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	9	0	0	14	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
25	0	0	25	0	4	1	0	0	8	13	0	10	24	2	61	135	0	0	0	0	
189	0	0	189	0	98	13	0	0	32	143	0	187	371	132	270	1292	0	0	0	0	
1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	3	0	1	1	1	1	8	0	0	0	0	
3	0	0	3	0	0	0	0	0	2	2	0	0	8	0	0	13	0	0	0	0	
19	0	0	19	0	0	0	0	0	14	14	0	0	56	0	0	89	0	0	0	0	
1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	
30	0	0	30	0	4	0	0	0	11	15	0	11	26	0	10	92	1	0	1	0	
217	0	0	217	0	78	0	0	0	48	126	0	121	371	0	30	865	12	0	6	0	
1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	2	0	1	1	0	1	6	1	0	1	0	
246	0	1	247	4	43	10	0	10	133	200	0	48	148	8	130	781	3	0	1	0	
2090	0	27	2117	13	662	126	0	108	536	1445	0	553	2469	224	537	7345	24	0	6	0	
71	0	1	72	3	28	9	0	2	47	89	0	19	31	4	18	233	3	0	1	0	

写真図版

PLATE



1. 本調査区全景（北東から）



2. 本調査区全景（南東から）



1. 本調査区北部遺構検出状況（西から）



2. SB4001（南西から）



1. SB4002 (南東から)



2. SB4002 カマド遺物検出状況 (南西から)



1. SB4003 (東から)



2. SB4003 カマドセクション (東から)



1. SB4001・SB4002・SB4003・SB4005 (東から)



1. SB4005 (東から)



2. SB4005 カマド遺物 (7) 検出状況 (南から)



1. SB4005SX01・SB4005SX02 (北西から)



2. SB4006 (南から)



1. SB4007 (南西から)



2. SB4009 カマド (南西から)



3. SB4009 (南東から)



1. SB4010 (南から)



3. SB4011 カマド (南西から)



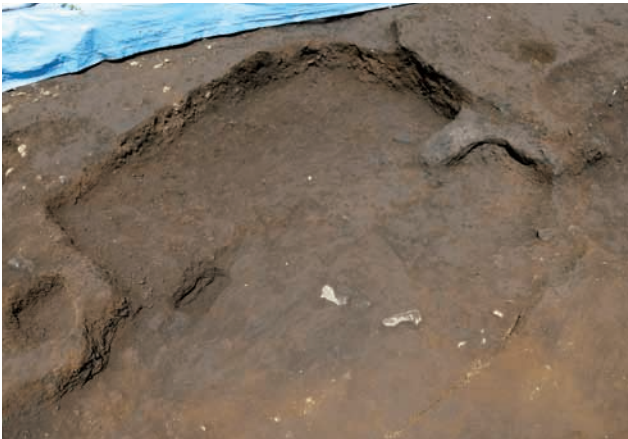
2. SB4011 セクション (南東から)



4. SB4011SX03 (北東から)



5. SB4011 (南東から)



1. SB4012 (南東から)



3. SB4015 (北から)



2. SB4014 (東から)



4. SB4017・SB4018 検出 (南西から)



1. SB4017 (南西から)



2. SB4018 (南西から)



1. SB4017 カマド遺物検出状況 (南東から)



2. SB4018 カマド遺物検出状況 (南西から)



3. SB4018 カマド (南東から)



4. SB4019 (南西から)



1. SB4020 (南西から)



2. SB4020 カマド遺物検出状況 (南東から)





SB4001-28



SB4001-36



SB4001-35



SB4001-43



SB4001-39



SB4001-40





SB4003-3



SB4003-4



SB4003-8



SB4003-15



SB4003-17



SB4003-16



SB4005-3



SB4005-4



SB4005-7



SB4005-9



SB4005-10





SB4011-5



SB4014-5



SB4014-1



SB4015-1



SB4017-2



SB4017-3



SB4017-4







SB4020-7



Pit-1



Pit-6



Pit-2



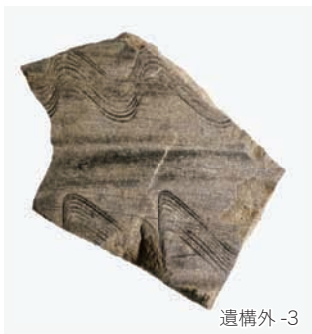
遺構外-4



遺構外-5



遺構外-6



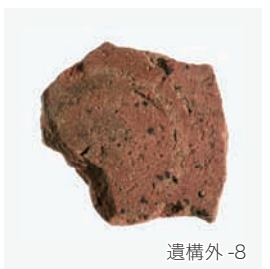
遺構外-3



遺構外-7



遺構外-11



遺構外-8



遺構外-9



遺構外-10

報告書抄録

ふりがな	ひがしだいらいせき だい41 ちく
書名	東平遺跡 第41地区
副書名	
シリーズ名	富士市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第63集
編著者名	佐藤祐樹(編著)・伊藤 愛・若林美希
編集機関	富士市教育委員会 (担当課:文化振興課)
所在地	〒417-8601 静岡県富士市永田町1丁目100番地 TEL 0545-55-2875
発行年月日	平成30年3月16日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯 東経	地区名	調査期間	発掘面積 (㎡)	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
ひがしだいら いせき	しずおかけん ふじし でんぼう	22210	42	35°10'21.65873" 138°40'31.84854"	第41地区	20150914 ～ 20150915	38.80	確認調査
						20151214 ～ 20151215		
東平遺跡	静岡県 富士市 伝法					20160509 ～ 20160906	857.415	本発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東平遺跡	集落跡	奈良・平安時代	竪穴建物跡 19 土坑 15 ビット 163 性格不明遺構 4	土師器・須恵器 灰釉陶器・瓦 石製品(砥石、磨石 紡錘車、菰編み石) 鉄製品(鉄鏃、鏝、刀子)	

要 約	<p>東平遺跡が所在する富士市は、静岡県の東部に位置し、駿河湾を南に臨み、北には富士山がそびえ、山裾を南西に広げている。西には岩本山を有する星山丘陵と岩淵火山地が、東には既に火山としての活動を停止している愛鷹山が存在する。また、遺跡の南西には潤井川が流れ、その河川沿いには古墳時代中期後半以降、沢東A遺跡や中桁・中ノ坪遺跡などの集落が展開する。</p> <p>東平遺跡は奈良時代における駿河国富士郡の郡衙と考えられている遺跡で、これまでに380軒近くの竪穴建物跡が調査されている。遺跡内には郡衙周辺寺院に位置づけられる寺院(三日市廃寺跡)が存在したことが布目瓦の分布から明らかとなっている。</p> <p>本書において報告する東平遺跡第41地区は、平成28年にビジネスホテル建設に伴い本発掘調査が行われ、奈良・平安時代を中心とした竪穴建物跡が19軒検出され、8世紀前半から9世紀後半までは継続した集落展開をみせている。SB4001からは鏝が出土し、SB4005から石製紡錘が1点出土した。建築工具を使いこなす集団とそれを支える鍛冶集団が集落内に存在し、郡衙としての生産活動を支えていた可能性が高い。加えて、律令の租税である租・庸・調の一端を構成する製織生産なども担い、駿河国富士郡の郡衙としての役割を果たしていたと考えることができよう。</p>
-----	--

富士市埋蔵文化財調査報告 第 63 集

東平遺跡 第 41 地区

発行年月日 平成 30 年 3 月 16 日

編集・発行 富士市教育委員会
〒 417-8601 静岡県富士市永田町一丁目 100 番地
TEL 0545-55-2875 FAX 0545-53-0789
E-mail:si-bunka@div.city.fuji.shizuoka.jp

印刷・製本 文光堂印刷株式会社
〒 410-0871 静岡県沼津市西間門 68 番地の 1

(富士市行政資料登録番号 29-44)